滋賀のバドミントン

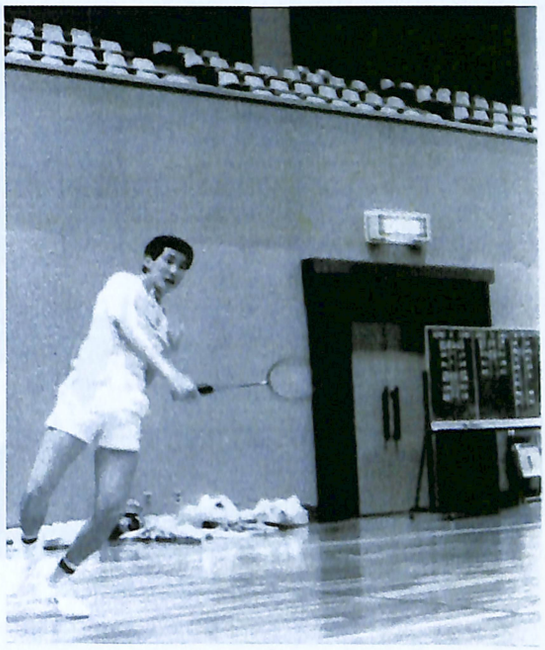
50年のあゆみ

滋賀県バドミントン協会

県　協　会　旗







松浦進二 選手





滋賀国体記念





日本団結団式前（バドミントン）



① 全日本教職員選手権大会
第１５回東京大会 優勝



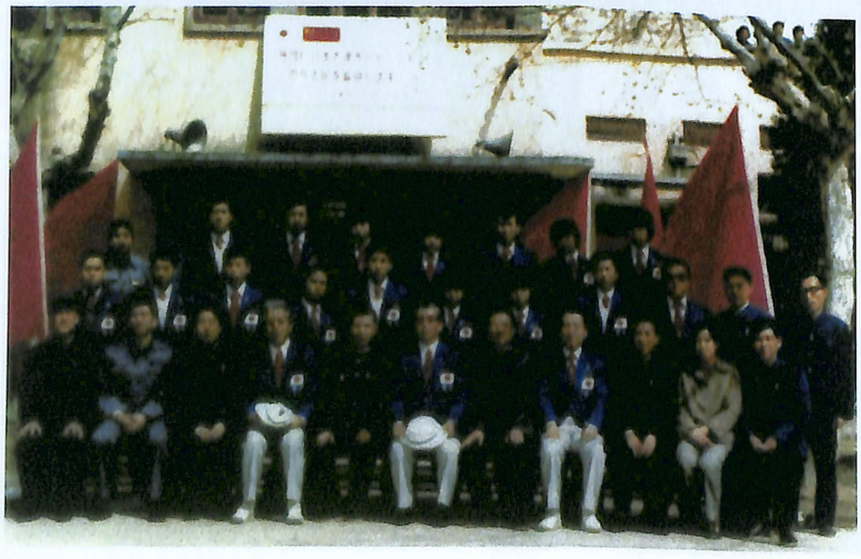
② 全国高校総体 比叡山高校 初優勝



② 全日本総合選手権大会団体戦３位入賞



⑤ 栃木国体視察団兼応援団一行



③ 大津市バドミントン選手団中国訪問
中国合肥市第１中校庭

目　　次

あいさつ　滋賀県バドミントン協会　会長　澤　長壽…… 1

祝　辞　滋賀県体育協会　会長　國松　善次…… 2
滋賀県教育委員会教育長　西堀　末治…… 3

第１章　滋賀県バドミントン協会のあゆみ…… 6
理事長あいさつ　谷　英明…… 21
歴代役員…… 22
協会規約及び組織図…… 23
審判委員会　河嶋　四郎…… 27

第２章　各連盟のあゆみ
滋賀県実業団バドミントン連盟　佐藤　賢…… 32
滋賀県レディースバドミントン連盟　堀江　泉…… 35
滋賀県レディース連盟　宇山　昌子…… 40
滋賀県教職員バドミントン連盟　藤上　良英…… 42
滋賀県高体連バドミントン連盟　山田　義和…… 46
滋賀県中体連バドミントン連盟　藤原　健二…… 55
滋賀県小学生バドミントン連盟　中川　文雄…… 64
滋賀県社会人バドミントン連盟…… 68

第３章　各市協会のあゆみ
八日市市バドミントン協会　小梶　隆司…… 70
高島郡バドミントン協会　三宅　明…… 72
甲賀郡バドミントン協会　佐藤　宝一…… 74

第４章　滋賀県選手の戦績記録…… 76

第５章　国内の主要大会…… 94

第６章　寄稿文（おもいで）…… 96
・西野　耕三　・冨田　健一
・尾中　俊子　・田部　正俊（横田）
・河原山晴夫　・藤上　良英
・野坂　明　・武田　正雄
・安澤　良夫　・武田　京子
・花房　房子　・久保田良昌（藤上）
・辻　広之　・谷　英明
・高谷　修一　・藤上　良信
・田中　義勝　・濱　久美雄
・三宅　明　・伊藤　一夫
・長尾　寿　・河嶋　四郎
・松山　武　・伊佐　恒範
・堀江　泉　・藤上佐千子（駒村）
・久保　宏　・駒井　久夫（滋賀銀行バド部）
・三橋　俊夫　・勝山　直子（川嶋）
・上原　信彦　・保科　正浩
・中野　重彦　・杉本　吉男
・中川　朋子（北条）　・田辺　弥生（若村）
・中川　文雄　・本郷　寿美（青山）
・佐藤　賢　・上田　絵美

編集後記



あ　い　さ　つ

滋賀県バドミントン協会
会　長　　澤　長壽

滋賀県バドミントン協会が創設されてから、62周年を迎える今日、その歴史を振り返る時、いろいろなことが走馬燈のごとく思い出されて感慨深く思い、協会誌発刊を心からお祝い申し上げます。また、今日まで協会運営に関わってこられた先輩諸氏のご苦労とご努力に敬意を表しますとともに、滋賀県バドミントン協会を支えてきた関係者、下部協会や連盟の活動や協力に対して深甚なる敬意を表します。

顧みますと、滋賀大経済学部の榎本彦次先生を理事長に田中多喜造氏等を中心に昭和24年に滋賀県バドミントン協会が設立されて以来、榎本先生や田中氏の指導のもとに滋賀県下で学生、社会人、高等学校に広められ、現在の下部協会や連盟がそれぞれの時期に産声をあげてきました。滋賀県バドミントン協会の現在あるのは、それぞれの時代のバドミントン仲間がその時代を作り上げ、引き継いできたからで、その時代の苦しかったこと、楽しかったこと、仲間同士の交流が積み重なって、湖国滋賀のバドミントンの伝統を作り出してきたのであります。私もその中で、昭和35年に滋賀大学芸学部でバドミントンをはじめて、膳所の古い滋賀大体育館（現在附属中学校の場所）で、市野、安澤、根来、結城等の先輩諸氏の指導を受けたのが最初で、滋賀大学芸学部バドミントン部は林一正教授のもと、後輩の藤原健二、藤上良英、藤上良信等が活躍をしてきた。大学時代は滋賀大経済学部で榎本先生や田中多喜造氏の指導を受けたこともあり、そこで一緒にやっていた彦根西高校の生徒達や花房房子先生（現在副会長）、当時中学生の田中英明（現在谷英明理事長）とも一緒に練習をやったことも思い出される。以来、教職に就いて長浜北高、八日市高、大津高等で部活のバドミントン指導を続け、特に、昭和54年全国高校総体や、昭和56年びわ湖国体では大会運営や選手強化に深く関わり、滋賀県バドミントン協会理事長を長く務め、振り返ってみると人生の50年以上を、バドミントン競技に関わってきた。

その間、協会の組織充実、選手強化や審判育成等の普及発展と交流、下部協会や連盟の設立等にも努めてきました。このように発展してきた滋賀県バドミントン協会が、更なる発展を続けるためには、滋賀県バドミントン協会の仲間たちが過去の伝統を引継ぎ、未来へ向かっての飛躍が必要であります。「バドミントン仲間は一つ」を合い言葉に県協会を支える下部組織の更なる結束をかため、交流を深め、協力して滋賀県バドミントン協会の発展に寄与して参りたいものです。ところで、今日、協会設立62周年を迎えますが、この「協会誌」は10年前に発行を予定して準備を進めてきましたが、諸事情で発行が遅れてしまいました。ここに原稿を執筆頂いた方々に、遅れたことをお詫びし、やっと発行にこぎ着けてくれた編集委員のご苦労に感謝するとともに、滋賀県バドミントン協会の歴史を理解し、未来への飛躍の糧となれば幸いです。

終わりになりましたが、滋賀県バドミントン協会の益々の発展を祈念するとともに、会員皆様のご支援とご協力をお願い申し上げましてご挨拶といたします。



祝　　辞

財団法人滋賀県体育協会
会　長　　**國松　善次**

滋賀県バドミントン協会が、50余年の集大成を迎えるにあたり心からお祝いを申し上げます。

貴協会は昭和24年、終戦直後の混乱の中で、日常生活に追われながらもスポーツを心から愛する人々の熱意に支えられて設立されました。以来順調な発展を遂げられ、今日を迎えられましたことは、誠に喜ばしい限りであります。

この半世紀の間、世界は大きく変動し、我が国の経済も大きく成長を遂げ、生活に必要な物質は大変豊かになりましたが、その反面、忙しさのあまり、心や生活にゆとりがなくなってきたのも事実であります。今こそより充実した人生の創造が必要な時であり、健康の維持・増進と体力づくりや心身のリフレッシュを目指して、スポーツは欠かすことができません。

こうした中で、バドミントン競技は、小・中・高校生をはじめ生涯スポーツとして世代を問わず多くの皆さんに愛好され親しまれています。また、昭和56年の「びわこ国体」、同57年の「島根くにびき国体」での2年連続男女総合優勝をはじめ、国際大会や全国大会等において優秀な成績を収め、多数の日本を代表する選手を育成され「スポーツ県、滋賀」の名を全国にしらしめたるに多大な役割を果たされ、常に他の競技の模範となっています。

こうしたことは、創立以来バドミントンの普及発展に尽力された協会関係者の御努力と御苦労の賜物であり、深く感謝と敬意を表するものであります。

本県では、生涯スポーツ振興計画「滋賀のスポーツデザイン2010」が策定され、スポーツの振興を総合的に進めているところであります。週5日制の定着とともに、健康の維持・増進と余暇時間の有効活用がますます重要な課題となる中で、スポーツを愛好する人々はさらに増加すると予想され、貴協会の果たす役割は、ますます大きなものがあると存じます。

この栄えある50余年の集大成を契機として、滋賀県バドミントン協会のさらなる発展と飛躍を祈念いたします。



祝　　辞

滋賀県教育委員会
教育長　　西堀　末治

滋賀県バドミントン協会が昭和24年に設立されて以来50余年になりますことを契機に、この度協会誌を発刊されますことは、まことに意義深く心からお喜び申し上げます。

貴協会は、半世紀という長きにわたり、バドミントン競技の普及・発展と組織の充実に努めてこられました。この間、オリンピックや全日本総合選手権、国民体育大会等、世界や全国の舞台で活躍する選手を輩出されたり、全国のトップレベルのジュニア選手を育成されるなど、競技面で数々の輝かしい成果を上げてこられました。また、一方では、全国規模の大会を開催されたり、レディースのクラブ育成を図られるなど、組織の充実・拡大にも尽力されてこられました。

このように、貴協会が本県のスポーツ振興と競技力の向上に寄与されました功績は、誠に大きく、関係の皆様方の今日までの御努力に対しまして、心から敬意を表する次第です。

これからの時代は、週休2日制の定着による余暇時間の増大に伴い、生活の中にスポーツを積極的に取り入れ、健康と体力の増進を図るとともに、スポーツの楽しみや喜びを見出そうとする人々が多くなることが予想されます。

本県におきましても、平成14年3月にスポーツ振興の基本計画であります「滋賀のスポーツデザイン2010」を策定し、生涯スポーツ社会の実現をめざして諸施策を進めているところです。

バドミントンは、子どもから高齢者までがそれぞれの目的に応じて行える生涯スポーツ社会には打ってつけのスポーツであります。県民だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも身近に行えるスポーツとしてもさらなる普及を図っていただき、愛好者が増え続けるよう願うところです。

最後に、滋賀県バドミントン協会の益々の発展と飛躍を祈念しまして、お祝いのことばといたします。

第1章

滋賀県バドミントン協会のあゆみ

滋賀県バドミントン協会のあゆみ

まえがき

文部省の調査によると、日本のバドミントン競技人口は約100万人、家庭婦人を含めた愛好者は実に800万人、今や第1級の国民的人気スポーツとなってきている。本県も競技人口が爆発的に増加しているのも当然のことである。さて本県協会のあゆみを記すため、その源を遡っていくと、数多くの人々の努力と苦労がひしひしと感じられ、現在の発展の要因が過去に数多く積み重ねられていることが分かる。これらを全て記すことは不可能だが、戦後急速に普及発展した本県協会のあゆみを記してみたい。

萌芽期から成長期へ

昭和24年はじめ頃から協会設立の気運が高まり、各方面に呼びかけ始める。先ず協会の世話役の選考からであるが、わずか5人位では何ともならず、大学生を中心に考えた。会長に藤谷宗順先生、理事長に榎本彦次先生、常任理事に滋賀大学職員の田中多喜造（筆者）とバドミントン部主将。理事にはバドミントン部員と彦根青年学校関係で1名、大津地区では浅野スポーツ店主と粟津中学中島先生等が選ばれた。

また、協会は設立したもののゲームに精通している者が少なく、東京まで自費で講習会に参加した。榎本理事長と田中はラケット1丁が精一杯なのに他府県勢は2～3丁も用意している。ガットを張るにも僅か5から6分位で張り替えるのに比べ、我々は1時間位もかかっている有様で、幼稚そのものであった。

翌25年名古屋の国体に初出場したが天井の高いのとコートが6面もあるのに驚かされた。試合中ハイクリアーで返されると感覚が狂い、空振り、当たればフレームショットで、出るものは冷や汗ばかりであった。試合中ガットが切れたとき、相手が愛用のラケットを貸してくれて、恐縮しながらやっとの思いで1点と0点でゲームを終わりほっとした。このような草創期の苦しい思い出が数多く残っている。

こんな事が発奮のもとになって寸暇を惜しんで練習するようになり、25年には彦根において学校の工作室の机などを取り払いバドミントンの講習会を開いた。翌26年には愛好者が増えだしてきた。この年、榎本先生と田中は県体育協会より普及委員に選ばれ、高校・中学は榎本先生が担当、田中は職場及び一般の指導・普及に当たった。お陰でバドミントン競技も、この年から県体のオープン競技として認められるようになった。また、第6回広島国体に一般男子が初めて参加した。27年全国高校総体に彦根工業高・長浜中央高の男子が初参加、28年第8回国体（香川）へは一般男子（大学生を含めてもよい)、一般女子、高校男女と総勢15名が出場した。滋賀勢の力が分からず、第1シード県に1回戦で当てられたが、1−2の成績を出し、滋賀県勢も見直されたことであった。この時の選手には滋賀大職員の川瀬選手・彦根警察署勤務の井上選手、滋賀大生の藤本選手等がいた。この機会にと私は滋賀大クラブ員を連れて伊香高校女子と長浜商工男子を対象に1週間続けて指導を行なったが見る見る成果を上げ、県体には両校とも優勝した事が印象に残っている。昭和28年4月、榎本理事長が一身上の都合により辞任、田中が理事長に選ばれた。会長には大畑文七校長を迎えた。38年には、会長に元彦根東中の校長、彦根体育協会会長の茂木一二先生を迎えた。以下、筆者（田中）の思い出などを上げると、

＊　当時滋賀大体育館が市民体育館と併用して建てられ、近畿地区大学体育大会を当番することになった。優勝戦の対甲南大学のとき、最後の1ポイントを痙攣を起こしながら獲得してくれたのが、結城実映選手だったことは忘れられないひと駒である。

＊　県総合選手権大会で現在協会役員として活躍中の長浜北高校の田中英明先生と、田中兄弟としてペアを組み優勝したこと。

＊　昭和31年兵庫国体（神戸）において、バドミントン競技から旗手が選ばれ、私がそれを努めた

ことの感激―今もなおラケットを握ることの喜びを味わっているのは、学生時代剣道とバレーボールをやっていたお陰だと思っている。

＊　愛媛国体から北海道、静岡、神奈川、東京、新潟、岐阜、兵庫、愛知、福井と10年連続国体参加の栄誉を得たこと。また、この間各府県の施設が年々格段の充実を見せていること。

＊　記憶に残る選手としては、川瀬正喜（滋賀大職員、故人）、藤本利光・岡田良雄（学生、中部東海地区学生選手権優勝）、結城実映、井上（故人）、高校男子では村岡・西川・児玉・酒井・中野、同女子では辻・田中・大前等。また、愛知トヨタ自動機械の武田・杉政（長浜商工出身、全日本実業団大会で活躍）等である。

充実期から発展期へ

湖国バドミントン界の黎明期から萌芽期へのあゆみの中で、高体連にバドミントン専門部が27年に加盟、28年の全国大会に男子彦根工、長浜中央高が初出場第８回香川国体に中野智枝（現田中）氏率いる彦根東を中心とした滋賀選抜チームが少年女子で出場した。同年滋賀大学芸学部に、当時学生の田中義勝氏の努力でクラブが設立され、26年頃から同好会として大津市立中央小学校講堂で練習をして、大学開学際に経済学部（彦根）と学芸学部（大津）の定期戦に青春のエネルギーを燃やしたものである。29年６月に市対抗戦が始まり、第１回は彦根市が優勝した。当時活躍した選手では、川瀬氏、中島氏、白子氏、片桐氏、片渕氏、田中多喜造氏等がある。昭和31年初代理事長榎本彦次氏が３代目理事長に再就任され、田中氏はプレーヤーとして活躍を続けられ、国体10回連続出場で日本協会から表彰された。

いよいよバドミントン愛好者も彦根・大津を中心に増加して、近畿実業団大会では31年、32年に連続優勝する皇子山中学校職員チームがあった。県実連未組織のまま県外大会で活躍した愛好者の熱心さが窺がえる。

協会の中心は彦根で、学連と湖北を軸とした高体連であり、近畿高校大会やインターハイで活躍するようになり、37年高岡市の全国大会で花房房子監督の彦根西高女子がベスト８、翌38年鶴岡では男子複で長浜商工の杉政・高木組がベスト８に入り、近畿でも優勝できる技量が備わってきた。また、協会役員も全国的視野で普及拡充に力を入れるようになった。

30年代後半になると、学生時代に優勝経験を持つ者が地元の教職員となって、中・高校の現場で後輩の指導に頑張り出し、県内各地の中・高校でのクラブが相次いで誕生していった。このように全県的な拡がりを見せつつも、バドミントン競技への理解度が低く、学校現場でのクラブ誕生には難産したところも多々あった。

中･高校現場では、辻広之、奥村治八郎、寺田寿、岡林恒夫、北村浤一、花房房子、国領迪則、堀江泉、三宅明、安澤武雄、長尾寿、中川朋子、根来旭、木村孝英、澤長壽等々の諸氏が活躍していた。まさに普及拡大期といえる。昭和39年の第３回全日本教職員大会に本県より寺田、澤が初参加して以来、40年に県教職員連盟が北村浤一氏を責任者として発足した。

41年に茂木会長が急逝され、彦根市体育協会の田原又蔵氏に会長をお願いし、榎本彦次理事長が日本協会常任理事に、４代目理事長に寺田寿氏が就任、氏の呼びかけで久保宏氏、佐藤賢氏を中心に県実業団連盟が41年に結成され、大津市役所、サンヨー、日電高月、ＮＥＣ、東レ滋賀等が加盟し、翌42年に男子は大津市役所、女子は日電高月が初めて第17回全日本実業団大会に出場している。特に大津市役所男子は、62年まで20年間連続出場している。それまでは各事業所のクラブとして独自活動していたのが､協会に加盟するようになってきたのである。

45年に第１回全国中学生大会が開かれるにあたり､長尾寿氏の努力で中体連も協会に加盟してきた。かくして個々に普及拡大してきた各団体も本県協会組織の中に曲がりなりにも加盟し、学連、高体連、教職員、実業団、中体連と５連盟の代表で協会運営が動き出したのである。特に、中体連と教職員連盟

の活躍が目立ちだした。

45年第1回全国中学生大会初参加で男子優勝、女子2位、その後男子は47年、48年に連続優勝、女子も51年、53年に優勝と常に全国ベスト8以上の実績を続けている。

また、教職員連盟も、和歌山、千葉国体で教員男子が藤上良英、久保田（旧姓藤上）良昌、藤原健二、藤上良信で優勝し、沖縄国体で2位、49年、52年には全日本教職員大会団体、個人戦も優勝と、藤原・藤上兄弟の活躍時代に入る。県スポーツ界もバドミントン競技の活躍に目を見張り、賞賛されるようになった。競技力は一人前になりつつあったが、まだまだ組織運営は弱体であった。

48年に第12回全日本教職員大会を本県で開催し、運営能力も全国に認められるようになり、寺田理事長が51年佐賀国体で日本協会より表彰された。50年代に入り組織は拡大され選手層が大津市・湖南地区に多くなり、国体開催地に大津市が決まった。協会組織も湖南地域が中心になり、大津市内の中・高校の一貫した選手強化策が組まれるようになった。

45年に協会長が正岡吉三郎氏になり、50年に会長が栗本藤四郎氏に引き継がれ、久保宏氏が5代目理事長に就任、岡林恒夫氏を事務局長にして、事務局を大津高校に置くことになった。久保理事長の努力と土田県立体育館長の好意でチビッ子や家庭婦人のバドミントン教室を開設してもらい、全県的に各年齢層にバドミントン競技が根付き始めた。

52年、一身上の都合で久保理事長が辞任され、6代目理事長に澤（筆者）が就任し高体連専門委員長との兼務が3年間続いた。54年、全国高校総体の県内開催に向け高体連の強化策も組まれ選手・監督も燃えてきた時期である。52年藤上良信監督率いる比叡山高校が全国高校総体で初優勝で完全優勝（団体・個人単・複）し、西山博司（日本ナショナルメンバー・60・62年全日本総合大会個人単チャンピオン）が高校の三冠王に輝いた。

以後62年の今日まで比叡山高校のバドミントン競技力は常に全国上位に君臨し、全国優勝6回を数え、全国ベスト4を下ることがない。また全国高校選抜大会では優勝6回、準優勝2回等、国体少年男子では優勝6回等の目覚しい活躍が全国に知られている。（別表参照）全国から有望選手が入学してくるし、藤上監督の息の掛かった選手達が日本の代表選手として世界的に活躍している。藤上監督も55年から日本協会の強化委員に選ばれ、種々の国際大会の日本の監督・コーチとしても活躍している。これらの競技力の飛躍的な進歩は協会員の地道な努力とたゆまぬ研究心の結実であり、「滋賀のバドミントン強し」の印象を全国に与え、湖国の「お家芸」とまで言われるようになってきた。

しかし、実業団に強力チームがないため、滋賀銀行や大津市役所に選手補強をお願いしてきた。県社会人連盟が伊佐恒範氏・横田好弘氏・脇坂重之氏を中心に結成され、県内大会が開かれるようになった。53年8月26日から4日間大津市の県立体育館と大津商業高校体育館とで第21回全日本社会人大会が54全国高校総体・36回国体リハーサル大会として開催され競技役員・運営役員・補助員等1,000余名の動員と選手・監督800余名の参加で盛大に実施され高校総体・国体の運営に向けての自信を得た。同年9月3日に国体近畿予選会を県立体育館で実施し、続いて11月17日から19日まで第25回近畿高校選手権大会を県立体育館で開催し、同時に県内の諸大会を開催して、まさに大会、大会の連続で準備運営に日々多忙を極め、数人の役員は筆者の下宿に泊り込みを続けた。家庭を顧みずとはまさにこのことで、家族には大変な負担をかけた時期だったが、これもまだ序の口で、国体が近づくにつれ益々負担が増していった。

選手強化では過去の実績から見て、一般にバドミントンは全国で勝てる競技と考えられたし、その期待に沿うための努力は一層厳しいものがあった。まさに、全国で勝ち続けるためにどれだけ協会の仲間が一丸となって選手を育てるのに汗したか計り知れない。

血眼の選手強化に応えて、大津市の肝入りで、中華全国体育総会の招きにより、中国各都市を訪問して、少年少女の友好試合を行い、大津市と中国の友好関係の一段の飛躍を期す計画が具体化して、54年4月4日から18日まで日本大津市バドミントン

選手団が中国に派遣された。団長・大津市教育長中島二郎、秘書長・市教委体育課長伊藤順一（通訳）、総監督・澤長壽、男子監督・藤上良信、女子監督・飯田照男、コーチ・濱久美雄・久保明雄、選手・藤野清・近藤雅明・松井峰生・山本裕幸・馬杉武司・西山祥一・谷百合・藤支芳美・赤井恵美子・幸光知恵・中川都・倉見陽子以上20名、北京、合肥、南京、上海の各都市で大歓迎を受けつつ、大観衆の中で試合をして友好を深めた。世界№1の実力を持つ選手の養成課程や練習方法を学び、中国人のコーチと夜中まで技術について話し合ったことが、今日も本県協会の選手強化に息づいている。

なお、昭和55年に中国からナショナルチームの羽毛球（バドミントン）選手団（15名）を大津に迎え、5月1日親善交流試合を開催できたことは感銘深い思い出である。

54国体・びわこ国体とその後

第30回全国高校総体が54年8月1日から6日まで大津市皇子が丘公園体育館を主会場にして、大津商業高校、皇子山中学校、唐崎中学校、唐崎小学校、各体育館の5会場（26コート）を設営した。6年前から準備に取り掛かり53年からは理事長自ら大津市へ出向して会場準備と役員養成へと努力を重ねた。会場問題ではバスケット競技と競合して何度も調整を繰り返し、大津市が皇子が丘公園体育館を総体に間に合わせるように竣工させて、市中央部、北部でバドミントンの競技会場、宿泊所（雄山荘、ホテルニューびわこ、雄琴グランドホテル、魚国、芳月楼、えり清、みのや、又平、勇楽荘）及び練習会場を配置、団体戦の試合形式が2複3単から2複1単になり新しい歴史が始まった。

開会の前日、前夜祭と30周年記念式典と祝賀会をホテル紅葉で開き、男女団体戦優勝校が持ち回る大優勝旗が日本協会から贈呈された。また、全国高体連バドミントン部の功労者表彰があり、寺田寿、澤長寿が表彰され、学校表彰では15回以上出場校として彦根西高校が表彰された。連日の猛暑の中、参加選手・監督・役員1,400余名、地元役員・補助員等1,000余名の協力を得た大会も関係者の一致協力が開花し、大成功に終わった。地元選手も大活躍し、学校対抗で男子は草津と比叡山が出場し比叡山が準優勝、女子も大津と比叡山が出場し比叡山が3位、個人戦単で西村美千代（比叡山）が3位、磯野恵理子（比叡山）が5位、複で山本裕幸・馬杉武司組（比叡山）、倉見安世・辻由美子組（大津）、岩見洋子・磯野恵理子組（比叡山）が共に5位に入賞するという偉業を達成した。

10月に宮崎県西都市での34回国体、成年男子が一般の部と教員の部に分かれて実施される最後の年であり、教員の部で藤上良英監督、藤原健二、藤上良信、脇坂重之で3位に入賞した。この宮崎国体は雨にたたられ、開会式も雨、西都原古墳での歓迎前夜祭も雨、台風の影響で飛行機、鉄道、フェリーも欠航して、帰路は陸路を宮崎から昼夜マイカーを走らせた思い出もある。

54年度はとにかく多忙な年だった。筆者は高体連バドミントン部の専門委員長と協会理事長とを兼務していて何事も一手に引き受けることになってしまっていた。54年総体の総括後、皆さんの理解で3年間の兼務生活から解放されて、協会理事長として、びわこ国体の選手強化と準備運営に当たることになり、高体連は新専門委員長に川戸健一氏が選出された。

55年1月に「協会要覧」を発行し、広報活動として「滋賀のバドミントン」を創刊し、協会機関紙として会員相互の交流に役立てるようにした。8月の県体開会式で林一正氏（75歳）がバドミントンの普及と指導者の養成に多大の功績を残されたことで県体協より社会体育功労賞を受賞された。

10月、35回栃木国体では男女総合（天皇杯）で準優勝に、～この時成年女子（複）では準決勝戦で千葉と大接戦中、谷美津代のパートナーの若村弥生があと2ポイントのところで右アキレス腱を断裂してコートにしゃがみ込み、応援団の必死の声援に応えて、ネット前に立ち、パートナーの谷に助けられ勝利を納めた劇的なシーン～、そして決勝戦で東京に敗れはしたが堂々の準優勝、少年男子は決勝で地元栃木と対戦して地元側の大応援団の声援にも動じず、松浦進二、山本裕幸、竹端英夫の活躍で優勝、

次年度のびわこ国体に大きな期待を膨らませた。

11月に第29回近畿実業団大会が大津市皇子が丘公園体育館で開催され大津市役所が初めて準優勝した。

11月24日第1回びわこレディース大会（家庭婦人大会）を大津市皇子が丘体育館で開催した。「いつでも、どこでも、みんなでバドミントン」を合言葉に愛好者の増加を図ると共に、55年に制定された琵琶湖富栄養化防止条例の施行を機会に家庭婦人が琵琶湖を愛し水質を守り続ける心を養う機会にと、大会名と種目名にビューティフル・クリーン・ブルーを配し、湖の碧に白鳥の飛翔はバドミントンのシャトルがコートを飛ぶのにも似て、ママさんの華麗で清く、楽しい大会になるよう配慮した。また知事杯の恵贈と読売新聞社の共催を得て、今日では春は個人戦、秋は団体戦と大きく発展して来た。

56年1月11日県立体育館で第2回日本リーグ開催、入場券の販売と観客動員を意図した興行を企画した最初であった。男子はカワサキ対全日本学生、女子はサントリー対三洋電機のカードで、観客は約1,500人で成功であった。その後日本リーグ開催は57年に県立体育館で、59年に草津市民総合体育館と定期的に開催して愛好者の期待に応えている。また地元出身の選手が活躍しているチームを呼ぶことによって後輩の励みになってきた。主な活躍選手を上げると、サントリーでは谷美津代・西村美千代・磯野恵理子・岩見洋子、ヤマハでは川島直子、ＮＴＴ東京では西山博司、ＮＴＴ関西では保科正博・辻田泰昌、三洋電機では平山美恵子、ヨネックスでは松浦進二等々で全国のトップレベルにいかに多くの県出身者が活躍しているかがわかる。

さて、56年びわこ国体（第36回国体）に向け協会一丸となって、協議運営に、選手化に頑張ってきた成果が見事に開花した。男女総合（天皇杯）優勝、女子総合（皇后杯）優勝、成年男子は4位を獲得、藤原健二監督・西村龍夫・西村金治・北橋進で群馬との3位決定戦で延々3時間余の大接戦を演じ、三笠宮殿下のご観戦中に会場が大きな拍手に揺れたこと、成年女子は準優勝を藤上良英監督・谷美津代・西村美千代・磯野恵理子で昨年同様東京と優勝戦を争い湯木博恵・高岸・月岡と熱戦を展開した。少年男子は藤上良信監督・松浦進二・片岡泰・辻田泰昌で完勝した。決勝戦は山梨とで、ＢＢＣ放送でＴＶ中継され筆者も梅野尾夫妻と解説席で勝利を確信して解説していた。少年女子は濱久美雄監督・平山美恵子・萬宮由美・藤支芳美で健闘して5位を確保した。一方競技運営も審判講習会・補助員養成講習会等を経て余裕を持って運営が出来た。会場設営での大津市の協力も見逃せない。ところで、特筆すべきは皇子山陸上競技場での総合開会式でバドミントンの谷美津代が数日前に父を亡くした悲しみにもめげず、全国の国体参加選手の代表として、堂々と選手宣誓をしたこと、国体記念切手のデザインがバドミントンであること、中国体育総会代表団の観戦等。

しかし、この大成功だったびわこ国体にいたるまでには多くの苦労話もあるし、選手選考の軋轢もあった。筆者が6月中旬に県総合の試合中にアキレス腱を断裂して7月中旬まで大津日赤病院に入院し、妻も56年1月から長期にわたり過労のため入院して、夫婦別々、子どもは親戚に預ける始末で、お互いに看護もできなく、家庭破壊に瀕した。7月始めに、今度は藤上良信監督が大津日赤に疲労困憊で入院、お互いに「何としてもやらねば」との意気込みと、多くの人達の理解と支援、仲間の絆と協力に助けられた毎日だった。毎晩遅くまでの選手強化と運営準備に協会常任理事達がよくもこれだけ頑張れたものだと、当時を回顧している。国体で盛り上がった協会委員の熱気は選手強化にも競技運営にも、57年以降も連綿と続いている。

57年長浜の中川文雄・近江八幡の峠勝也・草津の中川安雄・大津の宮崎美恵各氏の努力で第1回の小学生大会が長浜市民体育館で開かれた。

9月には第4回日本リーグを県立体育館で開催し、男子はヨネックス対全日体大、女子は日本電装対全日体大が対戦、西村金治・北橋進・谷美津代がオール日体大の選手として出場して地元観衆を沸かせた。

57年島根国体も男女総合（天皇杯）優勝、2年連続の快挙である。成年男子は西村金治監督・西村龍夫・増田伊知郎・北橋進で5位入賞。宿舎につい

てから民宿の歓迎を受けて体調を崩し、選手が点滴を受けながらの健闘だった。少年男子は藤上良信監督・西川勉・辻田泰昌・杉本吉男で苦戦の末優勝、少年女子は濱久美雄監督・磯野佐智子・藤支芳美・赤井恵美子で４位に入る大殊勲、成年女子は西堀武監督･青山寿美･岩見洋子･西村美千代で出場したが、１人の選手資格問題でクレームがつき、滋賀県の解釈と日本バドミントン協会の解釈が異なり県バド協会としては県体協、県保体課と共々折衝に努めたが結局平行線のままに終わり、やむなく成年女子は競技時刻直前に棄権を通告した。上部団体の圧力に屈した形になったが、選手の将来の選手生命を考慮して一歩譲歩した。しかし、県バド協会の仲間は収まらず、その分多種目の選手監督を奮い立たせ、会場での県役員の応援もひときわ目立った。そして、成年男女、少年男女４種目別の内３種目の大健闘により､男女総合（天皇杯）優勝をなし「してやったり」と会場正面で県役員・監督の胴上げをした感激は記憶に残る。また、民宿の自治会主催の総合優勝祝勝会まで開いてもらい、地元の歓待に感涙したのである。

58年９月には県巡回スポーツ指導で筑波大の阿部一佳氏を招いて競技指導を受けた。11月澤理事長が大津市スポーツ功労賞を受賞した。近畿協会の審判委員会副委員長に花房房子氏が選出され、以後奈良国体等近畿地区で開催される国際大会や全日本大会には河嶋四郎氏と共に滋賀県を代表して審判員として活躍している。

59年３月には第６回の近畿家庭婦人大会が大津市皇子が丘公園体育館で開催され、県家庭婦人連盟が独自で大会を運営できるまでに成長した。４月には社会人や大学生を中心にして滋賀リーグが開催され金海スポーツや羽野健二氏を中心にクラブ対抗のリーグ戦が年間を通して組めるようになった。８月の県体開会式には澤長壽理事長が県体育協会より体育奨励賞を受賞した。９月より県スポーツ会館が開館して強化合宿が組みやすくなった。11月に県協会の副会長で４代目理事長だった寺田寿氏が癌のため45歳の若さで永眠され協会重鎮の一人を失った。12月に近畿協会の指導委員会委員に藤原健二氏・藤上良信氏が選出された。60年４月には澤長寿が近畿協会競技委員の委員長に、藤上良英氏が委員に選出されて、近畿協会主催の各種大会に競技委員として活躍している。61年11月に近畿実業団大会で東レ滋賀チームが初優勝を成し遂げ、地元の実業団チームも徐々に力をつけてきた。　50年頃から着々と強化指導法を組み立て組織化して10年、ここに本県協会の優秀な選手育成指導陣によって中・高校時代育てられた地元出身の若い芽がついに全日本のトップに君臨するまでに育ってきた。西山博司（逢坂小－打出中－比叡山高－中央大－ＮＴＴ東京－ヨネックス－フジチュウ）が56年に複・60年・62年にシングルスチャンピオンに、松浦進二（南郷中－草津高－法政大－ヨネックス－フジチュウ）が58年・60年・62年に複・61年に単・複のチャンピオンになり、今では日本代表選手として世界選手権や全英選手権、アジア選手権、カナダオープン、トマス杯、ヨーロッパオープン、日中、日韓等々の各種国際大会に出場して活躍している。

バドミントン競技は昭和63年（1988年）のソウルオリンピックではエキシビジョン競技だが、平成４年（1992年）スペインのバルセロナのオリンピックでは正式競技に入る。62年度の日本ナショナルチームの中に西山博司・松浦進二・辻田泰昌・江藤裕樹・西村美千代等の５名も入り、日本代表として国際大会に出場しているが、韓国・中国が強敵である。

昭和59年（1984年）寺田寿元理事長急逝、日本リーグを草津市で開催、第１回滋賀リーグ戦開催、11月甲賀町公園体育館で第１回甲賀郡バドミントン大会開催、全日本社会人で西山博司男子単優勝、全日本教職員男子団体優勝、西村龍夫男子単優勝、全日本学生複松浦進二優勝、全英選手権に松浦、西山、日中学生交流に辻田泰昌派遣される。全国高校総体で比叡山優勝、奈良国体で少年男子優勝、高校選抜で比叡山優勝（４連勝）男子単江藤裕樹優勝。

昭和60年（1985年）大津市で第34回近畿実業団大会開催。全日本総合で西山男子単優勝、全日本社会人大会も西山男子単優勝、全日本学生で松浦進二が単複優勝、第４回世界選手権に西山、松浦、西

村美千代が派遣、全国高校総体で女子単で北浦道代が優勝など日本のトップ大会や世界の大会で本県選手が活躍している。

昭和61年（1986年）全日本総合で松浦進二が男子単複優勝、トマス杯に西山博司、松浦進二派遣、ユーバー杯に平山美恵子派遣、アジア大会、日韓大会に日本代表で西山、江藤、辻田の3選手が出場。香港中国オープンに日本代表の西山、松浦組ベスト8、7月マレーシア、インドオープンに西山、松浦組派遣。8月第37回インターハイ比叡山高校優勝、個人単、山口哲浩（比叡山）3位

昭和62年（1987年）世界選手権に西山、松浦、江藤が派遣される。1月台北オープンに松浦、江藤が日本代表で参加、日韓ジュニア交流大会に藤上良信監督、鈴木草麻生が派遣、第2回近畿ジュニア大会滋賀県開催、2月7日近畿バドミントン協会規約改定実施。日本ナショナルチームに男子は西山、松浦、江藤辻田、女子は西村、平山が選出された。3月全英大会日本代表に西山、松浦、江藤が選出される。全日本総合男子単複西山優勝、全日本学生で男子単複で辻田泰昌が優勝、全日本社会人複松浦優勝、全国高校選抜比叡山優勝、男子単鈴木草麻生優勝、全国高校総体比叡山優勝（2連勝6回目）沖縄国体で少年男子優勝

昭和63年（1988年）世界選手権、全英選手権等に西山博司・松浦進二・江藤裕樹が出場

全日本総合で松浦は単、複で優勝。日本のトップとしてソウルオリンピックで5位入賞。本県選手が世界で活躍している。全日本社会人で西山が男子単複で優勝、全日本学生では辻田が男子単複で優勝、北浦が複で優勝、全国高校総体で中橋一晃・飛来肇組が優勝。日本中国青年友好試合に鈴木草麻生が派遣される。

昭和64年・平成元年（1989年）全日本総合で松浦が男子単優勝、複準優勝、全日本社会人で西山が男子単優勝、複準優勝、全日本教職員で杉本吉男男子単で優勝

平成2年（1990年）全日本総合で松浦は単複で優勝、混合で早戸敏雄優勝、全日本社会人で男子単で江藤裕樹優勝、複で松浦進二優勝

平成3年（1991年）第2回全日本都市職員大会が大津市で開催された。この年石川国体で西村龍夫が国体10回出場で表彰された。ワールドカップ松浦・松野4位、全日本総合で松浦単準優勝、松浦・松野複で優勝、混合で辻田優勝

平成4年（1992年）バルセロナオリンピックに松浦進二出場、第1回日中ジュニア交流で日本代表藤上良信監督、多久島誠、杉岡拓弥（比叡山高）出場、第1回世界ジュニアで監督藤上良信、多久島誠ほかがジャカルタへ派遣

平成5年（1993年）全日本総合で松浦複優勝

平成6年（1994年）第49回愛知国体が大府市で開催、少年男子優勝、バドミントン顧問ドクターに藤田義嗣氏、前野幹幸氏依頼。ヨーロッパ遠征に松本徹（比叡山高）、日中韓ジュニア交流で韓国へ、日本監督として藤上良信が派遣、全日本総合で男子複江藤裕樹優勝、全国高校選抜で男子単酒井将之、複酒井・中島篤（近江兄弟社高）優勝

平成7年（1995年）第50回福島国体が白河市で開催、少年男子優勝。全国高校選抜で男子単で松本徹が優勝、全国小学生大会5年男子複で山口・早川（坂本スポ少）が優勝

平成8年（1996年）全日本ジュニア大会で澤憂妃（日吉中）が女子単で優勝、日中韓ジュニア大会に勝嶋梨絵（比叡山高）が派遣された。

平成9年（1997年）日本ジュニア代表に稲垣翔悟（比叡山高）が選出される。アジアジュニア選手権に勝嶋梨絵（比叡山高）上田絵美（滋賀女子高）をマニラに派遣。全国小学生大会男子5年単早川賢一（坂本スポ少）が優勝。藤上良信（比叡山高教員）が日バ選手強化委員に就任。10月大東市で第52回大阪国体開催。なみはや国体に顧問ドクターとして前野幹幸氏依頼。少年男女が5位

平成10年（1998年）5月10日水口町民体育館で第1回県スポーツレクリエーション大会（年齢別バド大会）開催。10月4日から6日岐阜県各務原市で第11回全国スポレク年齢別バド大会に滋賀県選抜が参加。アジアジュニア選手権に松本紘二・稲垣翔悟（比叡山高）をマレーシアに派遣。全日本ジュニア大会で山口公洋（日吉中）優勝、全国中学生

大会で女子複多谷郁恵・早川由希子（日吉中）優勝

平成11年（1999年）第18回ヨーロッパ遠征日本代表監督藤上良信、選手稲垣翔悟（比叡山高）派遣、アジアジュニアに稲垣をミャンマーに派遣、日中韓ジュニア交流に稲垣・谷口斉（比叡山高）派遣、全国高校選抜で男子複稲垣翔悟・谷口斉（比叡山高）優勝、全日本ジュニアで男子単優勝稲垣翔悟（比叡山高）、全国中学生大会男子団体日吉中優勝、男子単山口公洋（日吉中）優勝、男子複辻田嘉明・早川賢一（日吉中）優勝、12月栗本会長急逝。

平成12年（2000年）澤長壽理事長が会長代行を務める。第19回ヨーロッパ遠征日本代表監督藤上良信、選手稲垣翔悟（比叡山高）出場。アジアジュニアに日本代表で監督藤上良信、選手榎本良永・山口公洋（比叡山高）、早川早希子・多谷郁恵（滋賀女子高）派遣される。全国高校総体女子団体滋賀女子高優勝、全国高校選抜で男子単榎本良永（比叡山高）優勝、団体準優勝、滋賀女子高準優勝、全国中学生大会男子団体日吉中優勝、男子単数野健太（日吉中）優勝、全国小学生大会4年男子複矢部拓也・村上毅、男子単宇野賢人（坂本スポ少）優勝

平成13年(2001年)3月3日理事会で澤長壽会長、谷英明理事長選出決定。3月27日から29日千葉市ポートアリーナで第1回全日本中学生選手権大会が開催され滋賀県が優勝

平成14年（2002年）10月南国市で第57回高知国体時に日バから澤会長功労表彰受ける。第21回ヨーロッパ遠征に監督藤上良信、選手山口公洋（比叡山高）、多谷郁恵（滋賀女子高）派遣される。第2回ミロジュニアインドネシアオープンに数野健太（比叡山高）、垣岩真未（滋賀女子高）派遣される。アジアジュニアにマレーシアへ監督藤上良信、選手山口公洋（比叡山高）派遣される。第7回世界学生バドミントン選手権がポーランドで開催、女子複で上田絵美・松尾美穂子が3位、全日本学生女子単準優勝多谷郁恵、全国小学生5年複優勝矢部拓也・村上毅（坂本スポ少）

平成15年(2003年)8月23日から29日韓中日ジュニア交流競技会に日本代表で数野健太（比叡山高）出場。8月17日から30日シンガポール、マレーシアオープン大会に松本、川口が日本代表で参加、10月25日から29日日韓高校交流競技会に日本代表で垣岩真未(滋賀女子校)出場。10月26日から29日、静岡県富士宮市で第58回国体開催、少年男子優勝（数野健太、早崎修平、早川賢一）、男女総合（天皇杯）第7位入賞。11月坂出市の第16回全国スポレク香川大会に横山、中村、岡井、佐治、澤、武田、吉崎、西村、澤田が出場。日本ナショナルチームに数野健太（比叡山高）、多谷郁恵（滋賀女子高）選出される。11月30日、日本ＩＢＭ健保体育館で第1回県シニア選手権大会を開催。

平成16年（2004年）1月24、25日滋賀県立体育館で第1回近畿シニア選手権大会（近畿総合シニア部を分離）開催。U19に早川賢一（比叡山高）、U16に垣岩令佳（日吉中）選出、日韓大会に出場。第59回埼玉国体で少年男子3位、男女総合6位入賞。

平成17年(2005年)2月14日から3月1日ヨーロッパジュニア交流競技会（オランダ・ドイツ）に早川賢一（比叡山高）出場、3月13日第1回びわこシニアオープン年齢別バドミントン交流大会が長浜市民体育館で開催。4月23日近畿バドミントン協会規約一部改正。9月22日県立体育館で第1回マザーレイクフェスティバル大会実施。10月第60回岡山国体で少年男子3位、成年男子・少年女子5位、男女総合5位入賞。11月県教育長あて「バドミントン競技の普及発展に係る要望書」を提出。

平成18年（2006年）10月1日からバドミントン競技規則新ルールが開始された。10月14日、15日、彦根市民体育センターで第55回近畿総合バドミントン選手権を開催。

平成19年（2007年）5月31日から7日間第11回日韓スポーツ交流事業成人交歓交流で日本選手団は青森県、滋賀県（陸上、テニス、バドミントン）175名でバドミントンは、澤会長、谷理事長他全18名が韓国蔚山広城市、ソウル特別市を訪問韓国チームと交流試合をした。9月14日から18日、野洲市総合体育館で日本スポーツマスターズ2007びわこ大会を開催。

平成20年（2008年）8月23日、24日第63回国体近畿ブロック大会が滋賀県立体育館で開催、成年

男子・少年男子が1位、成年女子は4位、10月18日から21日、東近江市布引体育館にて第21回全国スポーツレクリエーション祭バドミントン競技が開催された。

平成21年（2009年）1月10日、11日大津市皇子が丘公園体育館で第1回全国バドミントントリプルス選手権大会が日本バドミントン専門部主管で開催、10月16日から22日、大津市、草津市で第60回全日本学生選手権大会開催

平成22年（2010年）

世界で活躍できる次代の選手達も次々本県で育ち、世界に羽ばたき、金メダルに輝くことを夢見つつ、協会組織の益々の充実と発展を祈念しながら、協会史としてはまだまだ充分な記述ができなかった稚拙さを陳謝して筆をおく。

（澤　長壽）

栄　誉

1966（昭和41）　日本バドミントン協会功労賞
榎本　彦次
1968（昭和43）　国体10回以上出場選手表彰
田中多喜造
1976（昭和51）　日本バドミントン協会功労賞
寺田　寿
1982（昭和57）　京都新聞社スポーツ賞
藤上　良信
1983（昭和58）　大津市スポーツ功労賞
澤　長壽
1984（昭和59）　滋賀県体育奨励賞
澤　長壽
2002（平成14）　日本バドミントン協会功労賞
澤　長壽

バドミントン年表

年代		滋賀県バドミントン協会関係
1949	昭24	滋賀県バドミントン協会発足
50	25	近畿バドミントン協会発足
51	26	県体にオープン競技として参加
53	28	第８回国体（香川）に初参加 高体連バドミントン専門部結成 全国高校総体に男子長浜西・女子彦根東初参加
54	29	第３回近畿実業団大会開催
56	31	第３回近畿高校大会開催 兵庫国体に田中多喜造が県の旗手に選出される
61	36	第８回近畿高校大会開催
62	37	第13回全国高校総体女子彦根西ベスト８
63	38	第14回全国高校総体長浜商工（男子複杉政・高木組）ベスト８ 第１回日韓友好親善大会　於：大阪　（彦根西）若林喜久子、田附則子が出場
64	39	第３回全日本教職員大会に寺田・澤が初参加
66	41	第13回近畿高校大会開催 県実業団連盟結成 茂木会長急逝
68	43	第17回近畿実業団大会開催
70	45	全日本実業団選手権　女子単優勝　大橋美知子 中体連バドミントン専門部結成県協会へ加盟
71	46	第26回国体（和歌山）で滋賀教員男子優勝 第18回近畿高校大会開催 第１回全国中学大会で男子初優勝
72	47	第27回国体で一般男子教員準優勝 全日本学生選手権　女子複優勝、単３位　谷美津代 第２回全国中学大会で女子３位
73	48	第28回国体（千葉）で教員男子優勝 第12回全日本教職員大会大津で開催 男子複優勝　藤原健二・藤上良信 第３回全国中学大会で男子優勝・女子優勝
74	49	第23回近畿実業団大会開催 第13回全日本教職員大会で男子団体優勝 男子複優勝　藤原健二・藤上良信 第28回全日本総合団体戦に男子教職員が出場 全日本学生選手権　女子複３位 谷美津代・井上昌子 第４回全国中学大会で男子優勝
75	50	第29回全日本総合団体戦に滋賀教員３位 第14回全日本教職員大会で男子団体３位 全日本学生選手権　女子複３位 谷美津代・井上昌子 第５回全国中学大会で男子優勝

年代		滋賀県バドミントン協会関係
76	51	第31回国体（佐賀）で少年男子準優勝 第30回全日本総合団体戦に滋賀教員３位 第15回全日本教職員大会で男子団体優勝・女子団体３位 第27回全国高校総体で男子比叡山３位 第６回全国中学大会で女子団体優勝（滋賀県選抜）男子単優勝　数野健太
77	52	近畿総合大会大津で開催 日韓大会に比叡山高校出場 第32回国体（青森）で少年男子優勝 第16回全日本教職員大会で男子団体３位 第28回全国高校総体で男子比叡山団体優勝 単優勝　西山博司　　複優勝　西山・矢部組（３冠達成） 第５回全国高校選抜大会で男子団体準優勝　比叡山高校 第７回全国中学大会で女子団体３位
78	53	第21回全日本社会人大会を大津で開催（56国体リハーサル大会） 第25回近畿高校大会開催 第33回国体（長野）で少年男子３位 第17回全日本教職員大会で女子団体３位 全日本学生選手権　男子複準優勝　西山博司 第６回全国高校選抜大会で男子団体優勝
79	54	大津市選手団中国を訪問 第29回全国高校総体大津市で開催 男子比叡山　準優勝　女子 比叡山　３位 第33回国体（宮崎）で教員男子３位 第18回全日本教職員大会で男子団体３位・女子団体３位 全日本学生選手権　女子複準優勝川嶋直子
80	55	県協会要覧を発行 協会機関紙「滋賀のバドミントン」創刊 第29回近畿実業団開催 日中大会大津市で開催 第１回びわこレディース大会（知事杯）大津で開催 第２回日本リーグ開催 日本協会　選手強化委員に藤上良信が選出される 日本バドミントン協会審判委員会へ近畿代表委員として花房房子氏出向～ 57 年 日韓大会に山本裕幸・馬杉武司出場 第35回国体（栃木）で少年男子優勝・成年女子準優勝・総合（天皇杯）準優勝 第34回全日本総合で西山博司単複５位・谷美津代３位 全日本社会人選手権　混合複優勝　谷美津代・森下一夫組 全日本学生選手権　男子複優勝・単準優勝　西山博司 第30回全国高校総体で男子　比叡山優勝
81	56	第36回国体（びわ湖国体）大津市で開催　　総合（天皇杯）優勝 少年男子優勝・成年女子準優勝・成年男子４位・少年女子５位 ヨーロッパジュニア大会に山本裕幸・馬杉武司出場 日中大会（中国家庭婦人対近畿各府県） 第35回全日本総合選手権で男子複優勝西山博司・銭谷組　単３位西山博司　谷美津代 混合５位・西村金治 混合５位 第20回全日本教職員大会で男子団体３位・女子団体３位・成壮年団体３位 男子単優勝　北橋進　男子複優勝　北橋進・西村金治 全日本学生選手権　男子単及び複優勝　西山博司 第９回全国高校選抜大会で男子比叡山優勝 第32回全国高校総体で比叡山３位

年代		滋賀県バドミントン協会関係
82	57	第４回日本リーグ開催 第１回県小学生大会長浜で開催 第37回国体（島根）で総合（天皇杯）優勝・少年男子優勝 ヨーロッパジュニア大会に辻田泰昌・西川勉出場 全日本総合選手権男子複　松浦進二５位 第32回全日本実業団大会で大津市役所５位 全日本学生選手権　男子複準優勝・単３位　松浦進二男子複３位山本裕幸 第10回全国高校選抜大会で男子比叡山優勝・女子滋賀女子３位 男子複優勝辻田泰昌・杉本吉男 第33回全国高校総体で男子比叡山優勝
83	58	第６回近畿家庭婦人大会開催 近畿総合選手権大会大津で開催近畿中学校大会開催 日中・日韓・マレーシアオープン・インドネシアオープン・第５回アジア選手権に西山博司・松浦進二出場 西山博司・松浦進二・山本裕幸は日本ナショナル選手に決定 辻田泰昌は日本強化選手に決定 日本インド学生交流競技会に藤上良信がコーチ、松浦進二選手で出場 ヨーロッパジュニアに江藤裕樹・藤上コーチ派遣 第 37 回全日本総合選手権 男子単準優勝松浦進二・複優勝西山博司・銭谷欽二組　複３位山本裕幸 女子単５位・複３位西村美千代・複３位岩見洋子・複５位川島直子 第11回全国高校選抜大会で男子比叡山優勝（３連勝） 第34回全国高校総体で比叡山準優勝 全日本ジュニア選手権男子単優勝江藤裕樹
84	59	寺田寿元理事長急逝 第６回日本リーグ草津市で開催 第１回滋賀リーグ戦開催 第31回近畿高校大会開催 全英・国際各種大会に西山博司・松浦進二派遣される 日本中国学生交流大会に辻田泰昌派遣される 第39回全日本総合選手権 男子単準優勝・複３位・混合複３位西山博司・単５位松浦進二 女子単５位・複３位・混合複５位西村美千代 全日本社会人選手権　男子単優勝西山博司 第23回全日本教職員大会で男子団体優勝・男子単優勝西村龍夫 全日本学生選手権大会　　男子複優勝・単準優勝松浦進二 男子単３位及び複３位山本裕幸 第35回全国高校総体で比叡山優勝 第39回国体（奈良）で少年男子優勝 第12回全国高校選抜大会で男子比叡山優勝（４連勝）男子単優勝江藤裕樹
85	60	第34回近畿実業団大会開催 全英・日韓・日中・各種国際大会に西山博司・松浦進二派遣される 第４回世界選手権に西山博司・松浦進二・西村美千代が派遣される ABC 大会に松浦進二・辻田泰昌・西村美千代が派遣される 第39回全日本総合選手権 男子単優勝西山博司・複３位西山博司・辻田泰昌・複優勝・単準優勝松浦進二 女子単３位平山美恵子 全日本社会人選手権大会　男子単優勝　西山博司 全日本学生選手権大会 男子複優勝・単優勝松浦進二・男子単３位及び複３位辻田泰昌・複江藤裕樹・杉本吉男 第36回全国高校総体で男子比叡山準優勝・女子比叡山準優勝 女子単優勝 北浦道代

年代		滋賀県バドミントン協会関係
86	61	第14回男子世界選手権（トマス杯）に西山博司・松浦進二派遣される 第11回女子世界選手権（ユーバ杯）に平山美恵子派遣される アジア大会.マレーシア.インドネシア.全英.日韓.日中等に西山博司・松浦進二 第40回全日本総合選手権 男子単及び複優勝松浦進二・単３位西山博司・女子単５位西村美千代 全日本社会人選手権　男子複優勝西山博司・松浦進二 全日本学生選手権大会女子複３位　北浦道代 第37回全国高校総体で男子比叡山優勝
87	62	第５回世界選手権アジア・タイ・マレーシア・インドネシアオープンに出場 西山博司・松浦進二・江藤裕樹・辻田泰昌が派遣される ソ連オープン・海外学生交流競技会に北浦道代が派遣される 全英で複３位松浦進二・松野組 日韓ジュニア交流競技会に鈴木草麻生・日本監督に藤上良信が派遣される 第41回全日本総合選手権 男子単・複優勝西山博司　複３位西山博司・宮森　複優勝松浦進二・松野 単３位江藤裕樹　混合準優勝辻田泰昌・谷地混合３位西村美千代 第26回全日本教職員大会で男子団体３位　男子複優勝山本裕幸 全日本社会人選手権　男子複優勝松浦進二 全日本学生選手権大会 男子単及び複優勝辻田泰昌　女子複優勝、単３位北浦道代 第15回全国高校選抜大会で男子比叡山優勝（５回目）男子単優勝鈴木草麻生 第38回全国高校総体で男子比叡山優勝（２連勝・６回目） 第42回国体（沖縄）で少年男子優勝
88	63	第15回世界選手権・全英選手権・仏オープンに西山博司・松浦進二・江藤裕樹西山博司・松浦進二・江藤裕樹・辻田泰昌がナショナル選手に選出 鈴木草麻生・北浦道代がナショナル強化選手 日本中国青年交流試合　鈴木草麻生 ジャパンオープン複３位松浦進二・松野単　西山・松浦・辻田・江藤 女子単西村美千代　複西山・井上　江藤・ジョギス　混合辻田・谷地　出場 第42回全日本総合選手権 男子単及び複優勝松浦進二・単３位混合３位辻田泰昌・複３位山本裕幸 第27回全日本教職員大会男子複優勝山本裕幸 全日本社会人選手権男子単優勝西山博司・男子複優勝松浦進二 全日本学生選手権大会 男子単及び複優勝辻田泰昌・女子複優勝単３位北浦道代 第16回全国高校選抜大会で男子比叡山・女子比叡山出場 第38回全国高校総体で男子複優勝中橋一晃・平井肇 ソウルオリンピック　松浦進二出場
89	平元	第43回全日本総合選手権 男子単優勝松浦進二・複準優勝松浦進二・松野　単３位辻田泰昌・複３位 辻田泰昌・奥野　単３位江藤裕樹 全日本社会人選手権　男子単優勝西山博司・複優勝松浦進二・松野 第28回全日本教職員大会　男子単優勝杉本吉男・複優勝山本裕幸・村尾
90	2	第44回全日本総合選手権 男子単及び複優勝松浦進二・単３位西山博司・複準優勝西山博司・柳谷 単３位江藤裕樹・複３位江藤裕樹・長内・混合優勝早戸敬雄・田代 全日本社会人選手権　男子単優勝江藤裕樹・複優勝松浦進二
91	3	ワールドカップ　松浦進二・松野　４位 第45回全日本総合選手権 男子単準優勝及び複優勝松浦進二・単３位江藤裕樹・複３位早戸敬雄・村山 女子単３位北浦道代　混合優勝辻田泰昌・松田

年代		滋賀県バドミントン協会関係
91	3	全日本社会人選手権　男子単優勝江藤裕樹・複優勝松浦進二・混合優勝辻田泰昌 第30回全日本教職員大会で男子複優勝山本裕幸 第２回全日本都市職員バドミントン大会を大津市で開催 第46回石川国体において西村龍夫国体10回以上出場で日バ表彰受賞
92	4	第１回日中ジュニア交流競技会（埼玉） 日本選抜中国選抜　監督　藤上良信多久島誠杉岡拓弥　他 第１回世界ジュニア選手権（ジャカルタ）　監督　藤上良信多久島誠他 第46回全日本総合選手権 男子複優勝松浦進二・複３位及び単３位辻田泰昌・混合複３位田中佐妃子 第43回全日本学生選手権　女子単準優勝　西田美由紀 全日本社会人選手権　男子複優勝　松浦進二・松野組 バルセロナオリンピック　松浦進二出場
93	5	第47回全日本総合選手権男子複優勝　松浦進二・松野組 第23回全国中学生バドミントン大会を大津市で開催
94	6	第13回ヨーロッパ遠征（オランダ・イングランド）選手松本徹（比叡山） 日中韓ジュニア交流競技会（韓国）監督　藤上良信 第49回愛知国体　優勝　少年男子比叡山第48回全日本総合選手権男子複優勝　江藤弘樹・柳谷組 第22回全国高校選抜 男子団体準優勝比叡山・男子単酒井将之・男子複優勝酒井将之・中島篤 （近江兄弟社） 第１回全国有力高校強化練習会を大津市で開催
95	7	第50回福島国体　優勝少年男子 第23回全国高校選抜　男子団体準優勝　男子単優勝　松本徹（比叡山） 全国小学生選手権　５年男子複優勝　山口・早川（坂本スポ少）
96	8	日中韓ジュニア交流競技会（長崎）勝嶋梨絵（比叡山） 全日本ジュニア（新人）選手権　女子単優勝　澤　憂妃（日吉中）
97	9	アジアジュニア選手権（マニラ） 女子団体３位・選手　勝嶋梨絵（比叡山）・上田絵美（滋賀女子） 全国小学生選手権　男子５年単優勝　早川賢一（坂本スポ少）
98	10	アジアジュニア選手権（マレーシア）選手　松本紘二・稲垣翔悟（比叡山） 第49回全日本学生選手権　男子単３位及び複準優勝　松本徹 男子複３位　酒井将之 全日本ジュニア（新人）選手権　男子単優勝　山口公洋（日吉） 全国中学生大会　女子複優勝　多谷郁恵・早川由希子（日吉）
99	11	第18回ヨーロッパ遠征（オランダ・ドイツ） 監督　藤上良信　選手　稲垣翔悟（比叡山）　男子複３回戦 アジアジュニア選手権（ミャンマー）選手　稲垣翔悟（比叡山）　団体５位 日中韓ジュニア交流競技会（広島）稲垣翔悟・谷口斉（比叡山）団体準優勝 第50回全日本学生選手権　男子単３位及び複準優勝　松本徹 全国高校選抜　男子複優勝稲垣翔悟・谷口斉（比叡山） 全日本ジュニア選手権男子単優勝　稲垣翔悟（比叡山） 全国中学生大会 男子単優勝山口公洋（日吉）男子複優勝辻田嘉明・早川賢一（日吉） 男子団体日吉中 栗本藤四郎会長12月に急逝
2000	12	第19回ヨーロッパ遠征（オランダ・ドイツ） 監督　藤上良信・選手　稲垣翔悟　男子単５位・複３位・混合５位 アジアジュニア選手権（長岡京）男子団体５位

年代		滋賀県バドミントン協会関係
2000	12	監督藤上良信　選手榎本良永・山口公洋（比叡山）早川早希子・多谷郁恵 全国高校総体　　団体優勝滋賀女子高校 全国高校選抜　男子単優勝　榎本良永（比叡山）団体準優勝滋賀女子 全国小学生大会　４年男子複優勝　矢部拓也・村上毅　男子単優勝　宇野賢人（坂本スポ少） 全国中学生大会　男子団体優勝　日吉中　男子単　数野健太（日吉） 澤　長壽理事長が会長代行を務める
01	13	第20回ヨーロッパ遠征（オランダ・ドイツ） 監督　藤上良信　選手　榎本良永（比叡山）　多谷郁恵（滋賀女子） 男子単５位・複３位・女子複５位・混合５位 アジアジュニア選手権 監督藤上良信　選手　山口公洋・数野健太（比叡山）早川早希子・多谷郁恵（滋賀女子） 男子団体５位・女子団体５位・女子複５位 第１回ミロジュニアインドネシアオープン（インドネシア） 選手数野健太（比叡山）・多谷郁恵（滋賀女子）女子複３位 第52回全日本学生選手権　　女子単優勝　上田絵美 全国高校総体　　団体２位　滋賀女子 澤　長寿会長、谷　英明理事長が就任
02	14	第21回ヨーロッパ遠征（オランダ・ドイツ） 監督　藤上良信　選手　山口公洋（比叡山）　多谷郁恵（滋賀女子） 女子複３位・混合５位 第２回ミロジュニアインドネシアオープン（インドネシア） 選手数野健太（比叡山）・垣違和真未（滋賀女子）アジアジュニア選手権（マレーシア） 監督　藤上良信　選手山口公洋（比叡山）男子団体５位 第７回世界学生バドミントン選手権大会（ポーランド）女子複３位　上田絵美・松尾美穂子 第53回全日本学生選手権　　女子単準優勝　多谷郁恵 全国高校総体　　男子団体準優勝　比叡山 第32回全国中学生大会大津市で開催 全国小学生選手権　　男子５年複優勝　矢部拓也・村上俊（坂本スポ少）
03	15	第22回ヨーロッパ遠征（オランダ・ドイツ） 監督　藤上良信　選手　山口公洋（比叡山） オランダジュニア・ドイツジュニア　共に混合複　優勝　山口公洋・脇田侑
04	16	全国小学生選手権　男子６年複優勝　矢部拓也・村上俊（坂本スポ少）
05	17	第24回ヨーロッパ遠征に早川賢一（比叡山高）派遣第60回岡山国体男女総合で５位入賞
06	18	第55回近畿総合選手権大会を彦根市で開催
07	19	第11回日韓スポーツ交流事業・成人交歓交流で県バドミントン選手団18名 ソウル訪韓 日本スポーツマスターズ2007大会を野洲市で開催
08	20	第21回全国スポーツレクリエーション祭年齢別バドミントン大会を東近江市で開催 第12回日韓スポーツ交流事業・成人交歓交流で韓国選手団も２チーム参加
09	21	第１回全国バドミントントリプルス選手権大会を大津市で開催 第60回全日本学生選手権大会（インカレ）を草津市・大津市で開催
11	23	第42回全国中学生大会大津市で開催



滋賀県協会史の発行にあたり

滋賀県バドミントン協会
理事長　　谷　英明

滋賀県協会が設立してから、半世紀余りがたちました。

長い歴史を振り返ってみますと、連盟・専門部・郡市それぞれの取り組み活躍にはめざましいものがあります。普及では多くの愛好者と共に会員数を増やし、そして強化においてもそれぞれの所で取り組みが行われています。特に高体連においては長きにわたり好成績を収めて頂いていますが、中でも男子の成績は特筆すべきものがあります。このように各々のところで普及・発展・強化に取り組んで頂いたことが、礎にあることにより県協会の今日があると確信すると共に感謝する次第です。

県協会では、審判講習会を開き研修を重ねて優秀な資格者を養成、競技会を開催し普及発掘に努め、国内はもとより海外で活躍する選手を育てるために週２回ジュニア強化を行っています。

この度、協会史を発行するにあたり不十分な所が多々有り皆様方には大変ご迷惑をおかけしまして誠に申し訳ありません。

今後益々、連盟・専門部・郡市の発展・活躍を祈念すると共に、そのことが共同体である県協会の発展につながりますので、共に頑張り協力して参りたいと思います。

歴代会長・理事長

	会長	理事長
昭和24年	藤谷宗順	榎本彦次
昭和28年	大畑文七	田中多喜造
昭和31年	大畑文七	榎本彦次
昭和38年	茂木一二	榎本彦次
昭和41年	茂木一二	寺田寿
昭和42年	田原又蔵	寺田寿
昭和45年	正岡吉三郎	寺田寿
昭和50年	栗本藤四郎	久保宏
昭和52年	栗本藤四郎	澤長壽
平成12年	代行 澤長壽	澤長壽
平成13年	澤長壽	谷英明

栄誉

昭和~~41~~36年	日本バドミントン協会功労賞	榎本 彦次
昭和43年	国体10回以上出場選手表彰	田中多喜造
昭和51年	日本バドミントン協会功労賞	寺田 寿
昭和57年	京都新聞社スポーツ賞	藤上 良信
昭和58年	大津市スポーツ功労賞	澤 長壽
平成14年	日本バドミントン協会功労賞	澤 長壽
平成21年	日本バドミントン協会顕賛賞	花房 房子

滋賀県体育協会表彰受賞者

昭和55年	体育境界表彰	林 一正
昭和56年	社会体育奨励賞	花房 房子
昭和59年	滋賀県体育奨励賞	澤 長壽
平成21年	スポーツ功労賞	花房 房子
平成14年	優秀指導者賞	村上 隆三
平成15年	優秀指導者賞	濱久 美雄
平成18年	優秀指導者賞	藤上 良信
昭和61年	優秀選手賞	谷美 津代
昭和61年	優秀選手賞	藤上 良英
昭和61年	優秀選手賞	藤原 健二
昭和61年	優秀選手賞	(藤上) 久保田良昌
昭和61年	優秀選手賞	藤上 良信

近畿協会功労賞受賞者

平成22年	スポーツ功労賞	花房 房子
平成22年	スポーツ功労賞	藤上 良信

協　会　規　約

昭和24年４月１日協会設立
昭和25年４月　制定
昭和39年４月　改訂
昭和48年４月　改訂
昭和50年４月　改訂
平成９年６月　改訂
平成22年５月　改訂

第１章　名称および事務所

第１条　本会は、滋賀県バドミントン協会と称する

第２条　本会は、事務所を理事長のところに置く。

第２章　目的および事業

第３条　本会は、滋賀県バドミントン界の統一連絡をはかり、その健全な普及、発展を期し、併せて県民の体位向上に寄与することを目的とする。

第４条　本会は、前条の目的を達成するために、下記の事業を行う。

１．滋賀県における選手権を決定する大会や、その他の競技会の開催

２．競技技術の指導と審判に関する知識、理解のための講習会の開催

３．バドミントンに関する調査、研究及び広報の発行

４．その他、本会の目的達成のために必要な事業

第５条　本会は、（財）日本バドミントン協会及び（財）滋賀県体育協会の加盟団体としてこれに協力する。

第３章　組織および会員

第６条　本会は、本会の趣旨に賛同する役員および次のアマチュアバドミントン連盟をもって組織する。

１．滋賀県実業団バドミントン連盟

２．滋賀県教職員バドミントン連盟

３．滋賀県レディースバドミントン連盟

４．滋賀県社会人バドミントン連盟

５．滋賀県学生バドミントン連盟

６．滋賀県高等学校体育連盟バドミントン専門部

７．滋賀県中学校体育連盟バドミントン専門部

８．滋賀県シニア連盟

９．滋賀県小学生バドミントン連盟

10．各市・郡バドミントン協会

第７条　会員は、本会役員および前条のいずれかの加盟団体に登録した者をいう。登録に関しての規定は別に定める。

第８条　本会への入会および脱会に関する事項については、理事会の決議によって決定する。

第４章　役員

第９条　本会の役員は次のとおりとする。

会長　１名、副会長　若干名、理事長　１名、副理事長　若干名、常任理事　若干名、理事　若干名、監事　２名

第10条　本会の役員の任期は２年間とし、再任を妨げない。

２．補欠又は増員により選任された役員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

３．役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、なおその職務を行う。

第11条　会長及び副会長は総会において推薦し、会長は本会を代表し、会務を統理し、副会長は会長を補佐し、会長が事故あるときはその職務を代行する。

第12条　理事長、副理事長、常任理事は理事の互選により選出し、会長が委嘱する。

第13条　理事長は理事会を司り、会長の命を受けて会務を処理執行する。副理事長は理事長を補佐し、理事長が事故あるときはその業務を代行する。

第14条　理事は第６条に定める各加盟団体及び理事

長の推薦する者とし、会長がこれを委嘱する。本会の会務を司り、理事会を構成する。

第15条　監事は総会の推薦により会長がこれを委嘱する。本会の会務を監査する。

第16条　名誉会長、顧問、参与は必要に応じておくことができる。理事会で審議し、総会の承認を得る。会長がこれを委嘱し、必要により会長の諮問に応じる。

第５章　評議員

第17条　評議員は第６条に定める各加盟団体の推薦する者を会長が委嘱する。

第18条　評議員の任期は２年間とし、再任を妨げない。

第19条　評議員の第９条の役員を兼ねることはできない。役員に就任したときはその補充を行う。

第６章　会議

第 20 条　本会は、次の会議をもつ。

１．総会　２．理事会　３．常任理事会

第21条　会議の成立は構成員総数の２分の１以上の出席を必要とする。

第22条　議事の決定はその出席構成員の２分に１位場の決議による。賛否同数の場合には議長がこれを決める。

第23条　すべての会議で当該構成員のうちやむを得ない事で欠席をする場合は本人よりの委任状の提出をもって出席者とみなし、議事票決にも参加したものとする。

第24条　総会は第９条の役員および評議員で構成し、毎年１回会長がこれを招集し、開催する。但し、会長が必要と認めたとき、臨時にこれを招集し、開催することができる。また、当分の間理事会をもって総会に替えることもできる。

第25条　総会は次の重要事項について審議し、これを議決する。

１．本会の運営に関する基本方針事項

２．本会の事業報告並びに決算報告

３．本会の事業計画並びに予算編成

４．規約・規定の新設および改訂

５．役員の推薦改選に関する事項

６．その他の重要事項

第26条　総会の議事は会長が統裁する。

第27条　理事会は第９条の役員をもって構成し、会長がこれを招集し、会長が議長となり開催する。

第28条　理事会は本会の運営業務に関する事項並びに総会より委任された事項の審を行い、議決し執行する。

第29条　常任理事会は会長、副会長、理事長、副理事長および常任理事をもって構成し、必要に応じて会長がこれを招集し、会長が議長となり開催する。

第30条　常任理事会は本会の常務事項並びに理事会より委任された事項の審議を行い処理執行する。

第７章　専門部および特別委員会

第31条　本会の事業執行を円滑にするため次の専門部をおくことが出来る。

１．管理運営本部　２．事業本部

３．選手強化本部

第32条　各専門部には部長・副部長をおく。部長は副理事長または常任理事より、副部長は常任理事または理事より、さらに各専門部員は理事または会員のなかより選出する。その任期は第10条の役員に準じる。

第33条　専門部は総会・理事会・常任理事会または専門部相互間で委任された事項につき審議し、処理執行する。各専門部運営の細則は別に定める。

第34条　第31条の専門部以外の本会運営のため会長が必要と認めたときは特別委員会をおくことができる。

第35条　専門部および特別委員会の構成員は理事会の審議を経て会長が委嘱する。

第８章　賛助会員

第36条　本会に賛助会員をおくことができる。

第37条　賛助会員規定は別に定める。

第９章　経理および会計

第38条　本会の経費は、会費、加盟団体の拠出する分担金、賛助会費、補助金、寄付金、事業収入その他をもってこれに充てる。

第39条　本会の会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

第40条　経理および会計に関する細則は別に定める。

第10章　規約の改正

第41条　本規約の改正は、理事会の審議を経て総会で決定する。

第11章　附則

第42条　この規約は平成９年６月15日より実施する。

滋賀県バドミントン協会　賛助会員規定

1997. 6.17

第１条　目的

滋賀県バドミントン協会の活動趣旨に従い、バドミントンの普及・振興に寄与する会員として援助を得ることを目的とする。

第２条　賛助会員

１．個人会員

（１）滋賀県バドミントン協会特別会員

（名誉役員、会長、副会長、顧問、参与、監事等）

（２）バドミントンの普及振興に理解ある協力者

２．法人および団体会員

協会の趣旨を理解し協賛する法人および団体

第３条　会合

会合は原則として年１回開催し、協会の活動状況および事業計画を会員に報告するとともに本会員よりの意見聴取などの交流を行う。

第４条　会費

１ヶ月につき次の会費の寄与を受ける。

１．個人会費　１口　5,000 円

２．法人及び団体会費　１口　30,000 円

会費は毎年３月中に納入を受ける。収支保管は滋賀県バドミントン協会総務部がその任に当たる。脱会する場合、既納の会費は返戻はしない。

第５条　規定の改定

本規定の改廃に関しては、本会員の意見を聴取した後に理事会の審議を経て決定し、総会に報告する。

第６条　附則

この規定は平成９年６月 15 日より実施する。

細則

１．滋賀県バドミントン協会の会報等を送付する。

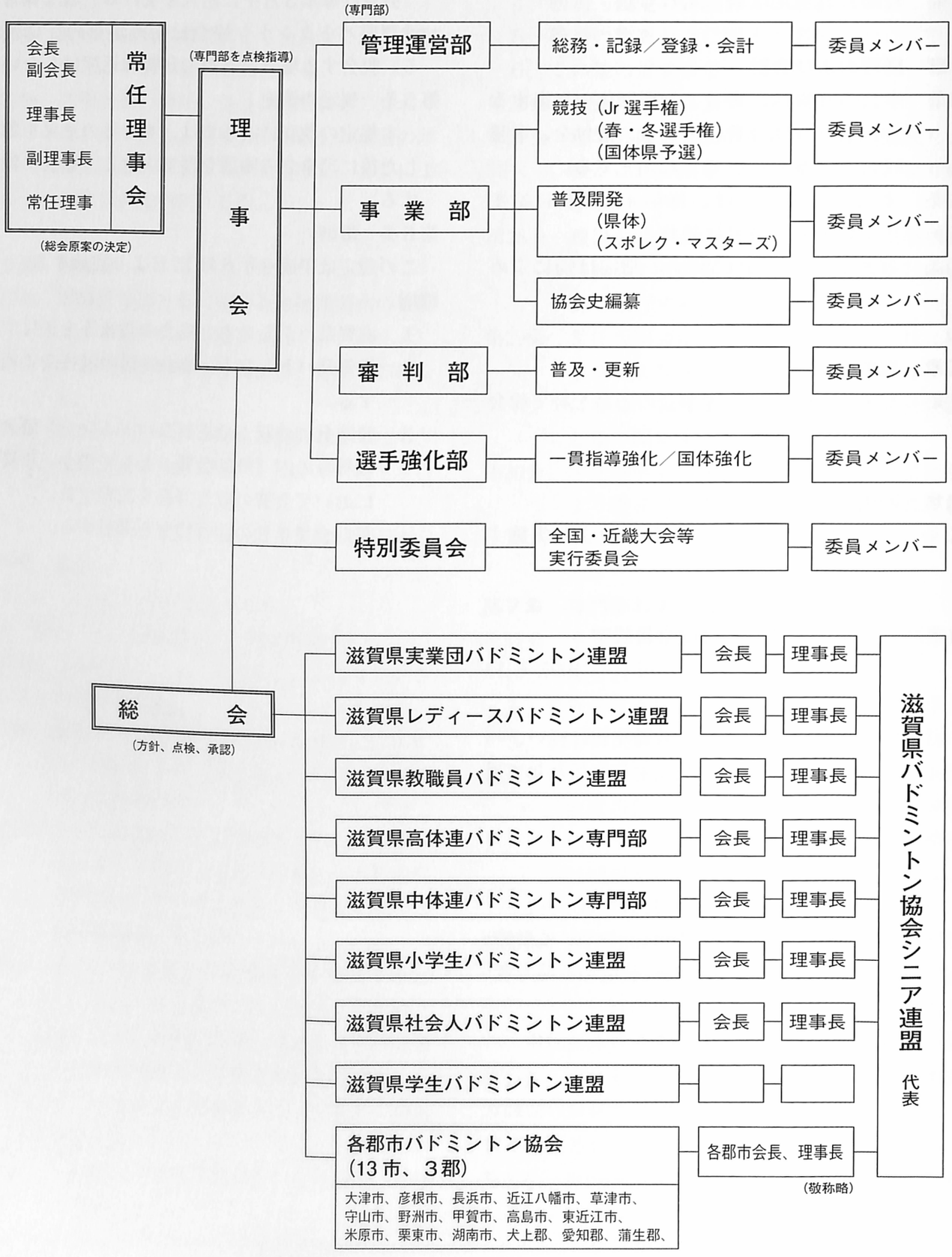
２．滋賀県バドミントン協会主催の競技会に招待する。

３．賛助会員の収支は滋賀県バドミントン協会経理科目の内「賛助会費」として扱う。総務部において会費の収支詳細を記録する。

４．賛助会費単独の銀行口座を開設する。

滋賀県バドミントン協会 組織機構図

滋賀県バドミントン協会 HP http:// www10.ocn.ne.jp/~shigabad/
滋賀県バドミントン協会 E メール shiga_bad@hotmail.co.jp
登録用 E メール sigabado.touroku@gmail.com



審判委員会の歴史と組織

滋賀県バドミントン協会
審判部長　河嶋　四郎

県内審判部の組織自体の歴史はそう古くはなく、実質的にはS62年頃から動き出しています。それ以前のS40年代には花房房子先生が近畿の審判員として近畿各地の審判検定会の審査員役として京都の山本博先生と共に回っておられました。近畿の代表として日本バドミントン協会の方へは、大阪の青木昭二先生がでておられていました。その後、滋賀県インターハイや国体がS54・S56年に行われたため、その前のS51年頃から滋賀県でも審判員を増やすために検定会が開かれ、数人の方が１・２級を受検されました。そのとき私も２級を受検しその後１級を取得することができました。県内の審判部の代表として川戸健一先生（八日市養護学校勤務）にご尽力をいただきました。川戸先生の後を受け県内の審判部の仕事をS62年頃から任されるようになりました。S62年に近畿の審判部が組織されるようになったのがきっかけで、各府県から２名選出され、滋賀県からは花房先生と河嶋が代表として委員になりました。その年の６月に日本バドミントン協会が各地で審判員を増やせるようにと、第一回の公認審判員資格審査認定委員会を発足するための検定会を東京で開催し、滋賀県からは花房・河嶋の２名が受検し、近畿全体でも10名が合格しました。その後は、近畿でも１・２級の検定会が毎年開催されようになりまた、県内でも３級の検定会を開けるようになり、多くの方が審判資格を取得されました。最初の頃は１級・２級は、数名でした。現在その数が１級から３級までで180名余りになりました。各地で行われた大きな大会に滋賀県から審判員として派遣をすることもできるようになりました。

＊県外派遣審判員記録　（敬称略）

S46年度　和歌山国体：花房房子、辻　広之
S54年度　滋賀インターハイ
：多数の方々
S56年度　滋賀国体　：多数の方々
S57年度　ジャパンオープン　神戸市
：花房房子、西原四郎、
片山義教、河嶋四郎
島根国体　：花房房子（中央審判員）
S59年度　奈良国体　：花房房子、河嶋四郎
S62年度　ジャパンオープン　大阪守口市
：花房房子、河嶋四郎
全日本社会人 長岡京市
：西原四郎、河嶋四郎
S63年度　京都国体　：花房房子、西原四郎
河嶋四郎
Ｈ８年度　全日本社会人　大東市
：西原四郎、河嶋四郎
Ｈ９年度　大阪国体　：片山義教、河嶋四郎



公認審判員資格者一覧表　H15年３月末

1	１級	高校	花　房　房　子
2	１級	高校	澤　　長　壽
3	１級	高校	河　嶋　四　郎
4	１級	高校	谷　　英　明
5	１級	高校	濱　　久美雄
6	１級	高校	藤　上　良　信
7	１級	高校	早　川　悦　宏
8	１級	高校	木　村　　学
9	１級	小学校	藤　上　良　英
10	１級	中学校	藤　原　健　二
11	１級	中学校	大　和　高　成
12	１級	実業団	西　原　四　郎
13	１級	レディース	田　中　絹　子
14	２級	高校	小　田　隆　司
15	２級	高校	森　　豊　幸
16	２級	高校	本　池　　篤
17	２級	高校	喜　多　俊　文
18	２級	高校	三　田　哲　哉

19	2級	レディース	山根泰子
20	2級	レディース	藤上佐千子
21	2級	レディース	河上ひとみ
22	2級	レディース	松本豊
23	2級	レディース	樋口京子
24	2級	実業団	吉川忠司
25	2級	中学校	今庄茂
26	2級	中学校	片山義教
27	2級	中学校	吉崎治彦
28	2級	中学校	北川正人
29	2級	中学校	涌井努
30	3級	高校	手島利親
31	3級	高校	片岡英樹
32	3級	高校	松村政幸
33	3級	高校	山賀昌司
34	3級	高校	井上武紀
35	3級	高校	金森博史
36	3級	高校	浅居英雄
37	3級	高校	北橋進
38	3級	高校	堀口節朗
39	3級	高校	松浦薫
40	3級	大学	山田純子
41	3級	大学	松川晋也
42	3級	大学	寺島慧悟
43	3級	大学	永田滋男
44	3級	大学	冨樫英二
45	3級	大学	吉森貴規
46	3級	大学	岸さやか
47	3級	大学	安達克紀
48	3級	大学	清水知宏
49	3級	レディース	宮川雪子
50	3級	レディース	住井則子
51	3級	レディース	谷志げ子
52	3級	レディース	前田昌子
53	3級	レディース	井上和江
54	3級	レディース	奥野三重子
55	3級	レディース	宇山昌子
56	3級	レディース	宇野政子
57	3級	レディース	渡海龍子
58	3級	レディース	山崎邦枝
59	3級	レディース	森雪子
60	3級	レディース	藤原比都美
61	3級	レディース	田中真寿美
62	3級	レディース	大伴里美
63	3級	レディース	加納英子
64	3級	レディース	久田千代子

65	3級	レディース	山元八代妃
66	3級	レディース	須崎操子
67	3級	レディース	前田佳美
68	3級	レディース	佐々木和子
69	3級	レディース	山本万里子
70	3級	レディース	田井孝子
71	3級	レディース	籠谷郁代
72	3級	レディース	深野小百合
73	3級	レディース	森村允子
74	3級	レディース	俵由紀路
75	3級	レディース	寺田敬子
76	3級	レディース	西川茂美
77	3級	レディース	堤美紀子
78	3級	レディース	石田照美
79	3級	レディース	鷺村康子
80	3級	レディース	出路美喜子
81	3級	レディース	河野宗子
82	3級	レディース	前川成子
83	3級	レディース	村西美左子
84	3級	レディース	浅井明美
85	3級	レディース	杉山美樹
86	3級	レディース	信田礼子
87	3級	レディース	上垣志津子
88	3級	レディース	杉本玲子
89	3級	レディース	井上晶子
90	3級	レディース	土木初江
91	3級	レディース	大堀佳子
92	3級	レディース	白井知子
93	3級	レディース	水谷初江
94	3級	レディース	武田佐代子
95	3級	レディース	田村紀子
96	3級	レディース	高橋裕子
97	3級	レディース	勝山直子
98	3級	レディース	本郷寿美
99	3級	レディース	島田祥子
100	3級	レディース	川崎順子
101	3級	レディース	釘本純子
102	3級	レディース	福島早百合
103	3級	レディース	阪口育子
104	3級	レディース	阿閉みよ子
105	3級	レディース	青山好子
106	3級	レディース	葛城公子
107	3級	レディース	小山美紀子
108	3級	レディース	和田美枝子
109	3級	レディース	早田美知子
110	3級	レディース	藤掛初美

111	3級	レディース	橋本郁美
112	3級	レディース	西村千秋
113	3級	レディース	井上秀乃
114	3級	レディース	萬木明美
115	3級	レディース	藤野直美
116	3級	レディース	吉崎美智子
117	3級	レディース	増井悦子
118	3級	レディース	岡井真知子
119	3級	レディース	阿武恭子
120	3級	レディース	黒川ひろみ
121	3級	レディース	茶木恵
122	3級	レディース	古川ゆう子
123	3級	レディース	小河君江
124	3級	レディース	牧野加代子
125	3級	レディース	川端好美
126	3級	レディース	佐藤祐子
127	3級	レディース	堀田純子
128	3級	レディース	北村博子
129	3級	レディース	仁賀正子
130	3級	レディース	増田久子
131	3級	レディース	辻久美子
132	3級	レディース	杉本景子
133	3級	レディース	近藤晴美
134	3級	実業団	堀内憲治
135	3級	実業団	北村治滋
136	3級	実業団	吉居秀
137	3級	実業団	宇野忠男
138	3級	実業団	宮崎誠二
139	3級	実業団	塩田晃二
140	3級	実業団	花田正喜
141	3級	実業団	中島幸夫
142	3級	実業団	佐治達三
143	3級	実業団	清水義文
144	3級	実業団	畳谷康一
145	3級	実業団	土守秀樹
146	3級	社会人	佐藤宝一
147	3級	社会人	田中裕司
148	3級	中学校	桂田依子
149	3級	中学校	石岡朋子
150	3級	中学校	奥田千里
151	3級	中学校	矢野三千子
152	3級	中学校	寺田喜代美
153	3級	中学校	勝山みゆき
154	3級	中学校	横田正嗣
155	3級	中学校	笹山晃
156	3級	中学校	三原宏之
157	3級	中学校	宮川英之
158	3級	中学校	宮下英雄
159	3級	中学校	高田克彦
160	3級	中学校	筒井真理
161	3級	中学校	花澤誠
162	3級	中学校	村川英幸
163	3級	中学校	木津美佐緒
164	3級	中学校	寺田雅規
165	3級	中学校	三島亜紀
166	3級	中学校	田淵洋子
167	3級	中学校	辻本長一
168	3級	中学校	岡野美貴
169	3級	中学校	高嶋敬治
170	3級	中学校	吉田寛司
171	3級	中学校	橋本健
172	3級	中学校	福田寛
173	3級	中学校	西堀和彦
174	3級	中学校	岩間茂樹
175	3級	中学校	西岡宏
176	3級	中学校	村上潤子
177	3級	中学校	西村佳代子
178	3級	中学校	桂奈穂
179	3級	中学校	西村昌士

第2章

各連盟のあゆみ

●滋賀県実業団バドミントン連盟

あ　い　さ　つ

滋賀県実業団バドミントン連盟
会長　　佐藤　賢

滋賀県バドミントン協会誌が発行されますことを心からお慶び申し上げます。

戦後の混乱期、昭和24年に発足された貴協会は、スポーツ施設の環境が不充分な中にもかかわらず、半世紀に渡り様々な困難を克服しながら堅実な歩みを続けられ、輝かしい歴史と伝統を築き大きな成果を上げられましたことは、先輩達の汗と努力の結晶であるとともに、歴代の会長を始め会員の皆様が心を一つにして、幅広い活動を積極的に展開された御努力の賜物であり、深く敬意を表する次第であります。

今日、社会情勢の変化が激しい時代を迎え、実業団スポーツは、企業のイメージアップ・宣伝活動また社員の福利厚生活動の一環として、それぞれの職場の名誉と栄光を目指し、活躍してきましたが、長期経済不況の煽りを受けて実業団スポーツに大変な試練と苦悩の時代を迎えています。

この難局を打開するため、実業団バドミントン連盟の組織強化と各企業の協力なくして発展はありえず、厳しい時代ではあるが、このような時こそ会員が一致団結し精力的な活動に取り組んで参りたいと考えています。

最後になりましたが、この栄えある協会誌の発行を機に今後さらなる飛躍を遂げられますとともに、協会役員の皆様をはじめ会員各位の御健勝と御多幸を祈念申し上げましてあいさつと致します。

滋賀県実業団バドミントン連盟

実業団連盟歴代役員

	会　長	副会長	理事長
昭和41年度	正岡吉三郎		久保　宏
〜	〜		〜
昭和52年度	正岡吉三郎		久保　宏
昭和53年度	栗本藤四郎	久保　宏	佐藤　賢
〜	〜	〜	〜
昭和61年度	栗本藤四郎	久保　宏	佐藤　賢
昭和62年度	栗本藤四郎	佐藤　賢	西原　四郎
〜	〜	〜	〜
平成11年度	栗本藤四郎	佐藤　賢	西原　四郎
	会長代行		
平成12年度	佐藤　賢	佐藤　賢	西原　四郎
平成13年度	佐藤　賢	西原　四郎	奥村　真
〜	〜	〜	〜

●沿　革

滋賀県実業団連盟が発足される以前、昭和31年の第5回、昭和32年の第6回の近畿実業団バドミントン選手権大会に於いて、皇子山中学校職員チームとして女子団体で連続優勝を果たされ、県外の大会で大いに活躍されていた。

実業団関係では、大津市役所職員の宮嶋義和氏等がクラブで活躍し、昭和40年には、久保宏氏・佐藤賢氏・釜屋明和氏・田中正民氏（故人）等が中心になって活躍を続けていた。

昭和41年になって、当時活躍していた大津市役所久保宏氏と佐藤賢氏が精力的に展開し、三洋電機の西村氏、東レ滋賀の山中氏の協力で、滋賀県実業団連盟が、大津市を中心に発足し、会長に当時県会議員であった正岡吉三郎氏、理事長に久保宏氏が就任された。

昭和43年に、近畿実業団大会の開催当番県になった滋賀大会では、体育館が未整備の大津市内では、会場が確保できない状況から彦根市の滋賀大体育館をお願いしていたが、滋賀大の榎本県バド協会理事長との連絡が不充分であった事からトラブルとなり、久保理事長は、彦根の町をさまよう困難を極めた。この時の屈辱が、後になって、「びわこ国体」の会場が濃厚になっていた彦根市に挑戦すべきと、当時大津市の国体準備室の将軍で有名な河村氏の声を受け、安沢武雄先生、木村孝英先生、久保氏、佐藤氏の4人が、彦根市で頂上会談を開催し、選手を含め、ハード・ソフト面を確約し、バドミントンの国体会場を大津市で開催する根回しに成功した経緯がある。

昭和42年に、福井県勝山市で福井国体のプレ大会として、第17回全日本実業団バドミントン選手権大会が開催され、大津市役所が初出場以来昭和62年まで連続20年の出場を果たした。

この間、昭和56年のびわこ国体に向け、男子は大津市役所に、女子は滋賀銀行に選手強化の指定がされ、市役所には、昭和54年近畿大のエースで八日市出身の増田伊知郎選手と比叡山高校でインターハイ優勝の中心選手であった矢部忠司選手（現：吉川）また、1年後に近畿ナンバーワンの京都産業大の中村亨選手、藤堂真選手（現:奥村）が強化され、一時代を築く事となった。滋賀銀行では、昭和55年栃木国体で活躍した若村弥生選手（現 田辺）等が強化された。

全日本実業団大会では、大津市役所が、昭和56年の第31回大会、昭和57年の第32回大会で2年連続ベスト8の輝かしい戦績を収め、また、昭和60年に比叡山高の中川健・康の双子選手の加入により、昭和60年の第35回大会、昭和61年の第36回大会で再びベスト8に返り咲き、日本リーグの入れ替え戦の資格を得るなど、バドミントン界で一躍全国に大津市役所の名をはせることになった。

近畿実業団大会では、昭和55年大津市で開催された第29回大会において、大津市役所は新メンバーの活躍で強豪の電々近畿に次いで、第2位に入り、その後、昭和60年、昭和61年には、念願の連続優勝を果たした。一方女子は滋賀銀行が昭和58年に第2位に輝き、また、東レ滋賀の女子チームも滋賀女子高校、比叡山高校で活躍したメンバーが入社し、昭和60年、昭和61年の同大会で連続優勝を果たし、昭和62年、昭和63年、平成元年は、連続2位になるなど安定した戦績を収め、近畿地区で滋賀県実業団連盟の地位を大いに高める事になった。

平成に入ると男子は、大津市役所に変わって東レ滋賀が選手強化に力をいれ、平成9年第46回大会で第2位に入るなど、現在も常にベスト4の実力を誇っている。

しかしバブル崩壊とともに各実業団チームに不景気風がもろに吹き荒れ、経営規模の縮小や人員削減等、企業の取り組みにより新人の補強が困難な時代になっているのが現状であり、現在実業団登録チームは8チームであるが、半数は休止状態になっている。女子は、平成7年以降団体として必要な4名が確保できず登録チームがない。

今後、益々滋賀県のバドミントンが発展するために、中学校、高校と全国区で活躍する優秀な選手を受け入れる事が出来る基盤整備が必要であり、企業の理解と協力が望まれるところである。

滋賀県バドミントン協会創立50周年おめでとうございます。

全日本実業団選手権大会（団体）

回	年度	西暦	開催地	男子			女子		
7	S32	1957	岐阜市	平和堂					
17	42	1967	勝山市	大津市役所	日本電気硝子				
18	43	1968	諫早市	大津市役所					
19	44	1969	釜石市	大津市役所					
20	45	1970	高松市	大津市役所					
21	46	1971	鹿児島市	大津市役所					
22	47	1972	茂原市	日本IBM	大津市役所				
23	48	1973	石岡市	大津市役所	日本IBM	東レ・滋賀	松下電工彦根		
24	49	1974	松坂市	東レ・滋賀	大津市役所		東レ・滋賀	松下電工彦根	
25	50	1975	高岡市	日本IBM	大津市役所	東レ・滋賀	松下電工彦根	立石電機	
26	51	1976	藤沢市	大津市役所	東レ・滋賀	松下電工彦根	松下電工彦根	東レ・滋賀	立石電機
27	52	1977	大阪市	大津市役所	東レ・滋賀	松下エアコン	滋賀銀行	東レ・滋賀	松下電工彦根
28	53	1978	東京都	大津市役所	滋賀銀行		滋賀銀行	松下電工彦根	
29	54	1979	岡山県	大津市役所	松下エアコン		滋賀銀行	松下電工彦根	
30	55	1980	新居浜市	大津市役所	松下エアコン		滋賀銀行	松下電工彦根	
31	56	1981	愛知県	大津市役所（ベスト8）	滋賀銀行		松下電工彦根	滋賀銀行	
32	57	1982	立川市	大津市役所（ベスト8）	滋賀銀行		滋賀銀行	松下電工彦根	
33	58	1983	札幌市	大津市役所	日本IBM		滋賀銀行	東レ・滋賀	
34	59	1984	大阪府	大津市役所			滋賀銀行	松下電工彦根	
35	60	1985	藤沢市	大津市役所（ベスト8）	日本IBM		東レ・滋賀	松下電工彦根	
36	61	1986	京都市	大津市役所（ベスト8）	日本IBM	長浜信金	東レ・滋賀	松下電工彦根	
37	62	1987	名古屋市	大津市役所	日本IBM	長浜信金	松下電工彦根	東レ・滋賀	
38	63	1988	金沢市	大津市役所	叶匠寿庵		東レ・滋賀	松下電工彦根	
39	H1	1989	岡山市	大津市役所	日本IBM		東レ・滋賀	松下電工彦根	
40	2	1990	神戸市	日本IBM	東レ・滋賀		東レ・滋賀	松下電工彦根	
41	3	1991	仙台市	東レ・滋賀	日本IBM		東レ・滋賀	松下電工彦根	
42	4	1992	広島市	東レ・滋賀	大津市役所		東レ・滋賀		
43	5	1993	富山県	東レ・滋賀	松下エアコン				
44	6	1994	福岡市	東レ・滋賀	松下エアコン		東レ・滋賀		
45	7	1995	札幌市	東レ・滋賀	滋賀銀行		東レ・滋賀	滋賀銀行	
46	8	1996							
47	9	1997							

全日本実業団選手権大会

回	年度	西暦	開催地	成績	氏名	所属
19	S44	1969	釜石市	単　3位	大橋美知子	豊田自動織機（彦根西高卒）
20	45	1970	高松市	単優勝	大橋美知子	豊田自動織機（彦根西高卒）
22	47	1972	茂原市	混合複・3位	辻田　京子	豊田自動織機（彦根西高卒）

近畿実業団選手権大会

回	年度	西暦	開催地	男子		女子	
				優勝	準優勝	優勝	準優勝
5	S31	1956	京都			皇子山中学校職員	
6	32	1957	兵庫			皇子山中学校職員	
29	55	1980	滋賀		大津市役所		
32	58	1983	京都		大津市役所		滋賀銀行
34	60	1985	滋賀	大津市役所		東レ・滋賀	
35	61	1986	奈良	大津市役所		東レ・滋賀	
36	62	1987	兵庫				東レ・滋賀
37	63	1988	大阪				東レ・滋賀
38	H元年	1989	京都				東レ・滋賀
46	9	1997	滋賀		東レ・滋賀		

●滋賀県レディースバドミントン連盟

協会創立50周年を祝して

滋賀県レディースバドミントン連盟
会長　　堀江　泉



滋賀県バドミントン協会創立50周年おめでとうございます。

一口に50年と申しますが、その道程は必ずしも平坦な道ばかりではなかっただろうと思います。我が国が、戦後の窮乏生活からようやく抜け出しつつある時に創立されたのですが、それでも一般的にはまだまだ日々の生活に追われている時代でありました。しかも、指導者・用具・施設等々も何一つ充分ではなかったことでしょう。にもかかわらず、着実に普及し、競技人口は年々増加し、発展の一途を辿ってきましたのは、偏に協会関係各位の並々ならぬご尽力の賜であります。改めて敬意を表したいと思います。

そして、近年の活躍ぶりは誠に目覚ましく、小学生からシニアに至るあらゆる部門で「滋賀」の名を全国に轟かしてくれております。正に「隔世の感」が致します。

さて、既にご承知のようにレディースバドミントン連盟は、昭和55年家庭婦人バドミントン連盟として、健康の増進・会員相互の親睦・技術の向上や普及並びに発展を目的として発足致しました。その年の「第1回びわこレディースバドミントン大会」で県全体を統一した本格的な活動が始まりました。その後、協会・連盟の方々のご努力のお陰で、組織の充実が図られ、それに伴い会員数も大幅に増加して参りました。同時に、技術も飛躍的に向上、近畿大会では数度の優勝、全国大会でもベスト8入りするなど素晴らしい戦果を上げております。

このように年々著しい伸展をする中で、平成11年に連盟創立20周年記念誌が発刊され、更に平成12年には長年親しまれた「滋賀県家庭婦人バドミントン連盟」から現在の「滋賀県レディースバドミントン連盟」へと現代社会に相応しいスマートな名称になりました。

今や県内に確実に根を張り、幹も枝もすくすくと成長し続けている当連盟ですが、ここに至りますまでの協会関係各位のご支援はもちろんのこと、発足以来連盟の会長としてその発展に多大の貢献を賜りました宇野叔男先生に深甚の敬意を表する次第であります。そして、理事長として文字通り粉骨砕身ご尽力頂いた畠中氏・住井氏・宇山氏（現在）に厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、当連盟に対しまして今後とも温かいご支援・ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

沿革

年　度	記　　事
昭和55	（発足）11月24日皇子が丘公園体育館
	団体戦　ビューティフルの部
	個人戦　経験者　クリーンの部
	初心者　ブルーの部
	近畿大会に初参加
56	連盟登録制を取り入れる
57	春―個人戦
	秋―団体戦
59	フェスティバル大会を含め　年4回の試合となる
	近畿大会　滋賀県が当番県
60	全国大会に初出場
61	理事長代わる（畠中氏～住井氏）
62	近畿クラブ対抗戦に初参加
平成1	年齢別バドミントン大会（全国大会予選を兼ねる）　試合数―年4回
	近畿大会　湖南レディース―優勝
2	近畿大会　湖南レディース―優勝
	ブルーレイク―準優勝
3	近畿大会　ブルーレイク―準優勝
4	近畿大会　湖南レディース―優勝
6	近畿大会（阪神淡路大震災のため中止）
7	近畿大会　滋賀県が当番県
	近畿大会　湖南レディース―優勝
	理事長代わる（住井氏～宇山氏）
8	近畿大会　ブルーレイク ―優勝
	湖南レディース―第3位
9	個人戦に初心者の部を設ける

年　度	記　　事
10	クラブ対抗戦県予選会を含め年5回の試合となる
	全国大会クラブ対抗に初参加
	近畿大会　ブルーレイク―準優勝
11	連盟創立20周年記念誌発行
12	第27回西日本レディースバドミントン大会主管
	近畿大会　湖南レディース―第3位
13	近畿大会　滋賀県が当番県
	近畿大会　湖南レディース―第3位
	全国大会　（ベスト8）
14	連盟会長に堀江氏　就任
	全国大会　（ベスト8）
16	個人ランク名変更
	クリーン、ブルー、グリーン、初心者の部がA～初心者になる
17	連盟創立25周年記念大会（マザーレイクフェスティバルバドミントン大会）を開催
18	第2回マザーレイクフェスティバルバドミントン大会を開催（年間事業とする）
	近畿大会　LATOUR―優勝
19	近畿大会　滋賀県が当番県
	LATOUR―優勝
21	団体戦の部を1部5チーム制に再編成
	近畿大会　LATOUR―準優勝

歴代役員

役　職	氏　名	年　度
会　長	宇野　叔男	S54 ～ H13
	堀江　　泉	H14 ～
副　会　長	金海　炳根	S54 ～ S63
	駒井　朔男	S59 ～ H7
	畠中芙佐枝	S60 ～ H10
	住井　則子	H8 ～
顧　問	駒井　朔男	H8 ～
	川島　幸三	H2 ～ H21
	藤田　康夫	H2 ～
参　与	畠中芙佐枝	H11 ～
	谷　志げ子	H20 ～
理　事　長	畠中芙佐枝	S55 ～ S60
	住井　則子	S61 ～ H7
	宇山　昌子	H8 ～
副理事長	武田　幸子	S56
	西村伊知朗	S57 ～ S60
	阿閉みよ子	S56 ～ S58
	国門登美恵	S59 ～ H1
	高島　たま	S59
	石津　栄子	S60
	木村　克子	S60 ～ H7
	寺沢　元史	S61
	山根　泰子	S61 ～ H7
	前田　孝子	S61
	藤本　倫子	S62
	川島　幸三	S62 ～ H1
	川村いく子	S63 ～ H3
	谷　志げ子	H2 ～ H7
	廣井　美子	H2 ～ H7
	石井真喜子	H4 ～ H7
	宇山　昌子	H6 ～ H7
	藤上佐千子	H8 ～ H12
	井上　和江	H8 ～ H14
	谷　志げ子	H13 ～ H19
	松本　　豊	H14 ～
	西川　茂美	H20 ～
	吉崎美智子	H20 ～
会　計	宮崎　美恵	S57 ～ S60
	中村つね子	S61 ～ S62
	中島　照美	S63 ～ H7
	森村　允子	H8 ～ H13
	深野小百合	H14 ～

滋賀県レディースバドミントン連盟のあゆみ

滋賀県バドミントン協会が、創立60周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

県レディースバドミントン連盟は、その60年の長い歴史のなかで澤長壽会長（元理事長）はじめ県協会の方々の御指導のもと、昭和55年（1980年）健康の増進、相互の親睦を図ると共に、技術の向上や普及、発展を目的として発足しました。

宇野叔男会長、畠中芙佐枝理事長を中心に長浜市、彦根市、近江八幡市、大津市等各地で活動を始めていた19クラブ（約200名）が参加して連盟の最初のイベントとして「第1回びわこレディースバドミントン大会」が開催されて以来、今年で31回を迎えようとしています。

当時、琵琶湖の水環境の悪化が進行しその水質保全の為、全国初の「琵琶湖富栄養化防止条例」が制定されました。ママさん達が琵琶湖の水環境を考える契機になればと大会の競技種目に「ビューティフル、クリーン、ブルーの部」が設けられました。現在も琵琶湖がより美しく清澄になるよう祈りをこめて、あらゆる生命の源「マザーレイクフェスティバル」として現在に受け継がれています。

昭和56年（1981年）、近畿家庭婦人バドミントン連盟が発足し、滋賀県も参加その一翼を担うことになりました。三年後には、皇子が丘公園体育館で「第6回近畿家庭婦人バドミントン大会」を主管し、初めて他府県の選手を迎えての大会を経験しました。その中で、県協会にいろいろな面でバックアップをいただいて大きく成長することができたと深く感謝しております。それと同時に、手探りの状態での運営の中でなんとしても成功させようという意気込みで取り組んでくださった諸先輩方の御努力に改めて敬意を表したいと思います。

その後の30年の間には近畿で5回当番県を努めてきました。住井則子前理事長には長い間連盟をまとめリードしていただき、その足跡は御出身の能登川中学からの活躍も含めて、県バドミントン協会の歴史と重なるところが大きいと推察いたします。

1989年度からの近畿大会では、湖南レディース、ブルーレイク、ＬＡＴＯＵＲが上位の成績（優勝6回、準優勝5回、第3位3回）を収めています。

昭和59年（1984年）より全日本家庭婦人バドミントン大会にも代表を送るようになり、平成14年度の第20回大会（奈良県）では初めてベスト8に残り、競技力も着実に向上してきています。クラブ対抗戦（学生時代の経験者を含まない部）にも平成10年度より参加するようになり、登録員各位の励みになればと考えています。

なにはともあれ生涯スポーツとして、家庭の協力と人の和で続けることのできる大好きなバドミントン！　家庭の中で、地域の中で、職場の中で、バドミントンに関わる人の輪を広げていくお手伝いをすることも私達の役割のひとつのように思います。

平成12年（2000年）、「家庭婦人連盟」は「レディース連盟」と改称し、登録数も33クラブ、500名になりました。そのパワーのお陰でこの年「第27回西日本レディースバドミントン大会」を主管させていただきました。一年以上の準備期間を経て大会が真近に迫った時には“まな板の上の鯉”の心境でしたが“案ずるより産むが安し”の諺にあるように、献身的にご協力くださる皆さんに勇気づけられ、無事大会を終了することができた時は、喜びと共にこの人の輪がもっともっと大きくなって次の世代に受け継がれるように努力しなければという強い思いが沸いてきたのを覚えています。

連盟発足より22年間、会長の重責を担ってくださった宇野先生は平成13年度（2001年）の滋賀県での近畿大会を最後に勇退され、その後を堀江泉先生に快くお引き受けいただき現在に至っています。宇野先生は、14年度に日本バドミントン協会、研鑽賞を受賞されました。連盟員一同心よりお祝い申し上げます。

平成17年（2005年）、連盟創立25周年を機に「マザーレイクフェスティバルバドミントン大会」を開催いたしました。県外の方々との交流をきっかけに親睦の輪を拡げようと企画し、600名の参加者を迎えることができました。そして今年、第6回を迎えますが、連盟の活動の原点ともいえるこの大会を大切に育てていきたいと願っています。

レディース連盟に所属する私達は自分自身の活動もさることながら、初めてラケットを持つ子供たちにも大きく関わってしまう立場にあると思います。バドミントンの知識や技術の向上に努め、子供たちにもいろいろな面で良い影響を与え将来は世界に羽ばたける次世代の選手の育成に、それぞれが少しずつでも貢献する義務と責任があると考えます。昨日までの成果と反省を土台により大きな可能性の明日をめざして、明るく元気に今日の活動を続けていきましょう。

2010年4月

≪びわ湖レディースバドミントン大会（団体戦） 栄光の足跡≫

第1回	長浜クラブ	
第2回	長浜クラブ	
第3回	Clean Biwa	湖南レディース
	Blue Biwa	水鳥クラブ
	Green Biwa	小柿クラブ
第4回	湖南レディース	
第5回	CB AB ゾーン	湖南レディース
	BB CD ゾーン	レインボー
	BB EF ゾーン	トレセン
	GB GH ゾーン	シャトルママ
	GB　I ゾーン	堅田
第6回	CB AB ゾーン	湖南レディース A
	BB CD ゾーン	水鳥 B
	BB EF ゾーン	湖南レディース B
	GB GH ゾーン	しらさぎ
	GB　IJ ゾーン	晴嵐 B
第7回	CB AB ゾーン	湖南レディース
	BB CD ゾーン	能登川 A
	BB EF ゾーン	レインボー A
	GB GH ゾーン	プーナ
	GB　IJ ゾーン	甲西シャトル
第8回	CB AB ゾーン	湖南レディース
	BB CD ゾーン	守山 MBC-B
	BB EF ゾーン	シャトルママ・草津 A
	GB GH ゾーン	中央レディース
	GB　I ゾーン	しらさぎ B
第9回	CB AB ゾーン	湖南レディース A
	BB CD ゾーン	水鳥 B
	BB EF ゾーン	日吉台
	GB GH ゾーン	シャトルママ B
	GB　IJ ゾーン	藤尾
第10回	CB AB ゾーン	湖南レディース A
	BB CD ゾーン	シャトルママ A
	BB EF ゾーン	水鳥 C
	GB GH ゾーン	ベイシック B
	GB　I ゾーン	びわこ C
	GB J ゾーン	守山レディースシャトル
	GB K ゾーン	エコー
第11回	CB AB ゾーン	ブルーレイク
	BB CD ゾーン	湖南レディース B
	BB EF ゾーン	日吉台
	GB G ゾーン	プーナ A
	GB H ゾーン	晴嵐 B
	GB　I ゾーン	昴 B
第12回	CB AB ゾーン	ブルーレイク
	BB CD ゾーン	能登川 A
	BB EF ゾーン	水鳥 B
	GB G ゾーン	びわこ B
	GB H ゾーン	晴嵐 B
	GB　I ゾーン	甲西シャトル
	GB J ゾーン	トレセン B
第13回	CB AB ゾーン	湖南レディース
	BB CD ゾーン	シャトルママ B
	BB EF ゾーン	シャトルママ C
	GB G ゾーン	マドンナ A
	GB H ゾーン	トレセン B
	GB　I ゾーン	サーティーズ
	GB J ゾーン	びわこ C
第14回	CB AB ゾーン	ブルーレイク
	BB CD ゾーン	ベイシック A
	BB EF ゾーン	日吉台
	GB GH ゾーン	昴 A
	GB　IJ ゾーン	マスタード B

第15回	CB AB ゾーン	ブルーレイク
	BB CD ゾーン	長浜 A
	BB EF ゾーン	ステップ A
	GB GH ゾーン	水鳥 C
	GB　IJ ゾーン	ステップ B
第16回	CB AB ゾーン	湖南レディース A
	BB CD ゾーン	ベイシック
	BB EF ゾーン	プーナ A
	GB GH ゾーン	トレセン
	GB　IJ ゾーン	サンフラワーズ A
	GB KL ゾーン	コスモス A
第17回	1　部	ブルーレイク A
	2　部	ステップ A
	3　部	守山 MBC-B
	4　部	能登川
	5　部	キャロット A
	6　部	貴生川
	7　部	水鳥 D
第18回	1　部	ブルーレイク A
	2　部	長浜 A
	3　部	日吉台 A
	4　部	キャロット A
	5　部	貴生川
	6　部	日吉台 B
	7　部	守山 MBC-C
第19回	1　部	ブルーレイク A
	2　部	晴嵐 A
	3　部	さつき B
	4　部	貴生川 A
	5　部	コスモス A
	6　部	守山 MBC-C
	7　部	ベイシック B
	8　部	貴生川 B
第20回	1　部	守山 MBC-A
	2　部	Y・friends
	3　部	フェアリーズ
	4　部	コスモス A
	5　部	守山 MBC-C
	6　部	ベイシック B
	7　部	スパロウ A
	8　部	スマイル
第21回	1　部	LATOUR
	2　部	さつき A
	3　部	さつき B
	4　部	守山 MBC-C
	5　部	ベイシック B
	6　部	ひまわり
	7　部	実生クラブ B
	8　部	ベイシック C
第22回	1　部	湖南レディース A
	2　部	長浜クラブ A
	3　部	湖南レディース B
	4　部	びわこクラブ A
	5　部	ひまわり
	6　部	実生クラブ B
	7　部	スマイル
	8　部	SMASH × SMASH
第23回	1　部	湖南レディース A
	2　部	水鳥クラブ A
	3　部	BASIC-B
	4　部	SUBARU-B
	5　部	水鳥クラブ C
	6　部	キャロット B
	7　部	びわこクラブ B
	8　部	マスタード B

第24回	1　部	湖南レディース　A
	2　部	さつきクラブ　A
	3　部	ブルーレイク
	4　部	キャロット　A
	5　部	スパロウ　A
	6　部	BASIC　D
	7　部	しらさぎバドミントンクラブ
	8　部	MADONNA　B
第25回	1　部	湖南レディース　A
	2　部	BASIC・A
	3　部	キャロット　A
	4　部	水鳥クラブ　C
	5　部	BASIC・C
	6　部	長浜クラブ　C
	7　部	SMASH × SMASH
	8　部	堅田バドミントンクラブ
第26回	1　部	LATOUR
	2　部	ブルーレイク
	3　部	守山 MBC・B
	4　部	BASIC・C
	5　部	晴嵐クラブ　B
	6　部	堅田バドミントンクラブ
	7　部	長浜クラブ　D
第27回	1　部	LATOUR
	2　部	長浜クラブ　A
	3　部	長浜クラブ　B
	4　部	晴嵐クラブ　B
	5　部	長浜クラブ　C
	6　部	長浜クラブ　D
	7　部	ティアラ
第28回	1　部	LATOUR
	2　部	シャトルママ・A
	3　部	守山 MBC・B
	4　部	長浜クラブ・C
	5　部	松本サンデーズ
	6　部	ティアラ
	7　部	スパロウ・B
第29回	1　部	LATOUR
	2　部	守山 MBC・A
	3　部	晴嵐クラブ・B
	4　部	キャロット・B
	5　部	スパイラルエンジェル
	6　部	MADONNA・B
	7　部	長浜クラブ・E
第30回	1　部	LATOUR
	2　部	守山 MBC・A
	3　部	さつき・A
	4　部	MADONNA・A
	5　部	実生クラブ・B
	6　部	E.O.J.P・B
	7　部	スパイラルエンジェル
	8　部	MADONNA・B
	9　部	BASIC・D
第31回	1　部	LATOUR
	2　部	ばどちゃんず
	3　部	ブルーレイク
	4　部	水鳥クラブ・B
	5　部	キャロット・A
	6　部	スパイラルエンジェル
	7　部	ティアラ
	8　部	長浜クラブ・B
	9　部	さつき・C

50周年を祝して

滋賀県レディース連盟
理事長　　宇山　昌子

滋賀県バドミントン協会が創立50周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

家庭婦人バドミントン連盟はその50年の長い歴史の中で、澤長壽会長（元　理事長）はじめ県協会の方々の御指導のもと、昭和55年（1980年）健康の増進、相互の親睦を図ると共に技術の向上や普及、発展を目的として発足しました。

宇野叔男会長、畠中芙佐枝理事長を中心に長浜市、彦根市、近江八幡市、大津市等各地で活動を始めていた19クラブ（約200名）が参加して連盟の最初のイベントとして「第1回びわこレディースバドミントン大会」が開催されて以来、今年で24回を迎えようとしています。

当時、琵琶湖の水環境の悪化が進行しその水質保全の為、全国初の「琵琶湖水質保全条例」が制定されました。ママさんが琵琶湖の水環境を考える契機になればと種目に「クリーンの部」「ブルーの部」「グリーンの部」を設け、現在もその名は琵琶湖が次第に美しく清澄になる祈りをこめて受け継がれています。

昭和56年（1981年）、近畿家庭婦人バドミントン連盟が発足し滋賀県も参加、その一翼を担うこととなりました。二年後には皇子ヶ丘公園体育館で「第6回近畿家庭婦人バドミントン大会」を主管し、初めて他府県の選手を迎えての大会を経験しました。その中で県協会のいろいろな面でのバックアップをいただいて成長することができたと深く感謝しております。それと同時に、手さぐりの状態での運営の中でなんとしても成功させようという意気込みで取り組んでくださった諸先輩方の御努力にあらためて敬意を表したいと思います。

その後の20年の間には、近畿大会も3回当番県を努めてきました。前　住井則子理事長には長い間、家庭婦人連盟をまとめてリードしていただき、その足跡は地域で育たれた、能登川中学からの活躍も含めて県バドミントン協会の歴史と重なるところが大きいと推察いたします。

1989年度からの近畿大会では、湖南レディース、ブルーレイクが上位の成績（優勝5回、準優勝3回、第3位3回）を収めています。

昭和59年（1984年）より、全日本家庭婦人バドミントン競技大会にも代表を送るようになり、平成14年度の第20回大会（奈良県）では全国ベスト8（過去3回）に残り、競技力も着実に向上してきております。

クラブ対抗戦（学生時代の経験者も含まないママさんの全国大会ならではの部）にも平成10年度より代表チームを送るようになり、ママさんプレーヤー達により励みになればと考えております。なにはともあれ、生涯スポーツとして家庭の協力と人の和で続けることのできる大好きなバドミントン、家庭の中で、地域の中で、職場の中でバドミントンに関わる人の輪を広げて行くお手伝いをすることもママさんプレーヤーの役目の一つのように思います。

平成12年（2000年）「家庭婦人バドミントン連盟」は「レディースバドミントン連盟」と改称、この20年間で登録数も33チーム、500名となりました。そのパワーのおかげでこの年、「第27回西日本レディースバドミントン大会」を主管させていただきました。1年以上の準備期間を経て大会が真近に迫った時には「まな板の上の鯉」の心持ちでいましたが、「案ずるより産むが安し」の諺にあるように献身的に協力してくださる皆さんの姿に勇気づけられ、無事大会を終了することができたときには、喜びと共に、この人の和がもっともっと大きくなって次の時代に受けつがれるよう努力しなければという強い思いがわいてきたのを覚えています。

連盟発足より、22年間、会長の重責を担って下さった、宇野叔男先生は昨年の滋賀県での近畿大会を最後に勇退され、いまは堀江泉先生に快く会長を

ひきうけていただき、２年目を迎えようとしています。そして宇野先生は、14年度に日本バドミントン協会の研鑽賞を受賞されました。レディース連盟一同、心よりお祝い申し上げます。

私達、婦人は自分自身の活動もさることながら、初めてラケットを持つ子供たちにも大きく関わってしまう立場にあると思います。バドミントンに対する正確な知識や技術の向上を努め、子供たちにもいろいろな面で良い影響を与え、やがて世界に羽ばたくような次世代の選手の育成に貢献する義務と責任があると考えます。昨日までの成果と反省を土台により大きな可能性の明日を目指して明るく、元気に今日の活動を続けていきましょう。

●滋賀県教職員バドミントン連盟

あ　い　さ　つ

滋賀県教職員バドミントン連盟
会長　　藤上　良英

萌芽期

滋賀県のバドミントンにおける教職員大会への参加は、第3回（39年）伊勢大会より始まったと聞く。これには、寺田　寿、澤　長寿の二氏が参加している。

翌、40年から寺田寿氏が責任者となり滋賀県教職員バドミントン連盟を発足させた。しかし、会長等については正確に伝わっていない。その後、44年頃から理事長に北村洯一氏を、奥さんの父親であった県会議員の東信一氏を会長に組織の体裁を整えられた。

52年、東会長が死去され、会長に、時の県教育長小梶幸三郎氏をお願いし、澤長壽氏が続いて、自分達が連絡を付け合い全国大会や近畿の大会に参加できるよう藤上良英が理事長となって本格的に事務的な手続きをするようになった。

小・中学校に赴任された先輩諸氏には、毎日の児童・生徒への指導に邁進された中・高の現場では、辻広之、奥村治八郎、寺田寿、岡林恒夫、北村洯一、花房房子、長尾寿、故中川朋子、根来旭、三宅明、木村孝英、澤長壽等々の諸氏である。しかし、近畿や全国大会での活躍の記録は残っていない。僅かに国民体育大会への参加について、故井上弘暢氏が活躍されたと聞いている。

発展充実期（全日本教職員大会等での活躍）

昭和42年度横田正俊氏と藤上良英が教員となり、第8回（44年）上尾大会に参加し、一般複3位の結果を得た。また、岩手国体へも参加したが、結果は得られなかったが、全国でも何とかいけそうだと言う手応えをつかんだ。その後、田部（旧姓　横田）正俊は結婚し教職を退いた。このころから、全国大会や近畿の大会に盛んに出場し始めた。

48年には、滋賀県で第12回全日本教職員大会を開催し、56年滋賀国体に向けて運営組織の充実、選手強化を図ていった。

国民体育大会では、和歌山、千葉で教員男子藤上良英、藤原健二、久保田良昌（旧姓藤上）藤上良信で優勝し、沖縄では準優勝、宮崎では新メンバーとして脇坂重之を入れて、3位の成績を残している。また、教員の部がなくなっても、56滋賀国体等で西村金治、西村龍夫、北橋進等が一般男子の部でも活躍している。平成17年、会長を藤上良英、理事長を北橋進として今日に至っている。最近の個人情報守秘のため人材発掘や連絡が取れなくなってきており今後の課題となっているのが現状である。

昭和46年第10回（46年）岡山大会では一般団体で初の優勝を果たした。寺田・北村組は30歳男子複で3位に入賞し、藤原健二・藤上良信・久保田良昌（旧姓藤上）・藤上良英・田中英明（現　谷）・國門 学等力量も揃い団体戦では、誰がどこにあたってもそこそこ対戦できるようになった。

11回（47年）秋田大会において団体2位、混合複で藤上良英・原田朝子組が3位に入賞している。また、その余勢をかって全日本総合に出場したのもこの頃である。

12回（48年）滋賀大会では団体2位、藤原・藤上良信組が優勝、50歳男子複は榎本彦次・田中多喜造組が優勝・50歳男子単で田中多喜造が2位となっている。

13回（49年）熊本大会では団体と藤原・藤上良信組が優勝。14回（50年）栃木の小山大会では団体3位、一般男子複では藤原・藤上信組が3位、30

歳単で藤上英が2位に入賞している。

15回（51年）東京、世田谷大会では男子団体が優勝、女子が3位入賞している。

16回（52年）下関大会では男子団体3位、30歳男子単で田中英明が2位、混合複で服部直子・藤上良英組が3位に入賞している。

17回（53年）宮城大会では、一般女子団体で3位、一般女子で服部・滝洋子組が3位に入賞している。

18回（54年）北九州大会では男子団体が3位一般女子で服部が3位、30歳男子複で藤上良英・藤原健二組が優勝、単で藤原健二が2位に入賞した。

19回(55年)金沢大会では一般男子複で藤上良信・西村金治組が2位、30歳男子複で藤上良英・田中英明組が2位、30歳女子単で國門登美恵が優勝している。

20回（56年）福島の郡山大会では一般男・女・成壮年団体ともに3位、一般男子単で北橋進が、複で西村金治・北橋　進組が単複の優勝、西村龍夫が2位、30歳男子単で藤上良英、複で藤上良英・田中英明組が3位、30歳女子で國門登美恵が2年連続の優勝を果たしている。

21回（57年）嬉野大会では、一般男子団体3位、一般男子複で西村金治・北橋進組が2位、単で西村龍夫が3位に入賞している。

22回（58年）沼津大会では、一般男子団体2位、一般男子複で西村金治・北橋進組が2位、単で西村龍夫が3位に入賞している。

23回（59年）弘前大会では一般男子団体で、久しぶりの優勝を、一般男子複で西村金治・北橋組が2位に入賞している。

25回（61年）広島大会では一般男子団体が3位に入賞している。

26回（62年）苫小牧大会でも一般男子団体は3位に入賞し、団体の滋賀の伝統を受け継いできている。

27回（63年）奈良大会では、40歳男子複で藤原・國門　学組が2位に入賞し、比叡山高校出身の山本裕幸が村尾　勉と組んで京都から出場し一般男子複で優勝している。

28回（平成元年）坂出大会では、比叡山高校出身の杉本吉男が大阪から出場し一般男子単で優勝、同じく山本裕幸が村尾　勉と組んで京都から出場し一般男子複で優勝している。

29回（2年）盛岡大会では30歳男子単で西村龍男が優勝している。

30回（3年）豊橋大会では、一般男子複で山本裕幸組が優勝、北橋進・小田知則組が3位、30歳男子単で西村龍が2年連続の優勝を果たしている。

32回（5年）神奈川の平塚大会では、一般男子団体で3位に入賞している。

38回（11年）青森大会では40歳男子福で北橋・高嶋敬治組が優勝し、久しぶりに気を吐いた。

39回（12年・2000年）伊勢大会では、成壮年団体で3位に入賞した。40歳男子単で高嶋敬治が3位に入賞している。

40回（13年）北九州大会では、男子団体が準優勝を、40歳複では北橋進・高嶋敬治が3位に入賞している。

41回（14年）甲府大会では、男子単で酒井良之が3位に入賞している。

45回（18年）長岡京大会では、男子団体が、3位に入賞している。

その後選手の参加は、個人単位であり、メンバーもそろいにくい状態になっているのが現状である。

近畿教職員大会での活躍

近畿教職員大会の記録としては、あまり整理されていず、養父一太先生に贈っていただいた記録を元に挙げてみたい。

男子団体戦においては、昭和42年第1回大会が奈良で行なわれており、男子が初優勝を遂げている。丁度、横田正俊・藤上良英が教職に就いたときであり、寺田寿、北村浤一、澤長壽等がメンバーであったのではと推察される。2回、3回、4回と団体優勝の記録がある。

昭和46年、藤原健二、久保田良昌（旧姓藤上）、國門学、谷英明（旧姓田中）が教職に就き近畿教職員の大会に出場するようになったが、5回、6回とは和歌山に敗れ、準優勝となった。7回、9回とは優勝、その後しばらくは、和歌山と決勝戦で戦い準

優勝になっている。

13回以降、14回、15回、16回、17回と優勝し、18回奈良に敗れ準優勝、その後メンバーとして、西村金治、北橋進、西村龍夫、高嶋敬治、小田隆司、小田知則等が入り男子団体の優勝は、19回（昭和60年）、20回、22回、24回、飛んで、30回、35回準優勝は、21回、25回、32回である。

女子団体では、優勝が、13回（昭和54年）、14回、15回、20回、準優勝は、6回（昭和46年）、7回、10回、15回（滋賀大会）である。選手としては、原田朝子、國門登美恵、服部直子、滝洋子、神崎洋子、松浦薫等が出場し結果を残している。

毎年の開催される近畿教職員の個人戦では、優勝の記録のみであり、当時ベスト4入りを狙って頑張っていた者の記録がないのが惜しまれるが、拾い上げてみると、一般男子単では5回、9回に藤原健二、13回、14回に藤上良信、15回～18回、28回に西村龍夫、19回、25回に西村金治、32回に酒井良之、36回に中塚正俊、38回に田中聡哉が、男子複では、8回～11回に藤原健二・藤上良信組、14回では藤上良信・西村金治の子弟コンビ、16回、17回に西村金治・北橋進組、25回に西村金治・西村龍夫組、27回に小田知則・高嶋敬治組、32回に酒井良之・福田寛組、38回に田中聡哉・青木組、40回に吉森・山隈組がそれぞれ優勝している。また、一般女子単では、11回・12回・14回に服部直子、13回・15回に滝洋子、16回に谷美津代、18回に青木恵子、30回に松浦薫が、女子複では、7回・8回に禿登美恵（現國門）・原田朝子組、11回に服部直子・田中澄子組、13回・15回に滝洋子・神前洋子組、14回に服部直子・神前洋子組、16回に谷美津代・青木恵子組、18回に青木恵子・桂田依子組が優勝を飾っている。

その他年齢別では、30代単で、5回に寺田寿、14回・17回・18回に藤上良英（兄）、16回・19回に藤原健二、43回に松本一徳、複では、14回に藤上良英・久保田良昌（旧姓藤上）組、15回・16回に藤上良英・國門学組、19回に藤原健二・國門学組が、40代では、15回・16回・17回に寺田寿、20回・21回に藤上良英、22回・24回・25回・27回・28回に藤原健二が、複では、22回・24回・27回・28回に藤原健二・國門学組25回に藤上良英・藤原健二組が優勝している。

このように、1月大阪の東淀川体育館で開催される近畿教職員大会の個人戦への参加と活躍の状況、6月や7月に開催される団体戦、近畿総合選手権や全日本総合選手権での活躍には枚挙にいとまがない。黄金期と言われ一時代を築いたとの思いは各人の胸の内に有ろう。しかし、それだけに課題として、それぞれが学校で重要なポストに就き、選手として動きにくくなったことや中・高での部活動の顧問として動きづらくなったこと、大学の卒業生との連絡が取り辛くなり、小・中・高等学校等へ赴任した教職員を団体や個人として集約できなくなっていることである。

最近は、全日本教職員大会や近畿教職員大会への参加も、花澤誠・松本一徳の参加のみで、全県下に散らばる同好の志にきちんと連絡が付けられず、事務局としての働きが弱くなっており、再度連絡網の整備と大学生の県内大会への参加要請等働きかける必要を感じている。

全日本教職員バドミントン選手権大会　滋賀県選手　過去の栄光

西暦	年号	開催地	優　勝	準優勝	3　位
1969	44	埼玉県 上尾市			複：横田正俊・藤上良英
71	46	岡山市	男子団体		30複：寺田寿・北村宏一
72	47	秋田市		男子団体	混：藤上良英・原田朝子
73	48	大津市	複：藤原健二・藤上良信	男子団体	
74	49	熊本市	男子団体 複：藤原健二・藤上良信		
75	50	栃木県 小山市		30単：藤上良英	男子団体 複：藤原健二・藤上良信
76	51	東京都	男子団体		女子団体
77	52	山口県 下関市		30単：田中英明	男子団体 混：藤上良英・服部直子
78	53	宮城県 仙台市			男子団体 複：服部直子・滝　洋子
79	54	福岡県 北九州市	30複：藤原健二・藤上良英	30単：藤原健二	男子団体 女子団体 単：服部直子
80	55	石川県 金沢市		複：藤上良信・西村金治 30複：藤上良英・田中英明	
81	56	福島県 郡山市	単：北橋　進 複：西村金治・北橋　進 単：国門登美恵	単：西村龍夫 30単：藤上良英	男子団体 成年男子団体 30複：藤上良英・田中英明
82	57	佐賀県 嬉野市		複：西村金治・北橋　進	男子団体 単：西村龍夫 30複：森　義和
83	58	静岡県 沼津市		男子団体 複：西村金治・北橋　進	単：西村龍夫
84	59	青森県 弘前市	男子団体 単：西村龍夫	複：西村金治・北橋　進	
86	61	広島市			男子団体
87	62	苫小牧市	複：山本裕幸（村尾勉）		男子団体
88	63	奈良市	複：山本裕幸 複：北川恵美子（白川由理）	40複：藤原健二・国門　学	
89	1	香川県 坂出市	単：杉本吉男 複：山本裕幸	複：北川恵美子	
90	2	岩手県 盛岡市	30単：西村龍夫	複：山本裕幸 複：北川恵美子	
91	3	愛知県 豊橋市	複：山本裕幸 30単：西村龍夫	複：北川恵美子	複：北橋　進・小田知則
92	4	熊本市		複：北川恵美子	
93	5	平塚市			男子団体
96	8	千葉市			30複：北橋進・小田隆司
97	9	新宮市			30複：北橋進・小田隆司
99	11	青森市	40複：北橋進・高嶋敬治		
2000	12	伊勢市			壮年男子団体 40単：高嶋敬治
01	13	北九州市		男子団体	40複：北橋進・高嶋敬治
02	14	甲府市			単：酒井良之
06	18	長岡京市			男子団体
07	19	大村市			
08	20	牛久市 土浦市			
09	21	神戸市			

●滋賀県高体連バドミントン連盟

創立50周年記念誌発刊を祝して

滋賀県高体連バドミントン専門部
部長　　山田　義和



このたび、滋賀県バドミントン協会が創立50周年を迎えられ、ここに記念誌を発刊されますことは誠に意義深く、心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、協会関係者及び先輩諸氏の多大なるご協力により、今日までの輝かしい歴史を築かれ、多くの業績をあげられましたことに深甚なる敬意を表す次第であります。

さらに、昭和56年の「びわこ国体」での男女総合優勝をはじめ、近畿大会・全国大会においても素晴らしい成果を収めるとともに、オリンピックで活躍された松浦進二選手を輩出されるなど、輝かしい実績を上げていただいております。これもひとえに、関係の皆様の永年にわたるご努力の賜物と拝察いたします。

申すまでもなく、21世紀のわが国は、高齢化社会を迎え、人々が自らの人生をいきいきと送るために、まず健康と体力が必要であるとの認識から、日々の生活の中でスポーツを楽しむという機運が年々高まってまいりました。

バドミントンの魅力は、世代に関係なく老若男女がそれぞれの年代にあったプレーでゲームを楽しみ、スポーツの良さを味わえるところだと思います。

競技スポーツの推進から健康づくりのための生涯スポーツの振興までの幅広い需要に応えるために、貴協会の果たす役割は、ますます重要となり期待されております。バドミントン競技を通して、21世紀を担う青少年の健全育成のために今後も多大なご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

簡単ではございますが、滋賀県バドミントン協会の創立50周年記念誌発刊にあたり、お祝いの言葉とさせていただきます。

＜県外の記録＞

昭和29年11月　第1回近畿大会（奈良市）
男子複2位　小川修・上林繁（長浜商工）
3位　長谷村光司・小野寺正雄（短大附）
昭和33年11月　第5回近畿大会（神戸市）
男子単2位　川村義夫（長浜西）
昭和34年11月　第6回近畿大会（奈良市）
女子単1位　辻節子（彦根西）
複3位　大前洋子・江川（彦根西）
昭和35年11月　第7回近畿大会（和歌山市）
男子複1位　中川武彦・北川敏男（彦根西）
3位　西川伊平・杉江（彦根西）
女子複1位　辻節子・大辻知子（彦根西）
昭和36年11月　第8回近畿大会（彦根市）
男子複2位　高木捨雄・杉政和男（長浜商工）
女子単2位　若林喜久子・福永洋子（彦根西）
昭和37年8月　第13回全国総体（高岡市）
女子団体ベスト8　彦根西
昭和37年11月　第9回近畿大会（京都市）
男子単1位　杉政和男（長浜商工）
複1位　杉政和男・高木捨雄（長浜商工）
女子単1位　若林喜久子（彦根西）
昭和38年8月　第14回全国総体（鶴岡市）
男子団体ベスト8　長浜商工
個人複ベスト8　杉政和男・高木捨雄（長浜商工）
昭和39年8月　第15回全国総体（京都市）
女子個人単ベスト8　田附則子（彦根西）
昭和39年11月　第11回近畿大会（奈良市）
女子単3位　福永みよ子（彦根西）
複2位　福永みよ子・三上覚津美（彦根西）

昭和 40 年 8 月　第 16 回全国総体（熊本市）
男子個人複ベスト 8　吉原和夫・伊藤一夫（長浜商工）
昭和 40 年 11 月　第 12 回近畿大会（和歌山市）
男子複 3 位　伊藤一夫・斉藤志郎（長浜商工）
昭和 41 年 8 月　第 17 回全国総体（弘前市）
女子個人単ベスト 8　木内玉美（大津）
昭和 47 年 11 月　第 19 回近畿大会（和歌山市）
女子複 2 位　駒村佐千子・富田まゆみ（大津）
昭和 49 年 11 月　第 20 回近畿大会（神戸市）
男子単 3 位　北橋進（比叡山）
昭和 50 年 8 月　第 26 回全国総体（水戸市）
男子団体ベスト 8　比叡山
個人複ベスト 8　北橋進・山本昇（比叡山）
昭和 50 年 11 月　第 22 回近畿大会（大阪市）
男子単 3 位　北橋進（比叡山）
山岡清秀（比叡山）
複 1 位　北橋進・山本昇（比叡山）
女子単 2 位　柴田真弓（滋賀女子）
複 3 位　柴田真弓・川崎泉（滋賀女子）
昭和 50 年 12 月　第 4 回近畿選抜競技会（大阪市）
男子団体 2 位　滋賀選抜

〔県外の記録〕
昭和 55 年 8 月　第 31 回全国総体
男団体優勝　比叡山
男複優勝　山本裕幸・馬杉武司（比叡山）
昭和 55 年 10 月　第 35 回国体
優勝　少年男子
昭和 55 年 11 月　第 27 回近畿大会
男単優勝　松浦進二（草津）
2 位　片岡　泰（比叡山）
3 位　杉本吉男（比叡山）
男複 3 位　前川正則・西川　勉（比叡山）
昭和 56 年 3 月　第 9 回全国選抜
男団体優勝　比叡山
男単 2 位　松浦進二（草津）
男複 2 位　片岡　泰・辻田泰昌（比叡山）
昭和 56 年 8 月　第 32 回全国総体
男団体 3 位　比叡山
男単優勝　松浦進二（草津）
男複 3 位　片岡　泰・辻田泰昌（比叡山）
昭和 56 年 10 月　第 36 回国体
優勝　少年男子
昭和 56 年 11 月　第 28 回近畿大会
男単優勝　西川　勉（比叡山）
2 位　辻田泰昌（比叡山）
男複優勝　杉本吉男・辻田泰昌（比叡山）
女複 3 位　倉見陽子・藤支芳美（滋賀女）
赤井恵美子・礒野佐智子（滋賀女）
昭和 57 年 3 月　第 10 回全国選抜
男団体優勝　比叡山
男単 2 位　西川　勉（比叡山）
男複優勝　杉本吉男・辻田泰昌（比叡山）
女団体 3 位　滋賀女子
昭和 57 年 8 月　第 33 回全国総体
男団体優勝　比叡山
男単 2 位　辻田泰昌（比叡山）
男複 2 位　杉本吉男・辻田泰昌（比叡山）
3 位　前川正則・西川　勉（比叡山）
女団体 3 位　滋賀女子
昭和 57 年 10 月　第 37 回国体
優勝　少年男子
昭和 57 年 11 月　第 29 回近畿大会
男複優勝　小田知則・江藤裕樹（比叡山）
2 位　三宅雅夫・上原聖司（比叡山）
昭和 58 年 3 月　第 11 回全国選抜
男団体優勝　比叡山
昭和 58 年 8 月　第 34 回全国総体
男団体 2 位　比叡山
男単優勝　江藤裕樹（比叡山）
昭和 58 年 11 月　第 30 回近畿大会
男単優勝　江藤裕樹（比叡山）
2 位　中川　康（比叡山）
男複優勝　江藤裕樹・松本仁志（比叡山）
2 位　中川　健・中川　康（比叡山）
3 位　谷　安浩・早戸敬雄（比叡山）
女複 3 位　中井幸恵・池田芳恵（比叡山）
昭和 59 年 3 月　第 12 回全国選抜
男団体優勝　比叡山
男単優勝　江藤裕樹（比叡山）
男複二位　松本仁志・江藤裕樹（比叡山）
昭和 59 年 8 月　第 35 回全国総体
男団体優勝　比叡山
男単優勝　江藤裕樹（比叡山）
男複優勝　江藤裕樹・中川　健（比叡山）
昭和 59 年 10 月　第 39 回国体
優勝　少年男子
昭和 59 年 11 月　第 31 回近畿大会
男単優勝　広瀬純吾（比叡山）
2 位　早戸敬雄（比叡山）
男複優勝　広瀬純吾・早戸敬雄（比叡山）
女単 3 位　北浦道代（比叡山）
女複 3 位　藤本尚子・池田芳恵（比叡山）

昭和60年3月第13回全国選抜
男団体3位 比叡山
昭和60年 8 月 第36回全国総体
男団体2位 比叡山
女団体2位 比叡山
女単優勝 北浦道代（比叡山）
女複3位 北浦道代・間芝睦美（比叡山）
昭和60年11月 第32回近畿大会
男単優勝 山口哲浩（比叡山）
2位 中川智史（比叡山）
3位 鈴木草麻生（比叡山）
男複3位 斉藤 伸・田村昌義（比叡山）
昭和61年 3 月 第14回全国選抜
男団体2位 比叡山
男単2位 山口哲浩（比叡山）
昭和61年 8 月 第37回全国総体
男団体優勝 比叡山
昭和61年11月 第33回近畿大会
男単優勝 鈴木草麻生（比叡山）
2位 中橋一晃（比叡山）
3位 川村賢一（近江兄弟社）
男複優勝 鈴木草麻生・中橋一晃（比叡山）
2位 大岡俊博・久下弘二（比叡山）
昭和62年 3 月 第15回全国選抜
男団体優勝 比叡山
男単優勝 鈴木草麻生（比叡山）
男複3位 鈴木草麻生・中橋一晃（比叡山）
昭和62年8月 第38回全国総体
男団体優勝 比叡山
男単3位 鈴木草麻生（比叡山）
昭和62年10月 第42回国体
優勝 少年男子
昭和62年11月 第34回近畿大会
男単優勝 小河原崇（比叡山）
3位 中西厚也（比叡山）
男複優勝 福知俊治・平井 肇（比叡山）
女複3位 上田祥子・藤元美香（比叡山）
昭和63年 3 月 第16回全国選抜
男複3位 福知俊治・平井 肇（比叡山）
昭和63年 8 月 第39回全国総体
男複優勝 中橋一晃・平井 肇（比叡山）
昭和63年10月 第43回国体
3位 少年男子
昭和63年11月 第35回近畿大会
男単優勝 小河原崇（比叡山）
男複優勝 小河原崇・武田康宏（比叡山）
3位 服部淳也・木村達也（比叡山）
女単3位 西田実友貴（比叡山）
平成元年 3 月 第17回全国選抜
男団体3位 比叡山
男単3位 小河原崇（比叡山）
平成元年 8 月 第40回全国総体
男単3位 小河原崇（比叡山）
平成元年11月 第36回近畿大会
男単2位 杉田満広（比叡山）
男複優勝 平野耕司・桑野晃一（比叡山）
女単2位 西田実友貴（比叡山）
3位 杉谷英子（比叡山）
女複優勝 西田実友貴・下川英里（比叡山）
平成 2 年 3 月 第18回全国選抜
男団体3位 比叡山
女複3位 西田実友貴・下川英里（比叡山）
平成 2 年11月 第37回近畿大会
女複優勝 田中佐妃子・田中のり子（滋賀女）
平成 3 年11月 第38回近畿大会
男複2位 馬場勝治・多久島誠（比叡山）
3位 伊藤隆久・黒瀬和彦（比叡山）
女単3位 田中のり子（滋賀女）
平成 4 年11月 第39回近畿大会
男単優勝 酒井将之（近江兄弟社）
2位 杉岡拓弥（比叡山）
男複優勝 杉岡拓弥・多久島誠（比叡山）
2位 山名義則・中居清行（北大津）
3位 大辻清行・酒井将之（近江兄弟社）
女複3位 森本雅美・内田裕子（滋賀女）
平成 5 年11月 第40回近畿大会
男単優勝 酒井将之（近江兄弟社）
3位 木村貴幸（比叡山）
男複優勝 酒井将之・中島 篤（近江兄弟社）
2位 木村貴幸・吉森博規（比叡山）
3位 諏訪良人・水本 健（比叡山）
3位 松本 徹・吉田和幸（比叡山）
女複3位 澤 縁・数野裕恵（北大津）
平成 6 年 3 月 第22回全国選抜
男団体2位 比叡山
男単優勝 酒井将之（近江兄弟社）
男複優勝 酒井将之・中島 篤（近江兄弟社）
女複3位 佐々木由美・木村美和（比叡山）
平成 6 年10月 第49回国体
優勝 少年男子
平成 6 年11月 第41回近畿大会
男単優勝 松本 徹（比叡山）
2位 向 裕樹（比叡山）
3位 藤上良昭（比叡山）

男複優勝　松本　徹・西村祐喜（比叡山）
3位　藤原慶二・山本吉伸（比叡山）

平成 7 年 3 月 第23回全国選抜
男団体2位　比叡山
男単優勝　松本　徹（比叡山）

平成 7 年 8 月 第46回全国総体
男複3位　松本　徹・相井隆寿（比叡山）

平成 7 年10月 第50回国体
優勝　少年男子

平成 7 年11月 第42回近畿大会
男単2位　川口馨士（比叡山）
3位　森本兼行（比叡山）
女単2位　勝嶋梨絵（比叡山）
女複3位　森本仁美・出永千景（滋賀女）

平成 8 年 3 月 第24回全国選抜
男複2位　川口馨士・杉島　学（比叡山）

平成 8 年 8 月 第47回全国総体
男単3位　川口馨士（比叡山）
男複3位　川口馨士・杉島　学（比叡山）

平成 8 年11月 第43回近畿大会
男複3位　赤田隆太・中嶋一裕（近江兄弟社）
女単優勝　勝嶋梨絵（比叡山）
2位　上田絵美（滋賀女）

平成 9 年11月 第42回近畿大会
男単優勝　稲垣翔悟（比叡山）
2位　数野祐介（比叡山）
3位　尾崎勝久（比叡山）
男複優勝　梅本修平・松本紘二（比叡山）
2位　尾崎勝久・稲垣翔悟（比叡山）
女単2位　上田絵美（滋賀女）
女複3位　田中千恵・吉田香織（滋賀女）
3位　向　恵子・田島史子（近江兄弟社）

平成10年 3 月 第26回全国選抜
男団体3位　比叡山
男複3位　梅本修平・松本紘二（比叡山）
女複3位　向　恵子・田島史子（近江兄弟社）

年度	春季高校総体		秋季高校総体		県民体育大会	
	男子1位	女子1位	男子1位	女子1位	男子1位	女子1位
S 55	比叡山	比叡山	比叡山	比叡山		
56	比叡山	比叡山	比叡山	滋賀女		
57	比叡山	比叡山	比叡山	比叡山	比叡山	比叡山
58	比叡山	比叡山	比叡山	比叡山	比叡山	比叡山
59	比叡山	比叡山	比叡山	比叡山	比叡山	滋賀女
60	比叡山	比叡山	比叡山	滋賀女	比叡山	比叡山
61	比叡山	比叡山	比叡山	比叡山	比叡山	比叡山
62	比叡山	滋賀女	比叡山	比叡山	比叡山	比叡山
63	比叡山	比叡山	比叡山	比叡山	比叡山	比叡山
H 1	比叡山	比叡山	比叡山	比叡山	比叡山	比叡山
2	比叡山	比叡山	北大津	滋賀女	比叡山	比叡山
3	比叡山	滋賀女	比叡山	滋賀女	比叡山	滋賀女
4	比叡山	滋賀女	比叡山	比叡山	比叡山	滋賀女
5	比叡山	滋賀女	比叡山	比叡山	比叡山	滋賀女
6	兄弟社	比叡山	比叡山	滋賀女	比叡山	比叡山
7	比叡山	滋賀女	比叡山	滋賀女	比叡山	滋賀女
8	比叡山	滋賀女	比叡山	滋賀女	比叡山	滋賀女
9	比叡山	滋賀女	比叡山	滋賀女	比叡山	滋賀女

●滋賀県高等学校バドミントン連盟

創設期　昭和24年、滋賀大学教授が着目され、滋賀大生や当時の彦根南高校広井敦氏や彦根西高校の岩崎宏氏らが研究を始められました。当初はルールや練習方法も分からず、洋書を取り寄せるなどの苦労をして研究を重ねてきました。名古屋国体を見学し、ついで榎本・広井・岩崎各氏が全日本大会に初出場するなどによって、バドミントン競技の全容がほぼ理解把握できるようになりました。県内での講習会も開催され、高校6校がクラブを設け活動を始めました。昭和28年の春季総合体育大会から高体連に加盟し、第4回高校総体（山形市）に初めて県代表校として、長浜西高校男子・彦根東高校女子が出場しました。

成長期　昭和30年代に入り落合利兵衛氏（短附工高）伊藤章一氏（長浜西高校）が3年間、塚本清美氏（短附工高定）中山実氏（八幡）川木三郎氏（草津）が1年間委員長を歴任されました。

戦後のスポーツの中で誰もが取り付きやすく、経験すると大変面白いラケット競技として急速に浸透していきました。県協会を彦根市に置き、彦根地区・長浜地区・伊香郡の高校で盛んになってきました。昭和34・35年に入り、近畿大会で男女とも単・複に優勝できる実力にまでレベルが上がってきました。県内の選手でも近畿大会で勝てるという自信を得て、指導技術も向上してきました。昭和37年には近畿大会で男女優勝、高校総体では彦根西高校が女子団体でベスト8に入ることができました。また、翌38年も、長浜商工高校が男子団体でベスト8に入る選手も出て成果があがってきました。昭和30年代は、まいた種が10年余りで県北部を中心に結実し花開いた時期であるといえます。

普及拡大期　これに力を得た指導者層によって県下各校にクラブ設立の呼びかけが始まりました。昭和40年代に入ると寺田寿氏（虎姫高―彦根西高）辻広之氏（彦根工商）国領 迪則氏（能登川）へと委員長が県北部から湖東部に移り、米原・能登川・八日市・高島・石山・滋賀女子の各校にクラブが新設され全県的な広がりがみられました。加盟校も男子12校、女子19校に増えました。

30年代に入り大津地区の中学校で熱心に選手の育成を始めました。その結果全国中学生大会に男女とも優勝という快挙を続けておりましたが、残念なことに中学生の優秀選手が多数県外へ流出するという現実もありました。この間において、県上位チームも近畿大会や高校総体などの県外大会で上位入賞には程遠い感があり、参加することに意義を求めていました。ただ底辺の拡大と加盟校の増加をねらって、ひたすら普及活動にと力を入れた一時期でした。

充実期　昭和47年に入り澤長寿氏（八日市―大津）が委員長に就任して以後、高校総体と国体の本県開催内定に刺激を受け、選手強化対策に取り組みだしました。専門部の組織構成を改革し、競技運営部門と選手強化部門を独立させ、各顧問が分担して実績を挙げるべく努力を続けました。また、一方では各方面へも呼びかけをしていきました。先ず、中学生の優秀選手の県外流出を防ぐために、中体連に懇請を行い、大会における出場選手制限の緩和を図り大会規模の拡大に努めた結果、徐々にその成果が見えてきました。比叡山高校・大津商業高校・東大津高校・近江兄弟社高校などにクラブが設けられ、大津地区では県内優秀選手の一貫した中高選手強化体系ができあがりました。加盟校も26校に増加し、専門部の組織も大所帯になってきました。

発展期　専門部が一致協力して、学校単位という枠をはずした強化対策によって有望選手を育て続けてきました。特に、昭和50年に入り、藤上・濱・服部・田中・河嶋各氏の熱意ある指導強化が実り、比叡山高校は近畿大会に優勝、高校総体でベスト8に、昭和51年の高校総体に3位、国体少年の部で準優勝、翌52年には高校総体、国体、全国高校選抜競技会と全ての全国大会に完全優勝の栄を得ました。なかでも西山博司（比叡山）が史上6番目の三冠王になるなど、全国に滋賀県の強さを見せつけ、バドミントンは滋賀県のお家芸だと賛辞を浴びるまでに大きく成長、以後全国上位に君臨し続けるようになったのです。一方女子の方も柴田真弓（滋賀女子）が3位を得るなど着々と実績をあげてきました。

昭和54年8月に向けて、専門部が一丸となって結集した結果、第30回高校総体においても比叡山

高校（男女）大津高校（女）の大活躍で好成績を上げ、大会運営も円滑に成功裏に終了できました。

今後は新しい委員長に川戸健一氏（八幡）のもとに、昭和56年びわこ国体に向けて一段と組織を充実させ選手強化に邁進し益々発展していくことを記念しています。

（文責　澤長寿）

その後、56年びわこ国体・57年島根国体の２年連続男女総合（天皇杯）優勝に高校男女が大いに貢献（少年男子優勝、少年女子４位・５位）し、「滋賀のバドミントン勢強し」の印象をより大なるものとし、湖国の「お家芸」を確実なものとしました。

昭和の後半10年を顧みると、全国総体では比叡山（男）は実に二連覇を含む優勝５回・準優勝３回・３位１回と凄まじい成績を残し、個人でも江藤裕樹（比叡山）が単２年連続優勝59年には二冠を達成しています。また女子も負けじと比叡山が準優勝と３位を、滋賀女子３位を記録するなど猛威をふるい、日本ナショナルチームへも５名の選手を送り込むことができ、その後さらにオリンピック選手へと育ってくれました。

次に全国選抜大会では同じく比叡山男子が近畿の壁を連覇し、本大会４連続優勝を含む優勝５回・準優勝１回・３位２回とこれまたすごい数字が残っています。一方女子は、比叡山と滋賀女子が近畿の壁を突破すること６回、うち本大会では滋賀女子が３位を１回記録するなど、「常勝！滋賀」を大いにアピールしました。

そして年号の変わった平成の今、比叡山男子は全国選抜大会準優勝２回・３位１回を加え、依然全国の顔として君臨しています。

しかし常勝比叡山に屈することなく、平成２年滋賀県秋季大会には北大津が、６年春季には近江兄弟社が県内連覇を阻み栄冠を手にしたことは特筆すべきことです。また国体少年男子においては６年・７年と２年連続優勝に輝いていることも付け加えておきます。

平成９年現在加盟校が43校（男子35校・女子40校）を数えるまでに成長してきた本専門部。今後も更なる精進を忘れることなく「お家芸―滋賀のバドミントン」を継承してくれることを期待しています。

（文責　濱　久美雄）

滋賀県高体連バドミントン専門部　歴代部長・専門委員長一覧

	昭和28年度	昭和29年度	昭和30年度	昭和31年度	昭和32年度	昭和33年度
部　長						
委員長	落合利兵衛	伊藤　章一	伊藤　章一	伊藤　章一	伊藤　章一	伊藤　章一

	昭和34年度	昭和35年度	昭和36年度	昭和37年度	昭和38年度	昭和39年度
部　長						
委員長	塚本　清美	中山　　実	川木　三郎	川木　三郎	川木　三郎	寺田　　寿

	昭和40年度	昭和41年度	昭和42年度	昭和43年度	昭和44年度	昭和45年度
部　長						
委員長	寺田　　寿	寺田　　寿	辻　　広之	辻　　広之	辻　　広之	辻広之・国領迪則

	昭和46年度	昭和47年度	昭和48年度	昭和49年度	昭和50年度	昭和51年度
部　長	井上　孝士	井上　孝士	井上　顕敞	南院　光雄	文室　幸男	文室　幸男
委員長	辻広之・国領迪則	澤長壽・堀江泉	澤長壽・堀江泉	澤　　長壽	澤　　長壽	澤　　長壽

	昭和52年度	昭和53年度	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度
部　長	宇野　叔男	宇野　叔男	中山　　弘	中山　　弘	中山　　弘	宇野　叔男
委員長	澤　　長壽	澤　　長壽	澤　　長壽	川戸　健一	川戸　健一	川戸　健一

	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度
部　長	宇野　叔男	木下美季男	中川原正美	中川原正美	筧　　大城	筧　　大城
委員長	澤　　長壽	澤　　長壽	澤　　長壽	川戸　健一	谷　　英明	谷　　英明

	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成年5度	平成年6度
部　長	筧　　大城	中山　　斉	中山斉・峯森近海	横濱　仁士	横濱　仁士	横濱　仁士
委員長	谷　　英明	谷　　英明	谷　　英明	谷　　英明	谷　　英明	谷　　英明

	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
部　長	松島　正隆	辻　　一信	辻　　一信	辻　　一信	辻　　一信	八木　敏雄
委員長	谷　　英明	濱　久美雄	濱　久美雄	濱　久美雄	濱　久美雄	濱　久美雄

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
部　長	武村　静文	山田　義和				
委員長	濱　久美雄	濱　久美雄				

滋賀県高等学校バドミントン近畿予選大会　過去の栄光

年号	複	単
昭和 29 年	長谷川光司　・小野寺正敏　（短大附工） 安藤　・田中	沢　恭仁子
昭和 30 年	秋山　真一　・小野寺正敏　（短大附工） 高橋　・松崎	秋山　真一　（短大附工） 高橋
昭和 31 年	益田　淳治　・中川　文雄　（長浜北） 大前キミ子　・西村　弘子　（彦根西）	川崎　広日 森　百合子　（彦根西）
昭和 32 年	上田　弘　・川村　義夫　（長浜西） 森　由利子　・西村　弘子　（彦根西）	川村　義夫　（長浜西） 西村　弘子　（彦根西）
昭和 33 年	川村　義夫　・西川　護　（長浜西） 門池　良　・水上ふみ子　（伊香）	川村　義夫　（長浜西） 門池　良　（伊香）
昭和 34 年	夏原　善弘　・中川　武彦　（長浜北） 大前　洋子　・江川　幸子　（彦根西）	北川　栄三　（彦根商） 辻　節子　（彦根西）
昭和 35 年	西川　伊平　・杉江　（彦根西） 辻　節子　・大辻　知子　（彦根西）	川崎 辻　節子　（彦根西）
昭和 36 年	高木　捨雄　・杉政　和男　（長浜商工） 若林喜久子　・福永　洋子　（彦根西）	宮崎　弘志　（彦根工） 若林喜久子　（彦根西）
昭和 37 年	高木　捨雄　・杉政　和男　（長浜商工） 若林喜久子　・田附　則子　（彦根西）	杉政　和男　（長浜商工） 若林喜久子　（彦根西）
昭和 38 年	武田　正雄　・森　（長浜商工） 田附　則子　・福永みよ子　（彦根西）	武田　正雄　（長浜商工） 田附　則子　（彦根西）
昭和 39 年	吉原　和夫　・伊藤　一夫　（長浜商工） 福永みよ子　・三上覚津笑　（彦根西）	田中　英明　（能登川） 福永みよ子　（彦根西）
昭和 40 年	伊藤　一夫　・斉藤　四郎　（長浜商工） 辻田　京子　・大橋美知子　（彦根西）	伊藤　一夫　（長浜商工）
昭和 41 年	武田　・前田　（長浜商工） 辻田　京子　・大橋美知子　（彦根西）	福永　恒夫　（能登川） 大橋美知子　（彦根西）
昭和 42 年	前田　・清水　（長浜商工） 青木　・冨居　康子　（彦根西）	島津　正男　（長浜商工）
昭和 43 年	小島　清治　・西　秀雄　（能登川） 冨居　康子　・田井中　（彦根西）	小島　清治　（能登川） 冨居　康子　（彦根西）
昭和 44 年	西　秀雄　・南　邦彦　（能登川） 山脇　昌子　・長谷川美代子　（彦根西）	山脇　昌子　（彦根西）
昭和 45 年		田中　澄子　（大津）
昭和 46 年	掛田　政巳　・南川　広一　（草津） 駒村佐千子　・冨田まゆみ　（大津）	戸田　昌和　（長浜商工） 駒村佐千子　（大津）
昭和 47 年	今井　稔　・小野　洋　（石山） 駒村佐千子　・冨田まゆみ　（大津）	山本　豊　（高島） 駒村佐千子　（大津）
昭和 48 年	岸本　政宏　・馬場　教史　（近江） 沢田登志子　・滝　洋子　（彦根西）	小野　洋　（石山） 滝　洋子　（彦根西）
昭和 49 年		
昭和 50 年		
昭和 51 年		

高体連関係表彰者

・創立10周年記念表彰　昭和34年8月　会津若松市
　監督表彰（5回以上出場監督）
　　岩崎正宏（滋賀）　伊藤章一（滋賀）

・創立20周年記念表彰　昭和44年8月　桐生
　学校表彰（全国高校総体10回以上出場校）
　　彦根西（滋賀）

・創立30周年記念表彰　昭和54年8月　大津市
　学校表彰（全国高校総体15回以上出場校）
　　彦根西（滋賀・15回出場）
　個人表彰
　　寺田　寿（滋賀）　澤　長寿（滋賀）

・創立40周年記念表彰　平成元年8月　高知市
　学校表彰（全国高校総体10回以上出場校）
　優秀監督（31回大会～39回大会）
　　藤上良信（滋賀・5回優勝）
　功労者
　　川戸健一（滋賀）　谷　英明（滋賀）

・創立50周年記念表彰　平成11年7月　岩手県雫石町
　最優秀校（男子1校）全国高校総体学校対抗最多優秀校　1回～49回大会の間
　　比叡山（滋賀・6回優勝）
　優良校（女子21校）
　　滋賀女子（滋賀・13回出場）　比叡山（滋賀・11回滋賀）
　最優秀監督（2名）　最多優勝監督
　　藤上良信（滋賀・6回優勝）
　特別功労者（全国高体連専門部関係者）
　　濱　久美雄（滋賀）
　功労者（都道府県専門部委員長）
　　谷　英明（滋賀）

●滋賀県中体連バドミントン連盟

滋賀県中体連バドミントン専門部のあゆみ

滋賀県中体連バドミントン連盟
副会長　　藤原　健二

まえがき

本県中学生のバドミントンは、近年、地域クラブでの活動も一部見聞きするようになってきたが、歴史を振り返ってみると、ほとんど中体連専門部の活動といってよく、そのあゆみをここに記す。

1　黎明期（昭和26年から30年代中頃まで）

滋賀県中体連は昭和23年7月に会則ができ、組織が確立された。当初、種目担当者として種目別理事長（現在の専門委員長に当たる）を置き、県内を湖西、湖南、湖東、湖北の4ブロックに分けていた。そして昭和23年、水口で開催された第1回滋賀県民体育大会（以下、県体）にバレーボール、バスケットボール、水泳が参加。

バドミントン専門部は昭和26年に発足。同年県体に初参加。男子長浜南、女子能登川が優勝、その後能登川は12連覇。男子は翌27年から粟津が4連覇した。

当時の専門委員長の中島通雄（粟津）は中学校体育年鑑に次のように回想している。

「専門部ができて間もないが、県体に多数の参加校があったことから県内中学校にバドミントンが普及し始めた。また、大会を見られた県バドミントン協会理事長の榎本彦次氏をして『トップクラスの選手は高校級である』と感嘆の声を放たしめた程であった」と。

昭和32年には一層参加校も増え、近畿大会でも女子能登川が優勝、男子長浜南が2位になるなど競技力は近畿でも高いものを築き上げていた。

しかしながら課題も多く、「例年、審判員の確保に難渋し、講習会を開いても参加者が少なく効果薄であった。それに、以前は春に個人戦、夏に団体戦、秋には新人戦と年3回実施してきたが、近年は費用の面から大会数が年2回しかなく年3回は開催したい。でなければ湖国スポーツ界、滋賀県中体連の発展向上はあり得ない」とも述べ、リーダーとして積極的な姿勢で専門部の基礎を築いていった。

2　発展・充実期（昭和30年代後期以降）

県体の成績を見てみると、昭和32年から男子長浜西が4連覇、昭和38年には女子日吉が能登川の13連覇を阻み初優勝した。まさに歴史が変わった瞬間であった。続く昭和39年には男子南郷が初優勝。それ以降、勢力は男女とも長浜、彦根、能登川から大津へと移っていった。

なかでも特筆すべきは、女子日吉が平成2年から実に18連覇を果たし、県体の優勝回数28は他に類を見ない。男子日吉も16回優勝しているが、日吉以外の大津市内の9校が優勝していることも見逃せない。

そして、大津に対抗するように草津・守山・中主・八幡・彦根の指導者も切磋琢磨を続け、平成20年には女子彦根東が日吉の19連覇を阻止し初優勝を果たした。

一方、全国大会に目を移すと昭和46年夏、東京都で第1回全国中学生大会（男女別都道府県対抗）が団体戦形式で日本バドミントン協会の主催で開催され、男子が栄えある優勝を成し遂げた。

指導者は県内大会においては、互いにしのぎを削っていたが、日本一を合言葉に「一つ」にまとまり、強化練習会を重ねながら、選手を選抜していった。こうして第1回から第7回まで連続して3位以内に入賞。特に、第3回宇都宮大会で男女アベック優勝を果たしたことは本県中学生バドミントンの歴史に残る出来事であった。

3　激動期（昭和55年以降）

昭和55年第10回大会からは団体戦が学校対抗に変更され、個人戦が導入。近畿大会で上位入賞し、全国大会に出場するも新方式での上位入賞は男子団体・男子単・女子複3位が各1回あっただけである。

4　復活期（平成5年以降）

平成5年、大津市で第23回全国大会を開催。これを機に組織充実を図り、選手強化も高校との連携強化を密にしていった。その結果、男子単2位、男子団体真野、女子団体日吉、女子単が3位に。平成14年に再び大津で第32回大会を。平成23年には三度目の第42回大会を大津で開催する。平成9年以降の成績は男女団体個人を合わせ、優勝10回、2位7回、3位1回（以上、日吉）で、他には田上の3位1回のみ。現在、復活の兆しはあるものの全体の底上げが急務である。

5　あとがき

紙面の都合上、功労のあった指導者の方々、優秀選手の氏名は他の資料に譲ることで省かせていただいたことや稚拙な記述はお許しを願い、支えていただいたみなさんに感謝しつつ筆を置く。

平成22年9月

文責　副会長　藤原　健二

参考資料　県中学校体育年鑑、
県中学校体育のあゆみ、
全国大会プログラム他

全国大会の栄光の記録（滋賀県関係のみ）

※昭和46年度「第1回全国中学生大会」が、1複2単で男女別都道府県対抗（団体戦）形式で始まる。
※昭和55年度「第10回全国中学校選抜大会」が、教育内活動として認められる。
同時に、団体戦を学校対抗に変更し、個人戦が導入される。

年度	西暦	回数	開催地	男子団体　女子団体	男子シングルス　氏名	男子ダブルス　氏名	女子シングルス　氏名	女子ダブルス　氏名
昭和46	1971	1	東京都	優勝				
47	1972	2	名古屋市	3位				
48	1973	3	宇都宮市	優勝　優勝				
49	1974	4	東京都	優勝				
50	1975	5	東京都	2位				
51	1976	6	仙台市	優勝				
52	1977	7	伊勢市	3位				
53	1978	8	名古屋市					
54	1979	9	神戸市					
55	1980	10	熊本市					
56	1981	11	奈良市					
57	1982	12	新潟市					
58	1983	13	新庄市					3位（草津）田中　美和 川村　祐子
59	1984	14	大府市		3位（皇子山）鈴木 草麻生			
60	1985	15	登別市					
61	1986	16	真岡市	3位（堅田）				
62	1987	17	春日井市					
63	1988	18	盛岡市					
平成元	1989	19	山口市					
2	1990	20	坂出市					
3	1991	21	熊本市					
4	1992	22	高岡市					
5	1993	23	大津市	3位（真野）3位（日吉）	2位（田上）向　裕樹		3位（日吉）勝嶋　梨絵	
6	1994	24	旭川市					
7	1995	25	川崎市					
8	1996	26	大府市					
9	1997	27	新居浜市	2位（日吉）			2位（日吉）澤　憂妃	
10	1998	28	仙台市					優勝（日吉）早川 由紀子 多谷　郁恵
11	1999	29	福井市	2位（日吉）	優勝（日吉）山口　公洋	優勝（日吉）辻田　嘉章 早川　賢一		
						2位（日吉）吉田　康範 多谷　公志		
12	2000	30	熊本市	優勝（日吉）	優勝（日吉）数野　健太	2位（日吉）多谷　公志 早川　賢一		
13	2001	31	広島市	優勝（日吉）			優勝（日吉）垣岩　真未	3位（日吉）村上　翔子 杉本　依子
14	2002	32	大津市					
15	2003	33	旭川市					
16	2004	34	土浦市	優勝（日吉）			優勝（日吉）垣岩　令佳	
17	2005	35	岐阜市		3位（田上）矢部　拓也			
18	2006	36	徳島市					
19	2007	37	須賀川市	2位（日吉）			2位（日吉）浦谷　夏未	
20	2008	38	福井市					
21	2009	39	長崎市			優勝（日吉）三津川 剛史 河崎　駿輔		
22	2010	41	倉敷市					
23	2011	42	大津市					

滋賀県中学校春季総合体育大会　栄光の記録

回	年度	西暦	会場	男子団体		女子団体		男子個人				女子個人			
				順位	校名	順位	校名	順位	種別	氏名	(校名)	順位	種別	氏名	(校名)
1	昭和39	1964		1	南郷・長浜西	1	日吉・能登川								
2	昭和40	1965		1	南郷・長浜西	1	日吉・長浜西								
3	昭和41	1966		1	日吉・双葉	1	日吉・能登川								
4	昭和42	1967		1	日吉	1	南郷								
5	昭和43	1968		1	日吉	1	南郷								
6	昭和44	1969		1	栗津	1	瀬田								
7	昭和45	1970		1	日吉	1	瀬田								
8	昭和46	1971		1	南郷	1	日吉								
9	昭和47	1972		1	南郷	1	日吉								
10	昭和48	1973		1	日吉	1	瀬田								
11	昭和49	1974		1	打出	1	栗津								
12	昭和50	1975		1	堅田	1	栗津								
13	昭和51	1976		1	打出	1	堅田								
14	昭和52	1977		1	栗津	1	堅田	1	S	山本　裕幸	(栗津)	1	S	吉田　康子	(栗津)
15	昭和53	1978		1	南郷	1	堅田	1	S	松浦　進二	(南郷)	1	S	平山美恵子	(栗津)
16	昭和54	1979		1	栗津	1	栗津	1	S	辻田　泰昌	(日吉)	1	S	幸光　智恵	(栗津)
									D	中田　博幸	(栗津)		D	倉見　陽子	(栗津)
										鈴木　茂雄				磯野佐智子	
17	昭和55	1980		1	皇子山	1	日吉	1	S	三宅　雅夫	(皇子山)	1	S	小林めぐみ	(皇子山)
									D	鈴木　茂雄	(栗津)		D	柴田　真理	(瀬田)
										吉越　隆				三沢千恵子	
18	昭和56	1981		1	堅田	1	能登川	1	S	結城　実照	(堅田)	1	S	辻　祝子	(中主)
									D	中川　健	(堅田)		D	渡辺　祥子	(瀬田)
										松本　仁志				南　厚子	
19	昭和57	1982		1	瀬田	1	堅田	1	S	南　在健	(瀬田)	1	S	間芝　睦美	(北大路)
									D	山本　公彦	(皇子山)		D	片嶺　典子	(皇子山)
										塩田　晃二				池田　芳恵	
20	昭和58	1983		1	栗津	1	草津	1	S	山口　哲史	(栗津)	1	S	松浦　薫	(栗津)
									D	福井　博史	(皇子山)		D	田中　美和	(草津)
										辻本　好二				河村　裕子	
21	昭和59	1984		1	皇子山	1	皇子山	1	S	鈴木草麻生	(皇子山)	1	S	石川友佳子	(皇子山)
									D	俣野　公志	(皇子山)		D	河村　裕子	(草津)
										河村　哲也				玉井　麻未	
22	昭和60	1985		1	唐崎	1	日吉	1	S	福地　俊治	(唐崎)	1	S	筒井　真紀	(草津)
									D	饗庭　瑞則	(皇子山)		D	長野みゆき	(草津)
										今江　広志				野々村美香	
23	昭和61	1986		1	堅田	1	皇子山	1	S	服部　淳也	(堅田)	1	S	西田美由紀	(草津)
									D	松井　健	(日吉)		D	仲江　由香	(野洲北)
										秋山　律文				奥山　智美	
24	昭和62	1987		1	堅田	1	草津	1	S	杉田　満広	(日吉)	1	S	西田美由紀	(草津)
									D	平野　耕司	(堅田)		D	国分　美和	(草津)
										堀江　洋行				中俣真理子	
25	昭和63	1988		1	栗東西	1	草津	1	S	中西　仁史	(葛川)	1	S	安井　郁子	(彦根東)
									D	平尾　元樹	(田上)		D	吉田志津子	(北大路)
										宇野　忠男				高田　揚子	
26	平成元	1989		1	皇子山	1	日吉	1	S	山名　秀信	(真野)	1	S	宮田　恵里	(日吉)
				2	真野	2	皇子山		D	黒瀬　和彦	(皇子山)		D	小山　桃子	(田上)
				3	日吉・堅田	3	栗津・田上			饗庭　亮輔				羽野　裕子	
27	平成2	1990		1	真野	1	日吉	1	S	杉岡　拓弥	(真野)	1	S	森本　雅美	(日吉)
				2	堅田	2	八幡東		D	溝　信之	(真野)		D	土居　宏江	(草津)
				3	栗東西・彦根西	3	真野・瀬田			山田　和史				岩佐千賀子	
28	平成3	1991		1	北大路	1	日吉	1	S	酒井　将之	(彦根西)	1	S	澤　緑	(日吉)
				2	彦根西	2	松原		D	吉森　博規	(真野)		D	木村　美和	(日吉)
				3	真野・堅田	3	田上・真野			諏訪　良人				池内　奈津	
29	平成4	1992		1	田上	1	日吉	1	S	藤上　良昭	(堅田)	1	S	勝嶋　梨絵	(日吉)
				2	堅田	2	彦根西		D	今井　邦彦	(北大路)		D	村岡　睦美	(彦根西)
				3	北大路・真野	3	田上・真野			増田　大作				村岡　希美	

回	年度	西暦	会場	男子団体		女子団体		男子個人				女子個人			
				順位	校名	順位	校名	順位	種別	氏名	(校名)	順位	種別	氏名	(校名)
30	平成5	1993		1	真野	1	日吉	1	S	向　裕樹	(田上)	1	S	勝嶋　梨絵	(日吉)
				2	田上	2	彦根西		D	上坂　剛志	(真野)		D	出水　千景	(日吉)
				3	堅田・日吉	3	八幡西・稲枝			安部　照彰				森本　仁美	
31	平成6	1994		1	真野	1	日吉	1	S	深田　和彦	(真野)	1	S	上田　絵美	(彦根西)
				2	田上	2	彦根東		D	森田　恒士	(田上)		D	三原　理奈	(日吉)
				3	堅田・日吉	3	八幡西・田上			田村　友一				中江　由美	
32	平成7	1995		1	日吉	1	日吉	1	S	数野　祐介	(日吉)	1	S	上田　絵美	(彦根西)
				2	堅田	2	彦根西		D	吉森　貴規	(真野)		D	三原　理奈	(日吉)
				3	田上・真野	3	八幡西・田上			諏訪　賢成				中江　由美	
33	平成8	1996		1	守山北	1	日吉	1	S	林田　祐介	(堅田)	1	S	澤　　愛妃	(日吉)
				2	堅田	2	八幡西		D	久田　純平	(守山北)		D	澤　晃津紗	(日吉)
				3	日吉・真野	3	守山北・彦根西			東出　有裕				川島　　彩	
34	平成9	1997		1	日吉	1	日吉	1	S	森澤　　駿	(日吉)	1	S	多谷　郁恵	(日吉)
				2	南郷	2	堅田		D	数野　　誠	(日吉)		D	川島　　彩	(日吉)
				3	真野・守山北	3	八幡西・真野			松川　晋也				早川由紀子	
35	平成10	1998		1	日吉	1	日吉	1	S	森澤　　駿	(日吉)	1	S	早川由紀子	(日吉)
				2	守山北	2	彦根東		D	高田　浩平	(守山北)		D	三条　幸菜	(日吉)
				3	田上・彦根西	3	守山北・八幡西			山下　直樹				裏川　千智	
36	平成11	1999		1	日吉	1	日吉	1	S	山口　公洋	(日吉)	1	S	北村　　梢	(彦根東)
				2	守山北	2	彦根東		D	辻田　嘉章	(日吉)		D	三条　幸菜	(日吉)
				3	田上・稲枝	3	八幡西・彦根中央			多谷　公志				裏川　千智	
37	平成12	2000		1	日吉	1	日吉	1	S	数野　健太	(日吉)	1	S	三条　幸菜	(日吉)
				2	守山北	2	守山北		D	多谷　公志	(日吉)		D	鳥元　里夏	(日吉)
				3	真野・粟津	3	八幡・彦根東			早川　賢一				甲斐あづさ	
38	平成13	2001		1	日吉	1	日吉	1	S	早川　賢一	(日吉)	1	S	垣岩　真未	(日吉)
				2	皇子山	2	真野		D	森本　光弥	(粟津)		D	村上　翔子	(日吉)
				3	真野・粟津	3	中主・粟津			阪本　直文				杉本　依子	
39	平成14	2002		1	守山北	1	日吉	1	S	田中　昭太	(守山北)	1	S	福森絵里菜	(中主)
				2	日吉	2	瀬田北		D	北川　　輝	(守山北)		D	前田　志奈	(志賀)
				3	真野・彦根東	3	彦根・中主			澤田　裕太				前田　芳奈	
40	平成15	2003	びわこアリーナ	1	日吉	1	日吉	1	S	山本　啓奨	(日吉)	1	S	浦谷かおり	(八幡西)
				2	南郷	2	瀬田北		D	佐藤　悠太	(南郷)		D	藤本　芽衣	(瀬田北)
				3	真野・彦根南	3	彦根・中主			玉置　純也				仲川志都香	
41	平成16	2004	野洲市総合	1	田上	1	日吉	1	S	若林　孝容	(彦根南)	1	S	垣岩　令佳	(日吉)
				2	彦根南	2	瀬田北		D	小泉　昂志	(田上)		D	村上　陽子	(日吉)
				3	彦根・南郷	3	彦根・彦根南			宇野　賢人				阪本　由衣	
42	平成17	2005	野洲市総合	1	田上	1	日吉	1	S	矢部　拓也	(田上)	1	S	浦谷　夏未	(日吉)
				2	彦根	2	瀬田北		D	大野　良介	(日吉)		D	藤本　麗未	(瀬田北)
				3	日吉・彦根南	3	彦根南・高穂			津田　優一				本郷　由貴	
43	平成18	2006	野洲市総合	1	粟津	1	日吉	1	S	平井　優也	(真野)	1	S	浦谷　夏未	(日吉)
				2	彦根東	2	彦根南		D	中辻　亮太	(彦根東)		D	村上　高子	(日吉)
				3	葛川・彦根南	3	瀬田北・彦根			村岸　範章				河﨑　綾佳	
44	平成19	2007	野洲市総合	1	日吉	1	日吉	1	S	中村　亮太	(彦根)	1	S	浦谷　夏未	(日吉)
				2	田上	2	瀬田北		D	川瀬　　爽	(葛川)		D	安居　里彩	(日吉)
				3	彦根・葛川	3	彦根・彦根東			小西　琢矢				玉木沙也華	
45	平成20	2008	野洲市総合	1	日吉	1	彦根東	1	S	西澤　康一	(彦根東)	1	S	翠簾屋乃梨子	(彦根東)
				2	彦根東	2	日吉		D	三津川剛史	(日吉)		D	桐畑　真奈	(彦根東)
				3	彦根南・皇子山	3	彦根中央・瀬田北			河崎　駿輔				西村　沙耶	
46	平成21	2009		新型インフルエンザのため中止											
47	平成22	2010	野洲市総合	1	日吉	1	日吉	1	S	常山　幹太	(草津)	1	S	岡村　真夢	(松原)
				2	彦根南	2	瀬田北		D	上原　健太	(日吉)		D	三津川有美	(日吉)
				3	草津・彦根中央	3	南郷・瀬田			松井　大晟				山本　瑠香	
48	平成23	2011		1		1		1	S			1	S		
				2		2			D				D		
				3		3									

県体（中学の部）ならびに滋賀県中学校夏季総合体育大会　栄光の記録

回	年度	西暦	会場	男子団体		女子団体		男子個人			女子個人		
				順位	校名	順位	校名	順位	種別	氏名　（校名）	順位	種別	氏名　（校名）
1													
2	実施せず	実施せず											
3													
4	昭和26	1951		1	長浜南	1	能登川						
5	昭和27	1952		1	栗津	1	能登川						
6	昭和28	1953		1	栗津	1	能登川						
7	昭和29	1954		1	栗津	1	能登川						
8	昭和30	1955		1	栗津	1	能登川						
9	昭和31	1956		1	長浜南	1	能登川						
10	昭和32	1957		1	長浜南	1	能登川						
11	昭和33	1958		1	長浜西	1	能登川						
12	昭和34	1959		1	長浜西	1	能登川						
13	昭和35	1960		1	長浜西	1	能登川						
14	昭和36	1961		1	長浜西	1	能登川						
15	昭和37	1962		1	彦根西	1	能登川						
16	昭和38	1963		1	長浜西	1	日吉						
17	昭和39	1964		1	南郷	1	日吉						
18	昭和40	1965		1	南郷	1	日吉						
19	昭和41	1966		1	打出	1	日吉						
20	昭和42	1967		1	日吉	1	南郷						
21	昭和43	1968		1	日吉	1	日吉						
22	昭和44	1969		1	南郷	1	瀬田						
23	昭和45	1970		1	南郷	1	瀬田						
24	昭和46	1971		1	南郷	1	日吉						
25	昭和47	1972		1	南郷	1	日吉						
26	昭和48	1973		1	日吉	1	日吉						
27	昭和49	1974		1	打出	1	栗津						
28	昭和50	1975		1	堅田	1	堅田						
29	昭和51	1976		1	打出	1	堅田						
30	昭和52	1977		1	栗津	1	堅田						
31	昭和53	1978		1	南郷	1	堅田						
32	昭和54	1979		1	日吉	1	栗津						
33	昭和55	1980		1 2	堅田 皇子山	1 2	栗津 皇子山	1	S D	福島　晃　（栗津） 藤田　邦彦　（堅田） 小林　敏一	1	S D	小林めぐみ　（皇子山） 柴田　真理　（瀬田） 澤田　礼子
34	昭和56	1981		1 2	堅田 野洲	1 2	中主 草津	1	S D	広瀬　純吾　（皇子山） 結城　実照　（堅田） 松本　仁志	1	S D	辻　祝子　（中主） 大和　香　（草津） 田中　朋子
35	昭和57	1982		1 2	皇子山 瀬田	1 2	皇子山 瀬田	1	S D	南　在健　（瀬田） 甘利　信也　（瀬田） 礒田　茂和	1	S D	大和　香　（草津） 杉本　久美　（堅田） 杉本由紀路
36	昭和58	1983		1 2	皇子山 栗津	1 2	草津 皇子山	1	S D	中川　智史　（皇子山） 柏原　隆史　（皇子山） 上村　幸治	1	S D	松浦　薫　（栗津） 田中　美和　（草津） 河村　裕子
37	昭和59	1984		1 2	皇子山 栗津	1 2	高穂 皇子山	1	S D	鈴木草麻生　（皇子山） 俣野　公志　（皇子山） 河村　哲也	1	S D	西山　幸恵　（栗津） 河村　裕子　（草津） 玉井　麻未
38	昭和60	1985		1 2	唐崎 皇子山	1 2	草津 日吉	1	S D	福地　俊治　（唐崎） 平井　肇　（唐崎） 梶谷多津哉	1	S D	藤元　美香　（日吉） 谷口かおり　（日吉） 上田　祥子
39	昭和61	1986		1 2	堅田 松原	1 2	皇子山 彦根中央	1	S D	服部　淳也　（堅田） 安藤　仁　（堅田） 行松　俊樹	1	S D	吉田　友紀　（彦根西） 西田美由紀　（草津） 国分　美和
40	昭和62	1987		1 2	堅田 栗東西	1 2	草津 堅田	1	S D	杉田　満広　（日吉） 平野　耕司　（堅田） 堀江　洋行	1	S D	森　のぞみ　（日吉） 東田　真紀　（草津） 中俣真理子
41	昭和63	1988		1 2	松原 栗東西	1 2	草津 彦根東	1	S D	横山　勇一　（葛川） 馬場　直樹　（松原） 今村　聡	1	S D	安井　郁子　（彦根東） 吉田志津子　（北大路） 高田　陽子
42	平成元年	1989		1 2 3	皇子山 堅田 日吉・真野	1 2 3	田上 彦根東 日吉・皇子山	1	S D	宮原　一郎　（日吉） 黒瀬　和彦　（皇子山） 饗庭　亮輔	1	S D	橋詰　志穂　（日吉） 小山　桃子　（田上） 羽野　裕子

回	年度	西暦	会場	男子団体		女子団体		男子個人				女子個人			
				順位	校名	順位	校名	順位	種別	氏名	(校名)	順位	種別	氏名	(校名)
43	平成2	1990		1	真野	1	日吉	1	S	杉岡　拓弥	(真野)	1	S	内田　裕子	(皇子山)
				2	栗東西	2	八幡東		D	溝　　信之	(真野)		D	岡田　優子	(八幡東)
				3	彦根西・堅田	3	真野・瀬田			山田　和史				鈴木　理恵	
44	平成3	1991		1	北大路	1	日吉	1	S	諏訪　良人	(真野)	1	S	澤　　緑	(日吉)
				2	彦根西	2	松原		D	百田　憲和	(北大路)		D	平尾　夕子	(田上)
				3	堅田・真野	3	田上・真野			尾山　康史				山口恵美子	
45	平成4	1992		1	田上	1	日吉	1	S	藤上　良昭	(堅田)	1	S	勝嶋　梨絵	(日吉)
				2	真野	2	真野		D	山本　吉伸	(田上)		D	村岡　睦美	(彦根西)
				3	堅田・北大路	3	彦根西・田上			西村　祐喜				村岡　希美	
46	平成5	1993		1	真野	1	日吉	1	S	向　　裕樹	(田上)	1	S	勝嶋　梨絵	(日吉)
				2	田上	2	彦根西		D	上坂　剛志	(真野)		D	出水　千景	(日吉)
				3	堅田・野洲北	3	稲枝・真野			安部　照彰				森本　仁美	
47	平成6	1994		1	田上	1	日吉	1	S	深田　和彦	(真野)	1	S	上田　絵美	(彦根西)
				2	日吉	2	彦根東		D	森田　恒士	(田上)		D	三原　理奈	(日吉)
				3	彦根西・真野	3	草津・八幡西			田村　友一				中江　由美	
48	平成7	1995		1	日吉	1	日吉	1	S	数野　祐介	(日吉)	1	S	上田　絵美	(彦根西)
				2	真野	2	彦根西		D	吉森　貴規	(真野)		D	三原　理奈	(日吉)
				3	田上・堅田	3	南郷・八幡西			諏訪　賢成				中江　由美	
49	平成8	1996		1	日吉	1	日吉	1	S	林田　祐介	(堅田)	1	S	澤　　憂妃	(日吉)
				2	真野	2	八幡西		D	山口　大輝	(日吉)		D	澤　晃津紗	(日吉)
				3	堅田・守山北	3	稲枝・竜王			竹村　一真				川島　　彩	
50	平成9	1997		1	日吉	1	日吉	1	S	森澤　　駿	(日吉)	1	S	多谷　郁恵	(日吉)
				2	守山北	2	堅田		D	数野　　誠	(日吉)		D	川島　　彩	(日吉)
				3	真野・南郷	3	草津・八幡西			松川　晋也				早川由紀子	
51	平成10	1998		1	日吉	1	日吉	1	S	森澤　　駿	(日吉)	1	S	北村　　梢	(日吉)
				2	守山北	2	彦根東		D	山口　公洋	(日吉)		D	早川由紀子	(日吉)
				3	田上・彦根西	3	守山北・真野			吉田　康範				多谷　郁恵	
52	平成11	1999		1	日吉	1	日吉	1	S	山口　公洋	(日吉)	1	S	垣岩　真未	(日吉)
				2	守山北	2	彦根東		D	吉田　康範	(日吉)		D	三条　幸菜	(日吉)
				3	皇子山・堅田	3	瀬田北・八幡西			多谷　公志				裏川　千智	
53	平成12	2000		1	日吉	1	日吉	1	S	数野　健太	(日吉)	1	S	垣岩　真未	(日吉)
				2	守山北	2	守山北		D	多谷　公志	(日吉)		D	鳥元　里夏	(日吉)
				3	真野・南郷	3	彦根東・真野			早川　賢一				甲斐あづさ	
54	平成13	2001		1	日吉	1	日吉	1	S	早川　賢一	(日吉)	1	S	垣岩　真未	(日吉)
				2	皇子山	2	真野		D	森本　光弥	(粟津)		D	鳥元　里夏	(日吉)
				3	粟津・真野	3	彦根東・粟津			阪本　直文				甲斐あづさ	
55	平成14	2002		1	守山北	1	日吉	1	S	田中　昭太	(守山北)	1	S	福森絵里菜	(中主)
				2	真野	2	瀬田北		D	北川　　輝	(守山北)		D	前田　志奈	(志賀)
				3	田上・日吉	3	彦根・中主			澤田　裕太				前田　芳奈	
56	平成15	2003		1	日吉	1	日吉	1	S	西澤　　潤	(彦根東)	1	S	垣岩　令佳	(日吉)
				2	南郷	2	瀬田北		D	森澤　　聡	(日吉)		D	村上　陽子	(日吉)
				3	田上・真野	3	彦根・八幡西			三崎　一誠				阪本　由衣	
57	平成16	2004	びわこアリーナ	1	彦根南	1	日吉	1	S	村上　　俊	(唐崎)	1	S	垣岩　令佳	(日吉)
				2	田上	2	瀬田北		D	宇野　賢人	(田上)		D	村上　陽子	(日吉)
				3	日吉・南郷	3	彦根南・粟津			矢部　拓也				阪本　由衣	
58	平成17	2005	野洲市総合	1	田上	1	日吉	1	S	宇野　賢人	(田上)	1	S	浦谷　夏未	(日吉)
				2	彦根	2	彦根南		D	中辻　亮太	(彦根東)		D	奥　　緒	(彦根南)
				3	彦根南・彦根東	3	高穂・八幡西			村岸　範章				松本彩矢佳	
59	平成18	2006	野洲市総合	1	粟津	1	日吉	1	S	平井　優也	(真野)	1	S	浦谷　夏未	(日吉)
				2	彦根東	2	彦根南		D	中辻　亮太	(彦根東)		D	村上　高子	(日吉)
				3	葛川・田上	3	彦根・瀬田北			村岸　範章				河崎　綾佳	
60	平成19	2007	野洲市総合	1	日吉	1	日吉	1	S	中村　亮太	(彦根)	1	S	浦谷　夏未	(日吉)
				2	田上	2	彦根東		D	三津川剛史	(日吉)		D	安居　里彩	(日吉)
				3	彦根・彦根東	3	彦根・瀬田北			河崎　駿輔				玉木沙也華	
61	平成20	2008	野洲市総合	1	日吉	1	彦根東	1	S	長島　智大	(日吉)	1	S	中村　朱里	(彦根)
				2	南郷	2	日吉		D	三津川剛史	(日吉)		D	桐畑　真奈	(彦根東)
				3	皇子山・志賀	3	瀬田北・彦根中央			河崎　駿輔				西村　沙耶	
62	平成21	2009	野洲市総合	1	日吉	1	日吉	1	S	常山　明良	(草津)	1	S	田岸　美幸	(彦根中央)
				2	草津	2	瀬田北		D	三津川剛史	(日吉)		D	三宅　彩加	(日吉)
				3	永源寺・南郷	3	青山・南郷			河崎　駿輔				三津川有美	
63	平成22	2010	野洲市総合	1	日吉	1	日吉	1	S	常山　幹太	(草津)	1	S	岡村　真夢	(松原)
				2	草津	2	瀬田北		D	新郷　乃規	(彦根南)		D	三津川有美	(日吉)
				3	彦根中央・彦根南	3	明富・野洲北			吉川　　諒				山本　瑠香	

滋賀県中学校体育連盟　バドミントン専門部　役員表

昭和26年度に専門部発足

年度	西暦	部長　所属校	理事長、理事、郡市委員制（湖西・湖南・湖東・湖北）の4ブロック				
昭和23	1948						
昭和24	1949						
昭和25	1950						
昭和26	1951	（　）	中島　通雄（栗津）	広部　武司（長浜西）	東出　房子（　）	（　）	（　）
昭和27	1952	（　）	○ 中島　通雄（栗津）	○ 広部　武司（長浜西）	（　）	（　）	（　）
昭和28	1953	（　）	中島　通雄（栗津）	宮野　知（　）	（　）	（　）	（　）
昭和29	1954	（　）	望月　誠之（甲陽）	中島　通雄（栗津）	（　）	（　）	（　）
昭和30	1955	（　）	望月　誠之（甲賀）	中島　通雄（栗津）	（　）	（　）	（　）
昭和31	1956	（　）	中島　通雄（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
昭和32	1957	（　）	中島　通雄（打出）	望月　誠之（　）	小木曽義三（　）	広部　武司（　）	（　）
昭和33	1958	（　）	中島　通雄（打出）	尾中　俊子（能登川）	広部　武司（長浜西）	（　）	（　）
昭和34	1959	（　）	川田　一（　）	望月　誠之（　）	尾中　俊子（能登川）	北沢清太郎（　）	（　）
昭和35	1960	（　）	中島　通雄（　）	望月　誠之（　）	尾中　俊子（　）	北沢清太郎（　）	（　）
昭和36	1961	（　）	佐野　猛俊（　）	望月　誠之（　）	中島　通雄（　）	中川　覚男（　）	（　）
昭和37	1962	（　）	中島　通雄（　）	望月　誠之（　）	佐野　猛俊（　）	八上　秀行（　）	（　）
昭和38	1963	（　）	佐野　猛俊（　）	長尾　寿（　）	根来　旭（　）	八上　秀行（　）	（　）
昭和39	1964	（　）	佐野　猛俊（　）	根来　旭（　）	中川　朋子（中主）	中川　覚男（　）	（　）
昭和40	1965	（　）	佐野　猛俊（　）	根来　旭（　）	中川　朋子（中主）	中川　覚男（　）	（　）
昭和41	1966	（　）	望月　誠之（甲賀）	長尾　寿（　）	中川　朋子（中主）	佐野　猛俊（　）	伊藤　尚典（　）
昭和42	1967	小林　甚蔵（　）	佐野　猛俊（愛知）	安澤　武雄（南郷）	中川　朋子（中主）	尾中　俊子（　）	八上　秀行（　）
昭和43	1968	松井　周内（　）	中島　通雄（南郷）	根来　旭（　）	中川　朋子（中主）	寺田　哲男（　）	伊藤　尚典（　）
昭和44	1969	中西　乗（　）	根来　旭（小松分校）	安澤　武雄（　）	松本　任世（　）	中川　朋子（　）	伊藤　尚典（　）
昭和45	1970	今井利之助（　）	根来　旭（志賀）	木村　孝英（　）	安澤　武雄（　）	中川　朋子（　）	松本　任世（　）　千田　敏
昭和46	1971	村田　泰一（志賀）	長尾　寿（日吉）	木村　孝英（　）	中川　朋子（　）	高橋　茂（　）	佐野　猛俊（　）　田部　正俊
昭和47	1972	村田　泰一（志賀）	安澤　武雄（栗津）	根来　旭（　）	上野　親義（　）	中川　朋子（　）	堀内　了賢（　）　田部　正俊
昭和48	1973	村田　泰一（志賀）	安澤　武雄（栗津）	根来　旭（　）	中川　朋子（　）	堀内　了賢（　）	（　）
昭和49	1974	竹嶋　由雄（志賀）	安澤　武雄（栗津）	根来　旭（　）	中川　朋子（　）	堀内　了賢（　）	国門登美恵（　）　飯田　照男
昭和50	1975	竹嶋　由雄（志賀）	木村　孝英（栗津）	根来　旭（　）	中川　朋子（　）	堀内　了賢（　）	国門登美恵（　）　徳谷　正
昭和51	1976	山本　実（志賀）	木村　孝英（栗津）	根来　旭（　）	中川　朋子（　）	森田　文夫（　）	堀内　了賢（　）　国門登美恵
昭和52	1977	山本　実（志賀）	木村　孝英（栗津）	国門登美恵（　）	堀内　了賢（　）	中川　朋子（　）	徳谷　正（　）　根来　旭
昭和53	1978	山本　実（志賀）	木村　孝英（栗津）	万木　豊樹（　）	徳谷　正（　）	中川　朋子（　）	山下　由行（　）　堀内　了賢
昭和54	1979	村田　平和（志賀）	久保　明雄（栗津）	吉崎　治彦（　）	堀内　了賢（　）	国門　学（　）	万木　豊樹（　）
昭和55	1980	村田　平和（志賀）	久保　明雄（栗津）	今荘　茂（　）	吉崎　治彦（　）	高井　晴美（　）	高木　富三（　）　国門　学
昭和56	1981	本郷　俊雄（志賀）	久保　明雄（栗津）	今荘　茂（　）	吉崎　治彦（　）	平塚　善実（　）	高木　富三（　）　国門　学
昭和57	1982	本郷　俊雄（志賀）	久保　明雄（北大路）	今荘　茂（　）	仲谷富美夫（　）	吉崎　治彦（　）	平塚　善実（　）　高木　富三
昭和58	1983	本郷　俊雄（志賀）	久保　明雄（北大路）	井口　友治（　）	今荘　茂（　）	松田　源司（　）	中西　哲順（　）　平塚　善実
昭和59	1984	青谷　謙二（志賀）	片山　義教（南郷）	井口　友治（　）	仲谷富美夫（　）	松田　源司（　）	中西　哲順（　）　平塚　善実
昭和60	1985	青谷　謙二（志賀）	片山　義教（南郷）	吉崎　治彦（彦根東）	高木　富三（船岡）	嶋林　昭治（甲賀）	中西　哲順（守山南）　仲谷富美夫
昭和61	1986	宇部　甫（栗津）	片山　義教（南郷）	中西　哲順（守山南）	吉崎　治彦（　）	高木　富三（　）	（　）
昭和62	1987	勝見　一寛（守山北）	今荘　茂（瀬田）	中西　哲順（守山南）	（　）	（　）	（　）
昭和63	1988	奥野　博（八幡西）	今荘　茂（瀬田）	中西　哲順（守山南）	（　）	（　）	（　）
平成　元	1989	日置喜久雄（志賀）	今荘　茂（瀬田）	中西　哲順（守山南）	（　）	（　）	（　）
平成　2	1990	溝川　孝（栗津）	今荘　茂（瀬田）	（　）	（　）	（　）	（　）
平成　3	1991	田中　文雄（明富）	今荘　茂（瀬田）	（　）	（　）	（　）	（　）
平成　4	1992	安澤　武雄（田上）	今荘　茂（瀬田）	（　）	（　）	（　）	（　）
平成　5	1993	安澤　武雄（田上）	今荘　茂（瀬田）	中西　哲順（守山北）	（　）	（　）	（　）
平成　6	1994	安澤　武雄（田上）	今荘　茂（田上）	（　）	（　）	（　）	（　）
平成　7	1995	安澤　武雄（田上）	今荘　茂（田上）	（　）	（　）	（　）	（　）
平成　8	1996	安澤　武雄（田上）	今荘　茂（田上）	（　）	（　）	（　）	（　）
平成　9	1997	津田　孝司（明富）	今荘　茂（田上）	吉崎　治彦（彦根）	（　）	（　）	（　）
平成10	1998	西澤　茂樹（守山北）	今荘　茂（田上）	村上　隆三（日吉）	（　）	（　）	（　）
平成11	1999	西澤　茂樹（守山北）	今荘　茂（田上）	（　）	（　）	（　）	（　）
平成12	2000	西澤　茂樹（守山北）	高嶋　敬治（八幡）	（　）	（　）	（　）	（　）
平成13	2001	藤原　健二（真野）	高嶋　敬治（八幡）	（　）	（　）	（　）	（　）
平成14	2002	藤原　健二（真野）	高嶋　敬治（八幡）	今荘　茂（田上）	西岡　宏（真野）	（　）	（　）
平成15	2003	藤原　健二（田上）	福田　寛（南郷）	高嶋　敬治（八幡）	今荘　茂（田上）	西岡　宏（真野）	（　）
平成16	2004	藤原　健二（田上）	福田　寛（南郷）	今荘　茂（日吉）	村上　隆三（瀬田北）	（　）	（　）
平成17	2005	藤原　健二（田上）	福田　寛（南郷）	今荘　茂（日吉）	村上　隆三（瀬田北）	（　）	（　）
平成18	2006	高橋　清尊（堅田）	福田　寛（南郷）	今荘　茂（日吉）	村上　隆三（瀬田北）	（　）	（　）
平成19	2007	高橋　清尊（堅田）	福田　寛（南郷）	今荘　茂（日吉）	村上　隆三（瀬田北）	（　）	（　）
平成20	2008	柴原三十二（石山）	福田　寛（南郷）	村上　隆三（打出）	今荘　茂（日吉）	（　）	（　）
平成21	2009	城山　嗣雄（打出）	高田　克彦（日吉）	福田　寛（南郷）	今荘　茂（日吉）	村上　隆三（打出）	（　）
平成22	2010	岩見　弘（栗津）	高田　克彦（日吉）	福田　寛（南郷）	今荘　茂（日吉）	村上　隆三（打出）	（　）

	無印：副専門委員長		△印：特別選出				
( )	( )						
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	安澤 武雄 ( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	国門登美恵 ( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	藤井 明美 ( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	井口 友治 ( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	国門 学 ( )	井口 友治 ( )	( )	( )	( )	( )	
( )	高木 富三 ( )	吉崎 治彦 ( )	( )	( )	( )	( )	
( )	高木 富三 ( )	吉崎 治彦 ( )	( )	( )	( )	( )	
(草津)	朝加 和幸 (志賀)	△久保 明雄 (北大路)	△藤原 健二 (皇子山)	△原田 昇子 (瀬田)	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	△西村 金治 (草津)	△村上 隆三 (田上)	△片山 義教 (石山)	( )	( )	( )	
( )	△片山 義教 ( )	△村上 隆三 ( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	△西岡 宏 ( )	△村上 隆三 ( )	△宮下 英雄 ( )	△吉崎 治彦 ( )	△平塚 善実 ( )	( )	
( )	△村上 隆三 ( )	△平塚 善実 ( )	△福井 善行 ( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	△吉崎 治彦 ( )	△村上 隆三 ( )	△西岡 宏 ( )	△宮川 英之 ( )	( )	( )	
( )	△村上 隆三 ( )	△西岡 宏 ( )	( )	( )	( )	( )	
( )	△福田 寛 ( )	△宮川 英之 ( )	( )	( )	( )	( )	
( )	△村上 隆三 ( )	△福田 寛 ( )	△吉崎 治彦 ( )	( )	( )	( )	
( )	△今荘 茂 ( )	△村上 隆三 ( )	△平塚 善実 ( )	( )	( )	( )	
( )	△今荘 茂 ( )	△西岡 宏 ( )	△村上 隆三 ( )	△宮下 英雄 ( )	( )	( )	
( )	△村上 隆三 ( )	△宮下 英雄 ( )	△三原 宏之 ( )	△岩間 茂樹 ( )	△中村 弘志 ( )	( )	
( )	△村上 隆三 ( )	△宮下 英雄 ( )	△柏本 宏和 ( )	△岩間 茂樹 ( )	( )	( )	
( )	△高島 敬治 ( )	△西岡 宏 ( )	△岩間 茂樹 ( )	( )	( )	( )	
( )	△宮下 英雄 ( )	△高島 敬治 ( )	△西岡 宏 ( )	△岩間 茂樹 ( )	( )	( )	
( )	△宮下 英雄 ( )	△高島 敬治 ( )	△西岡 宏 ( )	△本庄 薫 ( )	△宮川 英之 ( )	( )	
( )	△宮下 英雄 ( )	△高島 敬治 ( )	△西岡 宏 ( )	△本庄 薫 ( )	△宮川 英之 ( )	( )	
( )	△宮下 英雄 ( )	△高島 敬治 ( )	△西岡 宏 ( )	△本庄 薫 ( )	△桂田 依子 ( )	( )	
( )	△宮下 英雄 ( )	△松田 淳司 ( )	△田村 友一 ( )	△西岡 宏 ( )	△本庄 薫 ( )	△桂田 依子 ( )	
( )	△田村 友一 ( )	△宮下 英雄 ( )	△北川 正人 ( )	△本庄 薫 ( )	△桂田 依子 ( )	△吉森 貴規 ( )	

●滋賀県小学生バドミントン連盟

滋賀県バドミントン協会小学生連盟史

滋賀県小学生バドミントン連盟
部長　　中川　文雄

長浜市の協会長に就任して、毎年小学生を対象とした教室を開講していました。昭和57年の4月にその教室の講習生をクラブ員に協会の賛同者を講師にお願いして“長浜少年バドミントンクラブ”を発足しました。定期的に練習を重ねていると、日を追って実力が上がっていくのがよくわかりました。そして、いろいろなところで情報を得て練習試合をお願いして子供たち、父兄とともに出かけていきました。峠　勝也氏が指導されていた金田クラブ、小田喜世子氏が指導されていた平野スポーツ少年団などへは何度もお世話になりました。その際、県大会開催の必要性を説き、もしも開催可能ならば参加していただくことをお願いしました。

長浜市の協会の役員として県協会の会議に出席していた私は県小学生大会開催の是非を澤協会理事長や宮崎よしえ氏に相談を持ちかけ、できたらやりなさいということで了承を得ました。二人にはアドバイスをいただき、第1回滋賀県小学生バドミントン大会の要綱を発送するにいたりました。発送に当たっては県バドミントン協会のルートの郡市協会からと、県体育協会の郡市支部からの2系統から小学生のチームへ参加依頼文とともに発送しました。それまでは県協会は小学生に関しては、まったく情報を持っておらず、果たして参加するチームがあるのか、どのくらいのチームがあるのかまったくつかめませんでしたが、まず第1歩だという感覚でもくろみましたが、参加するチームがなかったらどうしようとエントリーしてくるまでは不安でした。　　昭和57年11月28日　長浜市民体育館において第1回滋賀県小学生バドミントン大会開催にこぎつけたのでした。参加チームは7チーム、参加選手は79名。第1回参加チーム、および代表者名は次のとおり（敬称略）です。金田クラブ；峠勝也、河西小；剱熊恵潤、草津ちびっ子；中川安雄、阪本スポ少；吉田茂、平野スポ小；小田喜代子、石部クラブ；佐藤宝一、長浜少年；中川文雄。当日代表者会議を持ち、年毎にとシングルスの大会を2回ずつ開き、回り持ちで運営することを決定しました。何回か大会を持っているうちに強いからという理由で、5年生女子を6年生の部にエントリーするということがありました。毎回定例の会議でそのことを議題にかけて、連盟の試合というものは、競技力の競い合いを主目的にしてはならない。よりたくさんのプレーヤーが参加できるような普及を目的とするものでなくてはならない、このことを大会および連盟の骨子であると認識しあいました。そして連盟の代表は私が務めることになり、大会要綱発送、申し込み受付も両方とも私のところにしました。同時に春の大会は北地区が受け持ち、秋の大会は南地区がやることに決定しました。60年の初期のころはブラザーピコワードという電子タイプライターで名前だけをタイプしコピーして張り付けるようなことをやっていたので、時間がかかり、役員4、5人で土曜の夜から日曜の朝までかかってやっていたものでした。昭和59年の第4回大会から彦根の明和クラブ；安澤良夫代表や高月クラブ；嶋津和男代表などが参加するようになり8チーム、167人の参加者が集うようになりました。この年度の県協会の会議の折に澤理事長に、かなり連盟の選手たちも協議レベルが上がってきているので他県の選手たちと対戦したい、といっておきました。

第4回大会が終わり、まもなく、澤理事長から電話があり、近畿協会の理事会で隣の奈良の大麻から来たという理事が“交流大会を持ちたいものだ”と

いうことだったからどうだろうという知らせをいただき早速連絡してみました。“個人的には開催したいが、一度理事長とも相談して会議にかけてからにしてほしい”ということでした。なかなか進みにくいと感じ、一応ストップということにしました。

じっと考えていればいるほど何とかやるべきだという気持ちが高まってきたので、今度は京都協会の方へ話を持っていきました。小学生の組織の窓口は大前さんという方がやっておられて、私の言った提案はすぐにOKになり、やりましょうということになりました。しかし京都はまだ組織がそこまでやれるほどには固まってないので初回の大会は滋賀でお世話願えないかということになりました。

昭和59年8月5日彦根印刷局体育館で第1回京都滋賀小学生交流大会が開催されました。続きということで同年8月25日の京都府小学生大会に県の上位選手達が出場しました。その結果は京都新聞に掲載されました。

次の60年京都府の当番にあたり日程を聞くと京都でもっと大きな大会にして開催するので滋賀も参加してほしいとのことでした。それが今の若葉カップの前身の全日本ジュニア大会だったのです。以後、京滋交流大会はなくなりました。

県大会が始まって3年ぐらいたってくると、今度はダブルスをいれたらという意見が出始めました。特にコーチがレディースの方が多いクラブは強く要望されました。組織が出来てすぐのチームは強く反対していましたが、61年度から年に1度夏季に行うことにしました。ずっと金田クラブの峠氏が読売新聞からサポートを受ける世話をしてくれていましたが、仕事の分担の徹底化からこれを断ることにしました。

より多くの子供たちが試合に参加できるようにと、5・6年男子、5・6年女子、4年生以下、混合と4種目を作り、チームの1人だけは他のチームと出てもいい、ということを申し合わせました。会場はダブルスに限り、ずっと高月町民体育館を使ってきましたが、今はいろいろな体育館で行われるようになっています。

昭和63年から近畿バドミントン協会が主催で近畿小学生大会という名称の県対抗の団体戦が行われることになりました。近畿の指導委員会でずっと懸案になっていて、やっと実現したのでした。その第1回は奈良大和高田市の体育館でした。男子の部では酒井君がいたのですが2：2ともつれ、最後の第3シングル青山君で決まる試合となりました。もう夕暮れ時となり採光の悪い体育館は選手にとってつらいゲームだったのですが、力を振り絞って勝ちを収め最初の団体戦の勝利を収めたのでした。この大会は各県持ち回りで行われています。昭和64年からは秋の県大会終了後に近畿大会の選手発表を行い、後日に大会に向けての強化練習会を持ちました。そして大会に出場する子供たちの体力テストを行いました。筑波大学の阿部先生たちが訳されたジェイクダウネー氏が書かれた方法で64年と65年の2回資料を得ました。

バドミントン選手の体力特性を数字として知りたかったのです。これをやらせると体の動きが悪くなって練習に差しさわりが出ると強く言う指導者がいて2回で終わってしまいました。この資料は県強化部やそのほか研究者の役にたっています。結論から言えば、バドミントンを始めたばかりの時期においては、筋力、反射神経など世間で言う運動神経のいい子がいい競技成績を収めやすいが、5、6年の高学年になるにしたがって、知覚的要素が体力的要素を越え気味になっていくということです。

この結果から読み取って純粋培養的に競技成績のいい選手を作ろうとすれば小さいときには動体視力などの体に負担をかけないところを徹底的に教え込み、シャトルの軌跡を肌で読み取れるような立体感やスピード感などの知覚発達を促すような練習法を開発し、なおかつ子供にバドミントンを好きでずっとやり続けるような方法を見つけ出すことが必要かと思います。

振り返ってみますと、私もずいぶん長く小学生連盟にかかわらせていただき、今また草薙峯夫氏、伊佐恒範氏に引き継いでいただいております。競技レベルも格段に向上し坂本の山田杉男夫妻をはじめベーシックの西村宗太郎氏、田中絹子氏、彦根の酒井道央氏などの地道な努力により、着実にアップして

おります。

平成５年ごろから会計と事務は田中絹子氏にお願いし、連盟の運営に関しては桐原東の加納英子氏に特にお世話になりました。

この連盟にとって、中心となる指導者たちだけでなく裏でがんばっていただいた各チームの役員の方々もこの連盟を動かしていく上でずいぶんお世話いただきました。城西の村岡さん、上田さん、ベーシックの中辻さん、坂本の三条さんお世話になりました。

この文を書くに当たり資料をお出しいただいたベーシックジュニアの田中絹子さんや、クラブ役員の方々、ありがとうございました。この文を借りてお礼申し上げます。そして滋賀県小学生連盟のご発展をかげながらお祈りいたしております。

若葉カップ全国小学生バドミントン大会

於：西山公園体育館

第３回　Ｓ62．８．８～10
男子２位　彦根ジュニア

第４回　Ｓ63．８．６～８
男子２位　彦根ジュニア

第５回　Ｈ１．８．５～７
男子優勝　彦根ジュニア
田中聡哉・臼井隆博・松本恭行
木村信一・清水聡司・向　裕樹
田中大樹・岡本　健・中島一裕
木村健一

第６回　Ｈ２．８．４～６
男子３位　彦根ジュニア

第７回　Ｈ３．８
女子３位　坂本スポーツ少年団

第10回　Ｈ６．８．20～22
女子３位　坂本スポーツ少年団

第11回　Ｈ７．８．20～21
女子３位　坂本スポーツ少年団

第12回　Ｈ７．８．20～21
女子３位　坂本スポーツ少年団

第13回　Ｈ８．８．19～21
男子優勝　坂本スポーツ少年団
山口公洋・辻田嘉章・吉田康範
廣田成克・数野健太・多谷公志
早川賢一

第13回　Ｈ９．８．16～18
男子優勝　坂本スポーツ少年団
数野健太・多谷公志・早川賢一
北川達之・森沢　聡・山本啓奨
矢部謙太

第14回　Ｈ10．８．16～18
女子３位　坂本スポーツ少年団

第16回　Ｈ12．８．４～７
女子３位　坂本スポーツ少年団

第17回　Ｈ13．８．３～７
男子３位　坂本スポーツ少年団
女子３位　坂本スポーツ少年団

第18回　Ｈ14．８．２～６
男子優勝
宇野賢人・村上　俊・桂　大晃
矢部拓也・平井優也・村上太郎
河崎駿輔・三津川剛史

近畿バドミントン競技会

第1回　S63.12.4
　奈良大和高田市総合体育館
男子1位　滋賀A
　青山康二、酒井将之、村岡　聡、越川雅行、
　中川由也、田中聡哉、臼井隆弘、多賀　太
　向　裕樹

第2回　H2.12.2
　サントリー箕面総合トレーニングセンター
男子2位　滋賀A

第3回 H2.12.2
　京都西山公園体育館
男子1位　滋賀
　多賀　太、岡本　健、向　裕樹、石田貴彦
　田中大樹、中島一裕、高橋尚之、藤井　大
　中島義晴、堀居良正

第4回 H.3.12.1
　宝塚市立スポーツセンター総合体育館
男子2位　滋賀
女子2位　滋賀A

第5回 H4.12.1
　近江八幡市立運動公園体育館
男子2位　滋賀A
女子2位　滋賀A

第7回 H6.12.4
　大和高田市総合体育館
男子3位　滋賀
女子1位　滋賀A
　澤　憂妃、川島　彩、廣田綾子、古川亜希子
　早川由希子、高倉美香、多谷郁恵、山本知佳
　中村美咲、小川仁美

第8回 H7.12.17
　大阪市立東淀川体育館
女子1位　滋賀A
　早川由紀子、多谷郁恵、高倉美香、山本知佳
　村北ひろみ、三条幸菜、浦川千智、北村　梢
　三条麻奈、中村百合

第9回 H8.12.8
　西山公園体育館
男子1位　滋賀
　辻田嘉章、山口公洋、喜田康範、廣田成克
　数野健太、多谷公志、長谷川尋史、細川俊彰
女子2位　滋賀B
　3位　滋賀A

第10回 H9.12.7
　グリーンアリーナ神戸
男子1位　滋賀A
　数野健太、多谷公志、塚田哲也、細川俊彰
　早川賢一、大杉健太、西村和晃、塚田哲也
　2位　滋賀B
女子1位　滋賀A
　三条麻奈、中村百合、善利麗子、池田　睦
　垣岩麻美、甲斐あずさ、村上翔子、田中美穂子

第11回 H10.12.6
　男子　2位滋賀A
　　3位滋賀B
　女子　2位滋賀A

第12回 H11.12
　女子　1位滋賀A

第13回 H12.12
　男子1位　滋賀
　女子3位　滋賀A
　　3位　滋賀B

第14回 H13.12.2
　男子1位　滋賀

第15回 H14.12.8
　男子1位　滋賀A
　女子3位　滋賀A

●滋賀県社会人バドミントン連盟

全日本社会人選手権大会

全日本社会人選手権大会　（男子）

年度	優勝	2位	3位
1991	単　江藤　裕樹 複　松浦　進二 混　辻田　泰昌	単　辻田　泰昌 複　早戸　敬雄	
1992	複　松浦　進二	単　辻田　泰昌 複　早戸　敬雄 複　西山　博司	単　鈴木草麻生 〃　辻田　泰昌 複　早戸　敬雄
1993		単　辻田　泰昌 複　江藤　裕樹	単　江藤　裕樹 複　辻田　泰昌
1994			単　辻田　泰昌 複　江藤　裕樹
1995			複　早戸　敬雄
1996			複　早戸　敬雄

全日本社会人選手権大会　（女子混合）

年度	優勝	2位	3位
1980	混合複 谷　美津代・ 森下　一夫		
1983			単　西村美千代 複　岩見　洋子 〃　西村美千代
1984		混　西村美千代	単　西村美千代
1985			複　平山美恵子 混　川島　直子
1986			混　西村美千代
1989		単　北浦　道代	
1990			混　西村美千代
1992		単　北浦　道代	
1993			単　北浦　道代

第3章

各市協会のあゆみ

●八日市市バドミントン協会

バドミントン協会の歩みと活動

小梶　隆司

連盟の発足

現在の協会の母体となるべき八日市市バドミントン連盟が発足したのは、昭和46年である。

これ以前においては、市役所バドミントン部が中心となり、市民体育大会などの活動がなされていた。

昭和46年頃になると、中学校や高校での経験者が数多く社会に輩出し、これらバドミントン愛好者の親しむ機会を設け、併せて普及を図ろうと、発足の動きが出てきた。

当時発足の中心となったのが、平岩晴雄、小嶋清治、堤昭広氏らである。市内の愛好者に広く呼び掛け、これに市役所バドミントン部（西村和男、村松慶蔵、藤本治氏ら）が加わり、八日市市バドミントン連盟が設立された。

設立当初は、役員が20歳代と若く、組織の運営や活動方法について経験がないため、当時八日市高校バドミントン部顧問の沢長寿先生（現滋賀県バドミントン協会会長）の指導・助言を受けていた。当時のエピソードとして、沢先生が物理の教諭であったため、物理室において会議を行い、茶碗代わりにビーカーでコーヒーを飲んだことがあった。

又、この頃は体育施設も少なく、練習場所がなかったため、よく八日市高校バドミントン部と一緒に練習していた。



〔発展の時代（昭和50年代）〕

連盟発足後、まず初めに取り組んだのが市民大会の開催である。市内の愛好者に呼び掛け、春季と秋季に市民バドミントン大会を行い、50人を超える参加者があった。楽しむことを目的に、敗者復活戦やリーグ戦など試合方法に工夫をこらしていた。このような大会は、一時期開催出来ない時期もあったが、近年では、総合バドミントン大会とクラス別バドミントン大会として引き継がれている。

大会のほかに取り組んできたのが、バドミントン教室の指導である。昭和52年頃から、市教育委員会主催によるバドミントン教室が数多く開催され、小嶋、小梶両氏を中心に、役員がその指導にあたり普及に努めた。しかし、当時は指導者が現役プレーヤーを兼ねていたため、教室終了後のクラブ育成にまでは手が回らなかった。普及を考えると誠に残念であった。しかし、一部ママさんクラブの誕生をみることができた。本市で最も早く結成（昭和53年）されたのが、御園地区ママさんバドミントンクラブである。その後発展的分裂、解散を繰り返し、現在では、若葉クラブ（昭和56年結成）と玉緒クラブ（昭和62年結成）がある。その他、八日市地区バドミントン教室から生まれた八日市ママさんバドミントンクラブがある。



又、昭和52年には、連盟から協会に名称を変更し、新たなスタートを切っている。

〔充実の時代（昭和50年代後半～現在）〕

発足当時の役員であった村松、藤本、堤氏らに加え、50年代半ばから小梶、山路、中谷、野村、佐藤氏などの役員が加わり、協会組織の充実を見ることができた。これに併せて、昭和58年には、八日市市が周辺10町に声をかけ、湖東バドミントン連絡協議会の結成と湖東大会の開催を行い、広域的な活動を展開している。

近年では、市内事業所にも５～６クラブがあり、これらを包括した協会活動の展開と、中学校、高校とつながりのある体制づくりなど底辺の拡大、さらには若手競技選手の育成などを目指している。

〔本市の競技力〕

本市の競技レベルは非常に高く、平岩、小嶋、小梶、増田氏などの国体選手を輩出し、県民体育大会においても、毎年上位入賞を果たし、ここ６年間連続優勝を成し遂げている。

●高島郡バドミントン協会

高島郡バドミントン競技部・協会の歴史

初代会長　　三宅　明

昭和 30 年　高島郡体育協会バドミントン部設立の届
郡民体育大会はオープン競技として参加
郡体と平行して講習会を開催
軟式テニスなどの参加者も含めバドミントンの楽しさの普及に努める
県体に参加（昭和 29 年から参加している）以後毎年参加

昭和 31 年　郡民体育大会オープン競技として講習会を実施、競技の普及を図る
高島郡内の各町村青年学級・青年団活動にバドミントン講習会実施（講師：三宅、今井）
これ以後スポーツ教室、講習会、クラブ活動の講師を頼まれる

昭和 32 年　高島郡体協に正式種目として加盟
部長　今井恒夫(昭和 35 年まで４年間)
参加者は少ないが町村対抗の得点種目として各町村から参加者があった

昭和 33 年　京都府大西川硅一が参加する
県体好成績
志賀町レクリエーション大会講師…
講師　三宅

昭和 36 年　部長　三宅　明
(以後昭和 56 年まで 21 年間)

昭和 39 年　高島高校バドミントン部設立
たびたび指導に訪問

昭和 40 年　高島高校バドミントン部創設
顧問　根来　旭
今津中にバドミントン部創設
顧問　千田敏彦

昭和 42 年　県体バドミントン郡市対抗に優勝
藤上良英・八代　益
女子の部県体に初出場
志賀中学にバドミントン部創設（根来旭）中学ブロック大会開催

昭和 45 年　安曇川高校にバドミントン同好会できる

昭和 52 年　郡体；町村対抗団体戦（１Ｄ・２Ｓ）
実施　個人戦
高島郡バドミントン選手権大会実施
県体女子　熊谷・山崎　ベスト４

昭和 57 年　部長　金田悦男（以後 59 年まで３年間）

昭和 60 年　競技部長　中村忠男（以後平成８年まで 12 年間）高島郡バドミントン協会設立を計画

昭和 61 年　高島郡バドミントン協会設立
役員
会長　三宅　明 就任（平成２年まで５年間）
副 会 長　横木　薫
理 事 長　中村忠男
副理事長　中谷一朗
事務局長　山田謙二
副事務局　山本宏和
登録会員　一　般　61 人
高校生　43 人　で発足
郡体、高島郡バドミントン選手権大会
ダブルス大会　講習会・教室実施

平成３年　高島郡バドミントン協会会長に中村忠男就任（現在まで 12 年）現在に至る

平成９年　競技部長　中谷一朗（現在まで６年間）

平成 14 年　平成 14 年度
高島郡バドミントン協会役員
会　　長　中村忠男
副 会 長　山本宏和
理 事 長　奥津達弥
副理事長　入江芳紀

昭和29年に今井、三宅の二人が滋賀大のバドミントン部に入り、夏県体に高島郡から出場して県下のバドミントン競技の普及状況を知った。高島郡でも是非普及させたいと考えたのが普及の始まりで、昭和36年今井が大津市へ転勤した後は孤軍奮闘となった。学生時代から講習会の講師として高島郡はもちろん滋賀郡、伊香郡へも頼まれて出かけた。

郡体中心で進んできたが高校生が卒業した昭和42年ごろから活動が軌道に乗り出した。中学にもバドミントンクラブが定着し、町村間の交流も積極的になされるようになって選手権大会やクラス別の大会を望む声も聞かれ、60年から協会の組織作りに取り組んでくれた中村忠男、中谷一朗、山田謙二、山本宏和などの功績は大きいものがある。高島郡のバドミントン協会地道な努力と発展していく様子をこれからも見守っていきたい。

●甲賀郡バドミントン協会

甲賀郡バドミントン協会の歴史について

副会長・理事長　　佐藤　宝一



県バドミントン協会誌を発刊するにあたり、合わせて甲賀郡バドミントン協会の歴史についての、執筆依頼が参りました。何を書けばよいのやらと思い巡らす日々でございましたが、思い出すままに、書いてみようと思い筆をとった次第です。

もともと私個人は、甲賀中学一年から三年間バドミントンにあけくれ、皆から一目おかれるほど強いと目されていました。当時、郡内でバドミントン部があったのは甲賀中学校、甲西中学校ぐらいで、県下では粟津中学校、打出中学校というところが強豪でした。

大学卒業後、入社10年頃病気にかかったのですが、そのとき長年離れていたバドミントンのことを思いだし、夢中で打ち込んだところすっかり病気が全快したということがありました。このことがきっかけで、その後再びバドミントンのとりことなり、今日、郡バドミントン協会の副会長・理事長としてバドミントンの普及に及ばずながら尽力させていただいています。

昭和58年頃、郡では、正式の協会らしきものはなかったのですが、ちょうど昭和59年6月現県バドミントン協会会長澤長壽氏から、発足にむけてのご協力を頂き、初代の理事長に就任致しました。

甲賀郡は全部で7町ありますが、各町から2名ずつ理事になって頂き、会長に澤長壽氏、理事長に佐藤宝一、副理事長に寺沢元史氏、山田政明氏、中島美智子氏の3名が就任致しました。一時、理事長に山田康廣氏が就任されましたが、その後再度佐藤が副会長・理事長として尽力させて頂いています。

当初、甲賀郡バドミントン協会のメイン事業は、県体でしたが、当時の甲賀中学の先生をしておられた平塚善実氏が強く、県体でもシングル戦で優勝をされました。（昭和60年頃）その後も、県体には、毎年出場し、大勢の選手を送り出しました。

それと合わせて、郡内での大きな大会のひとつに甲賀郡バドミントン大会があります。第1回は、甲賀郡バドミントン協会が、発足したその年の昭和59年9月甲賀町公園体育館で開催し、男子（初級、中級）、女子（初級、中級）混合ダブルス5種目の大会を開き、山下・山村組、近藤・赤羽組、沖・森地組、植谷・柴田組、橋本・中島組、が優勝されました。それが現在、平成14年で第32回を数えるまでになりました。各町を持ち回りで、年2回春、秋に開催していて、バドミントン愛好者のイベント行事の一つになっています。

毎年続けているうちに、女子だけの大会を開きたいとの要望を受け、甲賀郡レディースバドミントン大会を開催するようになりました。第1回は、平成3年3月24日石部町で開催しました。それに合わせて組織も女子の理事参加をつのり、理事長代行に中島美智子氏が就任し、総勢21人の大所帯で運営することになりました。そして平成8年度より毎年3月に土山町、甲南町持ち回りで、開催するようにしています。

第4章

滋賀県選手の戦績記録

滋賀県総合選手権大会　栄光のあと

年　度	種　目		1位	2位	3位
第26回 昭和49年度	男　単		藤原健二	藤上良信	小梶隆司
	女　単		森下明美	滝洋　子	柴田真弓
	男　複		藤原・藤上（信）	藤上（英）・久保田	増田・小梶
	女　複		山田・坂山	柴田・川崎	滝・元持
第27回 昭和50年度	一部	男　単	藤原健二	藤上良信	小梶　隆司、西山　博司
		女　単	柴田真弓	滝洋　子	関東定美、岡本久子
		男　複	藤原・藤上（信）	小嶋・小梶	上田・富田、藤上（英）・久保田
		女　複	駒村・森下	柴田・岩根	関東・貝瀬、黒岩・岡本
	二部	男　単	山本　昇	川副道博	中藪高志、田中敬一
		女　単	川島直子	奥村ふみ子	連ひとみ、森本平子
		男　複	浜本・西江	吉田・平塚	寺田、西村、岸・田中
		女　複	川島・中沢	西村（さ）・森本	山田・西村（み）、橋本・村田
		混合複	小嶋・山脇	平岩・藤井	安藤夫妻、川戸・北村
第28回 昭和51年度	男　単		藤上良信	藤原健二	西山博司、山田和樹
	女　単		服部直子	川島直子	柴田真弓、井上ゆかり
	男　複		藤原・藤上（信）	北橋・山之上	西山、矢部、山本・山岡
	女　複		柴田・川島	西村（み）・山田	榎並、内藤、森本・西村（さ）
	混合複		森居・吉田	平岩・滝	荒木・大田、和田・河村
第29回 昭和52年度	男　単		西山博司	藤原健二	小梶隆司、横山昌弘
	女　単		川島直子	榎並美佐子	岩見洋子、西村佐和子
	男　複		藤原・小梶	西山・矢部	山本・山岡、脇阪・横山
	女　複		西村（さ）・川島	井上・若村	服部・田中、岩見・西村
	家庭婦人		山本・富岡	西村・山田	坂本・畠中、住井・阿閉
第30回 昭和53年度	男　単		藤上良信	山本裕幸	横山　昌弘、近藤　雅明
	女　単		西村美千代	倉見安世	服部　直子、井上ゆかり
	男　複		脇阪・横山	藤上英・藤上信	小梶・小嶋、山田・矢部
	女　複		西村（美）・吉田	阪口・西村（依）	倉見・辻、原田・森
	混合複		藤上（英）・服部	日盛・山田	前川・西村（み）、津本・栗本
	家庭婦人		藤原・宮地	大音・岩根	住井・阿閉、門脇・大地
第31回 昭和54年度	男　単		西村龍夫	西村金治	増田伊知郎・横山昌弘
	女　単		服部直子	西村美千代	若村弥生・磯野恵理子
	男　複		藤上（信）・西村（金）	藤原・小梶	矢部・増田、西村（龍）・横田
	女　複		西村（美）・磯野	岩見・服部	阪口・榎並、滝・山脇
	混合複		藤上（英）・井上（敦）	酒人立・原田	小嶋・大西、北川・浅野
	家庭婦人		早川・藤上（佐）	寺本・栗田	畠中・本島、山根・谷口
第32回 昭和55年度	男　単		西村龍夫	西村金治	中村　亨・増田伊知郎
	女　単		平山美恵子	萬宮由美	西村康子・正田美智子
	男　複		西村（金）・増田	中村・藤堂	松浦・西堀、藤原・藤上（信）
	女　複		藤上（佐）・宇山	阪口・榎並	辻・大伴、平山・萬宮
	混合複		藤上（英）・藤原（康）	国門・中村	平岩・徳田、駒井・武田
	家庭婦人		古沢・小嶋	戸田・上村	国門・田中、武田・藤井

年　度	種　目	1位	2位	3位
第33回 昭和56年度	男　単	西村龍夫	北橋進	増田伊知郎・西村金治
	女　単	谷美津代	平山美恵子	磯野佐智子・倉見陽子
	男　複	増田（伊）・中村（亨）	西村（金）・北橋	藤上（信）・西村（龍）、辻田・杉本
	女　複	藤支・倉見	平山・萬宮	沢田・増田、若村・辻
	混合複	藤上（信）・藤上（佐）	横田・阪口	藤原（健）・藤原（康）、藤上（英）・神前
	家庭婦人	藤上（佐）・石津	国門・田中（志）	谷口・間渕、野木森・崎谷
第34回 昭和57年度	男　単	松浦進二	辻田泰昌	西村龍夫、杉本吉男
	女　単	青山寿美	加藤典恵	田路淳子、沢田礼子
	男　複	辻田・杉本	松浦・山本（裕）	増田（伊）・中村（享）、矢部・藤堂
	女　複	倉見・藤支	赤井・磯野	青山・山田、沢田・増田
	混合複	藤上（信）・藤上（佐）	藤上（英）・宮地	藤井・沢田、平岩・中村
	家庭婦人	藤上（佐）・西村	藤原・宮地	小島・川村、国門（登）・土田
第35回 昭和58年度	男　単	北橋進	西村龍夫	西村金治、藤堂真
	女　単	青山寿美	山田千満子	辻祝子、中井幸恵
	男　複	西村（金）・北橋	中村・藤堂	江藤・中川（康）、松本・中川（健）
	女　複	青山・赤井	山田・上羽	中井・池田、藤本・間芝
	混合複	藤上（英）・石津	古川・中川	林・辻、酒人立・森
	家庭婦人	石津・崎谷	木村（克）・中村	宇野・本島、畠中・山根
第36回 昭和59年度	男　単	西村龍夫	北橋進	西村金治、中川康
	女　単	青山寿美	北浦道代	片嶺典子、沢田礼子
	男　複	西村（金）・北橋	山本・江藤	中川（健）・中川（康）、中村・藤堂
	女　複	青山・赤井	藤本・池田	北浦・間芝、沢田・西山
	混合複	藤原・伊藤	藤上（英）・石津	藤上（信）・中井、松本・藤本
	家庭婦人	石津・伊藤	小嶋・川村	佐々木・中田、木村・山根
第37回 昭和60年度	男　単	辻田泰昌	西村龍夫	片岡健二、山口哲浩
	女　単	北浦道代	青山寿美	田中美和、松浦薫
	男　複	竹端・中川（健）	奥村・中川（康）	辻田・山口、北川・小林
	女　複	北浦・池田	中井・中川	加藤・青山、田中・松浦
	30男単	藤上良信	脇阪重之	前田光好、伊佐恒範
	30男複	藤上（信）・伊佐	藤上（英）・久保田	脇阪・片山、前田・吉原
	30女複	石津・伊藤	小嶋・川村	山根・江熊、谷・国門
	40男単	藤上良英	富田健一	安沢良夫、峠勝也
	40男複	安沢・峠	近藤・山田	
	16才男単	鈴木草麻生	大岡俊博	戒章美、内堀勝弘
	16才女単	河村祐子	田中晴美	村松英子、三木かおり
	16才男複	鈴木・大岡	松浦・戒	阪田・辻村、内堀・久下
	16才女複	河村・松井	村松・田中	三木・谷本、南・長瀬

年　度	種　目	1位	2位	3位
第38回 昭和61年度	男　　単	鈴木草麻生	辻田泰昌	西村龍夫・中橋一晃
	女　　単	中井幸恵	河村祐子	西山幸恵・加藤典江
	男　　複	鈴木・中橋	北橋・中川（健）	西村（金）・竹端、辻田・谷
	女　　複	杉本・杉本	河村（ユ）・田中	西山・中川、加藤・中井
	30男単	藤上良信	藤上良英	横山昌弘、前田光好
	30男複	藤上（英）・藤上（信）	脇阪・横山	中川・野木、前田・吉原
	30女複	藤上（佐）・山根	篠原・藤本	加納・内海、成瀬・米倉
	40男単	富田健一	田村順司	陶山明宏、峠勝也
	40男複	富田・峠	陶山・村田	
	16才男単	福知俊治	森本英幸	三宅恒久・大塚保
	16才女単	福知・平井	三宅・饗庭	森本・藤本、山名・大塚
	16才男複	藤元美香	西田美由紀	島田栄実、筒井真紀
	16才女複	西田・国分	筒井・島田	藤元・河村（益）、上田・山本
第39回 昭和62年度	男　　単	西村金治	西村龍夫	鈴木　草麻　　生北橋　　進
	女　　単	藤元美香	上田祥子	中井　幸恵　　筒井　真紀
	男　　複	西村（金）・北橋	中川（健）・中川（康）	沢村・小田　　中橋・三宅
	女　　複	杉本（由）・杉本（久）	河村・田中	上田・藤元　　中井・西山
	30男単	野木秀樹	木下寿則	脇阪　重之　　横山　昌弘
	30男複	横山・野木	木下・脇阪	剣熊・金子
	30女複	北川・青木	住井・山根	平賀・古川　　上坂・了戒
	40男単	藤原健二	国門学	吉原　和夫　　中川　文雄
	40男複	藤原・国門	富田・峠	中川・吉原　　安沢・田中
	16才男単	小河原崇	相賀学	木村　達也　　石井　恵介
	16才女単	小河原・武田	松井・高岸	相賀・古澤　　高橋・松尾
	16才男複	鈴木なずな	森恵子	安井　郁子　　松原　弘枝
	16才女複	鈴木・松原	森・岡角	阪東・緒方　　福来・堀尾
第40回 昭和63年度	男　　単	西村金治	小田隆司	小河原崇・三宅恒久
	男　　複	小田隆司・西村金治	三宅恒久・平井肇	小河原崇・三宅恒・久武田康宏☆ 南在健・片岡健二
	女　　単	藤元美香	鈴木なずな	杉本久美・河村益美
	女　　複	杉本久美・杉本由紀路	鈴木・西村（実）	河村益美・藤元美香 中井幸恵・西山幸恵

滋賀県春季総合選手権大会　栄光のあと

年　度	種　目	1　位	2　位	3　位
昭和52年度（第29回）	男　単	藤上良信	藤原健二	横山昌弘
	女　単	服部直子	山脇昌子	沢田とよ子
	男　複	藤原健二	藤上良英	小梶隆司
		藤上良信	久保田良昌	小島清治
	女　複	服部直子	山脇昌子	河村和美
		森下明美	沢田登志子	山室美恵子
	混合複	平岩晴雄	前川周士	日盛守竜
		吉田久美子	土屋　幸	黒岩正子
昭和53年度（第30回）	男　単	藤原健二	横山昌弘	小梶隆司
	女　単	井上敦子	滝　洋子	岩根善美
	男　複	藤原健二	山田和樹	横山昌弘
		小梶隆司	矢部忠司	脇阪重之
	女　複	西村みつ子	河村和美	笹原公子
		山田節子	山室美恵子	笹井昭美
	混合複	藤上良信	西川伊平	前川周士
		藤上佐千子	滝　洋子	山田節子
	家庭婦人	住井則子	畠中美佐枝	藤原康代
		阿閉みよ子	藤上佐千子	平生美津江
				若村みよ子
				西村知子
昭和54年度（第31回）	男　単	藤上良信	横山昌弘	西村金治
				増田伊知郎
	女　単	服部直子	神前洋子	若村弥生
				阪口典子
	男　複	藤上良信	藤原健二	増田伊知郎
		西村金治	小梶隆司	矢部忠司
				脇阪重之
				横山昌弘
	女　複	若村弥生	沢田とよ子	岩根善美
		服部直子	井上敦子	山室美恵子
				滝　洋子
				神前洋子
	混合複	藤原健二	西川伊平	平岩晴雄
		藤原康代	及川恵美子	原　妙子
				田中英明
				山脇昌子
	家庭婦人	藤原康代	大地正子	阿閉みよ子
		宮地玉美	佐々木　幸	富岡幸子
				山田悦子
				西村知子

年度	種目	1位	2位	3位
昭和55年度（第32回）	男単	藤上良信	中村亨	西村金治
				横田悟司
	女単	若村弥生	阪口典子	神前洋子
				榎並美佐子
	男複	藤原健二	増田伊知郎	矢部忠司
		――――	中村亨	藤堂真
				藤上良信
				西村金治
	女複	若村弥生	神前洋子	岡本久子
		阪口典子	榎並美佐子	山田節子
				西村佐知子
				大伴博美
	混合複	藤上良英	前川周士	国門学
		立入綾子	岡本久子	国門登美恵
				山元功
				山田節子
	家庭婦人	住井則子	早川淑代	畠中美佐枝
		阿閉みよ子	栗本逸子	木島美智枝
				松村好末
				藤上佐千子
昭和56年度（第33回）	男単	北橋進	西村龍夫	藤上良信
				西堀武
	女単	谷美津代	岩見洋子	磯野恵理子
				西村三千代
	男複	西村金治	増田伊知郎	藤原健二
		北橋進	西堀武	西村龍夫
				中村亨
				藤堂真
	女複	西村美千代	谷美津代	神前洋子
		磯野理恵子	宇山昌子	滝洋子
				山田千満子
				上羽保子
	混合複	藤上良信	中川吉久	古川正行
		藤上佐千子	堀井清恵	北垣明美
				国門学
				国門登美恵
	家庭婦人	阿閉みよ子	藤原康代	田中志げ子
		住井則子	宮地珠美	国門登美恵
				山根泰子
				藤上佐千子
	30以上単	藤上良英	国門学	駒井朔男
				橋口弘治郎
	30以上複	金海炳根	橋口弘次郎	
		藤上良英	山崎実男	

年　度	種　目	1　位	2　位	3　位
昭和56年度 （第33回）	40以上単	安沢良夫	中川文雄	竹村幸雄
	40以上複	竹村幸雄 稲岡　浩	沢　長寿 中川文雄	
昭和57年度 （第34回）	男　単	北橋　進	西村龍夫	中村　亨 増田伊知郎
	女　単	青山寿美	青木恵子	若林弥生 大伴博美
	男　複	増田伊知郎 中村　亨	横山昌弘 脇阪重之	西村竜夫 西堀　武 北橋　進 西村金治
	女　複	青山寿美 若村弥生	山田千満子 上羽保子	辻　由美子 大伴博美 沢田政子 青木恵子
	混合複	藤上良信 藤上佐千子	田村雅英 萬宮由美	岡本見三 鈴鹿富美子 古川正行 曽和啓子
	家庭婦人	藤上佐千子 石津栄子	国門登美恵 田中志げ子	五十嵐洋子 崎谷志津子 中村信子 木村克子
	30以上単	藤上良信	藤上良英	国門　学 脇阪重之
	30以上複	藤上良英 久保田良易	国門　学 伊佐恒範	安藤　悟 藤谷昌和 今浜英範 明石祐二
	40以上単	峠　勝也	安沢良夫	
	40以上複	安沢良夫 中川文雄	籠谷昌和 峠　勝也	
昭和58年度 （第35回）	男　単	北橋　進	西村龍夫	増田伊知郎 西村金治
	男　複	西村金治 北橋　進	増田伊知郎 中村　亨	藤堂　真 西堀　武 三宅雅夫 江藤裕樹
	女　単	青山寿美	大伴博美	上羽保子
	女　複	青山寿美 赤井恵美子	谷口明子 西山綾子	大伴博美 辻　由美子 加藤典恵 田路敦子

年度	種目	1位	2位	3位
昭和58年度（第35回）	混合複	藤上良信 藤上佐千子	藤上良英 石津栄子	金子健次 吉田由美子 吉田英史 山田千満子
	家庭婦人	石津栄子 藤上佐千子	木村克子 中村信子	中村悦子 中瀬若子 本島美智枝 井上みさ栄
	30以上単	藤上良信	藤上良英	吉原和夫 国門学
	30以上複	平岩晴雄 国門学	峠勝也 中村幸男	吉村比呂志 高橋純
	40以上単	安沢良夫	中川文雄	金海炳根 峠勝也
	40以上複	中川文雄 安沢良夫	田村順司	佐藤宝一 佐藤元協
昭和59年度（第36回）	男単	北橋進	西村龍夫	西村金治 増田伊知郎
	男複	奥村真	増田伊知郎 西堀武	西村金治 北橋進 矢部忠司 川副道博
	女単	青山寿子	沢田礼子	西堀ひさ子 中村恵子
	女複	青山寿子 磯野恵理子	西山綾子 沢田礼子	西堀ひさ子 高橋真樹 上羽保子 山田千満子
	混合複	吉原和夫 磯野恵理子	平岩晴雄 高橋真樹	佐藤清 小島恵美子 佐藤元協 渡辺明子
	家庭婦人	石津栄子 宮地玉美	崎谷志津子 木村登紀子	小島恵美子 中田機子 中村信子 木村克子
	30以上単	前田光好	伊佐恒範	藤上良英 国門学
	30以上複	吉原和夫 前田光好	平岩晴雄 国門学	富田健一 木下寿則 藤上良英 伊佐恒範

年　度	種　目	1　位	2　位	3　位
昭和59年度 （第36回）	40以上単	西川伊平	富田健一	安沢良夫
				中川文雄
	40以上複	中川文雄	峠　勝也	竹内　力
		安沢良夫	西川伊平	山田政明
				田村順司
				稲岡　清
昭和60年度 （第37回）	男　単	西村龍夫	北橋　進	西村金治
				中川　康
	男　複	西村金治	竹端英夫	早戸敬雄
		北橋　進	中川　健	広瀬純吾
				磯田茂和
				片岡憲二
	女　単	北浦道代	片嶺典子	宮野佳子
				間芝睦美
	女　複	間芝睦美	藤本尚子	片嶺典子
		北浦道代	池田芳恵	宮野佳子
				中川　都
				沢田礼子
	混合複	西村龍夫	西川伊平	金子健次
		川島直子	佐倉美智子	坂口人美
				木村　清
				稲垣種子
	家庭婦人	木村登記子	仲川明美	石橋順子
		石津栄子	吉　崎	山根泰子
	30以上男単	伊佐恒範	前田光好	西川伊平
				国門　学
	30以上男複	前田光好	国門　学	
		吉原和夫	伊佐恒範	
	40以上男単	中川文雄	富田健一	峠　勝也
				田村順司
	40以上男複	中川文雄	峠　勝也	近藤元協
		富田健一	田村順司	山田政明

年度	種目	1位	2位	3位
昭和61年度（第38回）	男単	西村龍夫	北橋進	中川康 西村金治
	女単	川島直子	青山寿子	石田昌子 中井幸恵
	男複	西村金治 中川健	竹端英夫 奥村真	田村昌義 斉藤伸 北橋進 広瀬純吾
	女複	青山寿美 川島直子	石田昌子 河村祐子	杉本久美 杉本由紀路 清水幸子 寺村由美
	混合複	服部博司 小野昌子	細野博 加藤典恵	
	高2以下男単	内堀勝弘	松浦幸治	森本英幸 久下弘二
	〃 男複	久下弘二 三宅恒久	松浦幸治 内堀勝弘	大岡俊博 戒章美 森本英幸 饗庭瑞則
	〃 女単	田中晴美	村松英子	三木かおり 藤元美香
	〃 女複	村松英子 田中晴美	松井ゆき子 山本早恵子	上田祥子 藤元美香 谷本豊子 三木かおり
	30才以上男単	藤上良信	伊佐恒範	前田光好 脇阪重之
	〃 男複	脇阪重之 横山昌弘	前田光好 吉原和夫	
	40才以上男単	藤上良英	西川伊平	富田健一 中川文雄
	〃 男複	藤上良英 中川文雄	西川伊平 高木捨雄	

年　度	種　目	1　位	2　位	3　位
昭和62年度 （第39回）	男　単	西村龍夫	鈴木草麻生	西村金治 北橋　進
	男　複	中川　健 中川　康	西村金治 竹端英夫	鈴木・中橋 久下・大岡
	女　単	中井幸恵	河村祐子	松井ゆき子 谷本豊子
	女　複	杉本久美 杉本由紀路	加藤典恵 中井幸恵	吉原・西山 河村・田中
	混合複	細野　博 加藤典恵	松本仁志 西山綾子	
	高2以下 男単	三宅恒久	小河原　崇	平井　肇 福知俊治
	高2以下 男複	福知俊治 平井　肇	藤本明弘 中西厚也	大塚・山名 森本・小河原
	高2以下 女単	山本早恵子	河村益美	田村幾恵 奥村理恵
	高2以下 女複	河村益美 山本早恵子	土田定代 石井博美	小西・奥村 柿田・田村
	30才以上 男単	横山昌弘	藤上良信	野木秀樹 伊佐恒範
	30才以上 男複	中川吉久 野木秀樹	吉原和夫 横山昌弘	中川・陶山 藤上信・久保田
	30才以上 女複	山根泰子 藤上佐千子	篠原昌子 加納英子	
	40才以上 男単	富田健一	中川文雄	陶山明宏 釜屋明宏
	40才以上 男複	富田健一 峠　勝也	田村順司 釜屋明宏	
	50才以上 男単	安沢良夫	酒井道央	

年度	種目	1位	2位	3位
昭和63年度（第40回）	男単	中橋一晃	西村龍夫	北橋進・三宅恒久
	男複	中川康	西村金治	福知俊治・三宅恒久
		中川健	北橋進	中橋一晃・平井肇
	女単	藤元美香	西田実友貴	河村益美・山本早恵子
	女複	杉本久美	藤元美香	河村益美・山本早恵子
		杉本由紀路	上田祥子	中井幸恵・西山幸恵
	混合複	藤原健二	酒人立昌弘	奥村勝・松山千賀子
		藤原康代	太田京子	土屋幸治・土屋理江子
	高2以下男単	小河原崇	武田康宏	木村達也・相賀学
	男複	小河原崇	服部淳也	高岸英樹・松井健
		武田康宏	木村達也	相賀学・古澤芳基
	高2以下女単	森恵子	岡角裕美	松原弘枝・森のぞみ
	女複	森恵子	松原弘枝	下川英理・杉谷英子
		岡角裕美	牛尾祐子	森のぞみ・北村章子
	30才以上男単	藤上良信	横山昌弘	梅本一寛・木下寿則
	男複	藤上良信	中川吉久	
		横山昌弘	野木秀樹	
	40才以上男単	陶山明宏	中川文雄	吉原和男・国門学
	男複	藤原健二	中川文雄	
		国門学	吉原和男	
	50才以上男単	安沢良夫	酒井道央	
	男複	安沢良夫	北村初太郎	
		酒井道央	栄洋一	

年　度	種　目	1　位	2　位	3　位
昭和63年度 （第40回）	男　単	中　橋　一　晃	西　村　龍　夫	北橋　進・三宅　恒久
	男　複	中　川　　康	西　村　金　治	福知　俊治・三宅　恒久
		中　川　　健	北　橋　　進	中橋　一晃・平井　肇
	女　単	藤　元　美　香	西　田　実友貴	河村　益美・山本早恵子
	女　複	杉　本　久　美	藤　元　美　香	河村　益美・山本早恵子
		杉　本　由紀路	上　田　祥　子	中井　幸恵・西山　幸恵
	混　合　複	藤　原　健　二	酒入立　昌　弘	奥村　勝・松山千賀子
		藤　原　康　代	太　田　京　子	土屋　幸治・土屋理江子
	高2以下男単	小河原　　崇	武　田　康　宏	木村　達也・相賀　学
	〃　男複	小河原　　崇	服　部　淳　也	高岸　英樹・松井　健
		武　田　康　宏	木　村　達　也	相賀　学・古澤　芳基
	高2以下女単	森　　恵　子	岡　角　裕　美	松原　弘枝・森　のぞみ
	〃　女複	森　　恵　子	松　原　弘　枝	下川　英理・杉谷　英子
		岡　角　裕　美	牛　尾　祐　子	森　のぞみ・北村　章子
	30才以上男単	藤　上　良　信	横　山　昌　弘	梅本　一寛・木下　寿則
	〃　男複	藤　上　良　信	中　川　吉　久	
		横　山　昌　弘	野　木　秀　樹	
	40才以上男単	陶　山　明　宏	中　川　文　雄	吉原　和男・国門　学
	〃　男複	藤　原　健　二	中　川　文　雄	
		国　門　　学	吉　原　和　男	
	50才以上男単	安　沢　良　夫	酒　井　道　央	
	〃　男複	安　沢　良　夫	北　村　初太郎	
		酒　井　道　央	栄　　洋　一	
平成元年度 （第41回）	男　単	西　村　金　治	北　橋　　進	中川　康・小河原　崇
	男　複	西　村　金　治	南　　在　健	小河原　崇・武田　康宏
		小　田　隆　司	平　井　　肇	中川　康・北橋　進
	女　単	杉　本　久　美	中　井　幸　恵	松原　弘枝・西田実友貴
	女　複	杉　本　由紀路	中　井　幸　恵	松原　弘枝・岡角　裕美
		杉　本　久　美	池　田　よしえ	田中　絹子・安井　郁子
	混　合　複	前　田　憲　宏	田　中　博　司	
		前　田　昌　子	浅　尾　秀　美	
	高2以下男単	平　野　耕　司	杉　田　満　広	福田　寛・桑野　晃一
	〃　男複	平　野　耕　司	塚　本　和　広	杉田　満広・重山　教昭
		桑　野　晃　一	河　村　　剛	藤井　孝賢・堀江　洋行
	高2以下女単	森　　のぞみ	下　川　英　理	杉谷　英子・安井　郁子
	〃　女複	下　川　英　理	森　　のぞみ	木村　有利・山口　智子
		杉　谷　英　子	北　村　章　子	牛尾　祐子・前田恵理子
	30才以上男複	大辻子　了　二		
		酒入立　昌　弘		
	〃　女複	西　村　ミヤ子		
		畠　中　美都江		
	40才以上男単	陶　山　明　宏	富　田　健　一	木下　寿則・中川　文雄
	〃　男複	木　下　寿　則	田　村　順　司	
		富　田　健　一	中　川　文　雄	
	〃　女複	安　井　志津子		
		川　治　香　木		
	50才以上男単	安　沢　良　夫	北　村　初太郎	
		安　沢　良　夫	北　村　初太郎	
	〃　男複	酒　井　道　央	尾　本　日　吉	

年度	種目	1位	2位	3位
平成2年度（第42回）	男単	中川 康	杉田 満広	西村 龍夫・北橋 進
	男複	西村 金治	藤上 良信	北橋 進・小田 知則
		小田 隆司	藤原 健二	桑野 晃一・平野 耕司
	女単	西田 実友貴	杉本 久美	森 のぞみ・下川 英里
	女複	西田 実友貴	池田 芳恵	杉本 久美・杉本由記路
		下川 英里	中井 幸恵	森 のぞみ・井上美由紀
	混合複	中村 敬仁	藤上 良英	細野 博・加藤 典恵
		野洲 よしみ	山中 園美	田中 博・浅尾 秀美
	高2以下男単	平井 達也	宇野 忠男	村上 哲也・宮崎 誠二
	〃 男複	平井 達也	宇野 忠男	山田 義徳・宮崎 誠二
		白子 聡	村上 哲也	山中 健史・倉橋 正泰
	高2以下女単	三井 香苗	西岡 真知子	成瀬 友美・安井 郁子
	〃 女複	安井 郁子	浅尾 陽子	西岡真知子・米倉 歩
		三井 香苗	山田 架代	森本 雅美・澤 緑
	30才以上男単	横山 昌弘	前田 憲宏	野木 秀樹
	〃 男複	前田 憲宏	横山 昌弘	里井・田中 裕司
		西岡 宏	野木 秀樹	
	30才以上女複	西川 久子		
		田島 安子		
	40才以上男単	藤上 良英	富田 健一	木下 寿則・田村 順司
	〃 男複	田村 順司	木下 寿則	
		大辻 了二	富田 健一	
	40才以上女複	松宮 マチ子		
		山根 泰子		
	50才以上男単	中川 文雄	安澤 良夫	
	〃 男複	安澤 良夫		
		中川 文雄		
平成3年度（第43回）	男単	中川 康	小田 隆司	白子 聡・吉居 秀
	男複	西村 金治	北橋 進	中川 康・前田 憲宏
		小田 隆司	小田 知則	森山 勝平・田辺 一夫
	女単	松浦 薫	河村 益美	成瀬 友美・杉本 久美
	女複	松浦 薫	池田 芳恵	西岡眞知子・成瀬 友美
		中井 幸恵	河村 益美	米倉 歩・吉田志津子
	混合複	藤上 良信	中村 敬仁	西澤 正勝・田中 博司
		藤上 佐千子	野洲 よしみ	三井 香苗・浅尾 秀美
	高2以下男単	宮原 一郎	伊藤 隆久	黒瀬 和彦・多久島 誠
	〃 男複	清水 敬哲	近藤 正則	上田 達也・山名 秀信
		森 正樹	矢野 義和	富田 義明・山名 義則
	高2以下女単	山崎 十志子	澤 緑	数野 二三・河村佐恵子
	〃 女複	山崎 十志子	澤 緑	八田乃理子 小山 桃子
		河村 佐恵子	佐々木 由美	橘 佳代・数野 二三
	30才以上男単	横山 昌弘	野木 秀樹	宮川 伸夫・辻田 律夫
	〃 男複	横山 昌弘	野村 邦行	斉藤 志郎・宮川 伸夫
		野木 秀樹	古川 正行	山口 武・高橋 恒雄
	30才以上女複	前田 昌子	吉崎 美智子	中原ちか子・奥野三恵子
		桑野 弥生	藤上 佐千子	本島美智枝・飯山シズエ
	40才以上男単	伊佐 恒範	富田 健一	
	〃 男複	田村 順司	木下 寿則	
		藤上 良英	富田 健一	
	50才以上男単	中川 文雄	安澤 良夫	
	〃 男複	中川 文雄	梅本 一寛	
		安澤 良夫	井上 裕二	

年　度	種　目	1　位	2　位	3　位
平成４年度 （第44回）	男　単	小田知則	宮原一郎	中川　康・吉居　秀
	男　複	北橋　進	小田隆司	末永　勉・岡田耕作
		小田知則	中川　康	伊藤隆久・黒瀬和彦
	女　単	松浦　薫	河村益美	河村佐恵子・今井友紀
	女　複	池田芳恵	俵　由紀路	前田昌子・桑野弥生
		河村益美	杉本久美	今井友紀・安土文代
	混　合　複	藤原健二	田辺一夫	田中博司・浅尾秀実
		松浦　薫	桑野弥生	椎　照樹・西山綾子
	高２以下男単	本山真吾	小野幹仁	酒井将之・溝　信之
	〃　男複	中居清行	小野幹仁	本山真吾・小林善則
		山名義則	溝　信之	中島　篤・大園英明
	高２以下女単	数野二三	澤　緑	木村美和・橘　佳代
	〃　女複	数野二三	澤　緑	谷　享子・西村直子
		橘　佳代	数野裕恵	佐々木由美・木村美和
	30才以上男単	横山昌弘		
	〃　男複	横山昌弘	酒入立昌弘	上田益則・黒岩正司
		脇阪重之	大辻子了二	山口武司・高橋恒雄
	30才以上女複	松宮マチ子	青木善美	
		井上朱美	北川典子	
	40才以上男単	藤上良信	藤上良英	岡井信太郎・木下寿則
	〃　男複	藤上良信	山田杉男	岡井信太郎・古沢精一
		藤上良英	釜屋明和	富田謙一・田村順一
	５０才以上男単	中川文雄	田村順一	峠　勝也・安澤良夫

滋賀県民体育大会バドミントン競技成績記録（一般の部）

西暦 / 和暦	回	男子				女子				男女総合			
		1位	2位	3位	4位	1位	2位	3位	4位	1位	2位	3位	4位
48 昭23	1												
49 昭24	2												
50 昭25	3												
51 昭26	4												
52 昭27	5	彦根A	大津	彦根B									
53 昭28	6	彦根				彦根							
54 昭29	7												
55 昭30	8												
56 昭31	9												
57 昭32	10												
58 昭33	11												
59 昭34	12												
60 昭35	13												
61 昭36	14												
62 昭37	15												
63 昭38	16												
64 昭39	17												
65 昭40	18												
66 昭41	19	長浜				神埼							
67 昭42	20	高島				彦根							
68 昭43	21	野洲				大津							
69 昭44	22	野洲				彦根							
70 昭45	23	野洲				大津							
71 昭46	24	彦根				神埼							
72 昭47	25	彦根				神埼							
73 昭48	26	野洲				彦根							
74 昭49	27	大津				彦根							
75 昭50	28	八日市	大津	彦根	草津	大津	高島	彦根	長浜				
76 昭51	29	大津	八日市	彦根	草津	彦根	大津	神埼	長浜				
77 昭52	30	八日市	長浜	彦根	大津	大津	彦根	神埼	長浜				
78 昭53	31	大津	彦根	八日市	長浜	大津	彦根	長浜	高島				
79 昭54	32	大津	八日市	彦根	長浜	大津	彦根	高島	伊香				
80 昭55	33	大津	八日市	守山	彦根	大津	彦根	神埼	高島				
81 昭56	34	大津	八日市	長浜	守山	大津	彦根	高島	八日市				
82 昭57	35	大津	八日市	長浜	彦根	大津	草津	彦根	守山				
83 昭58	36	八日市	長浜	守山	彦根	神埼	彦根	高島	守山				
84 昭59	37	八日市	東浅井	野洲	長浜	彦根	守山	神埼	草津				
85 昭60	38	八日市	東浅井	野洲	彦根	彦根	守山	長浜	近江八幡				
86 昭61	39	八日市	草津	彦根	東浅井	野洲	八日市	彦根	甲賀				
87 昭62	40	八日市	草津	東浅井	坂田	神埼	草津	野洲	近江八幡				
88 昭63	41	八日市	東浅井	甲賀	近江八幡	栗太	彦根	守山	八日市				
89 平1	42	八日市	東浅井	野洲	栗太	彦根	守山	近江八幡	野洲	八日市	彦根	東浅井	守山 野洲
90 平2	43	八日市	野洲	東浅井	甲賀	守山	野洲	近江八幡	高島	野洲	守山	八日市	東浅井 近江八幡
91 平3	44	八日市	野洲	甲賀	—	守山	野洲	近江八幡	高島	野洲	守山	八日市	甲賀 近江八幡
92 平4	45	八日市	東浅井	草津	甲賀	彦根	守山	草津	高島	八日市	彦根		草津 東浅井 守山
93 平5	46	八日市	彦根	神埼	東浅井	彦根	長浜	八日市	野洲	彦根	八日市	長浜	神埼
1994 平6 草津市体育館	47	八日市	彦根	神埼	東浅井	彦根	草津	甲賀	近江八幡	彦根	八日市	草津	甲賀 神埼
		男子		複	1前田憲宏・田辺一夫				2大辻子了二・酒人立昌宏				
		男子		単	1村山弘晃				2田井中清一				
		女子		複	1前田昌子・木村克子				2浜岡和子・葛城公子				
		女子		単	1岡野美貴				2藤井由紀				
		家庭婦人		複	1北川典子・青木善美				2田中絹子・池田登子				

西暦／和暦	回	男子				女子				男女総合			
		1位	2位	3位	4位	1位	2位	3位	4位	1位	2位	3位	4位
1995 平7 長浜市 民体育館	48	彦根	八日市	長浜	甲賀	彦根	甲賀	近江八幡	愛知	彦根	甲賀	八日市	長浜・ 近江八幡
		男子	複	1	山田裕彦・黒田卓也			2	前田憲宏・藤野久茂				
		男子	単	1	石田佳史			2	酒井靖之				
		女子	複	1	小田由香・黒野直子			2	中野八重子・中嶋千代美				
		女子	単	1	外村昌実			2	松本幸子				
		家庭婦人	複	1	田中絹子・浜岡和子			2	野木栄子・石井佳代				
1996 平8 甲西町 体育館	49	男子				女子				男女総合			
		1位	2位	3位	4位	1位	2位	3位	4位	1位	2位	3位	4位
		彦根	八日市	草津	甲賀	彦根	甲賀	八日市	近江八幡	彦根	八日市	甲賀	草津
		男子	複	1	前田憲宏・田辺一夫			2	大辻子了二・平岡秀介				
		男子	単	1	石田佳史			2	青山康範				
		女子	複	1	前田昌子・勝山直子			2	田島安子・池田登子				
		女子	単	1	藤原恵子			2	吉田恵美				
		家庭婦人	複	1	北川典子・青木善美			2	田中絹子・浜岡和子				
1997 平9 長浜市 民体育館	50	男子				女子				男女総合			
		1位	2位	3位	4位	1位	2位	3位	4位	1位	2位	3位	4位
		八日市	彦根	栗太	草津	草津	甲賀	守山	近江八幡	草津	八日市	彦根	甲賀
		男子	複	1	前田憲宏・田辺一夫			2	小菅惣治・石田也浩				
		男子	単	1	宮澤久男			2	石田佳史				
		女子	複	1	津波ゆかり・櫻木資子			2	山田紀子・本島あおい				
		女子	単	1	市橋純子			2	八里里子				
		家庭婦人	複	1	原　靖子・佐々木明美			2	早田美知子・河上ひとみ				
1998 平10 大津市 皇子山 公園体	51	男子				女子				男女総合			
		1位	2位	3位	4位	1位	2位	3位	4位	1位	2位	3位	4位
		草津	彦根	八日市	栗太	彦根	甲賀	草津	守山	彦根	草津	甲賀	八日市
		男子	複	1	前田憲宏・田辺一夫			2	小菅惣治・石田也浩				
		男子	単	1	越川昌行			2	藤野久茂				
		女子	複	1	前田昌子・桑野弥生			2	山田紀子・本島あおい				
		女子	単	1	田村幾恵			2	北川祥子				
		家庭婦人	複	1	佐々木明美・行岡恵子			2	阿閉みよ子・國門登美恵				
1999 平11 八日市 布引 体育館	52	男子				女子				男女総合			
		1位	2位	3位	4位	1位	2位	3位	4位	1位	2位	3位	4位
		八日市	草津	彦根	栗太	草津	彦根	甲賀	長浜	草津	八日市・彦根		甲賀
		男子	複	1	前田憲宏・田辺一夫			2	吉原和夫・横山昌弘				
		男子	単	1	高井　傑			2	前田昌子・桑野弥生				
		女子	複	1	津波ゆかり・櫻木資子			2	西田祐紀子				
		女子	単	1	松本有美子			2	早田美知子・長谷川三代子				
		家庭婦人	複	1	岸田礼子・清原規子								
2000 平12 草津市 体育館	53	男子				女子				男女総合			
		1位	2位	3位	4位	1位	2位	3位	4位	1位	2位	3位	4位
		草津	守山	彦根	栗太	草津	彦根	長浜	八日市	草津	彦根	守山	長浜
		男子	複	1	前田憲宏・田辺一夫			2	小川勝也・線谷晋輔				
		男子	単	1	中島一裕			2	石田佳史				
		女子	複	1	前田昌子・桑野弥生			2	中村祐美子・村岡希美				
		女子	単	1	山下尚子			2	豊崎幸栄				
		家庭婦人	複	1	西川茂美・辻田園美			2	原　靖子・行岡恵子				
2001 平13 びわこ アイス アリーナ	54	男子				女子				男女総合			
		1位	2位	3位	4位	1位	2位	3位	4位	1位	2位	3位	4位
		草津	彦根	守山	野洲	草津	守山	長浜	彦根	草津	守山	彦根	長浜
		男子	複	1	中島　勝・青山康範			2	小川勝也・線谷晋輔				
		男子	単	1	石田佳史			2	岡部良彦				
		女子	複	1	藤田純子・櫻木資子			2	山田紀子・米倉　歩				
		女子	単	1	安田由里子			2	八里里子				
		家庭婦人	複	1	西川茂美・辻田園美			2	上月由美子・小河君江				

第5章

国内の主要大会

国民体育大会

年度	優勝	2位	3位	4位
1971	教員男子			
1973	教員男子			
1976		少年男子		
1977	少年男子			
1978			少年男子	
1979			教員男子	
1980	少年男子	成年女子		
1981	少年男子	成年女子		成年男子
1982	少年男子			少年女子
1984	少年男子			
1987	少年男子			
1988			少年男子	
1994	少年男子			
1995	少年男子			
1996				少年男子
1999				少年男子
2001				少年男子
2002			少年女子	成年男子

全日本総合バドミントン選手権

回	西暦	年	開催地	男子単	男子複	混合複
35	1981	昭和56年	東京		1位・西山博司・銭谷欽治	
37	1983	58	東京	2位・松浦進二	1位・松浦進二・松野修二	
38	1984	59	東京	2位・西山博司		
39	1985	60	名古屋	1位・西山博司	1位・松浦進二・松野修二	
				2位・松浦進二		
40	1986	61	東京	1位・松浦進二	1位・松浦進二・松野修二	
41	1987	62	東京	1位・西山博司	1位・松浦進二・松野修二	
42	1988	63	東京	1位・松浦進二	1位・松浦進二・松野修二	
43	1989	平成元年	東京	2位・松浦進二	1位・松浦進二・松野修二	
44	1990	2	東京	1位・松浦進二	1位・松浦進二・松野修二	1位・早戸敬雄・田代美智世
45	1991	3	東京	2位・松浦進二	1位・松浦進二・松野修二	1位・辻田泰昌・松田治子
46	1992	4	東京		1位・松浦進二・松野修二	
47	1993	5	東京		1位・松浦進二・松野修二	
48	1994	6	東京		1位・江藤裕樹・柳谷辰哉	

第6章

寄稿文（おもいで）

バドミントンとの出会い

西野　耕三

昭和24年に私は滋賀大学経済学部に入学した。当時、滋賀大経済学部での部は、その前身の彦根高商時代に存在していた部がそのまま引き継がれていた状態であった。その当時、滋賀大経済学部の体育の教官であられた榎本彦次先生が「最近バドミントンという新しい球技が日本に紹介されてきたが、君一つやってみないか」と勧められた。バドミントンの用具をみると球技と言っても球には羽根が植えつけられ、あまりスピード感も感じられないし、ラケットもテニスのラケットを小さくしたような一見ひ弱な感じで、これなら私でもやれないことはない、と軽い気持ちで始めた。事実バドミントンの解説書を見ると、この競技はあらゆる年齢層にも、また男女を問わずに出来ると記されていた。しかし、大学内で新しい部を起こすことはなかな容易なことでなく、最初は学校の予算の裏付けのない同好会の形でスタートした。まだバドミントン自体が、世間に知られていないため、榎本先生と彦根周辺の高校・事業所にバドミントンの普及に出かけて行った。また、全国的に大学においても、しっかりした組織が編成されていなかったと思われる。榎本先生のご尽力により、毎日新聞社の力添えを得て、滋賀県バドミントン協会が発足し、本部を滋賀大経済学部に置き、理事長に榎本彦次先生がなられた。理事に彦根の高校の先生・滋賀大の職員数名、それに私と級友の辻清一君とがなったことを記憶している。

その頃の練習は滋賀大の体育館で実施していたが、天井が極めて低く天井に当たり十分な練習ができない状態だった。バドミントンの競技は私が当初考えていたような単なる羽根つき遊びではなくて、相当ハードな内容のものであることを痛感した。シングルスで1セット試合をするときに消耗するエネルギーは、水泳で自由形八百メートル競泳したときに消耗するエネルギーに匹敵する言われたのはその頃のことだったと覚えている。

昭和25年（1950）国民体育大会が夏季・秋季会場として名古屋で開催され、秋季の種目にバドミントンが加えられ、名古屋城内にあった名古屋大学文学部（旧八校）まで見学に行ったこともあった。

当時、部員の数が少ないため、彦根在住の人で嘗て硬式・軟式テニスをやった経験者を交えて練習した。滋賀大学の職員の方も昼休みなどにバドミントンに参加された。滋賀大学バドミントン部の嘗ての監督であった田中多喜造氏もその一人であった。

やがて、滋賀県の県民体育大会の種目の中にもバドミントンが加わることが出来て、八日市会場だったと思われるが大勢の参加を見た。その時、大津周辺在住で京阪方面の大学生達がバドミントンの競技に参加され、素晴らしい技を見せてくれて、我々は驚異の目で眺めていたことが記憶に残っている。

私は、滋賀県に於いて、バドミントンが紹介されて間もない、所謂、滋賀県バドミントンの草分けの時代にこの種目を始めた。当時は技術的には大したものではなかったし、また、ルールも今日とはずいぶん違っていたが、現在、滋賀県は全国的に見て、バドミントンについては非常に高いレベルにあり、私自身も大いに誇りに思っている。現在活躍中の役の皆さんの今後益々のご活躍を期待し、拙い一文を閉じます。

バドミントンとの出会い
能登川中学

県体12年連続優勝監督　尾中　俊子

テニスのラケットの子どものような華奢なラケット一組とシャトルコック（羽根）1ダースを体育主任の横田先生が買ってこられた。今日この講習を受けた。女子にはクラブの種目が少ないからこれをやったらどうか、と・・。

早速ラケットとバードを持って外に出た。アンダーサーブから始めて、打ち合えるまでひと苦労だった。サーブで空振り、打って空振り、失敗するたびに笑いの連発、昼休み、放課後はラケットを持って外に走った。子どもたちに取り囲まれて声援を送られると、段々競技らしき型ができてきた。女子のクラブ活動にバドミントンが取り入れられることになり、滋賀大経済学部のバドミントン部の練習に加えていただき、本格的な練習に入った。男性の打つ

球は速く、強く、長く、苦しかった。1時間も練習すれば、ユニホームを濡らす汗は絞らなければならなかった。休息の合図を待ちかねてお尻をつくとどっと胸と背筋を汗が流れて走り、立つと床にお尻の跡がついた。あわててタオルで床を拭きそれ以来バドミントン指導中は腰をおろさぬ習慣が自然に身についた。県内では生徒と共に負けることを知らず、意気込んで出かけた広島国体で1勝もできなかったその技量の低さ、くやしさが生徒の指導を懸命にさせ、幸い練習熱心な生徒と理解ある田附校長、そして父兄に恵まれ12年連続優勝を成し遂げ、能登川中学のバドミントン部の名は県下に知れ渡った。



12年連続優勝を勝ち得た（S32～43）わが愛しの娘選手達と私

○体育館の横の井戸の冷たい水でタオルを洗い、固く絞って和室に集合、濡れたユニホームを脱いで一列の輪になり、相手の背中を拭き合う、先生の背中にホクロがあった。どれどれ、どこに、見世物じゃないよ。

○試合前の練習は試合が終わったら熱いお茶を湯呑に半分、それ以上は飲んだらあかん、先生ちょっとも飲まはらんやろ、自分が苦しいからやて、私らも飲まんようにしよう。
（だから私は飲めなかったの、あんたが後輩に聞かせていたから……）

○去年苦戦したのはマナーが悪かった。1年生の子新聞1枚ずつ持ってきて控室の床に敷いてみんなの靴一列に並べて足元きれいに揃えてや、帰るとき掃除するんやで

○ご苦労様、苦戦したナアー、先生息が止まりそうやった、見てごらん、天理の選手のあの行いに苦戦したんよ、コートを整理して合掌して一礼する、あの心や、有難うございました。私達も見習って来年にかけよう、能登川中学の選手は強いだけじゃない、行動面でも素敵だって言われてネ。

○タイム“二対二や、苦しいのは相手も同じ先生の動く位置に球を打つのよ、絶対欲を出さず、先生めがけて一球、一球打ち、必ず勝つ”

○優勝戦や、一気に走って相手より早くコートに一列に整列する。「よいか」「ハイッ！」追われる身のつらさ、厳しさ、苦しみがありました。12年連続優勝の誇りをありがとう。

滋賀県と私のバドミントン人生

元金沢市立工業高校監督　河原山晴夫

私のバドミントン人生（選手及び監督として）の中で滋賀県とのかかわりが比較的強かったように思います。特に監督としては、全盛期から監督引退にかけての時期に、藤上先生率いる比叡山高校とのかかわりあいが大変多く、今でも諸々の試合等をはっきりと記憶しております。この事については後から述べることにして、先ずは滋賀県に住むようになったことから述べたいと思います。

昭和28年3月に高校を卒業しましたが、職を選ぶ時に“一日中机に向かっての仕事は性にあわない”かと言って“工場で働くのもいや”という事で選んだのが警察官でした。

何故滋賀県に？　これも単純な理由でして、地元は悪友がいて駄目、都会は当時学生運動が激しく落ち着けない。滋賀県なら京都に近い。琵琶湖もある。という事で滋賀県人になった訳です。（当時の姓は井上）

その時点でバドミントンはやめるつもりでしたが、大津の協会の人が私の事を知り練習に誘ってくれました。一緒に練習したのは粟津中学校の中島先生でした。高校時代にインターハイ2位になっていたのですぐに滋賀県NO.1になり、香川国体（善通寺）に出場しましたが1回戦で負け、全員で道後温泉に遊びに行きました。“試合に負けて遊びに行く”

当時の石川県では考えられない事で、以後真剣にバドミントンはやらなくなりました。

警察学校を卒業して彦根で勤務するようになり、滋賀大学の榎本先生に、「大学に来て、学生を指導してくれ。」と言われましたが、たまに行く程度でした。しかし、その事が縁で大学に行きたくなり、昭和30年4月に立命館の二部（夜間）に入学しました。31年途中に京都に住むようになるまで仕事は続けました。

多感な青春時代の一時期滋賀県に住み、本当に良かったと思っています。滋賀県は第二の故郷です。今でも警察学校時代の同窓会をやっていますが、毎回必ず出席しております。

昭和34年3月に大学を卒業し、故郷石川県の教員になりましたが、丁度その頃から国体に教員の部が出来、再びバドミントンとのかかわりあいが生じた訳です。パートナーの北方君も高校時代から全国トップクラスの選手でしたので、以後国体で5回優勝することが出来、選手として思い残すことはありませんでした。

教員のスタートは金沢市内の中学校で4年間勤務し、その後金沢市工に移り、定年まで32年間お世話になりました。バドミントン部を創設しましたが、1年目は予算ゼロ、練習場の割り当ても無いところからのスタートでした。当時の全国の高校男子は、富山、新潟の北信越がトップレベルで、日曜日には富山県NO.3の高岡工芸へよく練習試合に行きました。次にNO.2の高岡商業、それからNO.1の富山商業へと胸を借り歩いたものでした。

創部4年目の昭和42年に地元石川でインターハイが開催され初優勝し、44年に2回目の優勝をして、何とか全国トップレベルに追い着いたようでした。勿論、北信越勢とは勝ったり負けたりで、その事が互いに切磋琢磨されレベルアップにつながったと思っています。

ところがその後近畿勢が追い上げて来て、先ずは奈良正強がライバル一番手となり、正強さえいなければ優勝出来たと言う年が2～3回ありました。正強が弱くなりだしたら、今度は比叡山が徐々に力を付けて来ました。初対戦は3回戦、次に準々決勝、それから準決勝と対戦試合が1つずつ上がって来て、とうとう佐賀国体の決勝戦で対戦することになり、試合前藤上先生が「今度こそ勝ちますから。」と言われ、「返り討ちにするよ。」と言ったことを覚えています。結果はエースを残し2-0で勝ちました。しかし、私が監督で比叡山に勝ったのはこの試合までで、次の年のインターハイ決勝も互角の戦力でしたが、うちのエースが過酸素呼吸難と言うまれな症状で負け、以後比叡山の全盛時代が始まった訳です。

私や富山商業の不破先生、そして正強の谷口先生は、“わいわい喋って選手にやる気を起こさせ奮い立たせる”タイプの監督ですが、藤上先生は“冷静に選手の特徴を分析し指導する”タイプかと思います。その結果、チームとしても個々の選手にしても素晴らしい成績、素晴らしい選手を多く育てられています。私はインターハイ優勝5回で引退しましたが、藤上先生は現在6回でこれからも加算される可能性があるでしょう。

高校バドミントン界では男子は藤上先生、女子は四條畷の片岡先生が群を抜いた成績を上げられており、その指導力は万人が認めているNO.1監督だと思います。先生の今後の更なるご活躍を期待いたします。

最後になりましたが、滋賀県バドミントン協会誌の発刊を祝し、貴協会の益々のご発展を心から祈念申し上げます。



左前（北方）、右後（河原山）1960（昭35）年熊本国体時

私とバドミントンの出会い

株式会社野坂商店　野坂　明

1951年　第4回滋賀県体育大会出場
1951年　第6回国民体育大会出場

昭和26年秋のことです。

机の引き出しの片隅から探し出しました。それぞれ、その大会の参加賞を眺めながら、今から52年前をさかのぼり記憶を呼び戻そうと努力しましたが、なにぶんにも半世紀前のことゆえ、間違いとあいまいな部分がありますことを最初にお断りして記することにします。

当時、私の出身校、長浜北高等学校、前身、長浜女子高等学校が学校改革によって、男女共学に生まれ変わったころでもありました。現在の三菱樹脂敷地内にあった校舎には、普通科、商業科が同居していました。普通科2年生のとき、当時としては大変珍しいバドミントンの用具一式が教員室におかれていました。生徒への普及かどうか定かではありませんが、教員室へ借り受けに行きました。

最初はルール等々なにもわからず正月の羽子板ぐらいの感覚で、仲間と夢中になって打ち合ったものです。その後、いつの間にか十数人の同志が集まり、今風に言えばサークルみたいなものができ、それぞれ参加者が自分のラケットなどを調達し、暗中模索の中、ルールブックを開いたものでした。

私事、そんな状況に至るまでの学生生活は、旧制中学、現在の岐阜県立岐阜商業高校に入学し、12歳の折、硬式テニス部に入部し、練習に明け暮れたものでした。併設中学3年の折には、東海地区予選をクリアして全日本ジュニア選手権に出場を果たしましたが、戦後間もない時期でもあり、全国レベルが低かったことは否めません。長浜北高校へ転校し、前述のバドミントンに入りやすかったこと、そしてバドミントンの楽しさを忘れることはできません。シャトルコックの羽が半分以上折れたものを大事に大事に使ったことを記憶しています。

その後、第4回滋賀県体育大会の高校の部か少年の部、いずれかはっきりしませんが出場し、決勝まで登りつめた会場は、現在の長浜西中学校の講堂（体育館）ではなかったかとおもいます。対戦相手は彦根の山敷君（当時の校内新聞記事より）だったようです。

昭和26年（1951年）秋、第8回国民体育大会広島大会に、山敷君と出場することになったのですが初戦、北海道選抜に敗れ去りました。

滋賀県国体出場選手を乗せた専用夜行列車で広島へ向かったことを今でも覚えています。バドミントンは私にとって思い出深い1ページでした。

突然、理事の中川文雄氏よりバドミントン50年史のことを知らされ、最初は戸惑いましたが、寄稿することにしました。誤字、語句が文中にたくさんあることをお許しください。

バドミントン競技を始めた頃

安澤　良夫

昭和20年代、終戦後の動乱から落ち着きを取り戻した頃、野球、ドッジボール、水泳、登山、卓球、テニス等種々のスポーツを楽しんでいた。昭和25年頃、彦根市内城東東小学校の講堂にて初めてバドミントンに出会い、コート内で羽根を打っている姿を見学し、何とか打てるような気がして、早速ラケット・シャトルコックを買い求め、その仲間に入れてもらった。その学級に滋賀大学の榎本彦次先生が講師として招かれ、指導されることとなり、夜間、週二回の練習をかね、その魅力に取り付かれ練習場所を捜し求め転々と場所を移動し仲間と一緒にネット、ポールを持参して練習に励んだ。コートの白線を引くために半分に折ったチョークを水に濡らして床に描き、練習後は雑巾で白線を消して帰えるという日々でした。練習の成果を試すため、試合に出場したが、散々な結果に終わった。その一年後、昭和29年実業団の大会に初優勝の栄冠を手にすることができた。その後の練習は今まで以上の努力と研究、この目標が、毎日のランニング、縄跳び、練習後の彦根城天守閣広場までの走り込み、夕方、夜間と暇があれば練習に明け暮れる毎日だった。仲間との合宿も出勤前、早朝6時から8時、日中はそれぞれ仕事と夜間は2時間、しかし成果は上がらなかった。朝体育館へ集合時眠気が先で、練習をする状態では

なかったが、昭和30年国体県予選に出場し、滋賀県No.1の川瀬正喜氏（滋賀大職員）に対戦し、ストレートで勝利を収めた時は、夢ではないかと、現実に勝ったのが信じられなかった。20歳の夏であった。その喜びにもまして、その後は益々練習に励んで県外の試合に出場し、多数の選手と対戦し、全日本総合、国体、西日本大会、近畿大会、県総合、県体、実業団、スポレク大会等に出場し、年齢と共に、シニア大会とジュニアの指導に当たり、今日に到っています。



県協会が発足した頃の仲間

榎本彦次先生
（滋賀大職員）田中多喜造・川瀬久喜・中村
（滋賀大理髪店）川嶋
（滋賀大学生）
藤本利光・岡田良雄・西澤康博・碓井富夫
本間与紀雄・中島道雄・北川文康・中野重雄
（学芸学部学生等）
井上弘暢・林正博・三宅明・安澤武雄
結城実映
田中英明（谷）・田中栄三・善利忠臣・北川豊
西本宗太郎・西本武三郎・西本喜彦・浜川治男
内堀辰秋・所美幸・上野きみ子・小野トミ
河原民子・西村昭子（白子）・田島茂澤
三橋俊夫・小川政弘・川村義夫・前川春男
長谷村光市・小野寺正敏・秋山眞一・酒井道央
西川伊平・村岡幸治・近藤邦雄



バドミントン競技との出合い

花房　房子

昭和二十七年高校一年時、同級生の旧姓橋本絢子、矢田恭子、堀利子さん達が（昭和二十八年第四回、二十九年第五回の全国高等学校バドミントン選手権大会に、県下の高校女子では初めて出場した彦根東高校選手）、天井の低い講堂で白い羽根様のものを、ラケットで打ち合っている光景を初めて見た。ブランクの時間は学習するのが原則であったが、先生の目を盗んで、用具を借りて打たせて貰った。サービスを打ち出すにも飛行する羽根をタイミング良くラケットに当てる事も旨く行かず、旨く行かない処に増々興味が湧いて、昼休みまでも打たせて貰いついに、その感触を味わう処迄行ったが、結局は一過性に終わった。以後、大学の軽スポーツと云う科目の中で極く少時間、基礎打ち程度やった記憶があるが、自分の専門は器械体操であり、大学卒業後今日迄五十年近い年月をバドミントン競技と共に過ごすことになるとは、実に、不思議な縁であったと思う。結局、器械体操は授業の中で活かす以外、選手を育てたり、体操協会や組織に関る事は無かった。昭和三十年代大学卒業後、滋賀公立高校保健体育の教員となったが、当時、課外活動としてのクラブ指導に各々の種目に多少なりとも経験や特技を活かせる教員は少なく、特に運動部は、一般教科の先生の

希望優先で顧問が決まり、競技歴の浅いバドミントン部を持つ先生は全く無い状態だった。顧問の決まらない部は、体育科教員が当たる事となり、私などは、ハンドボール部、バドミントン部、美術部の顧問と云う事で、放課後となると日々戦争状態であった。文化部はサブであったので、滅多に顔を出すことは無かったが、グラウンドの女子ハンドボール部の面倒を暫く見て練習課題を与え、バドミントン部の練習する講堂へ行くのだが、一～三年の男女部員は滅茶苦茶多い上に、コートは一面、練習の日割りをしたり、女子の一部は、この頃より八年余滋大体育館へ出向いて故榎本彦次先生の御指導を受ける事となった。

平成十二年発行の滋賀大学経済学部バドミントン部創部五十周年記念誌への寄稿文より

故榎本彦次先生と彦根西高校

元バドミントン部顧問　花房　房子

昭和二十年の終戦直後、現滋大経済学部に、体育教官として赴任して来られた先生は、剣道が専門であった。しかし当時、マッカーサー指令により、学校体育としての武道は禁止されており、いち早く、先生は竹刀をシャトルに換えられた。国内でも、バドミントン競技は未知であり、全国的レベルで競技方法を解説する講習会が持たれ、この競技の日本における幕開けの時代であった。先生はこの段階から関係され、先駆者的活動をされる事となった。学生に伝授され、クラブを作り、おいおい部員を増やし、技術・戦法等を研究されながら、学外の中学・高校・一般へも指導を広げて行かれた。県民体育大会に、オープン参加の道をつけられたり、国民体育大会の非公式種目であった頃より、滋賀チームを編成して出場させて来られた。特に競技力向上、組織作り、愛好者の拡大等に力を入れておられた頃でもあった昭和三十四年、私は、彦根西高校勤務となり、バドミントン部の顧問を命ぜられた。当時、部活動は、コート一面しか取れない講堂で、天井も低く、部員は男女で三十名余もいて、練習に困難を極めていた。その頃、能登川中学校で、尾中先生の指導下にあり、中学では抜きん出た力を持っていた生徒（女子）が、一人二人と本校に入学してきた。未経験者とは最初から競技力に大きな差違があり、同一コートでの練習は出来ず、指導上問題山積で苦慮していた時、榎本先生からのお声掛りで、中学での経験者はそっくり滋大体育館へ練習場を移す事となった。彼女達は放課後になると、帰り支度と競技用具を持ち滋大へと急いだ。選手達を先生に預け、初心者の指導を学校で行った後、大学へ立ち寄り、練習を最後まで見届けて共に家路に着くと云った毎日であった。大学も創部来バドミントンは非常に人気があり常時部員数が多かった。体育館の1/2は卓球部が、後の1/2に3面コートを設置し、大学生と本校生はひしめき合う形の練習であった。ウォーミングアップや基礎打ちが終ると、共に効率良い試合の為の練習が必要であり、先生が特に指名されるペアの試合形式による練習が多かった。大学生（男子）ペアに高校生（女子）が挑戦的に戦う中で胸を借りる事も多かったが、大学生の中にも実力差が相当あり、逆のケースもあり、共存共栄的な場面も見られた。一戦一戦に対する先生の目は厳しく、選手達にとっては、非常に充実発展をとげた時代であった。実力的に当時本校生徒は県下無敵の存在で、近畿を制する事も度々で、後に連続全国制覇した布施女子校＝東大阪高校あたりからも練習試合の申し出がよくあり、休日、大学の体育館をお借りし、先生の指導の下、時間を惜しんで生徒達は頑張った。近畿代表で国体へも数回にわたり出場する事となったが、我が子の事の様に同行して下さった。高校総体も、昭和五十四年地元開催時に、十五回以上出場校の一校として表彰を受けるなど、本校バドミントン部における最良の時代であった。やがて、中学における競技経験者の入学も途絶えるようになった頃、先生の御退官と云う事で、八年有余お世話になった大学から自校へと戻った。総じて多面に渉り大学側に御迷惑をおかけした事は否めないが、先生を父と仰ぎ、大学の皆さんを親愛なる兄として、温かく恵まれた中でお育てを頂いた卒業生達は、今も、良き思い出と共に、あの時培った諸々の力を活かし、良き社会人となっている。私にとっても先生は大学の先輩であり、先生が競技発展の為に、又、御自身の研究課題として取り組まれたバドミントン協会であったのだろうが、後輩とし

て、実に多くの事を学ばせて頂いた事に感謝している。

平成十二年三月

学校に残った女子初心者の帰宅した後、天井の低い一面コートで、時間を忘れて練習に打ち込んだ男子選手達は、全くの自主活動であったが、昭和三十年第六回神戸でのインターハイ、三十一年仙台、三十二年松江、三十三年新潟大会に出場している先輩達に続いて、三十四年会津若松、三十五年久留米、三十六年弘前での各大会に出場した。団体戦のアベック出場は三十一、三十二、三十五、三十六年の四大会となる。一方女子は、昭和二十九年第五回金沢でのインターハイより、神戸、仙台、松江、新潟の大会に連続出場していたが、故榎本先生の指導を受ける様になった生徒達は、八年余滋大でお世話になり、昭和三十四年第十回会津若松大会より、久留米、弘前、高岡、鶴岡、京都、熊本、弘前の各大会に出場し、彦根西高校の新設成った体育館に戻った。その後も、金沢、福山、桐生、名古屋、善通寺、新庄、四日市、嬉野塩田、水戸の第二十六回大会の昭和五十年迄、二十二年間（個人戦のみの出場は七大会）、殆ど他校に譲る事はなかった。昭和五十四年、地元大津市での開催第三十回記念大会で、団体戦十五回以上出場校として表彰を受けた。又、当時の国民体育大会は、各種別ともブロック（近畿）で一チームのみの出場枠であったが、昭和三十五年熊本、三十六年秋田、三十八年山口国体へ、全滋賀選手として彦根西高校女子が、近畿を代表して出場し、得点を挙げた。三十六年秋田国体へは男子も出場権を得て、アベック出場となった。又、昭和三十八年に、日本で初めて行われた日韓友好親善試合（於大阪市）に、近畿を代表して、彦根西高校の若林喜久子、田附則子が、一複二単を戦い勝利した。彦根から始まった県下のバドミントン競技は、滋大経済学部の学生、高校男女に於いても、湖北地区に先ず根付き、彦根東、彦根西、彦根工業（当時県立短大附属工業高一男子のみ）、長浜北星（当時長浜西高）、長浜北、伊香（女子のみ）が、創部と共に高体連に加盟し、活発に活動する事となった。一般男子に於いても、国体を初め、県内外の試合へは、彦根の選手が中心であった。県バドミントン協会のおかれていた滋大（経）にやや遅れ、大津市在の滋大教育学部（当時学芸学部）でもバドミントン競技が取り入れられ、全国教育系大学で優勝するまでの充実発展振りが見られた。関係者に詳細は譲るとして、この頃より、ぼつぼつ県内でバドミントン競技の指導者がお目見えし、競技経験者を初め、教育学部の卒業者が、教育現場のみならず、各種各層に指導の手を加えていった事により、競技は湖北より大津市を中心とする湖南地方、更に湖西、県全体へと広められて行った。

初期の高体連バドミントン専門部

昭和三十年代高体連バドミントンの試合は、県下に満足な競技場が殆どない時代で、唯一滋大（経）彦根市共有の体育館（六面コート）が会場に当てられた。彦根西高校勤務と云う事で専門部の役員でもなかったが、大学事務局へ体育館借用願を文部省に提出する手続きによく通った。大会当日と云えば、審判員として経済学部の部員の方十数名、昼弁当だけでお願いし、大会を運営していた。当時、顧問として生徒引率をして来られる先生方の中にも公式戦を主審して下さる方は殆どなく、又、生徒達にも審判する力や習慣もなく、大学生部員の援助は実に有難かった。その学生さんも確かなジャッジをして下さったが、公認審判員の資格を持つ人はなかった。県協会内で資格を持つ人は、故榎本彦次理事長と、事務局長の田中多喜造氏だけであった。今後この競技に関わって行くのであれば、せめて、その資格を取って、高体連の中へ審判技術を広められたらと考え、昭和三十六年に滋大で行われた三級検定試験を受け取得した。講師は田中多喜造氏であった。高校生の試合が、敗者審で行われる様になったのは、その少し後になる。暫く全試合生徒が主審をやっていたが、審判力に差違があり、昭和四十年代に入り、生徒による敗者審はベスト八迄、準々決勝、三決は教員の有資格者が行う様になった。これは平成十五年の現在迄続いている。

審判歴

昭和三十六年、三級公認審判員資格を取得して以来、四十年代初めに二級、終わり頃に一級を取った。

一級検定会は、大阪協会の宝来敏夫氏が講師であった。昭和四十六年秋に、和歌山県で第二十六回黒潮国体が行われ、開催県を除く近畿二府三県より、各二名ずつ、有資格者が、中央派遣審判員五名と共に主審を務めた。滋賀より、辻広之氏と花房が和歌山県湯浅町へ出向いた。その時、我教員男子が見事優勝した。全国的にも有資格者の少ない時代で、私は二級であったし、紅一点でもあった。国体審判は、昭和四十六年黒潮国体、昭和五十七年島根くにびき国体、五十九年奈良、六十三年二巡目の京都国体の主審を務めたが、島根国体へは、中央派遣審判員として、日本バドミントン協会が、初めて女性を採用した大袈裟だが歴史的参加となった。この時も滋賀は少年男子優勝と、総合優勝(天皇杯)を為し遂げた。昭和五十年より、日本バドミントン協会が財団法人となった昭和五十七年迄、日本バドミントン協会組織に、全国審判委員会が置かれ、全国各ブロックより一～二名の委員の派遣で構成されていて、委員長を大阪の青木昭二氏が務めておられ、近畿よりの二名枠に、京都の山本博氏と、花房が選出され年に一～二回、渋谷区神南の岸記念体育館内の日本バドミントン協会での会議に上京していた。五十年代も今日と変わらず、ルール改正、ルール解釈、用語、審判上の課題等問題山積で論議をする事が多かった。鶯色の競技規則書から新「赤本」が出版されるとされたで、表現や、国語的用法の誤りの指摘その他で良く揉めた。東京での会議の他に、夏季は、大阪箕面のサントリー体育館での実技を通しての研修会も毎年持たれ、この審判委員会に席のあった六～七年余は私にとって非常に充実して研修のできた期間でもあった。昭和五十七年日本バドミントン協会が、財団法人となった時、組織が改められこれ迄の審判委員会は無くなった。近畿では、五十六年の滋賀びわこ国体、五十九年奈良、六十三年二循目の京都国体の開催で、それに伴って、第一種大会がリハーサル大会として近畿各府県で目まぐるしく開催され、二府四県のどの府県もそれに対応する公認審判員が多数必要となり、当時山本博氏と花房で近畿圏内を、一泊二日の審判講習会、検定会と、盛んにやらせて頂いた思い出多い昭和五十年代でもある。本県でも昭和四十八年全日本教職員大会、五十三年全日本社会人大会、五十四年全国高校総体、五十六年びわこ国体、他に、五十九年日本リーグを開催しており、それに向けて、在学中の滋大経済、教育両学部の学生、一般男女を対象に、事有る毎に審判講習会を積み重ね、資格者の養成に当たった。線審については、相当数必要であり、開催会場に近い、しかもバドミントン競技歴のある学生を選抜し、指導を徹底した。結果、常に線審のジャッジ振りが高く評価され、大会の成功に繋がった。県内開催の第一種大会毎に有資格者が増え、又審判への関心、そのレベルが上がった事は、非常に心強い事であった。審判長は中央よりの派遣で、副審判長を務めさせて頂いたが、大会期間中実務的には殆ど副審判長が総括する事となり、審判養成をして来た事もあって、審判上のトラブルのない事を祈りながらの大会期間を過ごした事が、今も思い出される。日本バドミントン協会に、昭和六十三年、公認審判員資格審査認定委員制度が出来、資格取得の為、これ迄近畿で行われてきた国体や第一種大会、ヨネックス・ジャパンオープン等に、二府四県へ共に出向して来た河嶋四郎氏（伊香高教員）と上京し、第一回学科試験（午前九時～正午迄三時間通し）に挑戦した。全国より四十名余の受験であったが、二人共運良くパスした。女性は、当時東京都のレディース連盟理事長の根岸智子さんと花房の二名であった。昭和六十一年頃より、近畿の審判委員会に席を置き、「近畿は一つ」の名の元、審判に関わって互いに支え合いながら、一、二級公認審判員の検定会や、各種大会の運営に当たってきた。幸い平成十四年現在、近畿にはI･B･F認定国際審判員･蔵口勇雄氏（大阪）、A･B･C公認国際審判員・斉藤篤司氏（京都）、同・小島博幸氏（京都→野洲町在住）、同･上野誠氏（兵庫）、がおられ、委員会の中で、海外審判の模様や、世界の動き、情報を報告して頂く機会があり、国際的なレベルで語り合う事が出来た。現在は国内にもI･B･F審判員が五名、A・B・C審判員十二名がおられるが、国内開催の国際大会ヨネックス･ジャパンオープンが始まった頃は、我々が主審に当たっていた。付焼刃の片言の英語で、それでも必死で試合を消化

していた。今思えば冷汗ものである。県内では、県協会、県高体連専門部で殆ど審判関係の仕事をやらせて頂いたが、指折って見れば審判長歴も四十年になる。数少ないが大学生の大会に幾度か御縁があった。昭和六十年、新装成った兵庫県立鳴尾浜体育館での、全日本学生選手権大会（インカレ）の審判長を仰せ付かった事があった。高校生の大会はどんな大会も周知していたが、大学生の全国大会があれ程学生の勝手尽くで行われているとは知らず、面喰らった。競技のやり方、応援の仕方、体育館の使用上の問題等が多く、体育館管理者からも、クレームがつき、大会続行が危なくなった。日本協会関係で審判長が責任を負わねばならない立場に置かれていたので、大会二日目、試合を中断し、大会運営側の学生と全チームの主将を集め話し合いを持ち、整然とした大会に立て直し、続行した。準決、決勝を行った大会終わりの二日は、入場料を支払って観戦に来た多くの小・中・高校生達にも満足の行く大会として終了した。終日気が張る大会期間であったが、閉会式の前日、本拠地で阪神タイガースの優勝に巡り合わせたのは幸いであった。県内では、滋大、滋賀医科大の主催、主管する大会で、近畿国立大大会、西日本医科学生総合体育大会バドミントン競技大会等幾度か県協会からの役員（審判長、競技役員長）として大会運営を手伝ったが、学生の大会は高校生と違って自主能力による運営ぶりや、若さに、一種独特の雰囲気があった。県内外のレディース連盟の方々とも、大会や審判の勉強会、検定会と、実に多くの出合いがあった。特に、県レディースは連盟立ち上げの時から団結力が強く、見事に事を成し遂げられる熱心さには感服である。平成十二年本県で開催された、西日本レディース大会へ向けて何度か審判講習、運営打合せ等に関わらせて頂いたが、担当責任分野を各々の方が事前取り組みできちんと熟し、大会を成功裡に終えられた一部始終を競技役員長として頼もしく見せて頂いた。県中体連も、平成五年第二十三回大会に続いて、平成十四年第三十二回全日本中学校大会を本県で開催され、前大会では、決勝審判をやらせて頂いた思い出深い大会であったし、昨夏の大会は競技役員長（レフリー）としてこれ又実に多くの関係の方々との出合いをさせて頂いた事は、大変嬉しく幸せな事であった。平成七年高校現場を退職し、高校生と関わる機会も無くなった事を淋しく思っていたが、毎年、夏季リーダー養成合宿（二泊三日）時の審判学習会に、講師として招いて下さり、七夕の様な出合いではあるが、熱気溢れる高校生と共に勉強する場を与えて頂いている事は大変楽しみな事である。県内郡市町バドミントン協会も、年々着実な歩みがあり、上部に繋がる大会の予戦や、独自の大会を開催され、当然必要となる公認審判員を養成すべく、郡市町協会単位で審判講習会や、検定会を開催されるので、河嶋四郎氏と花房でお世話をさせて頂いている。県協会傘下の協会も、バドミントン人口を拡げ乍ら、競技力、審判力を向上させ立派な協会作りに努力されている姿勢がある。現在、三級公認審判員の検定は、県内で、河嶋四郎氏と花房でやらせて頂いている。一、二級は、近畿圏いずれかの府県で実施されており、年に一～二回その機会がある。そちらへも出向いて講習、検定を行っている。バドミントン競技の愛好者は、プレーヤーのみに終わらず、審判員としても、無免許運転でなく、公認審判員として、競技の味を噛みしめて頂きたいものである。

おわりに

昭和二十七年、白い羽根を目にしてから五十年、国内でも草創に近い頃から、脇目も振らず愛好してきたバドミントン競技であるが、多くの方々のお力添えで、国体四回、高校総体十一回、日韓親善大会一回と実に得難い監督経験をさせて頂いたし、四十年近い教員生活の中で、どれ程多くの生徒達と、多くの大会に参加して来た事だろう。その中で得た貴重な思い出は生涯私の宝である。審判員（主審）としても、第一種大会、ヨネックス・ジャパンオープン等大きな舞台での仕事をさせて頂けた事、中でも、第三十七回国体へは、中央派遣審判員に指名を受けた事は栄光であった。大会運営面でも、審判長、競技役員長（レフリー）など大きな役を与えて頂いた事は、私のバドミントン競技に対する姿勢を正し、人としても大きく成長させて頂いたと思っている。スポーツ種目数多い中で本県のバドミントンは、小・

中・高校・教員・一般・男女どの種目も全国制覇を遂げ、オールジャパン選手も多く輩出しており、全国的にも、バドミントンの先進県と云っても過言でない。これ迄、選手を全国のトップに育て上げられた指導者の方々に敬意を表すると共に、滋賀のバドミントン永久にあれと願うところである。私に残された時間は少ないが、そんな滋賀のバドミントンに微力ながら尽くしたい。

平成十五年四月記す

昭和五十六年度　滋賀県体育協会
社会体育奨励賞　受賞

平成二十年六月（財）日本バドミントン協会
顕讃賞　受賞

平成二十年八月　滋賀県体育協会
スポーツ功労賞　受賞

平成二十二年五月記す

熱き思い出に感謝

辻　広之

私がバドミントンに初めて関わったのは、昭和25年中学1年生の秋だと記憶している。もう60年以上も前のことであり、戦後の復興もまだまだ、食糧事情さえも不十分であり、子どもたちの遊びといえば空地を探し、手作りのボールやバットで草野球をするくらいのもであった。その時代、どういうわけか入学した粟津中学校にバドミントンのラケットとシャトルが準備されていた。校庭の中庭にロープを張り、青空のもと、継ぎ接ぎだらけのラケットとほとんど原型をなくしたシャトルを来る日も来る日も打ち続けた記憶が蘇ってくる。ミスすればすぐに交代、希望者が多くなかなか順番が回ってこなかった。徐々に人数も少なくなり、数人で自己流のルールを作り試合の真似事のようなことをしていた。当時、粟津中学校にはバドミントンの経験があり、大変上手な英語担当の中島道雄先生が居られた。先生に何度もお願いしてクラブを作って頂いた。練習場所はJR石山駅の裏、当時の日本電気の倉庫を借用し、本格的な練習がスタートしたのは2年生の春だった。下はコンクリート張りで硬く冷たかった。ネットを張るのも大変であり、窓枠から長いロープを張り、支柱を立てた。毎回チョークでコートを書くのも一苦労した。また、雨の日はあちこちに水たまりができ雑巾で拭い去るのに苦労した。しかし、私たちにとってここが最高の練習場所であった。中島先生の厳しい指導によりずいぶんと上達し、スマッシュらしきものも打てるようになった。当時は練習試合をする相手校もなく、ひたすら部員仲間で競い合った。夏になり私たちにうれしい知らせが入った。県民体育大会に出場出来るということ、私たちにとっては、初試合であり随分練習に熱が入った。8月の中旬、確か草津周辺で開催された第4回滋賀県民体育大会（この大会より中学生も参加）と記憶している。この大会に粟津中学を含めて数チームが参加した。ほとんどが経験未熟な選手ばかり、そういう面では実力伯仲、どの試合も熱戦であった。私たちは何ら駆け引きをすることもなく、ただ一心にシャトルを打ちコート上を粘り強く動き回った。指導者に恵まれ、一日の長がある我が粟津中学は見事優勝した。その時の天にも昇る喜びはいまだに脳裏にしっかりと焼き付いている。私にとって、青春の貴重な思い出の一コマであった。閉会式で私たちのこのひたむきなプレーを滋賀大学の榎本先生に褒めていただいたことも忘れられない。翌年、粟津中学にも体育館がたてられ、中島先生をしたう滋賀大学バドミントン部の方々や県の一流選手がよく練習に来られた。夏には同志社大学バドミントン部が合宿練習をされ、その技術の高さにただ驚いた。このようなよき環境の中で私たちの技術も大きく伸び、3年生として後輩の面倒も見られるようになった。この年の第5回県民大会は参加校もかなり増えたが圧勝し、2連覇を成し遂げた。私達の卒業後も何年間か粟津中学が優勝を続けたと聞いている。残念なことにはその当時、大津地区の高等学校にはバドミントン部のある学校がなく、競技を続けることは断念せざるをえなかった。しかし、バドミントン一筋に熱中した私の中学時代の3年間は、とても充実したものであり、今でも思い出すたびに、胸に熱いものを感じる。私にとってかけがえのない青春の思い出であるといえよう。

私がバドミントンと再会したのは、県の高校教員になった何年かのち、彦根工業高校に赴任し、バドミントン部の顧問をしたことから始まる。当時は湖北の学校が強く、特に、長浜商工高校が抜きんでていた。何人かの素質のある新入生に経験者を加え、三年計画で打倒長浜商工高を目指して夜遅くまで練習に励んだ。当時の彦根工業高は体育館がなく、天井の低い講堂が練習場所であり、高い球が打てず随分と練習に苦慮した。しかし、そのことがかえって手首の強い、動きの俊敏な選手を育てたような気がする。宿敵、長浜商工高校を制し、優勝したのは昭和41年の秋だった。その時の選手共々の喜びと感激は今も忘れられない。その後、体育館も建てられ、優れた設備の中で練習も出来、5年間、高体連の大会で優勝し、連続してインターハイに出場することが出来た。また、昭和40年代後半には、高体連バドミントン専門部のお世話もさせて頂いた。

振り返ってみると、バドミントンに関わる数々の思い出が様々な形で蘇ってくる。その中でも少年時代バドミントンの魅力に取り憑かれ、夢中になり、熱中し、悪条件を乗り越えながらも一つのことを成し遂げた喜びは、私のその後の人生の大きな糧となったように思えてならない。私の人生に、数々の熱き思い出を与えてくれたバドミントンに感謝したい。



昭和32年卒

高谷　修一

昭和28年入学して卓球部に入ったが、4月のある日先輩方がバドミントンをしておられるのが目に入った。高校時代少しバドミントンの真似事をしていたこともあって、早速卓球部の仲間2人と一緒にバドミントン部に入部。（その当時まだ同好会であったようだが、すぐ部に昇格したと思う。何故ならば、私が二回生のとき運動部長をしたので、それまでにバドミントン部が存在しなければならないから）私たちがバドミントンを始めた時のメンバーは、男子が経済学部の杉浦佐一郎氏（その頃、経済学部の学生も二回生までは学芸学部で単位の修得が出来た）学芸学部の藤村伸一氏と私、また、女子では一伊達泰子氏、卜田俊子氏、川口喜久子氏（故人）等が中心であった。このメンバーは体育研究室の学生が大半であり、私の記憶に誤りがなければ、彼等・彼女等はフォークダンスクラブにも所属して活躍していたように思う。ともあれ、彼等と一緒に一日の大半を体育館で汗して過ごしていた学生生活ではあった。

50年一昔と言うが、50年近く経った今、その当時の事柄は忘却の彼方に流れていってその記憶はもはや定かではない。その中にあって、近畿教育系大学の奈良大会に田中義勝先輩に無理を言って試合に出てもらい、試合が終わるやいなや追い立てるように急いで帰ってもらったこと、関西リーグの2部の試合ではメンバーが揃って優勝できるのに、1部との入れ替え戦になると不思議とメンバーも揃わぬこともあり、最後まで1部に昇格できなかったこと、シャトルコックが高価な割に直ぐ羽根が折れて使い物にならなくなってしまい、なかなか新しいシャトルを購入することが出来ず、羽根の折れたくるくる回るシャトルを使って練習したこと、当時はラケットのフレームが木製でガットを強く張るとフレームが変形してしまって困ったこと、彦根短期大学との定期戦を組んだこと等が思い出される。

思い返してみると、私たち当初のメンバーが実質的に活動したのは僅か2年間であった。私が、三回生になった時、彼等は全員二回生で卒業し、私自身、学生自治会の仕事をすることになって、バドミントン部から離れ、昭和29年入学の林正博氏・三宅明氏・今井恒夫氏・黒川了洲氏・松久勇氏・川端博子氏や30年入学の井上弘暢氏（故人）、31年入学の結城実

映氏・羽野任世氏・奥村充子氏・中川朋子氏（故人）、林昌子氏等が順次活躍することになる。彼等の時代が滋賀大学バドミントン部の基礎を築いた時期とすれば、私たちの時代はその黎明の時期であったとでも言うことが出来るだろうか。

しかしながら、私達にとって滋賀大学学芸学部バドミントン部創設の頃は、ただ目の前のことに夢中になって追いかけ続けた青春の懐かしい一時期ではある。

滋賀大学バドミントン部創設の頃

昭和29年卒　田中　義勝

昭和26年、滋賀大学学芸学部に体育館が建設され、大津市民運動会バドミントン大会の会場となった。そこで、体育研究室の学生に呼びかけ大会に参加することにしたが、用具がないので、私がネット、支柱、ラケット4本、シャトルコック1ダースを準備し、練習に備えた。当時大津市内のバドミントン愛好者が大津市立中央小学校の講堂で練習されていたので、基本技術やルール、練習方法等を教えていただいては、仲間に伝達するということを繰り返した。更にその方々に数回大学まで来ていただき、直接指導を受け、ようやく大会に参加することが出来た。

その大会で、私が男子シングルと混合ダブルスで優勝したこともあって、翌27年、学芸学部バドミントン同好会を立ち上げたが、会員のほとんどが他のクラブに所属していたため活発な活動が出来なかった。

翌28年には新入生の加入があって、バドミントン同好会として本格的な活動が始まった。この年入学してきた高谷修一氏を主将として、経済学部との定期戦や他大学との交流試合を行い、同好会の強化が図られた。経済学部の榎本彦次先生、大津市同好会の浅野氏、打出中学の中島先生の御協力もあり、その年奈良県で開催された近畿教育系大学のリーグ戦で優勝する等クラブとしての組織も充実し、同好会から部に昇格することになる。

部長、林一正先生、主将　高谷修一で滋賀大学学芸学部バドミントン部の正式な活動が始まった。

滋賀大バドミントン部の思い出

高島郡体育協会 副会長　三宅　明

昭和28年、大学受験の前に進学適性検査なるものがあった、会場が滋賀大学（当時は膳所、現附属小中学校）であった。そこで初めてラケットで羽根を打ち合うスポーツを見た。それがバドミントンであった。昭和29年4月滋賀大学教育学部（当時は学芸学部）に入学するとすぐ高校時代の同級生今井恒夫とバドミントン部に入った。一回生では他に林正博・黒川了洲・松久勇・鈴木儀之・川端（現今井）博子・目方（現明珍）喜代子、竹内佳子などがいた。先輩の高谷修一さんからラケット振りやフットワークを嫌と言うほど絞られた。先輩には、田中義勝、森田（佐々木）勝太郎、青山一蔵、大橋良治、藤村伸一、一伊達（平野）泰子、卜田（丸山）俊子、川口（西村）喜久夫子さんたちがいた。一回生の秋の関西リーグ3部で優勝し、2部の京都薬大と入れ替え戦、当時3D、6Sにメンバーがどうしても足りないとのことで林と私が急遽呼ばれ出場した。初めての対外試合ダブルスに出場し、善戦したが敗退し、次年度も3部が決定した。昭和30年以降の後輩には目方剛三、井上弘暢、伊藤尚典、国門勉、結城実映、豊田順一、田代康雄、奥村（瀬津）充子、大西（佐々木）千代子、木戸脇（山本）八千代、北条（中川）朋子、平井（木村）光子、松本（羽野）任世、市野善佑などの名前が思い浮かぶ。顧問を原田直一先生から林一正先生にお願いした。関西リーグも2部から1部への入れ替え戦を2度闘った。相手は大経大、関学。ともに4：5で破れ、1部の壁の厚さを思い知らされた。ダブルスは三宅・井上、松久・林、結城・豊田だったかな。卒業後も井上とダブルスを組み、県の選手権を勝ち取ったこともある。

女子が凄かった。奥村・北条、平井・松本でで2D3Sだから関西リーグもあっという間に1部に昇格してしまった。バレーボール、バスケット部に遠慮しながら体育館を使っていたが、バドミントン部

の成績に体育館も堂々と使えるようになっていた。

大阪府立体育館、三宮のWMCAの体育館、サンバタの木製ラケット（当時1,200円）、歪みを防ぐ木の枠、膳所校舎の体育館、彦根経済の体育館、好敵手大谷大北方、大阪学芸大北野・宝来、経済の羽野・伊予だったか実に懐かしい思い出だ。当時バドミントンを広め、バドミントンの県レベルを一気に高めたのは、滋賀大の学芸・経済の競い合いがあったからだと思う。その功績は十分評価されるべきだ。

大学卒業後も時々大学の練習に参加したし、合宿にも参加した。だから長尾寿、安沢武雄、根来旭、新谷紀久男、松山武、澤長寿なども懐かしい名前だ。彼等が中学校で指導に当たり、全国大会で滋賀県の名前をとどろかせたのも、素晴らしいことだし、滋賀大バドミントン部の誇りでもある。

粟中で中島先生や白子先生、スポーツ用具店の浅野さんなどとよく練習をした。すると小学生がやってきて一緒に練習したのが藤原健二、経済学部の体育館のすぐそばのタバコ屋さんの子がやって来て試合の合間にラケットを振り回して遊んでいた。それが田中英明。

経済学部といえば榎本彦次先生、事務の田中多喜造さんも懐かしい名前だ。賞状を素晴らしい字で書いてくださった能登川中におられた佐野先生、女性では花房先生が審判部を頑張ってくださった。榎本先生には16回秋田国体へ女子の監督ということで連れて行っていただいた思い出がある。

高島郡へ赴任してきた後輩も何人かいた。川戸健一が高島高校のバドミントン部の顧問をしてくれた。千田敏彦が今津中で、根来旭が安曇川中でバドミントン部を創設した。八代益が今津の小学校、朽木の極僻地、朽木西小学校へ着任したのが藤上良英、寒い夜バイクで朽木へ帰るというので先輩としてほっておけずカッパだったかトレパンだったか貸してやったことがある。八代・藤上がいてくれたので、昭和42年度高島郡は県民大会で優勝することが出来た。監督冥利だ。荒川（河村）達男（故人）も朽木西小へ赴任して来た。息子の嫁が勤める学校で教頭さんだった。バドミントン部の後輩たちが色々な分野で活躍してくれていることを知るとなんとなくうれしいものだ。しかし、何時のことだったか、滋賀大バド部のOB会があり、平津の大学近くの会場で懇親会があったが「昭和33年卒・・・」として紹介すると「まだ生まれてえへん」と言われがっかりしたことがあった。

実はこのOB会も私たちが作ったものだ。先輩たちの頃からのバード代などの借金が嵩んでいることが分かり、その清算のため顧問と相談して歴代の先輩にお願いして結成したものだ。毎年会報や会費の請求が送られてくる。会費も少し滞納しているかもしれない。めげずに頑張ってほしい。

昭和63年の高島郡民大会でアキレス腱を切り、楽しみとして時々ラケットを振るくらいになった。バドミントン競技を支えてくださる皆さんに感謝し、今後益々のご活躍をお願いしたい。　（敬称略）

育てることの楽しさにはまって

長尾　寿

「北風」よりも「太陽」の気持ちで

私が赴任した大津市立日吉中学校は、京阪石坂線の終点坂本駅の正面にあり12・13学級をいったりきたりするこじんまりした学校であった。（昭和37年4月赴任）それでも600近い在校生（当時は50人学級もあった）があり、部活動のやりやすい学校で、バドミントン部のあったことは、私の生き方を決定づけるものとなった。

狭い体育館をバスケット部男女、卓球部男女にバドミントン部男女が加わって曜日を割り当て練習するのだが「勝つことによって鍛える」という私の信条と「どの子も平等」という教育の理念が矛盾しないか、練習における機会均等の保障と個性を生かす能力主義の両立は悩みの種であった。

当時の近畿中学校バドミントンの勢力地図を見ると、男子は猫の目のように変わる群雄割拠、女子は御三家と言われる桂中（京都）、能登川中（滋賀）、花乃井中（大阪）が覇を競っていた。そこへ、大学時代の経験者が各地で教職に就き部の経営に力を注ぎ下克上の時代に突入するのだが、赴任2年目に女子が常勝軍団、能登川中を破り初優勝して近畿大会

に出場できたことは幸運であった。そして、勢いというものは恐ろしいもので勝ち進み、桂中学と決勝戦を迎えるのだがゲームの途中で、会場の阿倍野体育館の借用時間が切れ、決勝は両校に任せるという近畿中体連の方針により、日吉中学の体育館でゲームカウントを引き継ぎ1週間後に試合を再開したのである。結果は2対3で敗れたが、放課後、桂中との決勝戦の続きを関係両校で実施するなど、後にも先にもないことをやったのである。

とにかく、御三家のバドミントンは、羽根の下で選手が舞っているかのように美しかった。まるで美しくなければバドミントンでないと優雅さを誇示しているようであった。そこへ、日吉中のような蝿叩きで蝿を叩くようになんでも叩き落す攻撃的な好戦的チームの出現は意外だったに違いない。しかし、四条畷学園（大阪）が近畿大会に出場する頃から技よりもスピードと体力が重視される競技へ大変換していったのである。

「温故知新」の仲間たち

近畿大会、全国大会とも男女優勝という輝かしい成果も、活躍した選手の受け皿として県内に適当な高校が無く選手を伸ばす道は絶たれ、多くの選手は京都の私学に進学し腕を上げたのである。びわ湖国体で宣誓した谷三津代さん（日本リーグで活躍、ナショナルチームの一員として海外遠征でも活躍）はその代表で、成安女子校を経て、日体大で大きく育てられるのである。このこと自体は誠にありがたく特に成安女子高無くして谷さんの存在はありえないのであるが、生活指導を含めた教育の一環として選手の「育成」を試行したのである。選手を地域で育てるという父母や地域社会との連携を教育に生かそうという意気込みが関係者を動かしたのである。

今日存在する比叡山高校バドミントン部はこうして誕生し、日吉中のメンバーも入学したのであるが、今日の隆盛振りを見るにつけ、部誕生の英断をした高校側の見識に今もって敬服している。そして、このことが深部の力となり、やがて来るびわ湖国体には陰に陽に大きな役割を果たすことになったのである。

昭和57年3月、県体育協会により「優秀指導者賞」を受賞することになったが、数ある種目の中での受賞は、私のみならずバドミントン関係者への励ましとなり、部活動をする学校が増えていったのである。

私は、残念ながら「優秀指導者」という価値ある賞の受賞に得まれたが、既に後輩に地位を譲っていた。譲っていたというより奪われていたという表現が正しい。気力・体力・戦術・指導とすべての分野で後退していたのである。かって私が、その地位を奪い取ったように、私もまた新しい勢力にその座を奪われていったのであるが、清清しい気分でいられるのがうれしい。これは多分、私が、スポーツクラブの指導者でなく教師として学校体育に生きてきたことによるものと思われる。同窓会などで、新進気鋭の指導者と出会う時、両者が育てる楽しさを共有する幸せは、教師冥利に尽きる私の宝である。

私のバドミントン『道草』人生

松山　武

『バドミントンやらへんか?』『バドミントンて何やった?』『やったらわかる!』当時は木製のフレームだったラケットを見せられながらこれだけのやり取りで、其れまでスポーツらしいことは何一つやったことのなかった私が、見たこともないバドミントンを始めたのは昭和31年4月、彦根東高に入学した直後、同級のG君に誘われたのがきっかけだった。それから先輩に教えられたり絞られたりしながら古くて天井の低い講堂で3年間「バード」を打ち続け、すっかりバドミントンの魅力にハマッテしまった。しかし、3年生の春の高体連の大会を最後に、もともと音楽が好きだった私は同じ講堂の裏の音楽室で練習していた音楽部に掛け持ち入部し、ラケットを握ったり、合唱の練習をしたりでどっちもつかずになり、とうとう卒業アルバムのクラブ写真にはどちらのクラブにも私の姿はなかった。

これが私のバドミントン『道草』人生?!の始まりであった。

滋賀大学に進んだ私は【もうバドミントンは飽きたので違ったスポーツをしよう】とバレーボール部に入った。（またまた道草!）。当時、学舎は膳所に

あり、古い体育館の横の土のコートで練習していた。その横では使い古された板張りの床のコートでバドミントン部が練習していた。1か月ばかりバレーボールの練習をしてはいたが、窓の金網越しにバドミントン部の練習を見るにつけ「やっぱりバドミントンはいいなあ・・・・」と思う気持ちが募り始めたころ、バドミントン部の先輩（4回生の結城さんでした）に声をかけられると、渡りに船とばかりホイホイと移ってしまった。その後の4年間は移転した石山平津の新体育館で練習に励んだ。

昭和38年4月卒業と同時に、それまでの廃校の方針が撤回され男女共学4クラスの1年生が入学してきたものの女子高と変わらないような八幡高校に赴任した。すべて初心者の女子部員を相手に早速クラブ活動を開始した。1年目は学級担任もなく気楽な立場で授業と放課後のクラブ活動に明け暮れていた。授業が終わると生徒より早く体育館に行ってネットを張り、練習の用意をして部員の来るのをいそいそと待ち構えていた。正月の数日しか休みのない1年間の無理がたたったのか、2年目の夏には肺結核にかかっていることがわかり、その後1年数か月の入院と2度の手術の後、、昭和41年2月に復職すると、またまた懲りずに?!バドミントン部の顧問として、以前にも増して生徒と共に白い羽を追い、打つようになった。

八幡高校にいた12年間の間に2年間、顧問が転勤した後のサッカー部の顧問を引き受け、現在の堀上町の新校舎グラウンドを部員と同じようにユニフォーム姿で走り回っていた。（道草3回目）

次に転勤した草津東でも9年間のバドミントンの顧問を挟んで、やはり顧問が転勤した後のソフトテニス部の顧問を2年間、最後の1年間には剣道部の顧問をして（道草4回、5回目!）部員と一緒に練習した。剣道部の顧問に決まった昭和58年3月には面、胴、小手、袴、胴着、竹刀など一式を十数万円をかけて揃え、昼は格技場で週3日部員と同じ練習を「キエー、メン、メン、メン・・・」とやり、夜は週3回、守山市内の練心館で小、中学生と一緒に練習し、川本久平先生に教えて頂いた。バドミントンという「洋もの」とは違い、日本古来の武術を経験した1年間は、普段の「教える立場」ではなく「教えられる立場」に身を置いたこともあって貴重な時間であった。

三つ目の八日市南高校では、クラブ活動が低調で、夏休みなどに草の生えたグラウンドで一人ランニングをするばかりであった。平成2年には教頭になり、平成8年からは校長として学校をあずかる立場から、自らはスポーツをする時間も取れないまま、平成13年3月に定年を迎えてしまった。顧問としては一貫してバドミントンを続けてこられなかったが、その時々の学校の事情もあったし、それはそれなりに生徒とのつながりもあって楽しい時代を過ごせたと思う。

〇〇歳の今では健康のためにウォーキングをし、ラケットの素振りをするだけになってしまったが、どういうわけか今でも時折夢の中で試合をすることがある。夢の中とは言え激しい動きでプレイをしている自分になったり、それを上から冷静に見ていたりと、一つ一つが鮮やかに見える。相手の姿は見えないまま、いつも3セット、セッティングで競り合って勝ち、額の汗さえ感じている。やはり私の心にも体にもバドミントンが染みついているからだろうか・・・・

とにもかくにもバドミントンを知り、『道草』はありながらもバドミントンが出来たことを幸せに思っている昨今である。

バドミントンとの出会い

堀江　泉（前　虎姫高等学校校長）

「来年、バドミントンの顧問をやってくれないか。顧問も若い人がいないと元気が出ないから。」「バドミントンという部があることは知っていますが、競技については全く分かりません。それで務まるでしょうか。」「何も知らなくても大丈夫。毎日、練習を見に行ってくれるだけでいいんだ。」「それならできるかもしれませんね。」「来年から二人でやろう。」

昭和39年（東京オリンピックの年）4月、滋賀県の教育職を拝命し、長浜商工高校（現長浜北星高校）へ勤務して1年目が終わろうとしていたある日、

先輩のＩ先生との会話です。

私とバドミントンとの出会いでした。当時の私はバドミントンについて本当に門外漢で、単に「羽根つき」（失礼な言い方ですが）の延長程度の認識しかありませんでした。

教員生活２年目が始まりました。私はＩ先生との約束どおり（?）バドミントン部の顧問を命じられました。同時に文化部では「学苑編集部」の顧問も兼務することになりました。「学苑編集部」とは耳慣れない部ですが、新聞部と文芸部が合併したような部でした。（余談ですが、当時新聞は発行されてなく後に発刊できるようになりました。）

毎日、放課後になるとコートへ顔を出す生活になりました。でも、行ってみたところで何もすることがありません。そんな中で、主将のＹ君（その年のインターハイ複でベスト８の成績を残しています。）、マネージャーのＡ君を中心に部員たちが、用語・ルール・練習方法等について話してくれました。ガットの張り方まで伝授してくれました。それらが解ってくると部員と一緒になっての練習です。特にランニングに挑戦した時は地獄でした。（ほんの一寸で止め、専ら自転車で追いかけることにしましたが。）

その頃の練習場所は古い講堂でした。しかも、卓球部と共用のためコートは男女で一面半が精一杯でした。ともかく講堂ですから天井は低く、ハイクリヤーは打てません。背後もスペースがなく、腰板にぶつかってしまいます。おまけに床はボロボロでよく穴があき修理をしながらの練習でした。そんな状況ですから、当然のことながらシャトルを打つ時間は限定されます。むしろ、シャトルを打っている時間よりもトレーニングの方がはるかに長く、辛い練習でした。でも、部員たちはくる日もくる日も黙々と取り組んでいました。

当時、長浜商工高バドミントン部男子は県内に敵なしの状況でした。湖北の中学校でバドミントン部があったとはいうものの、あの悪条件の中で栄光を維持できたのは偏に猛練習の賜だったと思います。ある年のことです。春の高体連に出場するメンバーの決定に苦慮したことがあります。（エントリー数が制限されていたため）選手決定のための試合をすることにしましたが、時間、その他の条件により早朝５時から行ったことがあります。私は「暁の決闘」と名付けました。（いい表現とは言えませんが。）

春秋の大会は滋賀大学経済学部の体育館が中心でしたが、社会情勢の進展とともに各高校・地域に立派な体育館が建設されてきました。とともに、指導者の充実、技術の著しい進歩、シャトル・ラケット等の目覚ましい品質の向上とが相俟って、現在の隆盛を見るに至っていることは誠に喜ばしい限りであります。往時から比較するとまさに隔世の感があります。

見よう見まねから出発したのですが、長浜商工高で12年、長浜北高で15年の教員生活の殆どを顧問として過ごす結果になってしまいました。（途中校内事情により顧問を離れた時が都合４年程ありますが。）夢はたくさんありました。素人が初心者を指導して全国大会へ行きたい、女子も全国大会へ連れて行きたい等々がその一端です。残念ながらその全てを満たすことはできませんでした。でも、夢のお陰で続けることができたのではないかとも思っております。もちろん続けられた理由はそれだけではありません。いや、それ以上に私にとって大切なことは、この間、実に沢山の方々に親しくして頂き、教えて頂き、支えて頂いたことであります。人生においては、出会いがその後に大きな影響をもたらすことがあります。邂逅と言った方が適切かもしれません。私の場合、バドミントンとの出会いがそうだったのではと考えています。

追記　今年（平成14年４月）から、ご縁を頂き「レディースバドミントン協会」の会長を仰せつかっております。

「白い妖精にホレた50年」

久保　宏

昭和20年８月15日終戦。この第二次世界大戦で空襲を免れた京都。私は小学校五年生だった。

食べる物は何もなく、夜が明けきらないうちから、加茂川の土手には、女、子供がわれがちにと食べら

れそうもない雑草をむしっていた。アザミの葉も茎も食べた。トゲが喉に引っかかり食道を通らない。それでも「胃」はパックリと口を開けて食物を待っている。みんな栄養失調だった。

そんな中でも子供は遊ぶ。戦争ごっこから野球らしきもの（バットは木の枝、ボールは衣服のボロを丸めグローブも布製で三角ベース）へと変化していき、私は野球小僧だった。その小僧が京都から大津へ移り、青年になりかかったころ、出合ってしまった。

“白い妖精の美しく激しい舞い”に。

すぐ夢中になった。バドミントンの不思議な魅力に時間を忘れた。

まだ、ラケットを握る人も少なく、相手がいない時はカベ打ちをした。シャトル（バードともいっていたような……）はニワトリの羽根、すぐ折れた。高かった。最後には羽がボロボロになって、打つと弾のように飛んだ。水鳥のシャトルは高級で、めったに使えなかった。ラケットは木製。竹のフレームなら上等だった。ガットはすぐ切れた。ガットを張るとき、強すぎるとラケットのフレームはひねったように曲ることもあった。「自分も相手も予想もしないところに飛ぶ」と笑い合ったこともあった。

その当時、出合ったバド仲間、先輩、懐かしく今でもよく憶えているが、名前を書くと、忘れて抜けてしまう人があると失礼なので書けない。「俺はこの頃には」「私はこの時に」とそれぞれ思い出してもらえば幸いである。

「白い妖精」に出合って50年。いろいろな事があった。実業団として「大津市役所」の名前がスポーツ新聞に掲載されるまで頑張ろうと思い、その願いがかなって、全国実業団のベスト8に入った時の嬉しさ。すばらしいその時の仲間たち。

日本バドミントン協会から、いよいよ発足することになった「日本リーグ入り」を打診された。残念ながら実現はしなかったけれどヨネックスやカワサキ、東京電々などの強豪とともに、「市役所」という限られた枠の中で打診を受けたことは、誇りでもあった。

昭和54年の高校総体、56年の「びわこ国体」、それに先立つ皇子丘公園体育館の建設。思い起こせば、次から次へときりがない。嬉しかったこと、悔しかったこと、辛かったこと、夜の奥びわ湖で死のうとまで思ったこと。

みんなみんな、今となっては夢のようだ。

「白い妖精」に魅せられて、夢中でここまできた50年。懐かしくて、本当に涙が出そうだ。

県実業団の理事長や、ワンポイント（2年）で県協会の理事長をさせてもらったこともあった。

その時、京都の理事長は島津製作所の野村さんで、当時は南海ホークス、のちの阪神タイガース前監督の野村克也氏の実兄で、バドミントンと同じくらい野球の話もした。

毎年各地で行なわれる「全日本実業団選手権大会」は、ほとんど「あのすばらしい選手たち」と一緒に参加した。北海道から四国、九州と、想い出が一杯できた。ありがたいことであった。

たくさんの人と出合い、知り合い、飲み合い、笑いあった。それもこれも「白い妖精」のお蔭である。

世界で戦う日本代表のメンバーが、皇子丘公園体育館で合宿したことがあった。大津市役所のエース選手の“誰もまともに打ち返すこともできない不思議なスピンサーブ”を教えてもらいに来た。すばらしいことだった。

その後、恐れをなしたのか、世界（WBA）は、ルールを変更し、このスピンサーブを禁じた。世界の国々を巻き込んだこの選手が「大津市役所」に在籍していることは、皆さんご承知のとおりである。

今はもう、ラケットを握ることもなくなった私は、そのくせ缶ビールはしっかり握って、新聞などで皆さんの活躍を「フム、フム」と頷きながら見させてもらっている。

今回、思いもかけないことに、県協会長の沢先生、協会誌編纂委員長の藤上先生から、「お前も何か想い出があるなら書いてみい」と嬉しいお便りを8月に貰いながらまだ時間があると悪いくせが出て、11月の28日になって、あわててペンを走らせている。書き足りなかった事や、お礼をいわなければならない人もあったのに、「もう時間」がない。

本当に「白い妖精」と関係各位に心からの感謝を

申し上げ、協会の益々の発展と、皆々様のご健勝を祈念して、私の乱文なる「想い出寄稿」とさせていただく。

平成14年11月28日

県協会創設期に高校の部で活躍した長浜西高・長浜商工

昭和32年長浜西高卒　三橋　俊夫

私が高校時代在籍した、県立長浜西高（現長浜北星高校）バドミントン部､バドミントン競技として、総体県大会が開かれた当初から活躍、高校総体代表として参加し、活躍していたことが記録に残っています。

昭和27年香川善通寺市の第3回大会に、滋賀県男子代表として彦根高校とともに、長浜高校中校舎として参加、昭和28年第4回大会山形市大会に長浜西高として参加、第5回金沢大会には県大会準優勝で彦根短大付属とともに長浜西高は県代表に選ばれています。

この第5回大会は、私にとっては、当時高校1年生で全国大会にチームの一員として参加した最初の大会で、今でも練習に地元の高校体育館に出かけた町の光景や路面電車に乗って大会会場とコートでの試合を思い出します。この創世期に活躍した選手として、平山正、中野太一（昭和29年卒)、小川修、上林繁（故人)、大島広次、松原晃（昭和30年卒）の諸氏の活躍があります。

昭和30年神戸大会から、団体戦とともにシングル、ダブルスの個人戦が始まり、団体戦への出場は県大会優勝の1校となりました。

長浜北小の体育館で開かれました。団体戦は2ダブル3シングルで勝敗を争いました。この大会も私にとって記憶に残る大会です。確か彦根短大付属と準決勝を戦ったのですが、力が伯仲していて、確か試合開始が午前9時、勝敗が決したのが午後1時、負けた試合の中で4時間戦った試合としていつまでも思い出します。

この年度は、もうひとつ思い出の残る年でした。年度の後半行われる近畿バドミントン大会、京都で行われた大会で3位に入ったことです。近畿バドミントン大会は、前年度は奈良市で開催され、1年生で出場しベスト8には入れた大会でした。近畿の強豪校の3年生は、受験などで出場していなかったとはいえ3年生も入った大会で、1年生でベスト8、2年生で3位は私が自分の身長や体系からどんなスタイルで戦うか自問自答して、毎日、守備のステップの第1歩をどちらの足で踏み出せばいいか練習で訓練して臨んだ大会で、その後の自分の試合スタイルを生み出せた大会でした。

また、この大会で、どうしても勝てなかった1年先輩の彦根西高の横田氏に勝てた試合でもあり、準決勝で敗れた相手は、同じ1年先輩で滋賀の彦根短大付属の秋山真一氏でどうしても勝てなかった一人です。両氏は国体近畿予選に備え、春の総体後土曜日には、彦根の城東小体育館でともに強化練習を重ねた先輩でありました。

私が最上級生となった昭和31年は散々な年でした。春総体前の愛知高校との練習試合で、ダブルのパートナーの西川多気夫氏が捻挫、総体県大会は小川正弘氏（故人）との即席コンビとなり、団体決勝戦のダブルスで敗れ1勝1敗、しかもシングルスでは、橋本氏と対戦中に左肩を故障、力が入らなくなり敗れ、団体戦を落としました。個人戦ダブルで、ようやく優勝し仙台市のインターハイに出場したものの最悪の結果を残してしまいました。肩の故障は完治せず、33年富山国体では、肩が温まらなくて力が入らない状態で困りました。

私は、卒業後、小川君とコンビで国体出場に向け仕事後夕方から母校の西高で、また彦根まで自転車で出かけ、練習を重ねました。練習相手は母校の後輩だったり､彦根の安澤さん（32､33年国体に出場）たちでした。

母校西高、その後も県の第一戦で活躍、インターハイへの出場が続きます。その源は、長浜の2つの中学校に北中と南中にバドミントン部があり、西高の練習場の天井が低く、ハイクリアーの練習ができないため、時々、両中学校へ出かけ、練習をさせてもらっていました。

そのとき、練習を中学生としたり、指導したりし

たことが、高校入学後、すぐに高校の県大会で第一戦で活躍する選手が生まれました。川崎広国氏（33年卒）上田弘氏（34年卒）川村義夫氏（35年卒）などです。中でも川村氏は1年生で川崎氏と組んでダブルスで県大会を制覇、2年生では団体、ダブル、シングルの完全制覇を成し遂げました。私は小川君とのダブルス解消後、川村氏が国体に向けての練習相手や、ダブルスの相手として後輩たちと練習をしました。

昭和36年、西中から杉政和男、高木捨雄の両君が入学、1年生コンビでダブルス優勝、杉政氏は、2年生ではシングル、ダブルとも準優勝でしたが、校名が長浜商工と変えた昭和38年、男子団体、シングル、ダブルの優勝、準優勝をすべてさらうという完全制覇を成し遂げています。

この年の高校総体鶴岡大会は、私にとっても忘れられない思い出です。完全制覇した長浜商工バドミントン部が全国大会で、滋賀県勢としてはじめてベスト8に入った大会で、そのコートサイドにコーチとして入ってともに戦ったし、NHK教育テレビで、ここまで進めば、テレビ放映がある絶対勝とうと鼓舞し、実際勝ち上がり、母校でもテレビ観戦できた記念すべき大会となりました。

杉政氏は卒業後、社会人トップのトヨタ自動車から誘われ入社、国内トップの小島氏のダブルスパートナーとして活躍しました。

以上、県協会設立時から1963年まで、高校競技で活躍してきた母校、長浜西高（現長浜北星高校）の活躍を振り返ってきました。

その後も県大会で、全国大会で母校長浜商工高校の活躍は記録されています。

これからも長浜北星高校が再び、高校競技会で国内トップとしてリードする比叡山高と競い活躍するバドミントン部へ飛躍することを願ってやみません。

彦根からのスタート

上原　信彦

協会誌の発刊おめでとうございます。

今回のすばらしい機会に参画できますことは大変光栄です。ただ私が滋賀県にお世話になったのは昭和33年から4年間と、古く、本当に短い期間であり、本稿の主旨にややおこがましくも思います。しかし、この4年間はそれから私が40年余りバドミントンとともにあることができた貴重なスタート台となりました。40年以上続けられている愛好者の方はたくさんおられますが、私は役員として携わってきたためいろいろな場で会長さんをはじめ多くの方達とご一緒する機会があったことが今回のことになったと思います。

私は彦根の滋賀大学でバドミントンを始めました。残念ながら弱いままでしたが、榎本彦次先生と田中多喜造様の指導を受け、技術的なことよりもバドミントンへの夢を常に情熱をもって語られ、それをよく聞いていたので愛着は人一倍ついたと思っております。

在学中、榎本先生の勧めでOB会が結成され、おかげで今でも先輩顔して彦根へ行くことができます。下の彦根城をバックにしての写真は昭和36年、4回生のときの第2回目のものです。



当時のウェアは写真のように白一色でしたが、かびの残った白を着てがんばったことを思い出し、つくづく今の豊かさを痛感します。ここにあった体育館は2回生のときに新設されましたが、今はありません。榎本先生の努力で6コートすべてラインが引

いてある等、当時としては恵まれた施設でした。彦根西高校の選手が花房先生の指揮のもと、インターハイの上位をめざして一生懸命練習していたこと、体育館のすぐ隣の店に練習の合間によく飲み物を飲みに行きましたが、その店の子息（当時小学生）が現在の谷理事長で、ここで榎本先生の手ほどきを受けていたことを思い出します。

私は卒業後愛知県に戻り、豊田自動織機に入社しました。幸い会社にはバドミントン部があり、引き続き楽しむことができました。選手よりは監督兼マネージャーとしての立場が多かったこともあって昭和40年に愛知県協会の理事になりました。このことを榎本先生に報告にいったとき「バドミントンの発展と育てた選手を日本一にしてやってくれ」と言われ、その夢の大きさにさすがに「わかりました」とは言えませんでした。それでもトヨタ自動車への遠征など手伝いましたが、そのまま愛知県に来てしまった選手もいてやったことがよかったかどうか、心苦しくも思っております。

しかし、彦根西高校出身の大橋（現岩切）美知子さんが全日本実業団女子単で優勝、同期の辻田（現武田）京子さんが大橋さんとがんばって同大会で準優勝、冨居（現幸）康子さんが鹿児島国体で準優勝等の見事な成績を残したこと、また、長浜商工出身の武田正雄君が県実業団理事長および県協会指導委員長、伊藤一夫君が県協会副理事長兼選手強化委員長と大いに貢献していることで勘弁していただきたいと思います。なお、現在選手強化については練習会に参加させていただく等、先をいっている滋賀県の力をお借りしており、この場を借りてお礼申し上げます。

私は平成7年から愛知県協会の理事長になり、現在9,800人の会員のさらなる拡大と、とにかく強くなるため、また、平成9年からは（財）日本協会の理事として微力ながらバドミントン競技の発展のために努力しております。

今回、この機会に自分を振り返ってみますと主旨にあります「活躍」とか「打ち込む」には至らないままきてしまった思いですが、今から夢を描き直して選手、指導者、そして役員を育てていきたいと考えております。

協会誌を作ることは本当に大変なことです。私も平成10年が県協会創立50周年にあたったため、就任してからすぐ記念誌の編纂にとりかかり、苦しい思いで完成させた体験をしております。今回、編纂に当たられました皆さま本当にご苦労さまでした。

「選手生活の思い出」

中野　重彦

私が初めてバドミントンを目にしたのは中学3年生の夏、昭和28年の県民体育大会の時だったと思います。暑い暑い体育館の中に暗幕が張られ、電灯の下で白い羽根が天井高く飛びかうさまはとても美しく華麗に見えました。中学3年間はソフトテニスをしておりバドミントンのよりも数倍重いラケットを振り回していましたので右腕には力がつき、バドミントンのラケットを手にした時にはたいへん軽く感じました。

彦根工業高校に進学し、校内球技大会にもバドミントンが種目にあり面白そうだなぁとやり始めました。当時の彦工バドミントン部は県や近畿大会で優勝する程の力がありました。高校3年生の夏に仙台で開催されたインターハイに個人戦で出場いたしましたが、一回戦で敗退。精神面が充実していなかった故の結果であったと思い出されます。

高校卒業後は榎本先生からの呼びかけで滋賀大学経済学部短期大学部に入学し、次第に精神面、体力面、技術面において自分なりの実力がついていったように思います。当時、大学の体育館の床は石畳で天井は低く、ハイクリヤーを打てば天井に当たる有様。そのせいもあってか、速く低いクリヤーの練習が充分にできました。

その年の東海大学選手権大会には、伊興さん・羽野さん組、川村さん・碓井さん組のダブルスと私のシングルスで出場し完全優勝しました。個人戦ではシングルスのベスト4に滋賀大から3人入り優勝は羽野さん、ダブルスは伊興、羽野組が優勝でした。私はシングルスの準決勝戦で南山大の山本選手と対戦し、3セット1時間近く接戦いたしましたが残念

ながら敗退。その20分後に行われた決勝戦で羽野さんが勝たれたわけで、夜の祝賀会の時に「おまえが頑張ってくれたので楽に勝つことができた」と言われたこと、そして団体戦優勝で祝杯をあげられたことがとても嬉しく、忘れられない思い出になっております。

金沢大学、三重大学、滋賀大教育学部との定期戦では、各大学の方々とも仲良くなり広く交流できたこともかけがえのない人生の宝物になっております。

翌昭和33年には新しい体育館が建てられました。広くて天井も高く、バドミントンコートは6面とれ、この体育館で練習ができることに胸踊る思いがしました。夏には滋賀大が当番校で近畿総合体育大会が開かれました。関西リーグ一部の神戸商科大学、同志社大学などが出場され、私たちは教育学部と合同で出場しました。教育学部からは故井上さん、結城さん、経済からは田島さんと私とでチームを組み、たしか2回戦だと思いますが結城さんが同志社の柴田さんに勝ち、その時に決勝戦までいけると皆、意気が揚がりました。そして神戸商科大学との決勝戦は、ダブルス1対1シングルス1対1となり優勝の行くえは関西リーグでのランクが3位の平田選手と私との一戦に。1セット目はセブン・ラブとリードされもうだめだと諦めかけましたがなんとかイレブンまで粘ったものの負け。2セット目は1セットで粘った甲斐あってかエイト程に抑えて勝ち。2セット目終了後には吐いてしまうほど体力は消耗していました。後輩の嶋田君が私の背をさすり、団扇であおってくれたことが思い出されます。3セット目に入り、私を応援してくれる人でコートが囲まれるなか、渾身の力を振り絞って戦い勝つことができました。気力、体力、技術力すべての面で最高潮の時だったと思います。



その後、団体などにも出場させていただきました。7年間の競技生活で多くの先輩や後輩、友人と出会えたこと、特に故榎本先生に出会い先生から受けた温情に深く感謝しております。そして還暦を過ぎた現在でも私を支えている気力は、あの競技生活から養われたものだと自覚しております。

最後になりましたが、滋賀県バドミントン協会の今後一層の発展を心よりお祈り申し上げます。



多くの思い出をありがとう

(故) 中川　朋子 (北条)

昭和31年、滋賀大学学芸学部に入学し、何もわからない私に、林一正先生が声をかけてくださり、バドミントン部に入部しました。経験のない私は先輩たちの温かい指導で、体力づくりに、バドミントンの技術にと必死でした。

バドミントンの歴史はまだ浅く、1回生より選手として色々な大会に出場させていただき本当に楽しい思い出の多い大学生活でした。今、思い起こせば講義を受けているより体育館での生活が多かったように思われます。

その中で滋賀県の選手権大会に奥村充子 (瀬津) さんとのペアで先輩と戦い優勝できた時は本当に感激でした。又、教育系大学の大会で優勝できた時、関西学生リーグ戦の1部で準優勝できた時、奈良での近畿選手権大会で優勝できた時には、奈良公園を我が物顔で歓声を上げ、みんなでスクラムを組んで歩いたことが今も目の当たりに思い出されます。又、林先生を囲んでのコンパでは、大きな優勝杯に酒を溢れんばかりに注いで、回し飲みをしたのもこの間のように思われます。数多い大学での選手生活は、

私に多くの物を与え、新しい生き方を示唆してくれたように思います。これも林先生のお声かけ、試合やコンパに、お忙しい中いつも応援してくださった温かな心のおかげだと感謝しています。

教職についてからも、バドミントンで培ったパワーで人前で大きな声で話すことの苦手であった私が、運動会等の行事で全校生徒の前で大きな声で指導することが出来大変喜んでいます。教職生活35年間を無事終えられたのもバドミントン生活の中で培った体、心、精神のおかげと感謝しています。

中学校に勤務してからはバドミントン部の顧問として多くの生徒たちとかかわることが出来ました。その中でも栃木県で行われた第3回中学生全国大会には滋賀県チームの引率者として参加し、男女共優勝してくれた時の感激は今も忘れられません。

1951年8月12・13・14・15日

中川　文雄

昭和26年は滋賀県バドミントン協会にとって画期的な年でした。昭和25年夏休みの終わり頃に、高校、中学の教員を集めて県教育委員会の体育講習会が彦根において行われました。ここで初めて学校関係者の前でバドミントンが紹介されそこから、普及活動の第1歩が始まりました。ラケット、シャトル、ネットなど1式の購入はそこで紹介されたとのことです。26年には、県体育協会に加盟し、バドミントンは普及重点種目に指定されたのでした。その年の夏、彦根城東小学校で一般男子と女子の部の国体選手確定のための選手権大会が開催されました。それに引きつづき長浜での第4回県民体育大会においては、男子・女子の中学校団体戦と高校生男子シングルスの部の試合が行われました。高校生の部の1位と2位の選手は広島国体へ派遣されることになっていました。長浜西中の講堂(旧長浜農学校)の2面のコートで、8月12～15日までの4日間開催されたのでした。中学男子の優勝校は長浜南中(井上弘暢、小川修、西堀周吾、横田典司) 2位粟津中学でした。女子の部優勝校は尾中先生率いる能登川中学が県中学女子の部で11連勝する最初の年で、選手には辻千草、田附きみ、水谷静枝、原田のぶこさんたちが出場しました。

高校男子の1位は山敷敏雄（彦根短大付属)、2位は野坂明（長浜北）でした。長浜南中の横田典司氏によると、監督の吉川太逸氏に引き連れられて理事長の榎本先生に挨拶に行くと先生は選手一人一人に声をおかけになった、とのことです。野坂明氏によると、高校の部の優勝戦には榎本先生自らが審判をやっていただき、審判席からマイクを取り、2人の選手経歴を語りプレーゲームを宣誓されたとのことで、ずいぶん誇らしい気持ちでゲームを進められた、と語られました。

このことから、榎本先生始めこの大会を設置、運営進行された協会関係者たちのバドミントン競技への熱意、達成感、使命感などをまざまざと頭に描くことができ、先人たちの多大のご努力とご苦労に感謝の意を表するものであります。

実業団連盟について

佐藤　賢

私とバドミントンとの出会いは、藤尾小学校の時代の言わば羽根つきからである・戦後の混乱期の中で皇子山中学校に進んだものの打出中学校が火災のため、授業は打出の生徒と皇子山の生徒が交互に通学する2部授業であった。

中学校では、バスケットボール部が華やかで、いきなり入部したが続かず、体操部で新人大会にも出場させていただいたが物に成らず、水泳部の立ち上げに参加したが、これも駄目であったが、この当時、本格的なバドミントンの練習を講堂で見たのが、近畿実業団で、女子団体で2連覇をされた西村先生たちであった。

この当時のイメージが京都府立大学で、本格的にクラブに入る要因であり、バドミントンの虜になって、リーグ戦で三部であったが、優勝の経験をさせていただいたのが、今日まで約40年余り、滋賀県のバドミントン協会にご縁を頂いている始まりである。

学生時代は、滋賀大学に高校の同級の木村孝英氏

がおられたのと、定期戦で根来氏や安澤氏、澤氏、駒井氏等を良く知っていたので、あつかましくも滋賀大の合宿に参加させていただいたのが、本当に懐かしく思い出される。昭和40年に大津市役所に入庁し、先輩の久保氏からの勧めで市役所のクラブに入ることになり、主に、市役所チームの強化と合わせて、実業団連盟を発足させることが大きな課題であったが、昭和41年には、山洋電気の西村氏、東レ滋賀の山中氏の協力を得て、久保氏を理事長に、県議の正岡正三郎氏を会長に、実業団連盟を発足させることができた。しかし、昭和43年に、近畿実業団の開催当番県になったことから、滋賀大会では、体育館が未整備の大津市内では、会場を確保できず、彦根の滋賀大経済学部の体育館をお願いしていたが、榎本先生等との連絡が不十分であったことから、大会を前にして、久保理事長は、彦根の町をさまよう困難を極めた。翌朝、私も彦根に合流し、正岡会長の力を得て、何とか榎本先生の許可を得られ、大会は、成功したものの、このことは私にとって、その後の仕事や実業団連盟の運営等に大きな教訓を得ることになった。

久保氏は、かねてよりスポーツ新聞に、大津市役所の名前を出そうという大きな夢を描いておられたが、昭和42年には、福井県勝山市で開催された第17回全日本実業団選手権大会に初出場し、以来20年間の連続出場の中で、4回のベスト8に入るなど、日本リーグの入れ替え戦の資格を得るなど、全国に大津市役所ありと、新聞や雑誌に掲載されたときは、本当に至福の経験をさせていただいたし、久保氏を始め私にとっても、まずは、その夢を実現させていただいたところであった。

このような中で、高校総体やびわこ国体が、大津市で開催されることになり、正岡氏の死去に伴う次期会長に栗本藤四郎県議を、久保氏とともにお願いしたことが、大津市皇子山体育館の建設や選手強化で、高校総体やびわ湖国体での総合優勝を果たすことができた大きな要因の一つではと思うところである。

びわこ国体が終わって、早や30年が経過し、あの時の感動や苦労を懐かしむのも、今や60歳から70歳代の者であるが、この間滋賀県バドミントン協会を支えていただいた、澤長寿氏はもとより、藤上三兄弟を始め、藤原先生等、多くの関係者の皆さんの努力で、滋賀県のバドミントン協会を全国に誇れる協会に築き上げられたことに対し、心から敬意と感謝を申し上げるものである。

今、私も、僭越ながら実業団連盟の会長職となっているが、果たして正岡氏や栗本氏のように、その役割が果たせるものか自信がないが、バドミントンに対する思いは昔と変わらないので、これからも、滋賀県バドミントン協会の発展のために自分なりに努力をしてまいりたいと存じますので、宜しくお願い申し上げるものである。

青春であることの証

日本IBM野洲バドミントン部顧問
富田　健一

滋賀県の野洲町に日本アイビーエムの野洲工場が出来て、神奈川県の藤沢工場から400名が大挙して滋賀の地に移動してきました。その工場の開業開始時に第1陣として私が赴任してきたのが1971年の8月、夏の真っ盛りの時でした。工場の方針のひとつに、地域社会に早く溶け込もうということがあり、私も早速バドミントン同好会を設立して滋賀県の地で活動するために動き出しました。

前に勤めていた横浜の日立製作所戸塚工場のバドミントン部が全日本実業団大会に時々出場し、その時のプログラム冊子で知り得た大津市役所の佐藤賢さん宛に実業団連盟への加入依頼を手紙にしたため、出しました。

佐藤さんを始め実業団連盟の方々や滋賀県協会の方々に歓迎され、私達の滋賀の地でのバドミントン同好会の活動が開始されました。当時は練習会場を確保するのに大変苦労しました。今でこそ竜王町にあるIBM関西グランドに健保体育館がありますが、その頃は会社に施設がなく、京阪別所駅の近くにあった皇子山体育館、あの懐かしい蒲鉾型の古い体育館を借りてよく練習したものです。それから野洲町では藤上良英先生のお力添えで野洲高校の体育館

や、北野小学校体育館を借りることもしました。

滋賀に来た当初の大会を思い出してみますと、県協会の大会では藤上良英先生、久保田先生、藤上良信先生のいわゆる藤上三兄弟の全盛時で、時たまシングルスでお手合わせをする機会に恵まれてゲームをするのですが、息がハーハーゼーゼーして心臓が破裂しそうになったのを今でも鮮明に覚えています。ほどなく藤原先生も加わりとにかく教職員の方が強く全日本で活躍されていました。その藤上良英先生とは87年の近畿総合の40歳以上ダブルスを組んでいただき、京都の小島さん組と苦しい試合をしてやっとの思いで勝ち、優勝したのがいい思い出になっています。

実業団大会では、毎年全日本大会に出場していた大津市役所が大きな存在でした。我がIBMは弱小ながらも運良く、1972年に茂原市、75年高岡市で開催された全日本実業団大会に出場することができました。そして、83年は、県代表になったチームが辞退されたおかげで我がチームが繰り上げ代表になり、北海道の札幌市で開催された全日本大会に出場出来、バドの試合を楽しみ、そして、試合後の北海道観光地巡りを楽しんだのは、バドミントンをしている幸せをつくづく感じたものです。その後もチーム力を補強しながら同好会を部へと昇格させて、出場機会に恵まれ、何回かの全日本大会に参加しています。

30年ほど前から全国的にシニア大会が開催されるようになり、同年代の仲間とゲームができる環境も整い、若い時にバドミントンに傾けた情熱が40歳50歳そして60歳を迎えた今日でも衰えません。これもひとえに県協会の皆様方や70歳を超えた今でも奮闘されている安澤さん、中川さん等に引っ張られる格好で現役を続けられたお蔭と感謝しているものです。

長い間バドミントンを続けられたお蔭で、10年ほど前に日立バドミントン部のOBで台湾の台北市に行って、現地の同好会の人たちと山の中の青空コートでバドミントンの親善試合を経験をしたのは記憶に新しいところです。その山は、円山大飯店と言う名の大きなホテルがあるところで国が所有する山だそうです。その山の斜面を切り拓いて段々畑のようにしてバドミントンコートを造っています。コートを壁でかこむことや、屋根を作ると違反になるので青空天井のコートです。ただ周りの木々が鬱蒼と茂っているので風の影響はあまり受けません。そのコートが280コートあるというのですから驚きです。しかもそれぞれの同好会のメンバーが力と金を出し合って自分達のコートを造成したとのことです。バドミントンの魅力に取りつかれ、老若男女を問わず楽しんでいるようです。

早いもので、滋賀の地に来てもう40年以上になります。バドミントンを愛好してきたおかげで地域社会にもすぐ溶け込め、いろいろな人と出会うことが出来ました。バドミントンには不思議な魅力を感じます。幻の詩人、サムエル・ウルマンの詩を借りるならば、「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち方を言う。理想を失うとき初めて老いる」と謳っています。これからもバドミントンに情熱を燃やして、これからの人生も同じようにバドミントンに関わっていきたいと願うものです。



バドミントンと私

田部　正俊（旧姓　横田）

1、大学時代（滋賀大学芸後の教育学部）

その1

教師を目指して滋賀大学に入学しました。偶然に

も高校のバドミントンの高橋　茂先輩も同じ大学におられ、当然の如くバドミントン部に勧誘され、迷いもなく入部しました。一緒に入部したのが西村裕幸君と藤上三兄弟の一番上の良英君で、良英君とはこれから数年間ダブルスを組むコンビになりました。当時４回生に澤長寿、木村孝英、３回生に駒井朔男・川戸健一・２回生に高橋茂・八代益・鈴木照男そして和久先輩達で、メンバーの層も厚く、実力も中々のものでした。関西リーグではいつも大阪市立体育館で、三部の上位に頑張っていた記憶があります。３ダブルス６シングルスの所謂スリーシックスの戦いで相手とのオーダーの駆け引きにより一喜一憂、勝ち負けを分ける大切なものでした。特に大阪学芸大学には当時北野・宝来組、牛島・潮田組、杉田・伊勢田組と強豪揃いでなかなか勝利することができず、無念の涙を呑んでいました。

特に、伊勢田君とは宿命のライバルで、彼は細身だが角度のあるスマッシュ、そしてネットぎりぎりに落ちるドロップショットが得意で在学中５～６回戦ってわずか１回しか勝てなかった相手でした。彼を目標に日々研鑽したものでした。

そんな中で入部してきたのが藤原健二、藤上良信君（藤上三兄弟の末弟）でした。彼らは持ち前のバドミントンセンスを生かしてめきめき頭角を現して、滋賀大のバドミントン部の黄金時代を築き上げてくれました。

彼らの時代から、戦術・技術がレベルアップし、戦い方が変わったような気がします。また､緑のセーターそして左腕には２本の白線が入ったユニホームが今も懐かしく、バドミントンに明け暮れた日々、体育館でシャトルを追いかけていた姿が、数年前のように思い出されます。

大学時代　その２

忘れられないあの人達、懐かしい先生方

大学２・３回生はバドミントンに熱中し、講義もサボり、朝から体育館で相棒の藤上良英君と練習の明け暮れでした。そんな成果もあって、市の大会、県大会はいつもシングルス、ダブルスとも上位に入賞し二人にとって一番実力が伸びた時期のように思います。

そのような中、彦根では村岡・西川組（彦根西高校出身）が圧倒的な強さを発揮し、絶妙のバランスと素晴らしいコンビネーションでスマッシュをビシビシ決めたあの姿が今も鮮明に残っています。また、日本体育大学出の当時の協会長寺田寿（通称Ｈ）さんもユーモラスな中にも、さすがと思わせるショットなどを連発し、いつも接戦の戦いをしたものでした。タバコをふかしながらいつもニコニコのＨさんも、バドミントン人生の中で、兄貴分のような存在で色々指導を頂いたものでした。

県総合では、滋賀大学経済学部の松坂君と３セットの決勝戦を展開し、ようやく栄冠を勝ち取ったあの戦いはシーソーゲームの連続で苦しく長い勝負でした。

滋賀大経済学部との定期戦ではいつもその顧問の榎本彦次先生の目が光っていました。頬がこけた、鋭い眼ざし、いつもバドミントンに愛情を注いでこられた素晴らしい先生でした。

その先生のそばにはいつも田中多喜代造さんの姿があり、ひょうひょうとして浅黒く、笑顔が絶えない人でいつも笑わせてくれました。

また、本学顧問の林一正先生も熱心に試合場まで足を運んでくださり、熱い声援を送っていただきました。

2、教員時代ー全日本教職員大会・国体

全日本総合のほろ苦い経験

昭和44年８月　全日本教職員ダブルス３位シングルスベスト８で全日本総合の出場権を得て12月に代々木体育館にダブルス・シングルス共に初出場しました。対戦相手は、当時の学生№１本間・西野組で実力の差は歴然2-0で完敗！シングルスも同じ本間君学生チャンピオンとあたりあえなく2-0とこれまた完敗！実力の違いを見せられた戦いでした。また、岩手国体も、教員の部で初出場。藤上良英・藤上良昌（その後久保田）の兄弟、そして藤原健二君と私、４人のメンバーで期待されながら自分がシングルスで2-1で敗れ、１回戦突破もならず残念な思いをしました。しかし、国体・全日本総合と出場して、独特の雰囲気が体験でき選手冥利に尽きる幸せな時期だったと思います。学生時代、教員時代と

バドミントンを通して色々な方達との出会いがあり、本当に良き青春時代であったと思っています。今回このような機会を頂き、当時の懐かしい思い出に浸ることができました。何かとお世話いただいている滋賀県バドミントン協会の方々、役員の皆様に心よりお礼を申し上げ、また今後のご活躍をお祈りしながら筆を置きたいと思います。



白い恋人（シャトル）を追いかけて

滋賀大学芸 S42 卒　藤上　良英

陸上運動がとてもだめ、器用さはちょっぴりあったけれど、バドを始めて大きく変容した私。動機は不純、中学校ではバレー。同級生が顧問の先生とけんか別れをして退部、残ったひ弱な者達で試合をしていた。中衛のセンターは今考えると結構フットワークに役だった。高校は、声楽部？大学ではバレーをと思ったが入学式当日体育館へ入り、ネットにジャンプ、指先しか出ない。9人制から6人制への移行の時期であり、考えればかなり不利になる。ふと後ろを見るとバドミントンのネットがあり、あれなら何とかなる。幼稚園の時叔父（池田英順）に庭で遊んでもらったとき、前後左右に動かされたことを思い出し、裸足でやらせてもらい、即、入部。1ヶ月はまともにラケットにあたらなかった。なぜ縦に持つのか。どうして打つのか理解できず困惑しきり。今でも中学校の先生方の指導には脱帽。リーグ戦に行くたびに女子の試合を見続け、体育館の大鏡の前で素振りを続けた。先輩諸氏も大勢で、最初は女子に打ってもらい、徐々にランクアップさせて頂いた。1年上の先輩は、技量が段階的で自分のめあてや向上の指標となった。駒井朔男先輩には正規の練習 が終了してから、夜遅くまで指導や相手をして頂いた5本取れたら、10本とれたら、1セットとれたらとバージョンアップして頂きながら甘味処「暫」で飲み物や大判焼き等をご馳走になった。1・2回生は、佛教研究会と掛け持ちで「出家とその弟子」等の演劇もやっていた。木村孝英先輩から「サブキャップは強くならんとあかん、佛研をやめろ」と言われ、その後バドミントン一本でとにかく勝つこと、強くなることに集中した。同じ時期に兄弟ともにバドを始めることになり、寺の本堂で夜間佛さまの審判でネットと欄間の間を通しながら試合をしていた。母は忙しい中を毎晩のように桜の形に切った障子紙を貼ってくれていた。今になって感謝。大学の行き帰りにはバスや電車の中では「踵挙げ」と「握り」自転車ではダッシュ等根っからのバドにのめり込んだ。暇が有れば他の大学や高校、中学校にまでラケットとシャトル、運動靴、体操服を入れたナップサックを担いで他流試合の風体であった。折角行った北海道では、旅行もそこそこに北海道学芸大学の白老分校を覗き練習させて頂いたり、東日本学生選手権を1日中眺めていたりと、全くの白い羽根を恋人にバドミントン一筋の暮らしであった。特に、滋賀大経済の村岡さんのスマッシュ、短大の河村さん等の試合は強烈であったが、同年になる横田君、経済の松阪君、辻 君等、大阪教育大学の伊勢田君、佐藤君等 努力の結果が即現れそうな仲間達が居た。大概、決勝戦や3位決定戦に残っていたのではないだろうか。試合の結果は、横田正俊くんの記述に譲る。

後輩に藤原健二君や國門　学君が入部し、末弟良信が入学することが決まり、大学では体育研究室にバドミントン如きに何人もが入部するなとの話も出ていたようである。黄金期を迎えた訳である。それぞれが卒業し、次弟の久保田良昌も教職員につき、当時教員の部があった国体にも出場できた。皆の力で優勝の仲間にも加えてもらえた。藤原君と良信は野洲の祇王小学校に、良昌は大津の逢坂小学校に、私は野洲西小学校に勤務し、週に3日程度午後7時

をめどに理事長の寺田先生の勤務されている彦根西高校に集合し練習を積んでいた。終わって良昌の運転で自宅に帰り、風呂に入り、午前2時頃まで卓を囲み3時までは学校の仕事をするという合宿所での生活のようなことを続けた。県大会や近畿大会の前は睡眠時間が3時間程度で結構試合に勝てたものである。

幾星霜、ふと気がつけば40年、未だに機会が有ればと野洲北クラブや旧IBMのクラブ、その他近くの学校等に足を運んでいる。曰く、「まだ若い者には負けん」「ただ身体がついてこん」と。

昨年は、滋賀大経済学部の創部50周年に出席、翌日もOB会にも参加し、試合を楽しませて頂いた。また、大阪教育大学バド部創立50周年にも出席させて頂き、根来先輩の奥様や藤原君の奥様、さらには学童疎開先が祇王小ということで時の学校長としてご挨拶に来られた宝来先生など縁の深さを強調し、伊勢田・佐藤の両君を始め、滋賀大から大阪の追手門高校に奉職した森　義和君等大勢の先生方と親交を温めさせて頂いた。

さて、シニア大会については、近畿総合等結構結果を出させていただいているが、力がないと自覚した者にとっては楽しいものである。年が進むにつれ練習量が減り、バランスも体力も落ちてくる。往年の名選手も同程度の人となる。ダブルスから始めた私にとってパートナーの力に頼ること大であり、1+1=3～4になってこそである。一人一人の力が優れていても邪魔になっては結果が出ない。人によってはトップ＆バックであり、サイド・バイ・サイドであり、ダイアゴナルであったりする。自然の動きの中に阿吽の呼吸で動ければ最高・ミックスダブルスにも早くから出場した。県総合では未経験であった妻を誘い出場し、決勝戦まで残ることができたのもよい想い出となっている。原田朝子さんは教職員として全日本総合にまで出場した。当時の梅野尾組や池田組とも試合をさせて頂いたこともよい想い出である。きっと審判をするのがいやで、何とか決勝戦や三位決定戦までとの意識で頑張ってこれたのかなとの思いもある。大学時代から色々な試合に出場し、相手やパートナーに恵まれ本当に楽しいバドミントンをしてきたように思う。口バド、奇襲作戦、あまり人がやらない戦術、体育館の照明や微妙な風の向き、シャトルや相手の癖、立体構成のバド等。今にして思えば榎本先生が経済の体育館で「藤上のスマッシュあれは駄目だね」と言われ、トレーニングの生活化と工夫、自分のウイニングショットを創り出すなど結構毎回が綱渡りであり、結果責任は自分と言うことで楽しめたのではないだろうか。時と人とを得てびわこ国体も監督として結果を頂いた。選手やその時の関係者の皆様には本当にご苦労様でした。最近は忙しく、全国や近畿、県の大会等にも顔を出させて頂くことが無くなっているが、後2年で退職となる。スケジュールを調整して再度覗きに行ってみたいものである。と何年か前に考えていたが、今は全国シニア大会や近畿シニアの大会を楽しみにダブルスを中心に、寺の都合がつけば参加している。結果もまずまずとは言え【パートナーの冨田健一氏】には随分迷惑をかけていることだと思っている。



愛知の空から

武田　正雄

回想記とありましたが2つ程想い出があります。

1つは、私はバドミントンを中学校からはじめましたが、そのころは県で優勝して目指すバドミントンの強豪長浜商工に入学しました。入学する前の春休み、初めて滋賀大の体育館へ杉政、高木の先輩につれていってもらいました。そのとき彦根西の若林、田附さんも一緒に練習に来ていました。初日、榎本先生に女子とシングルスをやってみなさいといわれ

てやってみたのですが、負けてしまいました。ショックでした。

敗因はハイバックが出来ない、これでした。それから1週間の強化練習で榎本先生にハイバックを教えていただき、最終日女子に勝たせてもらいました。

その後もたびたび滋賀大へ寄せていただきました。私が高校を卒業して愛知県へ就職するとき榎本先生に言われました「愛知へ行ったら愛知のためにがんばりなさい。一所懸命やった後は恩返しをしなさい」と、いま私は榎本先生に“約束通りやってます”と。

榎本先生とトヨタの想い出

武田　京子

昭和40年から42年（彦根西高校在籍中）貴協会にお世話になった大橋、辻田です。当時のことを振り返ってみると、大橋は名門能登川中学、辻田は多賀の大滝中学で湖西地区大会では優勝能登川中、2位大滝中の戦績でお互い敵であって話もしない仲でした。彦根西高校へ入学し初めて挨拶をしました。

大橋は先輩に誘われて、辻田は大橋に声をかけられ、滋賀大学の体育館へ行き、榎本先生に「打ってみなさい」「明日からこちらへ来なさい」と言われ、現状も把握出来ないまま滋賀大へ通うことになっていました。当時彦根西高校バドミントン部顧問の花房先生は1年生の私たちを、その夏熊本で開催されたインターハイに連れて行ってくださいました。その恩がありもう止められなくなって3年間毎日榎本先生の下へ通いました。滋賀大の男性部員の中で、遠慮しながらも先生の一点返しの特訓が苦しかったのを思い出します。当時はスパルタ指導の学校が多々ありましたが、榎本先生は優しくて、教官室へ呼んでは小遣いがないだろうと500円いただいたことも度々ありました。

滋賀大出身の上原さん（現在愛知県バドミントン協会理事長）から榎本先生を通じて、豊田自動織機へ来るよう話がありました。当然親は猛反対でした。先生が直接親を説得し、3年間だけという約束で愛知県の豊田自動織機へ入社しました。ところが女子部員はいなくて体育館もなく、仕事を終えると中学校の体育館や公民館で男子部員と毎日9時まで練習という日課でした。滋賀に帰りたくて、週末に帰省した後再び刈谷へ向かう電車の中は悲しくて二人で泣いていました。でも、長浜商工出身の杉政さん（トヨタ自動車）、伊藤さん（トヨタ自動車）、武田さん（豊田自動織機）が愛知で活躍されており、また同期入社で彦根工業高校から2人、長浜商工から2人と滋賀県でバドミントンをやってきた人たちに励まされながら頑張ってきました。バドミントンに対する欲も根性もない私たちでしたが、男女とも全国トップレベルの選手の多い愛知県で様々な大会に出場し、徐々に技術も向上し、翌年の全日本実業団バドミントン大会決勝戦では、愛知県同士で戦い、優勝トヨタ自動車、準優勝豊田自動織機という成績をおさめ、愛知県バドミントン協会からも賛美されるまでになりました。

今では二人とも3人の孫を持つおばあさんになりましたが、貴協会誌の原稿依頼をいただき久々に当時を思い返す機会を得ました。すべてがバドミントンという青春時代があったことを喜ばしく思います。そのスタート地点である滋賀県バドミントン協会に深く感謝し、今後ますますのご発展をお祈り申しあげます。

私とバドミントンとの出会い

久保田　良昌

私がバドミントンを始めたのは、大学に入ってからでした。中学時代は、テニス部で頑張って部活をやったものでした。私と弟（藤上良信）は、年子の1年違いで、弟も同じテニス部で頑張っていました。高校に入ってもテニス部にしばらくいましたが、京都の学校であったので、帰りが遅くなり部活をやめてしまいました。

その頃、兄（藤上良英）は滋賀大でバドミントンをするようになったのです。兄もまた大学から始めたバドミントン初心者でした。でも、大学では頑張っていたように思います。

弟は、高校でテニスからバドミントンに代わって

頑張るようになりました。それ以来、兄弟の話題は、バドミントンの話ばかりで、、寺の境内で、あるいは、本堂でと言った具合に毎日バドミントンに明け暮れている生活だったと思います。私も、その話題についていくため、兄や弟と遊び程度のバドミントンをするようになりました。これが、私のバドミントンとの出会いでした。

私も大学に入りバドミントンをするようになりました。しかし、私の入った大学（龍谷大学）には、バドミントン部がなく、同好会でした。体育館の使用もできず、週に何回か格技場を使わせてもらうか、校舎の間（外）での練習ばかりでした。主な練習は、稲荷山のランニングか、外でのフットワーク、アタックが主で試合なんかは合宿でしかできない状態でした。そのため、京都アリーナ（スケート場）を借りて練習したり、他の大学が夜の練習していると一緒に参加させもらって頑張ったものでした。

認定同好会に昇格し、関西リーグにも加盟し、6部から2部まで昇格することになり、やっとバドミントン部と認められるようになりました。しかし、体育館の使用まではいかなかったのが現状です。その間、出られる試合はどこでも参加し自分の力を高めていきました。町の大会、郡の大会、県の大会、更に敦賀市の大会、福井県の大会とバドミントンができる大会には色々と参加してきました。何かバドミントンしかしていない毎日のようでした。

大学3回生になり、関西リーグ2部になった時は、弟（藤上良信）、藤原君の居る滋賀大との対戦が何度もありましたが、大学時代には兄弟対決は一度もありませんでした。いつもオーダーでも上手くかわされていたみたいでした。

また、この時から京都リーグ、関西リーグ、インカレ、その他大学の選手権大会にも出場したり、滋賀県はもちろん、京都、近畿、福井などいろいろな大会に出場することができました。体育館のない私にとって、大会がよい練習会場になりました。

大学を卒業し、教職についてからが本当の意味でバドミントンが強くなってきたようでした。

昭和45年、教職1年目で、全日本教職員大会団体戦で優勝することができました。横田（現田部）正俊さん、兄（藤上良英）、藤原君などのメンバーで優勝できました。これが、滋賀県での初めての優勝です。

この年、国体の近畿予選があり、強豪大阪を破り、教員の部で国体初出場をすることができました。国体は岩手県でありましたが、開催県岩手に敗れましたが、良い思い出と、これからのバドミントン大会への足掛かりができました。

昭和46年には、弟（藤上良信）が卒業し、いよいよ滋賀県のバドミントンも充実してきたように思います。この年には、沖縄復帰記念国体も開催され、藤原君、弟と私、監督には亡くなられましたが、寺田寿先生のメンバーで参加し、惜しくも準優勝に終わりました。その後、和歌山国体、栃木国体での優勝が今でも忘れられない思い出です。優勝したことは当然ですが、それまでの練習での厳しさについていけたことです。その時は、勤務も西浅井町の塩津小学校だったので練習会場が彦根であったり、大津であったり、しかも週に4回行ったこともあります。練習は午後6時より午後9時頃まで練習が終われば帰宅しなければなりません。当然、自宅は福井県の敦賀です。途中琵琶湖岸で仮眠したりして、帰宅すれば12時ころになることも少なくなかったと思います。

これらの経験は、私にとっても若い時の良い思い出とともに、今こうして学校で元気に頑張れるエネルギーを与えてくれたように思います。苦しさに打ち勝つ精神力や体力、大切にしてきたチームワークなどが、今、校長として学校経験にも役立ってきたように思います。

バドミントンに感謝すると共に滋賀県バドミントン協会がますます発展することをお祈り申し上げます。



—私とバドミントン—

理事長　　谷　英明

私は彦根城の近くで生まれ育ちました。周りは住宅と田畑、歩いて５分位に西中・近江高・東高・滋賀大そして彦根城、この上ない環境が遊び場でした。小学４年生の時に滋賀大の体育館が、私の家のすぐ横に建てられました。竣工式の時の記念行事で、オリンピック選手の相原・千葉選手等の、模範演技に魅了されました。私も子供心にオリンピックの選手に成りたいと思い１年位までは体操をしていました。５月に彦根球場で体育祭が開催されその時、滋賀大・近江高の体操部の人達と一緒に模範演技を皆の前で行った事があります。しかし、いつの間にかバドミントンを始めていました。バドミントンをするきっかけは、滋賀大の榎本先生の影響です。小学５年生の私は週２度の夜間練習に行くのが楽しく、団体選手の安澤さん・近藤さん・河村さんに練習の相手をしてもらった思い出があります。滋賀大生・西高校生の部員の人達と一緒に練習に励みました。バドミントン普及の為に榎本先生に連れられて色々の所へ講習にも行きました。この時代はジュニアなど無かったし、私だけだったと思います。中学時代は体育館もなく、グランドにネットを張り、風で変化したシャトルを毎日追いかけていました。その甲斐あって近畿大会（団体戦のみ）に出場しました。高校の時は、長商・彦西が強く私は、普通科に行きたかったので新設校でバドミントン部に入部しましたが、バドミントンができる体育館は無く近くの中学校で練習をしていました。毎日練習する事も出来なく、トレーニングも他のクラブと一緒で大変苦労しました。１年先輩に長商の武田さんがおられ、長浜から滋賀大の体育館まで練習に来るのにランニングして来られていました。すごい努力家で私にとって憧れであり良きライバルでした。その結果、２年・３年とインターハイに出場することができました。残念ながら良い成績を収める事は出来ませんでした。３年の時のインターハイは熊本で開催され、その時のアクシデントが思い出されます。タクシー乗車中に事故に遭いましたが怪我はなく、むし暑い中で競技が行われたり、体育館内は氷柱が置いてあり、酸素ボンベは体育館中央に置いて酸欠を防ぎ、観覧席の手すりは熱すぎて触れる事も出きない状態でした。今となっては良き思い出のひとつです。近畿大会は２回出場、ベスト８どまりで残念でした。大学入学の時には、故寺田先生に大変お世話になりました。大学在学中は、１部に上がる事もなく万年２部でした。当時は、中央・法政が１部の１・２位を争っていました。今では母校も、男女共トップクラスで頑張っています。社会人に成ってからは、国体に２回出場する事も出来ました。その後は指導者として、部活動に頑張る毎日です。この間も何かと寺田先生には私はもとより多くの人達がお世話になりましたが、40歳半ばで短い生涯を終えられました。私の師と仰ぐ（故榎本先生は言うまでもなく）すばらしい人でしたが残念です。高体連専門委員時代は、廻りの人達に支えてもらい９年間理事長を無事務める事が出来感謝にたえません。平成13年度より県協会の理事長として大役をおおせつかりました。これからも皆様に支えられ、助けて頂き頑張りたいと思います。

ジュニアの指導者として思うこと

藤上　良信

全国で通じる選手を育てて見たいと比叡山高校でバドミントンの指導を始めて26年目になる。この間、54’滋賀総体、56’びわ湖国体があり、選手・指導者・環境等に恵まれ、いろいろな人達の力添えでさまざまな経験をすることができた。選手の実力の向上とともに先輩指導者との出会いや日本代表ジュニア選手の指導、海外遠征の経験をも積むことができた。そんな中でジュニアの指導(高校生まで)を通して考えさせられることが多くあり思い出として書いて見たいと思う。

まず、56’びわ湖国体の時、大会まで後３ケ月と迫り最も重要なダブルスのパートナーを決めた時のことである。少年男子の優勝がかかる大事なダブルス、エース松浦君とのコンビを誰にするか３人まで絞り込んだものの決心がつかず迷っていた。松浦君

自身に誰を選ぶか意見を求めたところ、少し考え2年生のT君を選択した。3年生のK君、2年生のS君を選べなかった理由を本国体の決勝戦の戦いの中で判断していたようであった。追いつめられた時の心理、行動パターンに不安が残り松浦君の力だけではどうにもできないと判断、いざとなった時、必ず松浦君の考えに添って行動してくれるパートナーを選んだというのである。これを聞き、この時必ず優勝できると確信した。

次に、昭和60年度のインターハイのことである。本校の女子チームとしては、最も実力も充実し全国が見えてきた時である。エースでキャプテンの北浦選手を中心にやるべきことは全てやってきたという気持ちで大会に臨むことになった。「やるべきことはやった。平常心で持てる力を全て出せばよい。等々」試合時の心構えや注意など全てにおいて何度となくノートに書き繰ったに違いないが落ち着かない。手の平やはち巻きに片言を書いても不安でたまらないと言ってきた。監督として大会時の心の問題は、男子のそれよりもはるかに大きいことがわかるだけに、思わず「バスタオルにその思いを書いて行けば。」と答えてしまった。日記を繰るように“何の為、誰のため、1本挽回、2本取る気で、等々”そのタオルに書き込まれた。

試合は大混戦の連続となり、不安な表情を押さえ、気迫に満ちた頑張りにより団体準優勝、ダブルス第3位、そして、シングルスで優勝する快挙となった。

また、本校でエースとして成長した選手には、必ず1･2年生の時スランプがあり、大きく変身した時、オリジナルの練習内容がある。

足の無い選手（フットワークに問題があったりランニングの苦手な選手）がオリジナル練習により大きく化けたことも多い。昭和58・59年のインハイチャンピオンの江藤君は、足の無さを人の倍走り込むことでカバーし、コート内では椅子をコート中央に置きタッチしては後方へ動く25点コントロールというオリジナル練習を黙々とこなし、脈拍が上がっても速い動きで体がぶれないプレーヤーとなった。また、平成7年のエース松本選手、平成8年のエース川口選手は、ノック式一点返しと名付けた練習により、取れない球を拾う足をつくり変身をとげた。

また、攻撃力を付け牙を研くことにより、全国のライバルに追いついた選手もある。昭和55年の山本選手は、ロビングをねらい打つジャンプスマッシュ（カウンタースマッシュと名付けた。）を武器に、昭和62年の鈴木選手は、長身を生かしたジャンプスマッシュで守り型から攻撃型に変身することとなった。

こうして見ると、選手がスランプとなり指導者も行き詰まった時新しい発想や発見があり歴史がつくられたように思う。技術的なものが個人を変えることもあるが、心の寄り所となるものを持つことがとてつもなく大きなことが多く、信じて練習に取り組むことが成長につながるように思える。

指導者は、良き選手によって創られ、良き選手は、指導者の心を汲み取り成長していくものと思う。

その意味で、今如何に勝つかを教えるよりも、今はどのようなことが出来ればいいかを知らせ、その中でで き得ることを考えさせることがジュニア時の指導者の役割であると思う。日頃の練習の中で少しずつ変わっていく技術の成長・心の成長・体の成長を見る時、行き詰まっても行き詰まっても何か新しい発見をすれば、大きく変わると過去のノートを手さぐりに、また何かあるはずと考えつつ練習計画を立てている時が一番幸せな時だと思う。



チーム一丸！歓喜の全国優勝!

—2000年度岐阜インターハイ女子学校対抗—

滋賀女子高校監督　濱　久美雄



2000年の年頭に“ミレニアムバド、「いい顔で勝負しよう＝チームの目標は、全国優勝だぜ‼=」”と抱負を語り、スタートを切りました。

3月の第28回全国高等学校選抜バドミントン大会では初めて決勝まで進出したものの埼玉栄に破れ、準優勝。優勝をほぼ手中に収めながら「気持ちで負けた」と振り返った悔しい敗戦をバネに選手たちは〈インターハイ優勝〉を心に誓って練習に励む。

そして迎えた8月、“切り開け岐阜から未来の一ページ”のスローガンのもと、岐阜県各務原市での岐阜インターハイ（第51回全国高等学校バドミントン選手権大会）に女子学校対抗で念願の全国制覇を成し遂げられたことが今も脳裏に鮮明に嬉しい良き思い出として残っています。

その戦績を振り返ってみますと—

三回戦では今大会の最大のポイントとしてあげていた難敵昭和女子（現在の昭和学園）戦、負けが幾度となく頭を過ぎったが、我慢我慢で3-2で下す辛勝。

日がかわって準々決勝は旧知のライバル校金沢向陽戦、主力のケガで戦力ダウンの相手を寄せ付けず3-0の完勝。

いよいよ宿敵埼玉栄との準決勝、第1シングルスの古川亜希子が必死に頑張りねばり勝ち、第1ダブルスの多谷郁恵／早川由希子は圧勝。さらに第2ダブルスの川島彩／西川夏紀が相手のエースダブルスを撃破し、3-0で春の選抜のリベンジを見事に果たす。

夏の最中、息苦しいほど暑い館内で高岡西との決勝戦を迎える。「勝つぞ!」円陣を組んでキャプテン川島がエールをかけ、檄をいれる。

度重なる激戦に疲労困憊、体力の限界にきていたが選手たちは気力を振り絞ってゲームに集中した。3コース並行ではじまり、二時間にもおよぶ第2ダブルスの試合で川島／西川が激勝し、歓喜の優勝、初の栄冠を手にすることができました。

「選手たちがみんなで力を出し切った勝利—初優勝」みんな、ご苦労さんそして素晴らしい感動を本当にありがとう。

その選手たちを紹介します—

コーチ　三亀麻里子

選　手　①川島彩、②澤憂妃、③西川夏紀、
④西原育子、⑤古川亜希子、⑥多谷郁恵、
⑦早川由希子

マネージャー　矢野幸美

そして、9月には大津プリンスホテルで多数の皆様のご参加をいただき、盛大に祝賀会を開催していただきましたこと、忘れ得ない最高の幸せなことであり、まさしく“岐阜から未来の一ページ”に記させていただきました。

最後になりましたが、いつも合同練習でお世話になっている藤上良信先生はじめ村上隆三先生、羽野健郎氏、そして比叡山高校男子選手ならびに相手をしていただきました方々に心から御礼を申し上げ、思い出の寄稿とします。

今後の滋賀県バドミントン協会のご発展を心からお祈り申し上げます。

『想い出』

伊藤　一夫

故郷をはなれ35年が経ちます。振り返れば中学2年生でラケットを握って以来、バドミントンが縁で今の自分が有る様な気がします。

現在微力ではありますが、愛知県バドミントン協会の運営に携わっており、ジュニア強化については、旧友である藤上良信氏、濱久美雄氏と山田杉男氏に何かとアドバイスを頂き、近年小学生は、全国のトップレベルに成長してきました。

また、今回執筆依頼を受け、大変光栄に思っております。

〈中学時代〉

当時より長浜市はバドミントンが盛んな地域で、母校の長浜西中学校も近畿大会、県大会では常に上

位入賞を果たし、私の年代も近畿大会３位、県大会優勝の成績をあげる事ができました。ただ練習は、選手の自主性に任され、時々長浜商工高校の先輩が指導に来てもらったのを覚えています。

中学３年生になると、全国高校総体で先輩の杉政・高木組（長浜商工）がベスト８に入賞し、TV 放映もされた事から『高校でも頑張りたい。』との思いになりました。

※この頃は全国大会、各大会での個人戦がなく、特に個人の実力レベルが不透明の時代でした。

〈高校時代〉

伝統ある長浜商工バドミントン部に入部しました。長浜西中学校からは、主力の斎藤、清水の両君と私が加わり、入学前から練習に参加しましたが、初日の厳しい練習についていけず、翌日から３人で練習をボイコットする情けないスタートとなりましたが、武田主将ら先輩方の叱咤激励と各人の自覚により、新たな気持ちで再スタートをきりました。高校時代の思い出の中で一番印象に残っているのは、昭和 41 年度全国高校総体で一年先輩の吉原和夫氏とダブルスを組みベスト８に入賞した事です。試合は２回戦で第８シードの新潟ペアに接戦で勝利してからは、３回戦、４回戦と順調に勝ち進み、準々決勝では、堀・杉山組（岐阜工業）に敗れましたが、大きな自信となりました。

しかしその後は、目立った成績が収められず成績面では、不本意な高校生活でしたが、顧問であった市川先生、堀江先生には、人格面のご指導を頂いた事は、今も感謝しております。

また今思うと練習に対する技術面の意識が低かったと思います。当時は指示された通り練習をこなすだけでしたが、現在のジュニア選手は、練習の狙い、ポイントを十分理解し、更に考えて行っています。（もちろん昔とは、技術レベル向上している為、当然かもしれませんが…。）

〈高校卒業～〉

高校を卒業し、トヨタ自動車工業（株）に入社し、あこがれの小宮好雄氏、板垣善憲氏と同チームでプレーできた事は、なにものにも変えがたい思い出です。

現在、愛知県バドミントン協会では、副理事長の大役を仰せつかり理事長である上原信彦氏をサポートする立場で頑張っています。

〈最後に〉

中高校時代６年間お世話になった方々に改めて御礼を申し上げると共に、今後の滋賀県バドミントン界の発展を祈念します。

「バドミントンと共に」

県バドミントン協会副理事長　河嶋　四郎

私が初めてバドミントンに接したのは、S45 年の長浜北高校２年生の時でした。それまで入部していた体操部が顧問の先生の転勤で廃部になり、隣で友人がやっていたバドミントン部に入部したのが始まりで、県下でもベスト４の強豪で経験者も多くいました。顧問も現在の県バドミントン協会会長の澤長壽先生で、先生とはその時以来現在までのお付き合いをさせていただいております。

京都教育大学に入学後も体操部かバド部かで悩みましたが、２年間やったのだからもう少し続けようと思いバド部にしました。２回生の時に京都新人戦でシングルス２位になりこれからという時に、陸上のバトンタッチで転んで腰を強打し１ヶ月間車いすの生活を余儀なくされて以降は、腰や足首、膝とけがが多く十分な成績を収めることができませんでしたが、それでも何とか、全国国立教育系大会でダブルス優勝、シングルス２位（けいれんで棄権）になることができました。

S50 年度に地元の県立虎姫高校に新任として赴任することになり、バド部の顧問としての生活が始まりました。未経験者ばかりでしたが、前年度に着任されておられた三田俊雄先生が基礎を作られておられ、その後に私が行き一緒になって指導させていただいた結果、生徒の実力もぐんぐん伸びその年に男子でダブルス・シングルスとも近畿大会に出場できるまでになりました。それ以降２府４県で行われた近畿大会にはすべて引率顧問として参加することができました。県内でも S55 年には団体戦ベスト４、個人戦ダブルスベスト８に２組入るなど、未経験者

ばかりの生徒達でもよく頑張ってくれました。部員も常時40名以上でコートも狭く半面練習が中心で、ダブルス練習が多かったせいか「ダブルスの虎姫高校」とよくいわれました。また、赴任した年から県高体連専門部の一員として審判や総務の仕事にも携わることになりました。大学時代から審判資格を持っていたためか準決勝や決勝戦の審判を絶えず任されるようになりました。最も印象に残っているのは赴任早々の審判でいつも決勝戦で北橋進（現大津商業高校教員）山本昇組【比叡山高校】対奥長秀雄・酒井秀和組【旧長浜商工高校、現長浜北星高校】のファイナルゲームの長い試合ばかりを審判したことが思い出されます。その後も1級の資格を取ってからは、S54年の滋賀インターハイやS56年の国体に向けて審判や総務関係の仕事が多くなりました。また、近畿開催の国際大会のジャパンオープンや国体の審判員として参加させていただきました。特に審判関係では花房房子先生（現県協会副会長）に大変お世話になり、S62年には第1回公認審判員資格審査認定委員として一緒に東京まで受検に行き、3時間のテストの末取得することができました。以後も近畿の審判委員会のメンバーとして、また、県内や近畿レベルの審判責任者として勉強させていただきました。平成元年から現在に至るまでは長浜北星高校（旧長浜商工）に勤務し、現在、高体連バド専門部の副専門委員長・県協会の副理事長の仕事に就かせて頂いております。

競技の方でも、新任後すぐ県の教職員チームの一員として全国大会に参加させていただきました。S50年8月に栃木県小山市で行われた第14回全国教職員大会に参加して団体戦3位、次年度は東京都駒沢オリンピック公園体育館での大会で団体1位になり、翌年2月開催の代々木第2体育館で行われた、全日本総合団体バドミントン大会に出場し、電電東京と対戦し、シングルスで全日本No.1の土田証雄氏に7本8本で敗れたことが今でも思い出されます。全国教職員大会に行く時は電車に乗るとすぐに麻雀卓を広げ旅館に着くまで続き、夕食時（スタミナ料理を食べ）のみ休憩、その後も延々と麻雀が続いていたにもかかわらず、次の日はちゃんと試合で勝っているという状況でした。当時の藤上良信（比叡山高校教員）・藤原健二（真野中学校校長）組は全日本ランクでベスト8に入る実力がありました。その頃から藤上3兄弟・藤原先生はバドミントン（麻雀でも）界で勝負師として有名でした。現在、バドミントンと共に育ってきた自分がいることを思うと、今までバドミントンに関わってご指導していただいた多くの方に深く感謝いたします。

《第15回全日本教職員大会当時の写真》

（S51年東京）



※後列左から藤原先生、私、久保田良昌先生、故 荒川先生
※前列左から藤上良信先生、藤上良英先生、故寺田先生、澤先生

私のバドミントン人生

小学生連盟理事長　伊佐　恒範

バドミントン記念誌の発刊にあたり原稿を依頼されて、小学生連盟の理事長をさせていただいて1年目ですが、栄誉な事と思い、私のバドミントンに関わった事を書かせていただきます。

大津高校に入ってから、顧問の岡林先生とクラブ創立者の平野宏大先輩と3年生の藤上良信先輩と濱久美雄先輩の指導の元で始めました。

当時は女子がインターハイに参加していました。

私の高校の時は、たいした成績は残せませんでしたがバドキチの血が漲る先輩の手ほどきがあり、今に至っているようです。

社会人になって、京都に就職をして只管、バドミントンの練習に取り組みました。

練習会場は東山青年の家、大津高校、滋賀大、坂本小学校、坂本市民会館等ジプシーで練習の出来る

所を見つけては羽根を打ちに出かけていた時代がありました。

京都の実業団連盟に所属して、松風チームで昭和49年、1974年に全日本実業団で松坂市から参加して高岡市、神奈川県藤沢市、大阪、京都、東京駒沢世田谷、岡山県倉敷市、愛媛県新居浜市、名古屋市、東京立川市、昭和58年北海道札幌市にて全日本実業団10年連続全日本出場を果たしました。

また、松風に入社した同じ頃比叡山高校が西村金治主将のときに石山高校に勝ってインターハイに初出場をしたのが印象に残っています。

実業団は、昭和61年に京都市にて全日本実業団大会で全日本実業団連盟功労賞表彰をいただきました。

松風と大津高校と比叡山高校を回りながら練習会場は皇子ヶ丘公園体育館が主になって、滋賀インハイ、滋賀国体の時は、会社と京都工繊大学経由で西村龍夫さんとの親交がありました。

インハイは茨城県水戸市、長野県中野市（北橋、山之上、山本、山岡）大津高（関東、貝瀬）岡山県倉敷市でのインターハイで比叡山が団体と西山・矢部ダブルス優勝と西山博司シングルスの3冠王達成は特に印象深いものがありました。当時の大津高は勝山直子、連、鈴鹿姉妹、林、酒人立、北川らの時が1番頑張っていた様に思います。

インハイ福島県会津若松市、（横田、保科、川嶋、桂、）団体3位は高校から始めた初心者チームでの3位で価値があったと思います。

大津高（桂田依子、横田典子）滋賀インハイ大津市（藤野、近藤、松井、西村）大津高、（倉見、大伴、辻）インハイ香川県善通寺市（山本裕幸、馬杉、竹端）大津高（中川純子）昭和56年インハイ神奈川県藤沢市滋賀国体（松浦進二、片岡泰、平山、萬宮）57年インハイ鹿児島県枕崎市で団体優勝（辻田、西川、杉本、前川、粕谷、中川都）この年から比叡山高校の専任コーチにさせて頂いた。

昭和58年、秋田県大曲市にて全国高等学校団体優勝、この年に結婚、昭和59年奈良国体（江藤、中川健、康、松本、谷、上田）

昭和60年滋賀県春期総合30才単優勝、5.19京都府実業団個人B級単優勝、と自分のプレーも1番充実していたように思います。

石川県金沢市にて全国高等学校大会男女共準優勝（広瀬、早戸、片岡、南、北浦、間芝、池田、藤本）山口県下関市にて全国高等学校大会団体優勝（山口、斎藤、古澤、田村、中川、石田、小野）

昭和62年に比叡山高校コーチを辞める5年間は日中交流大会に昭和59年と61年の2回行く機会に恵まれるなど何物にも代え難い経験をさせて頂きました。

昭和63年7月から真野ジュニアバドミントンの指導開始（深田茂雄4年・和彦2年）から現在に至ります。

長男は中学までと、娘は滋賀女子高校の1年生、下の息子も真野中学の2年生で共にバドミントンに取り組んで頑張っています。

1つの事を続けるという事はいろんな事で人生に大いにプラスに働く事がありました。

今も所属している会社もバドミントンに縁が会ってこの歯科材料の会社に席を置いています。こんなにもバドミントンが続けられる環境を支えてくれる家族の理解があってこそ出来る事で感謝しています。

さて、小学生連盟も昨年は全国大会近畿ブロック予選会や近畿合宿なども開催して近畿枠の3分の1に当たる18名が出場しました。

坂本の山田杉男監督やベイシックの西本宗太郎コーチなどの頑張りが全国レベルに引き上げて、滋賀県のバドミントンの取り組みの良い見本を示して下さっています。

今年度は坂本チームが若葉カップで男子が優勝して、全国小学生選手権では男子団体で準優勝で6年ダブルスで矢部拓也、村上俊組が優勝、シングルで宇野賢人が3位、4年シングルで中村亮太（ベイシック）が3位女子では4年生で浦谷夏未が準優勝でした。

全国的に少子化現象の中で、16チームの小学生連盟です、今後とも、ご支援の程宜しくお願いします。

バドミントン感謝の回想録

藤上　佐千子（駒村）

滋賀県バドミントン協会50周年おめでとうございます。

私がバドミントンを始めてから早いもので30数年の月日が過ぎました。初めてラケットを握ったのは、中学1年生でした。瀬田中学校に木村孝英先生が、初めてバドミントン部を創られ、私は友達に誘われるままに入部しました。その仲間が現在もレディースで頑張っておられる宇山昌子さんと前田昌子さんです。私は身体も小さくあまり丈夫ではなかったので、両親は続けられるか大変心配したそうです。（今では到底想像できないですが。）土曜日も日曜日も練習し、日吉中学校との決勝戦を制し、県で優勝するまでになりました。

昭和46年に大津高校に入学し、2年間は岡林恒夫先生に指導を受けました。現在のような立派な体育館はなく、天井の低い平野小学校の講堂をお借りしての練習でした。当時の仲間が寄ると、チョークを半分に割り、水に濡らしてコートを描き、練習が終われば雑巾で一斉に拭いたことを話します。膳所公園までのランニング、雨の日の校舎内でのトレーニング、ことのほか“空気イス”がつらかったことを思い出します。昭和47年の春に県で優勝し、団体、単、複ともインターハイに出場することになりました。山形県新庄市で開催されたインターハイでは2回戦敗退という結果でしたが、行き電車がトンネル内に止まってしまい、真っ黒い煙が車内に入ってきて、鼻の穴が真っ黒になったこと、先輩たちと最上川下りをしたことなど楽しかったことを思い出します。その年の秋、近畿大会で冨田まゆみさんとのダブルスで2位になりました。奇跡でも起きたかのようでしたが大変嬉しかったです。又、初めて栃木県で行われる全国の合宿に参加することになり「とんでもない所に来てしまった」という思いで、レベルの違いを感じて帰って来たこともありました。昭和48年の春も県で優勝し、2年連続でインターハイ出場が決まりました。この年のインターハイは、三重県四日市市で開催され、3年間共にやってきた同級生の仲間と出場できたことが何より嬉しかったです。

その後、家庭婦人としてクラブチームをつくり、また、バドミントンの練習を始めだすことになりました。週に1回子ども連れ、あるいは母親に預けて練習しました。今から思えば、誰にも反対されることなく、ここまで良く続けてこられたなと思います。周りの環境がよく、健康と理解があったからだろうと感謝しています。家庭婦人としてプレーすることの方が長くなり、多くの試合に出場してきました。最近は試合より全国色々な所に行って観光できることの方が楽しみになっています。

バドミントンで自分がプレーする以外にエキサイトすることがあろうかと思っていた私に、そういう思いをさせてくれたのが三人の子ども達でした。三人が三人ともバドミントンをし、応援に行っては喜び、涙し、感動しました。何度“ハラハラ”“ドキドキ”したことか。でも子供たちと同じ空間でいろんなことが分かち合えたように思います。子ども達が青春の1ページをバドミントンというスポーツを通して充実した日々を過ごせたこと、父親とのコミュニケーションがとれたことが子ども達の財産になった事と思います。

バドミントンを通してプレーヤーだけでは経験できなかったことが、レディース連盟のお手伝いをさせてもらうことによって経験できたと思います。試合1つを上げてもあらゆることをクリアして試合当日を迎えることが出来、試合ができること等にだけでていたころには考えたことも、思ったこともなかった事が色々ありました。練習するにも一緒にやる仲間が必要、何をするにも一人ではできない。何事にも感謝できる自分でありたいと思えたこと。良い経験をさせて頂いたと思っています。

これからどれだけバドミントンと関わっていけるかわかりませんが、感謝の気持ちを忘れることなく、お手伝いできればと思っております。今日までご苦労頂きました協会の皆様方に感謝するとともに今後ますますのご発展をお祈り致します。

滋賀銀行バドミントン部

駒井　久夫

創部は昭和50年10月。きっかけは同年6月に従業員の福利厚生対策のため滋賀銀行体育館が新築されたことによる。体育館を管理される人事部の中川厚生課長の旗振りで、館内スポーツ各部をつくり、その活動をベースに全従業員にスポーツの輪を広げていこうと企画されたようだ。バドミントン部の他にバスケット、卓球、剣道の各部を創設。なおそれ以前よりバレーボール部は屋外スポーツとして既に存在した。

そこで当時本部勤務だった井上三男さんに白羽の矢が立ち、初代バドミントン部長が命ぜられた。

人事部帳簿でスポーツ歴、趣味、特技でバドミントンと登録してたのは、残念ながら数名に過ぎずとりあえず下記5名、井上三男、駒井久夫、内田敏樹、荒木雅男、澤田とよ子、と主務に堤野栄美子、顧問として内堀喜代治さん（人事部）でスタート。

勤務店もバラバラでなかなか集合練習もままならなかった。若い澤田は特に歯がゆかったと思う。部員集めが急務と、井上部長は翌年度の採用予定者を精力的に勧誘。

そのかいあって経験者の天田佐代子、川岸恵子、木村和美が入部、ようやく県内の大会に滋賀銀行の名前で出場できる運びとなった。

52年県実業団女子団体に勝ち、6月に大阪で開催の第27回全日本実業団バドミントン選手権に初出場、1回戦待望の初勝利、2回戦強豪の電電東京に敗れたが記念すべき第1歩となった。

部長の勧誘はますます熱が入り、その後も廣田敏夫、井上敦子、三宅登紀子が加わるとともに、宇山昌子さんという優秀なコーチも招聘され、効果はてきめん、53年は県予選で女子優勝、男子準優勝で全国大会へアベック出場ができた。

ときあたかも、54滋賀高校総体、56びわ湖国体開催が迫り、県の要請で滋賀銀行も協力事業所として各段の支援をすることになり、選手、役員、審判、体育館の提供等あわただしさを増していった。

初期のメンバーも結婚、退職、遠方への転勤等で入れ替えが進み、54年～56年にかけて一層補強が必要となり、さらに井上部長の出番が増え、藤井弘実、西村佐和子、若村弥生、阪口典子、榎並美佐子、大伴博美、澤田政子、西堀　武、小林（金子）正彦、吉田英史が入部。

54年滋賀高校総体には特別休暇で大会の役員として多くの部員が参加。うだるような暑さの大会だった。55年栃木国体、成年女子団体には、若村、阪口が参加。準決勝戦ダブルス、若村は勝利まであと2ポイントというところで､右足アキレス腱断裂。異様な会場の雰囲気の中で彼女は試合続行、パートナーと役員、観客に支えられ、まさに死闘のすえ勝利をもぎとり決勝進出を果たした。

びわ湖国体も選手あるいは役員として貢献できたと自負している。おかげで国体後の補強も継続していただき、青山寿美、川副道博、山田千満子、上羽保子、辻由美子、赤井恵美子と続いた。この間全国実業団選手権には常連となり、女子はベスト16入りが2度､32入りが2度､男子は32入りが2度ある。

昭和58年近畿実業団選手権女子団体では強豪、三洋電機につぎ準優勝の栄誉に輝いた。

当初の創部目的の従業員の福利厚生対策については、毎年Ｉ回銀行全店から地域ブロック代表チームを一堂に集めトーナメント戦を開催、手ごろなスポーツとして1日すがすがしい汗を流している。

昭和の終りから平成にかけバブルの波に洗われ、例外にもれず我がバドミントン部員も仕事一色に追いまくられ、バドで培った気力、体力を発揮することになる。この間バドミントン部活動は停滞を余儀なくされた。

世の中全体が閉塞感に覆われる中、もう1回やろうやと平成4～5年頃より新メンバーが結集、昭和時代の女子優位と変わり若干男子が巻き返している。

主要メンバーは吉田尚、畳谷康一、片岡憲二、今江広志、福知俊治、杉田満広、村松英子、松原弘枝、木村有利、深田恭子、井上真由美たちである。

平成7年の全日本実業団選手権男子団体ではベスト16入りまであと1セットと迫りながら逆転負け、惜しくも翌年のシード権獲得を逃した。また日本

リーグの予選会であるチャレンジリーグにも参加した。

企業スポーツを取り巻く環境は大変厳しく、各種目で全国的に廃部が続いている。いつこの潮流が変わるのか見当もつかぬが、大好きなバドミントン、どんな形であれ関わりを持っていたいものだ。

滋賀県バドミントン協会記念誌投稿に当たり、久し振りにメンバー各位に連絡をとることになったが、メンバーが経る年月とともに銀行の中で力強く生き抜いて各セクションで重要な担い手になっていること。退職した女子部員の多くが今も家庭婦人大会、レディース大会で活躍していること。また子育てとともにパートにカムバックされ支店の貴重な戦力になっているなどを垣間見るにつれ、以前はバドミントン競技を通じてのみしか見えなかったメンバーの横顔が幅広くオーバーラップしてくるのを感じるものである。

青春を共有した仲間たちに幸せあれ‼



「バドミントンとの出会いによって・・・」

勝山（旧姓 川嶋）　直子

この度、滋賀県バドミントン協会設立50周年を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。これも長期にわたり創立当初よりご尽力頂きました、たくさんの方々に支えによるものと厚く感謝申し上げます。

私事で恐縮ではございますが、バドミントンとの出会いは小学校５年生の時でした。当時、私達の担任だった久保田良昌先生が「放課後、バドミントンをしよう!」とクラスのみんなに声をかけて下さり、後に全日本チャンピオンとなられた西山博司さんや、現在真野中学校でバドミントン部の指導をしておられる西岡宏先生方と一緒に始めたのがきっかけでした。毎日楽しく体を動かしながら、基本を教わり、その頃はまだ、中学校の部活動から始めるというのが多い中、みんなより少し早くラケットを握って中学校へ進学しました。男子は全中で優勝する等、その成果を十分に発揮していましたがもともと厳しい練習のできない私は、先生や先輩の目を盗んでは練習をサボり当然のことながら試合に出ては負ける･･･の繰り返しで、顧問の藤原健二先生に引っ張っていただいたおかげで何とか３年間続けることができた、というような状態でした。そんな私が大津高校へ進学しバドミントン部に入部しましたが、相変わらず厳しい練習ができず自分でも「こんな弱い私には、続かないかもしれない」と思っていました。が数ヶ月して、先輩にインターハイに連れて行って頂きそこでの試合を見た時、「私も強くなって来年はインターハイに出たい!・・」と初めて目標のようなものが自分の中にできました。目標が持てると厳しい練習や自主トレも積極的にやるようになりました。顧問であった澤長壽先生は常に大きな視野で私達を見守って下さり自らコートにも入って練習相手になって下さって、チームメイトも遅くまで練習につきあってくれました。また、当時 OB だった伊佐さんは毎日仕事の後、練習に来て下さって、いろいろな練習場所にも連れて行って下さいました。たくさんの方々に助けて頂いて、２年生の夏、目標であったインターハイに出場することができました。が次の年の３年生の夏も出るのが精一杯で入賞できず、結果を残すことができずに３年間が終わりました。何の成績も残せなかった私でしたが、ありがたいことに大学から声をかけていただき「今度こそ、全国大会で勝てる選手になりたい」と滋賀を離れ東京の大学に進学しました。２年生のインカレで２つ上の先輩と組ませて頂いて、「準優勝」と私にとってはそれが初めての全国大会での入賞でした。ちょうどその年のインカレは京都で行われてたくさんの方に応援に来て頂きそんな中でプレーできてとても

嬉しかったです。卒業後、教員にと藤上良信先生にはお世話頂きながら、本当にご迷惑をおかけし、もう少しプレーを続けたいとわがままを言わせていただいて、実業団でプレーヤーとしての道を選びました。3年間の実業団生活の中ではたくさんの試合を経験させていただき、その中で学ばせて頂いたことは数多く、その後、滋賀に帰って2年間、またみなさんと一緒に団体練習にも参加させて頂きその時にやっと滋賀からも国体に出場することができて、現役生活を終えました。しかし、結果や成績ばかりにとらわれていた私は、引退してしばらく、目指したところまで行けずに終わってしまった自分を悔い、情けなく思った時期もありました。でも、今、月日が過ぎ、こうして楽しくラケットを握れるのは、あの時、「バドミントンしよう!」と声をかけていただいた先生をはじめ、何度も挫折しそうになった私をその都度、励まして頂いた恩師との出会いがあったからこそと本当に感謝の気持ちでいっぱいです。そんな風に一人でもたくさんの子供達がバドミントンに出会えたら・・と地域の小学生と一緒に練習を始めました。子供達と接する中、私がいつの間にか身に付けたことは今までお世話になったたくさんの方々のご指導によるものと改めて痛感しております。そしてそれを伝えていくことで楽しさを知ってもらえるよう、努力していきたいと思っております。最後になりましたが、今後の滋賀県のバドミントンのますますのご発展とご活躍を心からお祈り申し上げますと共に編集にあたり大変なご尽力を頂きました方々に御礼申し上げます。

「強くなりたい。日本一になりたい。なれないかな。」の思い

保科　正浩

何でもいい、「強くなりたい。日本一になりたい。なれないかな。」これが、私にバドミントンを始めさせた最初の心の動き出しだったかなと思う。

とりあえずやりはじめたら朝から晩まで、一生懸命だった。野球・サッカー・水泳・マラソンとスポーツは何でも好きだったので最初は、大勢の部員でラケットを持って体育館での練習とは行かず、ランニング・トレーニングばかりではあったが一生懸命だったように思う。今はもっぱら観戦中心で、身体を動かすこと自体大変なことである。バドミントンをやり始めた時に、何か目的･目標を明確に持ち、考え・計画し・行動し、取り組めてきたのか、「強くなりたい。日本一になりたい。なれないかな。」を毎日・毎日どれだけ持ちつづけていたのか、それは、10年・20年、いや、大学・社会人としての競技スポーツを離れ楽しく、のんびりと、ゆっくりと違った角度から考えた時に初めて「あれもできた」「これもできた」「ああやっとけば良かったのではないのか」と後悔の繰り返しをするだけで(ただ一言)好きであったから一生懸命やってきたのかなと思う。思い出話のひとコマで終わるくらい我武者らに一生懸命全力疾走を繰り返していたのだと思う。しかし、何事に対しても、絶対に「負けない」「上手くなりたい」との気持ちを「持つ」「持ち続けさせる」環境の中で、何も考えることなく、全力疾走で我武者らに突き進んできたプレーヤー時代であったと思う。

現在の高校･社会人プレーヤーを見たりしたとき、また、自分の過去を振り返ったりしたときなどは、今は、恵まれている(設備・環境)自分たちの時はこんなに良くなかった。とか思うことが良くあるが、いつの時代も・どのような立場でも、今を0(ゼロ)として過去・未来があるように振り返れば、今は常に「ゼロからの出発」であり、何も無い。ひとつひとつを創り上げていくのであり、「設備・環境」が無ければ・悪ければ、工夫することを知らず知らずのうちに教えられ実行してきたのだと思う。何も無いから逆に何でもできるし、何をやっても間違えではなかった。体育館が使えない。練習相手が少ないから始まり、スマッシュが早くない。バックハンドが飛ばない･コントロールできない。だから練習し、工夫することをバドミントンと言うスポーツを通じ教えていただいたし、「強くなりたい」「誰にも負けたくない」を繰り返し、繰り返し、行っていくことにより目標に向かって進んでいたのだと思う。一日の大半をバドミントンづけの生活であった10・20

才代にスポーツを通じて私の取り巻きに多くの「良き指導者・先輩・後輩」お世話になった方々の間を我武者らに全力疾走で走りつづけ、今、思えば良くあんなことを毎日毎日続けられたな、と自分自身に感心してしまうほどにバドミントンを通じ、教えられ、学んできた。

幾つか紹介すると、中学時代は毎朝早朝練習で、練習前にグラウンド5周してからでないとコートに入れなかったように思い出します。高校時代はとにかくよく走った。比叡山の根本中堂・三井寺まで、何往復してきたことか、琵琶湖の地図を渡され走った距離だけ色を塗り、琵琶湖一周を誰が速く達成するか、など工夫をして走らされた。学生時代の春夏の合宿の厳しかったこと。社会人時代の仕事とプレーの両立の大変だったこと等、「負けない」「上手くなりたい」を無意識の中に持ち、常に「挑戦」し、真っ直ぐに突き進んでこれたのかなと思い出します。

今は、いち社会人として、新たな目標に・仕事に、また、何ごとに対しても初めに書いた「強くなりたい。日本一になりたい。なれないかな。」を40歳を少し過ぎた今でも、何をするときにでも強く持ちながら、何に対しても取り組んでいる今日この頃であるが、壁にあたれば、考え・工夫し、進んでいく。バドミントン「スポーツ」を通じ、学んだことは、社会に出て社会人としての私としての自信であり、プライドであり、また、周りからスポーツマンを見た時の見本でありたいと常に考えている。今も、毎日毎日、全速力で常に「挑戦」し続けている。今は少し目的・目標を明確に持ち、考え・計画し・行動し、取り組めるようになったのかなと年と共に思うが、とにかく好きになって、繰り返し繰り返し、毎日毎日を「挑戦」的に仕事等に対して取り組んでいる。

今はおっちゃんとなり、本格的にバドミントンを行っていないが、三人の子供「娘」にも、また、色々な立場で、私がバドミントンを通じて経験した、学んだことを、違った角度から、語り続けたいと思います。私を育てていただいたように。

最後に、バドミントンを続けることは辛かったし、しんどかった。しかし、今はみんな良い思い出として笑える。今後とも何らかの形で滋賀県のバドミントンの発展を祈願し、私も力になりたい。

51年 堅田中学卒業

54年 比叡山高校卒業

ふるさと

延暦寺学園比叡山高校バドミントン部9期
卒業生　杉本　吉男

この度は、滋賀県バドミントン協会設立53年おめでとうございます。

53年前のバドミントンの姿とはどんなものだったのか、この原稿を書きながら想像しています。ラケットはどの様な素材で、どの様な服装で、ルールは…と気になることがたくさん出てきます。私もまだバドミントン歴が20数年で、その間にもラケットの軽量化はどんどん進みました。それに伴ってプレースタイルも変化したのではないかと思います。その上、53年ともなるとさまざまな面での変化に対応しなければならなかった協会関係者方々のご尽力に敬意を感じずにはいられません。

当時、私は大阪の四条畷学園中学校から延暦寺学園比叡山高校に藤上先生の指導を受けるために入学しました。先生も他府県の選手を寮にまで入れて指導することが初めてであり、今から思うと大変だったと思います。その節はお世話になりました。(*^_^*)

寮生活はといいますと、寮の名前は“道心寮”木造2階建て築年数不詳・倒れないための柱数本・すきま風付きにもちろん男のみ、バドミントン部・柔道部・野球部他の合同居住場所であり、運動部だけの寮でした。夜間練習後の晩飯は、他の運動部に食べられていたり、食堂のおっちゃんが処分してしまいおかずが無くなっていたりと散々でした。醤油めしと水、たくあんとめし、また寒い日のカレーなどはジャーの中に入っているご飯の温もりでカレーを溶かして食べたりもしました。また、冬に風呂が冷めているとは知らずに勢いよく飛び込んだときには【死ぬ～!】と思ったこともありました。道路に雪が

積もると早朝から雪かきもさせて頂く事ができました。夏休みは食堂も風呂もないので通称『びわこ屋』といわれる比叡山観光客相手の休憩茶屋風の店でカップラーメン等々で腹ごしらえをしたり、隣にある学校のプールで汗を落としたりと寮生活ならではの体験を色々しました。

肝心のバドミントンの方は、私が高校2年の時に滋賀県で国民体育大会（びわこ国体）が開催されることになり、国体記念切手の絵がなんとバドミントンという事態の中、本当に協会、選手、役員が一丸となって総合優勝に向けて取り組んだことを今でも忘れてはいません。少年男子国体強化選手に選ばれた私は1年生から合宿に参加、“めし”と“風呂”には合宿期間中は心配ご無用でありました。しかしながら、世の中はそんなに甘くありません。当然“ただめし”ではありませんでした。朝6時20分から競争でのランニングで始まり、体育館では1時間のインターバルトレーニング、1時間のフットワーク、パターン練習、成年男子とのゲーム、洗濯、ミーティング等々、なかなか盛りだくさんな内容でした。ナショナルチームとの合同合宿などは、先生が大張り切りで、ナショナルチームよりもハードな練習内容になり、ある意味、高校2年生の私には妙な自信が付きました。

おかげさまで、（びわこ国体）は総合優勝する事が出来ました。これは協会関係者・役員・選手等みんな一丸となってがんばった“総合”優勝であり、国民体育大会の楽しさ、厳しさを体験しました。3年生の時は、春の選抜・インターハイ・国体と史上初の団体3冠を達成する事が出来ました。私の同期では西川・辻田・前川・粕谷・杉本の5名の精鋭が揃い1つ上には松浦進二、2つ下には江藤裕樹といった刺激的な選手もおり、レベルの高い環境でバドミントンが出来た事も今から思うと大変良い思い出で、経験だったと思います。

私にとって滋賀県は第2のふるさとであり、いろんなことを学んだ高校生活の思いでの場でもあります。今日では、滋賀県にバドミントンをするために他府県から多くの生徒が集まっていると聞いています。バドミントン競技がオリンピック種目になり、日本でも注目度が上がってきた今日、日本のトップレベル選手を数多く生み出している滋賀県バドミントン協会としても、これからは、世界を舞台に活躍されますことを期待いたします。



想い出

田辺（旧姓 若村） 弥生

私がバドミントンに初めて出会ったのは、中学一年生のときです。先輩のまっ白なスコート姿に憧れ、何気なく入部しました。でも待っていたのは、厳しいトレーニングとランニングばかり、何十人もいた部員もあっという間にメンバーはぎりぎりになってしまいました。でもなぜか私は楽しくて一度も辞めたいとは思いませんでした。“鬼の徳谷”・“地獄の飯田”というあだ名の二人の監督の指導で、私たちはいつの間にかどんどん成長し、すばらしい成績を残すことが出来、本当に充実した三年間でした。

高校でも浜先生の指導のもと、三度インターハイに出場し、三年生の時にはベスト8に入ることが出来ました。その後社会人になっても辞めることなく、地元滋賀で国体が開催されるのをきっかけに、幸運にも前年度より強化メンバーに選ばれました。栃木県で開催される栃の葉国体をめざして毎日練習に汗を流しました。パートナーは、全国でも活躍中の大先輩の谷美津代さんです。緊張して何をやってもうまくいかずに毎日逃げ出したい思いでした。そんな辛く厳しい練習でしたが、次第に納得のいくプレーが出来るようになり、自分の中に代表選手としての自信と自覚が芽生えてきました。試合本番では順調に勝ち進み、準々決勝で地元栃木県と対戦しました。

宿泊させて頂いていたお宅の家族の皆さんが応援に駆け付けて下さって、地元の応援一色の中、地元の対戦相手にもかかわらず私達の応援をして下さった時はとても嬉しかったです。次の日の準決勝、第一ゲームを落として、第二ゲームは取り返し、ファイナルゲームのマッチポイントを取った瞬間、これで勝てると心の中で叫びました。と同時に「ブチッ」という音がして足が動かなくなりその場に倒れました。自分一人では立っていることすら出来ない状態でした。そんな時、周りから「頑張れあと一本」「立って」と大きな声援が聞こえてきました。何とか立ち上がりゲーム再開、それでも狙われてポイントはどんどん追い上げられ、もう駄目かと思ったりもしましたが、パートナーの谷さんにカバーをしてもらいながら、片足で頑張りどうにか勝つことが出来ました。残念ながら翌日の決勝戦には出られませんでしたが、準決勝というすばらしい成績を残すことが出来ました。私にとってこの栃の葉国体は忘れることの出来ない思い出です。宿泊先のご家族の方には、短い間でしたが家族のように良くしていただき大変感謝しています。あれから22年経ちましたが、いまだに懲りずにシャトルを追いかけています。それぞれの年代のプレースタイルがあり、やればやる程奥深いものを感じます。滋賀県バドミントン協会の永い歴史の中でほんの少しではありますが、代表選手として活躍できたことを誇りに思います。

勝利を目指して最後まで頑張ること、勝つことの楽しさを教えて下さった指導者の皆様に感謝し、私もまた次の世代の人たちにプレーを通じて何か伝えて行けたらいいなあと思います。

バドミントンの想い出

本郷　寿美

滋賀県バドミントン協会が創立50周年を迎えられましたことを心より御祝い申し上げます。

そしてこれまで協会の運営に御尽力を頂きました関係者の皆様に御礼申上げます。

私が初めてラケットを手にしたのは小5の時、現在のジュニアのようなクラブではなくて授業の一環のクラブ活動でした。

小学校では1年間のバドミントン生活を終えていよいよバドミントン人生の始まりとなる栗津中学へ入学。

当時の先輩達の練習を見学し、「私もあんなふうに…」とあこがれながら入部。その後は、木村孝英先生、久保明雄先生の顧問の元、練習、練習の日々が始まりました。入部当時は40人くらいいた部員も卒業時には何とたったの7人となりました。1年生の間はトレーニング、素振り、フットワークの地味な練習。2年生になると、たま～に先輩たちの休憩時にやっとクリアが打てるうれしい一時でした。中学生で経験した滋賀女子高校での初めての合宿。学校での練習や、強化練習では、たくさんの卒業生の先輩たちや、いろんな高校のバドミントン部の方々に体育館へ足を運んで頂きましたし、テスト前になると学校では練習ができず、高校へお邪魔させて頂いたこともありました。そんな皆様のおかげで、宮城県仙台市で行なわれた全国中学生大会に優勝することができました。私と、パートナーだった倉見安世さん（現在大西）と二人で連れて行って頂いた大阪の体育館。そこで初めて見た外国人選手。感動でしたね。（名前は忘れてしまいましたが…）

中学校3年間を終え宇山監督の京都成安女子高校でバドミントンをすることになりました。当時は先輩も2、3人、そして私達1年生と部員数も少なく、選手よりもコーチの方がたくさんおられたこともたびたびありました。高校生になって初めての個人戦。ダブルスのパートナーは3年生の先輩でした。足を引っぱって負けてしまうことのないようにと緊張感いっぱいで試合したのを覚えています。

その気持ちとはかわって、シングルスは、自分より年上の人との対戦でしたので、ダブルスに比べ、思い切って伸びのびとできて、運よく単、複とも優勝することができました。

そして忘れもしないインターハイ団体予選、12年間連続で他に譲ったことのなかった京都府代表の座も、この年に、平安女子高校に奪れてしまい、しばらくは辛くて苦しい日が続きました。

この頃から、かつて“バドミントンの成安”の名

前を全国にとどろかせたことを、おいおい知ることになるのですが…。

成安女子高校バドミントン部の過去の栄光の歴史を知ってからは、正直、「えらいとこに来てしまったなあ」と思いましたが、「やるしかない」と思えるようになってからは、何となく何かが、ふっ切れて練習に打ちこむことができました。

5時30分に家を出て陸上部の早朝練習に入れてもらい家に帰るのは10時30分。自宅には寝に帰るだけの生活でした。いよいよ高校生最後の夏、滋賀県でのインターハイ、1年の時には初回敗退、2年の時にも、2回戦敗退、私にとっては3度目の正直ってとこでしょうか。「もう初戦では負けたくない」との思いが強くて、試合の日がだんだん近づくにつれて部員の中で、1番小さくて1番よく食べる私が、食欲がなく、前日にはもうプレッシャーで眠れず涙がこぼれるくらい苦しかったことを覚えています。寝不足で迎えた当日の朝、やっぱり「やるしかない」。コートに立った瞬間は、胸がすーっと楽になったことを覚えています。結果は団体ベスト8、単3位。

“近畿を制する者は全国を制す”近畿の選抜合宿でよく言っておられた言葉通り、この年のベスト4は近畿勢で占め、優勝することは残念ながらできなかったけれど、4人のうちの1人に入れたことをうれしく思いました。

153cmの身長は、ずーっと私の中で、大きなコンプレックスでした。けれど、そんなコンプレックスも練習量と、先生方や、コーチ、先輩の御指導のおかげで自信を持たせて頂いたことをとても感謝しています。

その後、片岡先生、インターハイチャンピオンの北田スミ子さん（現在芝）のいる四條畷短大へ入学し入部。

試合でしか出逢うことのない“強い人”といつも一緒に練習できることがうれしくて、試合には勝つことができなくても、練習でのラリーや、ランニングだけでも勝つことができたらと必死になってついていったこともありました。関西学生、西日本学生といつも決勝戦ではペンペンに負けていたのですが、1試合だけ、9点も取れたことは、うれしい思い出となりました。

あっという間の2年間がすぎ、滋賀へ戻り、滋賀銀行へ就職。社会人1年目の国体、予選も勝ち残り、島根の本戦へ向けて頑張るわけですが、島根入りはしたものの試合には参加できなかった初めての国体でした。

その後、川島直子さん（現在勝山）と出逢い、ダブルスのパートナーとして、再び国体を経験することができました。

長いバドミントン人生を振り返ってここまで指導して頂いた先生方、いつも陰となって支えて下さったコーチや先輩方に感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、こんなにも1つのことに一生懸命にさせて頂けたことを心から幸せに思います。

今までのたくさんの人との出逢いは私の大切な宝物となりました。

日々のあわただしい生活の中で、若き日をこんなにもじっくりと思い出し振り返る機会を与えて頂きありがとうございました。

最後になりましたが、滋賀県バドミントン協会のますますの御発展を心より御祈り申し上げます。





紙面より

上田　絵美

バドミントンの全日本学生選手権最終日は13日、平塚市総合体育館で男女シングルスの決勝などを行い、女子シングルスで立命大の上田絵美（3年、滋賀女高）が初優勝を飾った。

上田2（11－6　11－5）0松尾

大きな自信になる

○「今まで全国と名の付く大会では3位が最高。初めの優勝でうれしい」。念願の大学日本一のタイトルを手にした上田は感激を表した。大学入学後、関西では敵なしの強さを見せながら、この大会では2年連続、関東勢に阻まれ8強止まり。だが今回はその壁を破り、準決勝決勝ともストレート勝ちの圧勝で頂点に。

「決勝は緊張しましたが、いままでやってきた結果が優勝につながった。大きな自信になります」。アテネ五輪の強化候補選手でもある上田は、優勝を機にさらなる飛躍を誓っていた。

（京都新聞抜粋）

特別寄稿

百勝百喜

滋賀県　花房　房子

昨秋11月14日「比叡山高校バドミントン部藤上良信監督　インターハイ（男子団体戦）100勝記念祝賀会」が琵琶湖ホテルで行われた。百勝百喜に集った関係者は、北は北海道から南は八代まで元部員を含め二百余名であった。

思えば、藤上良信監督が公立小学校教員を辞し、突如延暦寺学園比叡山高校男子チームを率いて県高体連の試合に挑んで来たのは、昭和49年であった。その年いきなりインターハイ出場権を制し、佐賀県嬉野町・塩田町で行われたインターハイで、対鹿児島商高校に初勝利。

爾来昨年（平成22年）の沖縄糸満市での大会で通算100勝という前人未到の快挙を成し遂げたのである。

その間36年。佐賀大会は私も女子チームを引率した最後のインターハイで思い出も深く、ついこの間のように思い起される。昭和49年の第25回大会から昨年の第61回大会まで、平成6年の第45回のみ、近江兄弟社高校に譲ったものの連続出場し、1回戦敗退は一度もなく、参加すれば必ず勝ち点をあげている。インターハイでの優勝六回、準優勝四回、ベスト4十回、ベスト8七回等である。

私が退職した平成7年3月まで20年余り、県下の大会のみならず、近畿大会、インターハイ、国体等で多くの戦いぶりを見て来たが、比叡山高の選手達は体力や技術面だけでなく、礼儀正しさ、どうしても勝たねばならないという精神力が常に見られ、少々技術面で差異があっても何とかしてゆく根性を添えた選手が多かった。

藤上監督は、県下で育てられた中学生を高校入学後、全国的に活躍できる選手に育成することを目指して今日まで指導に当たって来られた。それは終始変わることなく、37年間一戦一戦全力投球で取り組んでこられ、指導者としての粘り強く強固な意志は、そのまま選手にも良い形で受け継がれている。

百勝の道のりを振り返って

1. 何事も諦めない。
2. 中断なく全てのことを最後まで成し遂げる。
3. 「忙しい」を理由にしたり、言い訳をしない。
4. 自己の体調管理をする。
5. 協力者・ライバルの存在を大切にする。

といったことが百勝につながったと言っておられるが、私が近くで感じてきた一つに、超人的な几帳面さがある。たとえそれが練習試合であっても1ポイントも疎かにせず戦績やメモを書き留めておられたのである。37年間の記録は莫大なものであろうと想像する。

その中から選手一人一人に対する次の指導がなされてきたのであろう。指導の当初より決して恵まれた環境や条件ではなく、一面か二面のコートを男・女で共有していたから、多分比叡の山中も大いに練習場となっていた事だろう。困難なシャトルの手配、校務や自坊の仕事と二足三足の草鞋を履いてのこと、また持てる力や技、精神面の異なる多様な生徒

達をトップレベルまでに育成とあっては、どんなに苦労があった事かと思われる。そういう中にあっても県内の他校選手、日本のトップを制した松浦君(草津高—法政大)やインターハイシングルス優勝の酒井君(近江兄弟社高—法政大)、その他多くの選手に目をかけ、県のレベルを最後に全国レベルに安定させるためにと指導を惜しまなかった。

また県外の指導者からも多くのことを学び取り感謝の念を常に持ち続けておられる。特に新潟青陵高佐藤先生からは、弱いチームをどこまで踏ん張って指導できるかは、指導者の資質を問われる事であると教えられたり、熊本中央女子高工藤先生からは、指導が腹一杯できる喜びと感謝について学び、四条畷学園の片岡先生からは、バドミントン競技のみならず物の見方や心のあり方など、人間性について教わったと懐古し、今も感謝していると言われている。

手こずった選手が卒業後プレーヤーとして人間として大成した時の喜びや、すぐに結果の出ない中、生涯を見通した根気強く綿密な指導は、バドミントン指導者としてだけでなく教育者としての責を果たしながらの長い長い取り組みであった。

今後どのような形で後継の指導者にバトンパスしていくかが、残された時間の課題であると語られている。

[参考戦績　優勝]

○インターハイ

男子団体6回。シングルス4回。ダブルス4回。

○全国高校選抜

男子団体6回。シングルス5回。ダブルス4回。

○国　　体

少年男子9回。

他にオリンピック選手育成全国有力校合宿訓練24年間開催など。

編 集 後 記

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、その後の大津波による犠牲者並びに被災された皆さまに弔意を表すとともに復旧・復興の一日も早からんことを祈念いたします。

また、原発の事故による風評被害も未だ解決の方向が見いだされない中で東北地方の人々の暖かい人情や日本人の良さ、世界各国の人々の心温まる援助の様子が報道され、日本人も捨てたものでもないなとホッといたしました。

さて、原稿を依頼してから早10年余が経ってしまいました。諸事情のためここまで遅れてしまい、中には、既に故人になられた方もあり、その頃の立場や中には姓が変わられた方もありと、文章を読ませていただきながら時の経つことの早さを感じました。ここに改めてお詫びを申し上げます。

この協会誌には10年前にお寄せ頂いたものをそのままにしたり、その後の経過がわかっているものを付け足したりしたものもあります。また、各連盟や郡市協会の様子などで活動されているけれど歴史や経過がわからなかったり、報告がなかったりしたものは掲載することができませんでした。また、地域で活動されているクラブチームなどには触れることができませんでした。今後は10年毎の年代誌などの編纂時に是非とも記録として残していただきたいとの希望を持っています。

本誌作成に当たり、関係各位、バドミントン愛好の方々、ご協力いただいた方々に心よりの感謝と発刊の遅くなりましたことをお詫び申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。

追記　この協会誌発行に際して、株式会社スマイ印刷には長期間に渡って発行を待っていただいていたことに対し深甚の感謝を申し上げます。

平成23年（2011年）11月吉日

編集委員　13年から
澤　長壽　　谷　英明　　花房房子　　中川文雄　　住井則子　　駒井朔男
駒井久雄　　藤原健二　　藤上良信　　藤上良英
20年から
澤　長壽　　谷　英明　　花房房子　　堀江　泉　　中川文雄　　駒井朔男
藤原健二　　藤上良信　　宇山昌子　　藤上良英